

九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告6：箱崎遺跡

九州大学埋蔵文化財調査室

<https://hdl.handle.net/2324/7407615>

出版情報：九州大学埋蔵文化財調査室報告. 9, 2023-09-30. Archaeological Heritage Management Office, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



九州大学埋蔵文化財調査室報告 第9集

九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告 6

箱崎遺跡

—HZK1703・1804・2003 地点—



2023

九州大学埋蔵文化財調査室

九州大学埋蔵文化財調査室報告 第9集

九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告 6

箱崎遺跡

—HZK1703・1804・2003 地点—



2023

九州大学埋蔵文化財調査室



HZK1804地点 B 区調査区全景 (西から)



HZK1804地点 C 区調査区全景 (北から)



HZK2003地点 D 区調査区全景 (南から)



HZK2003地点 E 区調査区全景 (西から)



HZK1703地点調査区全景（東から）



HZK1703地点石組遺構区 SX20（北から）

序 文

九州大学埋蔵文化財調査室を2015年に再編し、2016年から箱崎キャンパス跡地の埋蔵文化財調査を行ってきた。この間、2016年8月には旧中央図書館南地点で、既に破壊されていたと考えられていた元寇防塁跡を発見した。その後、その連続部分を中心に発掘調査を進め、旧中央図書館南地点から旧理学部にかけての元寇防塁跡は、2020年3月に国指定史跡の追加指定を受けた。さらに、旧中央図書館北側から旧農学部にかけての元寇防塁跡も、2021年10月に国指定史跡の追加指定がなされ、遺跡の現状保存を行った。これら元寇防塁跡関係の発掘報告書は、九州大学埋蔵文化財調査報告書第1・第2・第4・第5・第7集として刊行してきた。

また、箱崎キャンパス跡地の東南部には中世の箱崎遺跡群が広がり、さらにその北には中・近世の墓地群が広がっていることが判明した。これらの発掘調査を実施し、2022年3月末を以て箱崎キャンパス跡地の埋蔵文化財調査をすべて終了することができた。2022年3月末には九州大学埋蔵文化財調査室の2名の助教が他大学や他部局へ転出したため、新たに助教1名を2022年4月から採用して、発掘報告書の作成にあたらせている。

この度は、それら中・近世の遺構群の中から、旧応用力学研究所周辺と旧保存図書館周辺の中世遺構群の発掘報告書をまとめ、刊行するものである。これらの地域は従来、埋蔵文化財包蔵地の範囲外とされていたが、福岡市経済観光文化局文化財活用部の試掘調査により、箱崎遺跡が箱崎キャンパス跡地まで伸びていることが判明した。その地域は、箱崎キャンパス跡地の建物解体に伴う埋蔵文化財調査により、元寇防塁跡以東の砂州上に12世紀から15・16世紀の中世における井戸を中心とする居住地や墓地が広がることがわかった。さらに、中世の寺院址の可能性のある遺構も発見されており、これまで知られてこなかった中世箱崎の歴史の一端を解明することができた。それら発掘調査の成果を公開し、遺跡の記録保存としたい。

令和5（2023）年4月28日

九州大学埋蔵文化財室長
宮本 一夫

例 言

1. 本書は、九州大学箱崎キャンパス跡地において2017～2021年に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果報告書である。「跡地」までが正式名称だが、本書では煩瑣を避け、「箱崎キャンパス」と表記する。
2. 本書には2017年度に実施したHZK1703地点、2018年度に実施したHZK1804地点、2020年度に実施したHZK2003地点の調査成果を掲載する。
3. 本書の内容は同じ箱崎キャンパス南側で行われたHZK1903地点、HZK1904地点、2101地点の調査成果を掲載した『九州大学埋蔵文化財調査室報告 第10集 九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告7』と補完しあっており、本書と合わせて適宜参照していただきたい。
4. 調査主体は九州大学埋蔵文化財調査室である。
5. 発掘調査・整理作業の担当者・参加者はそれぞれの報告箇所に記した。
6. 検出遺構および土層の実測は、森 貴教、三阪一徳、齋藤瑞穂、福永将大が行った。製図は福永、石井若香菜、田邊八子、門脇義徳、田中えみが行い、株式会社パスコが測量支援を行った。
7. 出土遺物の実測は、板倉佳代子、尾座本洋子、白井恭子、田中えみ、谷 直子が行い、製図は白井、田中、谷が行った。
8. 遺構写真は森、三阪、齋藤、福永が、遺物写真は谷が撮影した。
9. 本書で使用した地形図は、2020年1月に調整した電子地形図2500「福岡」である。
10. 遺構図等におけるX・Yの数値は平面直角座標第Ⅱ系（原点：北緯33度0分0秒、東経131度0分0秒）における座標値（m）を、方位は同座標系の座標北を表す。標高値は東京湾平均海面を基準とする海拔高（m）で表す。
11. 土層の色調は、『新版標準土色帖』（2010年度版、農林水産省農林水産技術会議事務局監修／財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠して表現した。
12. 本書で使用する遺構記号は、次のとおりである。
SB：掘立柱建物、SD：溝、SE：井戸、SI：竪穴遺構、SK：土坑、SP：ピット、ST：墓、SQ：近代遺構、SX：その他性格不明遺構等
13. 本書の執筆は宮本一夫、齋藤、福永、谷が分担し、担当部分を末尾に記した。
14. 表紙デザインは、石井若香菜が担当した。
15. 本書に掲載した調査記録・写真および出土遺物は、九州大学埋蔵文化財調査室が収蔵保管する。
16. 発掘調査・整理作業にあたり、次の方々・部局から御指導・御教示ならびに格別なるご高配をたまわった。ご芳名を記して、謝意を表する次第である（敬称略、五十音順、所属は当時）。
足立達朗（九州大学アジア埋蔵文化財研究センター）、阿部泰之（福岡市経済観光文化局）、石藏良平（九州大学大学院工学研究院社会基盤部門地盤学講座）、岩永省三（九州大学総合研究博物館）、藏富士寛（福岡市経済観光文化局）、神 啓崇（福岡市経済観光文化局）、田上勇一郎（福岡市経済観光文化局）、田尻義了（九州大学アジア埋蔵文化財研究センター）、谷澤亜里（九州大学総合研究博物館）、徳留大輔（出光美術館）、中尾佑太（福岡市経済観光文化局）、比嘉えりか（福岡市経済観光文化局）、古川全太郎（九州大学大学院工学研究院社会基盤部門防災地盤工学研究室）、本田浩二郎（福岡市経済観光文化局）、溝口孝司（九州大学大学院比較社会文化研究院）、矢ヶ部秀美（NPO 研究機構ジオセーフ）、安福規之（九州大学大学院工学研究院社会基盤部門地盤学講座）、九州大学施設部、九州大学統合移転推進部、福岡県教育庁、福岡市経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課
17. 本書の編集は、宮本監修のもと谷が担当した。

目次

巻頭図版

序文

例言

目次

挿図・表目次

写真図版一覧

I 箱崎遺跡—九州大学箱崎キャンパス地区—について	
1. 2022年度の箱崎キャンパス埋蔵文化財調査体制	1
2. 2022年度の調査及び報告地点について	3
3. 中世の箱崎遺跡	6
II HZK1804地点（記録資料館地点）	
1. 調査の経緯	10
2. 立試1811地点の調査	15
3. HZK1804地点 B 区の調査	24
4. HZK1804地点 C 区の調査	35
5. 小結	54
III HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）	
1. 調査の経緯	63
2. D 区の遺構と遺物	64
3. E 区の遺構と遺物	116
4. 小結	133
IV HZK1703地点（応力研生産研本館北地点）	
1. 調査の経緯	163
2. 遺構と遺物	169
3. 小結	202

写真図版

報告書抄録

挿図・表目次

I 箱崎遺跡—九州大学箱崎キャンパス地区—について		第4図 箱崎キャンパス付近の福岡市による調査地点	
第1図 箱崎遺跡とその周辺（『1：25000電子地形図 福岡』を改変）	2		7
第2図 九州大学箱崎キャンパス 発掘調査グリッド	4	II HZK1804地点（記録資料館地点）	
第3図 2020年度の発掘調査地点と本報告調査地点	5	第1図 HZK1804地点・立試1811地点全体図	11
		第2図 立会・試掘1811地点全体図・断面図	13
		第3図 立会・試掘1811地点 SK01・Pit02～04・SK05・Pit06～09遺構平面・断面図	16

第4図	立会・試掘1811地点 Pit10・11・SK12・Pit13・SK14・Pit15・SK16遺構平面・断面図	17	第34図	HZK1804地点C区 SK01・13出土遺物	51
第5図	立会・試掘1811地点 SK17・SD18・SK19・Pit20・23遺構平面・断面図	18	第35図	HZK1804地点C区 SK17・22・23・26・27・35・39・40出土遺物	52
第6図	立会・試掘1811地点 SK21・22・Pit24~27遺構平面・断面図	19	第36図	HZK1804地点C区 SK44・48・49出土遺物	53
第7図	立会・試掘1811地点出土遺物	21	第37図	HZK1804地点C区 SP02・10・11・41~43・51・52・54・56遺構平面・断面図	55
第8図	大正10(1921)年九州帝国大学工学部平面図	22	第38図	HZK1804地点C区 遺構外出土遺物	56
第9図	昭和元(1926)年九州帝国大学工学部法文学部平面図	22	第1表	立試1811地点中世遺構観察表	57
第10図	立会・試掘1811地点 SQ28・29平面・断面図	23	第2表	立試1811地点遺物観察表	57
第11図	HZK1804地点B区 遺構配置図	25	第3表	HZK1804地点B区出土遺物観察表	58
第12図	HZK1804地点B区 調査区東壁土層図	26	第4表	HZK1804地点C区出土遺物観察表	59
第13図	HZK1804地点B区 SD30出土遺物	27	Ⅲ HZK2003地点(記録資料館地点第2次調査)		
第14図	HZK1804地点B区 SK01・02・09~11遺構平面・断面図	28	第1図	HZK2003地点全体図	65
第15図	HZK1804地点B区 SK03・08・12~14遺構平面・断面図	29	第2図	HZK2003地点D区遺構配置図 1面	67
第16図	HZK1804地点B区 SK04~07・16~19遺構平面・断面図	30	第3図	HZK2003地点D区遺構配置図 2・3面	68
第17図	HZK1804地点B区 SK22・23・SP24~29遺構平面・断面図	31	第4図	HZK2003地点D区1面 SD4010・SI4004・4029平面・断面図	70
第18図	HZK1804地点B区 SK06・08・09・11・12出土遺物	32	第5図	HZK2003地点D区1面 SI4004出土遺物1	71
第19図	HZK1804地点B区 SK14・20・遺構外出土遺物	33	第6図	HZK2003地点D区1面 SI4004出土遺物2	72
第20図	HZK1804地点B区 SP31~35遺構平面・断面図	34	第7図	HZK2003地点D区1面 SI4004出土遺物3	73
第21図	HZK1804地点C区 遺構配置図	37	第8図	HZK2003地点D区1面 SI4004出土遺物4	74
第22図	HZK1804地点C区 調査区南壁土層図	38	第9図	HZK2003地点D区1面 SK4002・4003・4006~4008・4020・4022~4024・4034・4035・4041平面・断面図	75
第23図	HZK1804地点C区 井戸 SE14平面・断面図	39	第10図	HZK2003地点D区1面 SK4018・4019・SP4028・4030・SK4042・4054平面・断面図	76
第24図	HZK1804地点C区 SK14a・SE14-b・c出土遺物	40	第11図	HZK2003地点D区1面 SP4001・4005・4009・4012~4014・4016・4017・4021・4025平面・断面図	78
第25図	HZK1804地点 SE14-c・SK14-a・SE14-b・c 一括出土遺物	41	第12図	HZK2003地点D区1面 SP4026・4027・4031~4033・4036・SK4037・SP4038・SK4055平面・断面図	79
第26図	HZK1804地点C区 SD24・53出土遺物	43	第13図	HZK2003地点D区1面 SP4039・4040・4044~4053・4056平面・断面図	80
第27図	HZK1804地点C区 SK01・03~07遺構平面・断面図	44	第14図	HZK2003地点D区1面 SK・SP・SX・SI出土遺物	82
第28図	HZK1804地点C区 SK08・09・12・13・17遺構平面・断面図	45	第15図	HZK2003地点D区2・3面 SD4075・4097・4104・SK4127・SD4144・4150・5003・SP4095・4126平面・断面図	85
第29図	HZK1804地点C区 SK19~21・23-a~d遺構平面・断面図	46	第16図	HZK2003地点D区2面 SD・SK出土遺物	86
第30図	HZK1804地点C区 SK27~30遺構平面・断面図	47	第17図	HZK2003地点D区2・3面 SK4087・SX4088・4107・SK4116・4117・SD4118平面・断面図	87
第31図	HZK1804地点C区 SK26・33~35・38遺構平面・断面図	48	第18図	HZK2003地点D区2面 SX4088出土遺物1	89
第32図	HZK1804地点C区 SK39・40・44・45・SP46遺構平面・断面図	49			
第33図	HZK1804地点C区 SK47~50・55遺構平面・断面図	50			

第19図	HZK2003地点 D 区 2 面 SX4088出土遺物 2	90
第20図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SK4058~4062・4070 ~4072・SD4073平面・断面図	92
第21図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SK4074・4076・ 4078・4080・4081・4089・4099・4143・ SI4084・SP4082・4106平面・断面図	94
第22図	HZK2003地点 D 区 2 面 SK4058~4070出土遺物	95
第23図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SK4100・4102・4103・ 4109・4121・4124・4125・4128・4129・ SD4120・SP4098平面・断面図	97
第24図	HZK2003地点 D 区 2 面 SK4074~ SK4129・ SP4098出土遺物	98
第25図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SK4133・4135・ SP4136・SK4137・4141・4145~4148・SP4149 平面・断面図.....	100
第26図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SK4153・4154・4156・ 4158・4160・SP4157・4159平面・断面図	101
第27図	HZK2003地点 D 区 2 面 SK4131~ SK4158・ SP4015~ SP4142出土遺物	102
第28図	HZK2003地点 D 区 2 面 SI4084出土遺物	103
第29図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SP4057・4063・4065 ~4068・4077・4079・4085・4090・4091・ 4093・4094・4096・4105・4108・SK4069・ 4092平面・断面図.....	104
第30図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SP4110・SK4111・ SP4112~4115・4119・4122・4123・4130・ 4134・4138・4139・4140・4142・SD4132・ SK4131平面・断面図	105
第31図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SP4151・4152・4155 平面・断面図.....	106
第32図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SE4015・4161平面・ 断面図.....	110
第33図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SE4161出土遺物 1	111
第34図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SE4161出土遺物 2	112
第35図	HZK2003地点 D 区 2・3面 SE4015出土遺物	113
第36図	HZK2003地点 D 区遺構外出土遺物 1	114
第37図	HZK2003地点 D 区遺構外出土遺物 2	115
第38図	HZK2003地点 E 区 遺構配置図	117
第39図	HZK2003地点 E 区 エリア I 遺構平面・断 面図①.....	118
第40図	HZK2003地点 E 区 エリア I 遺構断面図②	119
第41図	HZK2003地点 E 区エリア I 出土遺物	120
第42図	HZK2003地点 E 区 エリア II 遺構平面・断 面図.....	121
第43図	HZK2003地点 E 区 エリア III 遺構平面・断 面図①.....	123

第44図	HZK2003地点 E 区 エリア III 遺構平面・断 面図②.....	124
第45図	HZK2003地点 E 区 エリア III サブトレンチ ③南壁土層断面図.....	125
第46図	HZK2003地点 E 区 エリア III 出土遺物	125
第47図	HZK2003地点 E 区 エリア III SK60出土遺物	126
第48図	HZK2003地点 E 区 エリア III SK62出土遺物	127
第49図	HZK2003地点 E 区 エリア III SK75出土遺物	127
第50図	HZK2003地点 E 区 エリア IV 遺構平面・断 面図.....	129
第51図	HZK2003地点 E 区 エリア IV 出土遺物	130
第52図	HZK2003地点 E 区 エリア IV SD69・73出土 遺物.....	130
第53図	HZK2003地点 E 区 遺構平面・断面図①	132
第54図	HZK2003地点 E 区 遺構平面・断面図②	133
第55図	HZK2003地点 E 区 遺構平面・断面図③	134
第56図	HZK2003地点 E 区エリア外出土遺物	134
第 1 表	HZK2003地点 D 区出土遺物観察表	136
第 2 表	HZK2003地点 E 区出土遺物観察表	157

IV HZK1703地点 (応力研生産研本館北地点)

第 1 図	HZK1703地点全体図	164
第 2 図	HZK1703地点遺構配置図	165~166
第 3 図	HZK1703地点土層断面図	167~168
第 4 図	HZK1703地点1~3層・SK36・37・39・40・SP38・ SX20・41平面・断面図	170
第 5 図	HZK1703地点 SX20出土遺物 1	171
第 6 図	HZK1703地点 SX20出土遺物 2	172
第 7 図	HZK1703地点 SX20出土遺物 3	173
第 8 図	HZK1703地点 SK39・40出土遺物	174
第 9 図	HZK1703地点1~3層・SK10・12~18・44~49・ SP11平面・断面図	175
第10図	HZK1703地点 SK10・12・13・17・SP11出土 遺物.....	176
第11図	HZK1703地点 SK45・48・49出土遺物	177
第12図	HZK1703地点1~3層・SK68~73・SP74~76・ SK77・SP78・79平面・断面図	178
第13図	HZK1703地点1~3層・SP80・81・84・85・95・ 96・100・102平面・断面図.....	180
第14図	HZK1703地点1~3層・SK82・83・86~94・97 平面・断面図.....	181
第15図	HZK1703地点1~3層・SK98・99・101平面・断 面図.....	183
第16図	HZK1703地点 SK69・92・93・99・101・ SP85出土遺物	183

第17図	HZK1703地点1～3層・SK21～24・SD25・SX26平面・断面図	184	第26図	HZK1703地点4層他・SP62・63・103・107・108・110～113平面・断面図	194
第18図	HZK1703地点4層他・SK03・04・SP05・06・SK07～09平面・断面図	186	第27図	HZK1703地点4層他・SX61・67・109・114・203平面・断面図	195
第19図	HZK1703地点 SK04出土遺物	187	第28図	HZK1703地点 SK64・65・SK66・SX67・103・107・114・SK117出土遺物	196
第20図	HZK1703地点 SK03・SP06出土遺物	188	第29図	HZK1703地点4層他・SP27・28・SK30・32・33・42・SP43平面・断面図	198
第21図	HZK1703地点4層他・ST50平面・断面図	189	第30図	HZK1703地点 SK30・SX31・SP43出土遺物	198
第22図	HZK1703地点 ST50出土遺物	190	第31図	HZK1703地点出土銭貨	199
第23図	HZK1703地点4層他・SK51～57・SX58・59・SK60平面・断面図	191	第32図	HZK1703地点遺構外出土遺物 1	200
第24図	HZK1703地点 SK51・52・54・SX59・SK60出土遺物	192	第33図	HZK1703地点遺構外出土遺物 2	201
第25図	HZK1703地点4層他・SK64～66・104・SP105・SK106・115・SP116・SK117・SK204～208平面・断面図	193	第1表	HZK1703地点遺物観察表	203

写真図版一覽

巻頭図版 1	HZK1804地点 B 区調査区全景／HZK1804地点 C 区調査区全景		構 SX20／4-6 HZK1703地点エリア I 完掘／4-7 HZK1703地点土坑墓 ST50遺物出土状況／4-8 HZK1703地点土坑墓 ST50出土遺物	
巻頭図版 2	HZK2003地点 D 区調査区全景／HZK2003地点 E 区調査区全景		写真図版 5	II 章 HZK1804地点出土遺物 第7図3／第7図9／第18図1／第18図10／第19図4／第25図2／第34図3／第34図6／第38図1／第38図3／第38図6／第38図7
巻頭図版 3	HZK1703地点調査区全景／HZK1703地点石組遺構区 SX20			III 章 HZK2003地点出土遺物 第5図12／第5図15／第5図20／第14図34／第14図35／第14図36
写真図版 1	1-1 立試1811地点 D 区遺構完掘／1-2 立試1811地点東壁土層断面／1-3 立試1811地点調査区完掘／1-4 HZK1804地点 A 区調査区全景／1-5 HZK1804地点 B 区土坑 SK03～08／1-6 HZK1804地点 B 区土坑 SK04・ピット SP05・06断面／1-7 HZK1804地点 C 区井戸 SE14-C 検出状況／1-8 HZK1804地点 C 区井戸 SE14-C 完掘		写真図版 6	III 章 HZK2003地点出土遺物 第14図37／第16図6／第16図16／第18図2／第18図23／第18図30／第24図25／第27図4／第27図30／第27図33／第28図22／第28図23／第33図7／第33図11／第33図15／第33図18／第33図20／第33図32／第33図34／第33図35／第34図1
写真図版 2	2-1 HZK2003地点 D 区井戸 SE4015A～C 検出状況／2-2 HZK2003地点 D 区 SX4088完掘／2-3 HZK2003地点 E 区調査区全景		写真図版 7	III 章 HZK2003地点出土遺物 第34図2／第34図3／第34図4／第34図6／第34図11／第35図10／第36図2／第36図5／第37図6／第47図1／第47図7／第47図52／第47図53／第47図54／第48図1／第49図1／第51図2／第51図3／第52図4／第52図5／第56図10
写真図版 3	3-1 HZK2003地点 D 区土坑 SK4004土器出土状況／3-2 HZK2003地点 D 区土坑 SK4004出土土器／3-3 HZK2003地点 D 区井戸 SE4015井戸枠／3-4 HZK2003地点 D 区ピット SP4137／3-5 HZK2003地点 D 区井戸 SE4161A～C 完掘／3-6 HZK2003地点 D 区溝 SD5003完掘／3-7 HZK2003地点 E 区土坑 SK16～29完掘／3-8 HZK2003地点 E 区土坑 SK36～45完掘		写真図版 8	IV 章 HZK1703地点出土遺物 第5図1／第5図3／第5図10／第7図22／第22図1／第24図6／第28図1／第28図2／第28図5／第28図12／第31図1／第31図3／第31図4／第31図5／第31図6／第31図7／第31図8／第32図12／第33図1／第33図9／第33図13
写真図版 4	4-1 HZK1703地点エリア3 1～3層完掘／4-2 HZK1703地点エリア3 4層完掘／4-3 HZK1703地点エリア2完掘／4-4 HZK1703地点 SX58・59／4-5 HZK1703地点石組遺			

I 箱崎遺跡—九州大学箱崎キャンパス地区—について

1. 2022年度の箱崎キャンパス埋蔵文化財調査体制

九州大学埋蔵文化財調査室では、本学キャンパスの統合移転事業にともなって、箱崎キャンパスにおける埋蔵文化財発掘調査を2016年度から継続的に実施し、2021年度に発掘調査を完了した。その間30件の調査を行い、その成果のうち元寇防塁に関わるものを中心に、これまで合計5冊の発掘調査成果報告書として公開している。特に5冊目は元寇防塁の総括報告を行い、2016年度から続いた元寇防塁の発掘調査成果の集大成とした。

一方、箱崎キャンパスの調査によって、中世箱崎遺跡の北縁部分や近世の墓地も見つかったが、国指定史跡元寇防塁の追加指定に向けて元寇防塁の発掘調査成果報告書の作成を急いだため、未報告となっていた。2022年度は中世箱崎遺跡の北縁部分に当たる地点の整理報告作業に専念することとした。

調査室は昨年度まで室長以下、助教2名、学術研究員1名で調査・整理作業を行ってきたが、助教2名が転出し、助教1名となった。2022年度の九州大学箱崎キャンパス埋蔵文化財調査体制は以下の通りである。

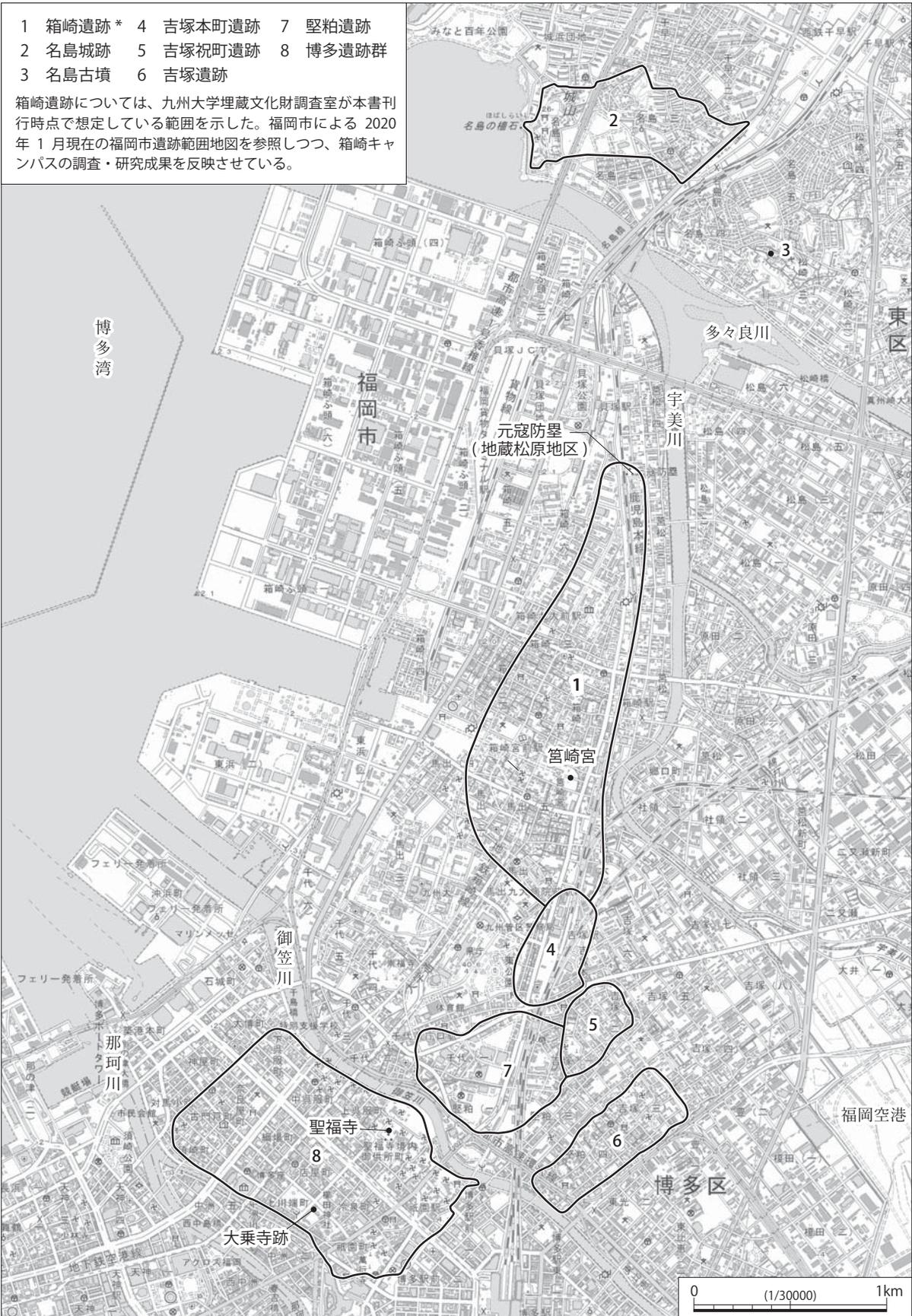
九州大学キャンパス計画及び施設管理委員会

委員長	福田 晋	理事・副学長（キャンパス整備・管理）
副委員長	坂井 猛	キャンパス計画室副室長
委員	松井 康浩	比較社会文化研究院長
	辻井 正人	理数学研究院長
	中村 雅史	病院長
	中島 英治	総合理工学研究所長
	尾本 章	芸術工学研究院長
	西田 憲史	理事（事務局長）
	成相 圭二	企画部長
	井上 賢一	総務部長
	伊藤 宏明	研究・産学官連携推進部長
	梶原 修	財務部長
	小谷 善行	施設部長
	後藤 成雅	学務部長
	中本 浩司	統合移転推進部長
	田上 健一	副理事（キャンパス整備）

文化財ワーキンググループ

WG長	宮本 一夫	人文科学研究院教授
委員	清水 和裕	人文科学研究院長
	藤岡健太郎	大学文書館教授

I 箱崎遺跡—九州大学箱崎キャンパス地区—について



第1図 箱崎遺跡とその周辺（『1：25000電子地形図 福岡』を改変）

辻田淳一郎	人文科学研究院准教授
溝口 孝司	比較社会文化研究院教授
田尻 義了	比較社会文化研究院准教授
堀 賀貴	人間環境学研究院教授
渡辺 敦史	農学研究院教授
鶴崎 直樹	キャンパス計画室准教授
亀井 肇	総務部総務課長
三原 悦侍	財務部資産活用課長
山下 孝宣	施設部施設企画課長
安部 貴之	統合移転推進部統合移転推進課長
佐竹 晃佳	企画部社会共創課長

九州大学埋蔵文化財調査室運営委員会

委員長	宮本 一夫	人文科学研究院教授・埋蔵文化財調査室長
	堀 賀貴	人間環境学研究院教授
	溝口 孝司	比較社会文化研究院教授
	辻田淳一郎	人文科学研究院准教授
	田尻 義了	比較社会文化研究院准教授

九州大学埋蔵文化財調査室

室長	宮本 一夫
助教	谷 直子

2. 2022年度の調査及び報告地点について

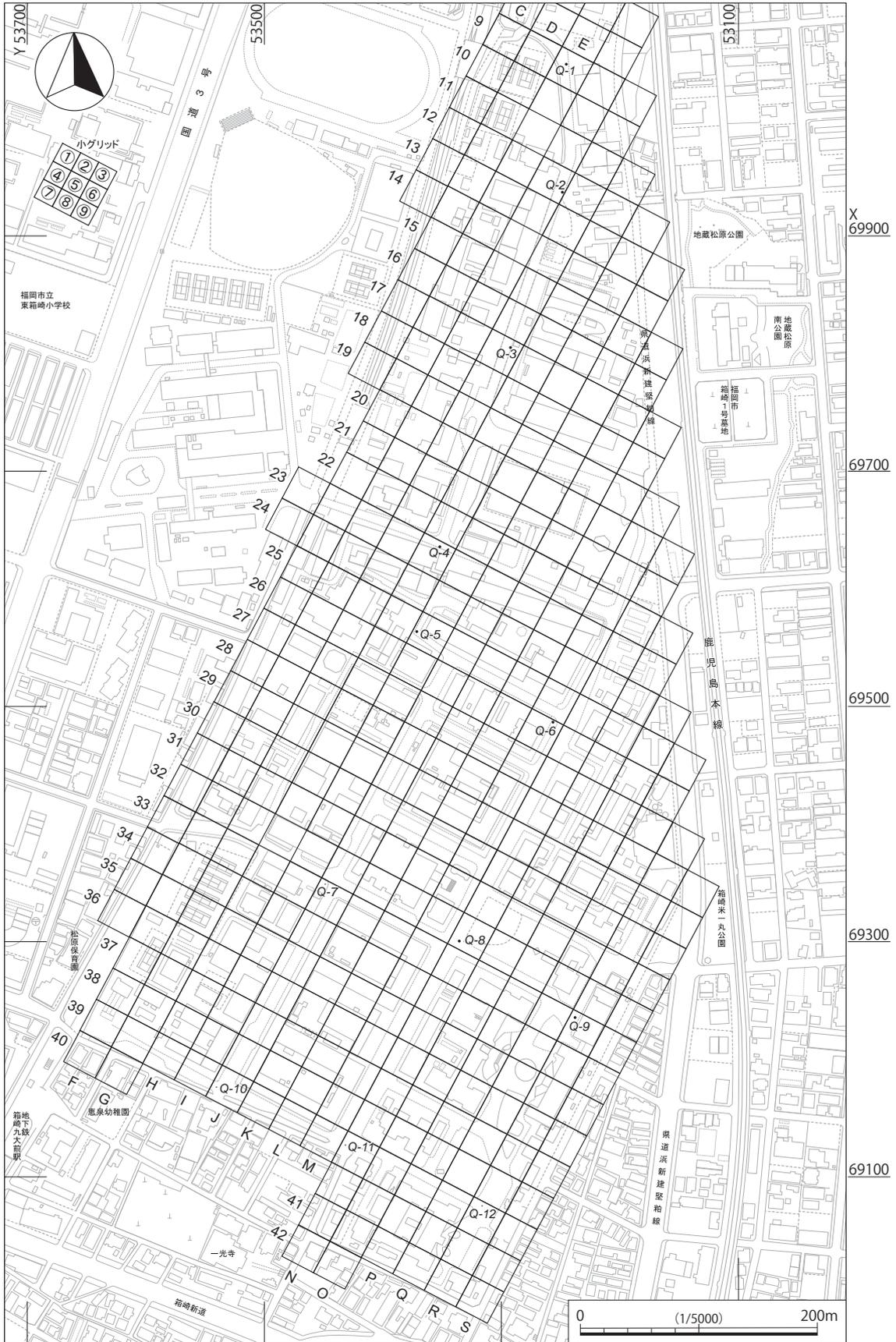
(1) 調査対象範囲と調査地点

調査対象範囲は箱崎キャンパス東側の理系地区である（第2図）。すでに当該地区には、世界測地系対応の2級基準点3点（Q-1、Q-10、Q-12）3級基準点9点（Q-2、Q-3、Q-4、Q-5、Q-6、Q-7、Q-8、Q-9、Q-11）が確保されており、これらを用いて正確な位置情報の記録を行ってきた。

理系地区全体には西鉄貝塚駅北東に原点をおく30mメッシュの大グリッドが設定されている。北から東に27.767385°傾くタテのラインと、それに直交するヨコのラインとで形作られており、原点から東へA～Sの記号、南へ1～42の数字が与えられている。大グリッドは10mメッシュの小グリッド9つに分割される。北西を起点として上段に①・②・③区、中段に西から④・⑤・⑥区を、同じく下段に⑦・⑧・⑨区を置く。以下位置を説明する場合 R36-⑨区、R37-③区のように表現する。

調査地点名はこれまで、「箱崎遺跡 九州大学箱崎キャンパス」の略号 HZK を頭文字とし、事業年度の下2桁と各年度の調査番号2桁の計4桁の番号からなる名称を与えている。また、箱崎キャンパスにおける解体前の建物群との位置関係を別称として添えてきた。これを踏襲して、本報告書内での調査地点名とする。

I 箱崎遺跡—九州大学箱崎キャンパス地区—について



第2図 九州大学箱崎キャンパス 発掘調査グリッド



第3図 2020年度の発掘調査地点と本報告調査地点

(2) 箱崎キャンパスにおける2022年度の埋蔵文化財調査

発掘調査は2021年度で終了しているため、2022年度は工事立会7件を実施した。

立会調査 箱崎キャンパスの保存地区である箱崎サテライト内の外構整備事業に伴い、旧工学部本館と第1庁舎・第3庁舎の間と旧工学部本館北側から地蔵の森にかけて立会調査を行ったが、多くが旧配管の攪乱を受けており、いずれの地点でも遺物包含層は検出されなかった。

3. 中世の箱崎遺跡

(1) 九州大学箱崎キャンパス付近の調査

九州大学埋蔵文化財調査室では箱崎遺跡の報告書をすでに5冊刊行している。箱崎遺跡の歴史的環境については各報告書にその都度記載され、三阪一徳「周辺の遺跡」(九州大学埋蔵文化財調査報告第1集 福田・森編 2018)、齋藤瑞穂「箱崎遺跡の歴史的環境」(同第2集 三阪・谷編 2019)、福永将大「元寇前夜の北部九州・概観」「元寇時における箱崎の諸相」(同第4集 齋藤編 2020)、福永将大「箱崎地区における元寇防塁研究」(同第5集 福永編 2021)として報告されている。また、箱崎キャンパスの発掘調査の過程で元寇防塁が発見され、国指定史跡に追加指定されたこともあり、その成果については『箱崎キャンパス地区元寇防塁調査総括報告書』(同第7集 福永編 2022)として刊行された。

よって箱崎遺跡に関わる歴史的環境の記述の多くはこれらに譲ることとして、ここでは本報告に関わる中世の箱崎遺跡について概観したい。

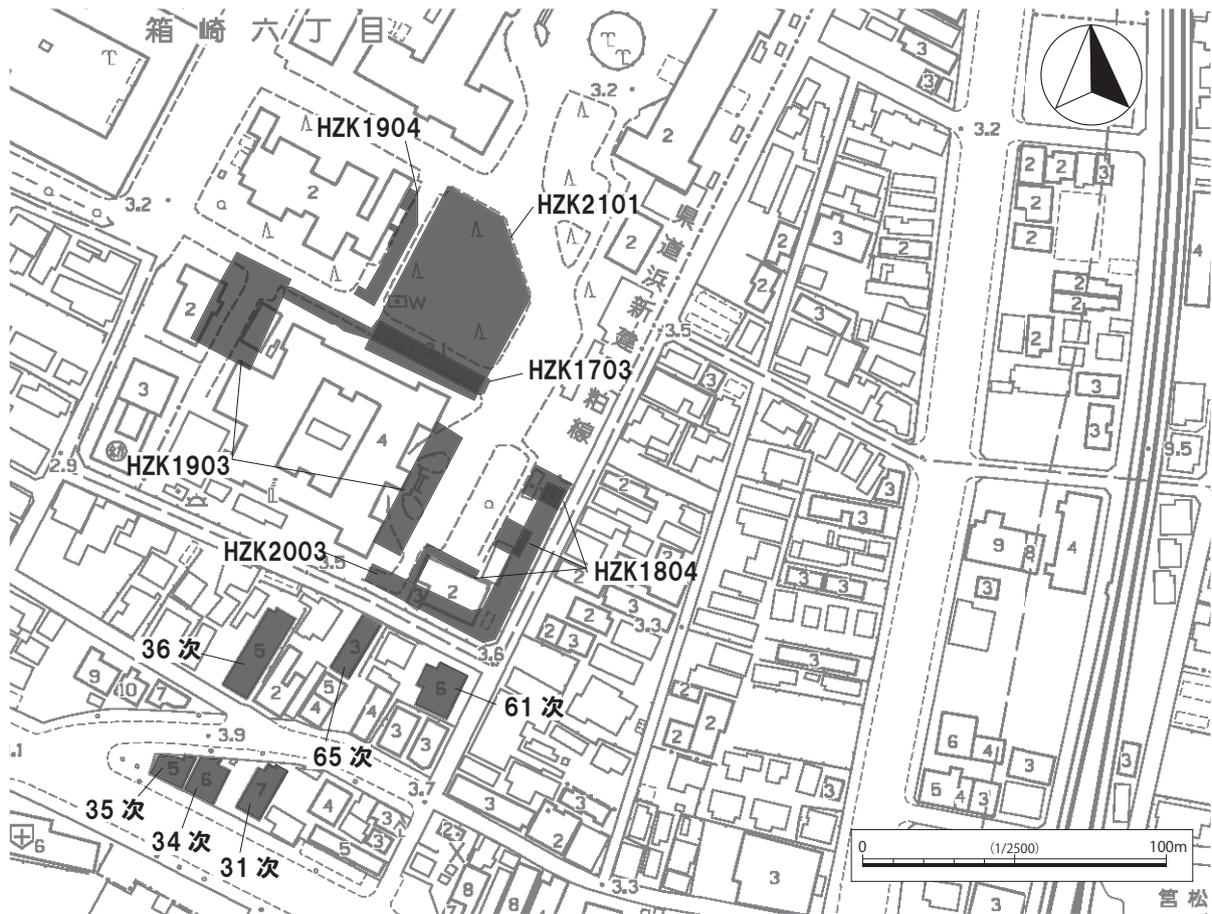
箱崎遺跡の調査は1983(昭和58)年に実施された福岡市高速鉄道に伴う発掘調査を嚆矢とする。その後、箱崎遺跡は現在の福岡市東区箱崎から馬出の範囲とされた。1996(平成8)年に刊行された『福岡市文化財分布地図(東部1)』では、箱崎遺跡の北端は九州大学箱崎キャンパスの南端に接する住宅街までとされている(横山邦継他 1996)。

しかし2002年に行われた箱崎遺跡第36次調査によって、箱崎キャンパスに接する住宅地で、14～15世紀代の遺構が検出された。箱崎遺跡の北側では従来、砂丘が急激に落ち遺跡範囲は北に延びないと想定されていたが、砂丘の落ちは検出されず遺構密度は北側に向かって濃くなり、中世を中心とした箱崎遺跡の範囲がさらに北側の九州大学箱崎キャンパス方向に拡大することが明らかになった。この第36次調査区は九州大学埋蔵文化財調査報告第10集の第1章で報告するHZK1903地点の南側に当たる。この調査では、1区で14世紀代の整地面と柱穴・溝・井戸・廃棄土坑・方形土坑、2区で井戸・柱穴・廃棄土坑・土坑墓が検出された。井戸は桶を井筒とするもののほか、15世紀代の石組の井筒を持つものが検出された(本田 2004)。

また箱崎遺跡第61次調査は九州大学箱崎キャンパスの南東隅に隣接し、本報告の第Ⅲ章で報告するHZK2003地点の南側に位置する。発掘の結果、柱穴・溝・土坑・木棺墓・貝殻焼成遺構が検出された。溝は現在の町割りに沿っている。木棺墓は白磁碗V-4b類1点と糸切り底の土師皿5点、人骨片が出土している(今井 2010)。貝殻焼成遺構は床面が焼けた土坑から焼けた貝殻が検出されたもので、焼けた貝は食物残渣ではなく打ち上げ貝であり、消石灰の塊も共に出土したことから、中世において消石灰を生産した遺構と結論付けられている(山崎純男 2010)。これらの遺構は12～13世紀を中心とした集落を構成する遺構である。ほかに近世の井戸が検出された(今井 2010)。

続く箱崎遺跡第65次調査では、第36次調査区と第61次調査区の間調査区が設けられた。本報告の第Ⅲ章で報告するHZK2003地点の南側に位置する。発掘の結果、12世紀後半の木棺墓1基、方形土坑、円形土坑、井戸、柱穴群が検出された(本田 2010)。木棺墓は鉄釘の出土状況から長辺182cm、短辺48cmに復元でき、龍泉窯系青磁碗1点・糸切り底の土師器の坏4点が出土しており、人骨から成人男性が埋葬されていたと判明している。

これら箱崎キャンパスに隣接する発掘調査区では、主に12世紀から15世紀にかけての集落を構成する遺構が検出されており、遺跡の範囲は九州大学の敷地内へと延びることが明らかとなった。また検出された溝・木棺墓・土坑などの遺構の多くが、現在の町割りとほぼ同方向の主軸を採り、中世以降



第4図 箱崎キャンパス付近の福岡市による調査地点

箱崎の町割りが大きく変化していないことを示している（本田 2004・2011・今井 2010）。

（2）中世箱崎遺跡の地理的変遷

箱崎遺跡でまとまった集落が形成されるのは古墳時代であるが、その後数世紀にわたり集落遺構は検出されていない。その後、集落遺構が検出されるのは10世紀前半である。筥崎宮の創建は923（延長元）年とされており、時期的に符合することから箱崎遺跡における集落の出現と発展には筥崎宮が深く関与していると考えられる（中尾 2018）。また史料にある「箱崎津」は、考古学的には筥崎宮東側の宇美川に面していたところに港があったと考えられており、博多湾の港町であった（伊藤 2018）。

この10世紀前半以降の箱崎遺跡の時期的変遷については、中尾2018と佐藤2020によってまとめられておりその記述に沿ってみると、10世紀～11世紀前半は筥崎宮の東南部の狭い範囲で、梵鐘の铸造遺構や越州窯系青磁・イスラム陶器・石帯巡方・大宰府や鴻臚館で出土するものと同じ瓦など筥崎宮に直接的な関わりを示したり、官的な性格を示したりする遺構や遺物が出土している（中尾 2018）。

11世紀後半から12世紀前半は、筥崎宮の東南から東側一帯に遺構が存在しており、前段階よりも拡大している。遺構は井戸・土坑・方形堅穴が主で、豊前型土師器・畿内産土器・高麗青磁などが出土している（佐藤 2020）。またこの時期の井戸は比較的短期間に同一地点または近接したところで掘削されたものもあり、井筒に桶を利用したものが出現する。桶組井戸はこの時期の博多遺跡群では多く見られるが、周辺地域では数世紀遅れる。同時期の博多遺跡群では、鴻臚館の衰退に伴い貿易拠点が

移動したとされ、この時期前後に急激に都市化することが明らかになっており、箱崎遺跡における遺構の増加もこれらを反映しているだろう（中尾 2018）。

12世紀後半から13世紀前半になると、遺構の分布範囲が遺跡の南東部の他、北西側にも拡大し、箱崎キャンパスに隣接する範囲まで全体的に分布する。井戸や土坑の他、柱穴などが検出されている。建物や柱列の軸線は現況の町割りに沿ったもので、道路遺構が顕著には検出されていないことから、現在の道路が中世以前にさかのぼる道路を踏襲した可能性が大きい。町割りは自然地形に即したものであったと考えられる。遺物は中国陶磁器の出土量が増加し、これらの陶磁器に加え、銅鏡・銅銭・鉄製品を副葬した土坑墓や木棺墓が多数検出されるようになる（佐藤 2020）。こうした墓の多くが他の遺構とともに検出されることから、屋敷墓と考えられる（中尾 2018）。

13世紀後半から14世紀は元寇防塁の築造時期を含むが、筥崎宮を中心として、箱崎遺跡の範囲全体に遺構が見られる。遺跡の北西側に13世紀後半の焼土層が確認されている。また龍泉窯系青磁の優品が高い頻度で出土しており、寺社造営料唐船への関わりが考えられる（佐藤 2020）。

15・16世紀になると、遺構は筥崎宮の南側と九州大学に隣接する北側に見られ、他の区域ではほとんど見られない（佐藤 2020・中尾 2018）。

このように箱崎遺跡全体の分布の変遷を見ても、12世紀後半から15世紀を中心とした範囲で箱崎遺跡の北西部にあたる箱崎キャンパス付近に遺構の分布が見られる。九州大学箱崎キャンパスの南端は箱崎遺跡の北縁にあたり、遺跡の範囲は箱崎キャンパスの中へと続いていることが明確になった。九州大学箱崎キャンパスの発掘調査によって12世紀から15世紀を中心とした中世箱崎遺跡の北端が明らかとなり、箱崎遺跡北東部付近における中・近世の人々の居住環境や社会生活領域の実態に迫ることができるであろう。（谷 直子）

引用文献

- 伊藤幸司 2018「中世の箱崎と東アジア」『アジアのなかの博多湾と箱崎』九州史学研究会（編）勉誠出版
- 今井隆博（編）2010『箱崎遺跡39—箱崎遺跡第61次調査—』福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第1092集 福岡市教育委員会
- 齋藤瑞穂（編）2020『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告3 箱崎遺跡—HZK1802・1803・1805・1902地点—』九州大学埋蔵文化財調査室報告第4集 九州大学埋蔵文化財調査室
- 佐藤一郎 2020「中世2 箱崎遺跡」『新修 福岡市史 資料編考古2 遺跡から見た福岡の歴史—東部編—』福岡市史編集委員会（編）
- 中尾裕太 2018「考古学から見た箱崎」『アジアのなかの博多湾と箱崎』九州史学研究会（編）勉誠出版
- 本田浩二郎 2004「0252 箱崎遺跡第36次調査（HKZ-36）」『福岡市埋蔵文化財年報 VOL.17—平成14（2002）年度版』福岡市教育委員会
- 本田浩二郎 2010「0923 箱崎遺跡第65次調査（HKZ-65）」『福岡市埋蔵文化財年報 VOL.24—平成21（2009）年度版』福岡市教育委員会
- 福田正宏・森 貴教（編）2018『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告1 箱崎遺跡—HZK1601・1603・1604地点—』九州大学埋蔵文化財調査室報告第1集 九州大学埋蔵文化財調査室
- 福永将大（編）2021『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告4 箱崎遺跡—HZK1901・1905・2001・2002・2004地点—』九州大学埋蔵文化財調査室報告第3集 九州大学埋蔵文化財調査室
- 福永将大（編）2022『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告5 箱崎キャンパス地区 元寇防塁 調査総括報告書』九州大学埋蔵文化財調査室報告第5集 九州大学埋蔵文化財調査室
- 三阪一徳・谷 直子（編）2019『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告2 箱崎遺跡—HZK1701・1702・1704・1705・1706地点—付 HZK1802・1803地点概要報告』九州大学埋蔵文化財調査室報告第2集 九州大学埋蔵文化財調査室

- 山崎純男 2010「第4章おわりに 2. 第61次調査出土の自然遺物について」『箱崎遺跡39—箱崎遺跡第61次調査—』
福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第1092集 福岡市教育委員会
- 横山邦継・山口譲治・浜石哲也・山崎龍雄・杉山富雄他 1996『福岡市文化財分布地図（東部Ⅰ）』福岡市教育委員会

Ⅱ HZK1804地点（記録資料館地点）

1. 調査の経緯

（1）調査の目的と経過

本調査地点は箱崎キャンパス南エリアに所在した記録資料館の北側に位置する。キャンパス全体の発掘調査グリッド（本報告書Ⅰ章第2図）では、S40、R40、R41にあたる。

2017年度に、本調査地点の東側に位置する HZK1703地点で発掘調査が実施されており、中世の遺構や遺物を確認していた（本報告書Ⅳ章）。

また本地点の調査に先立ち、2018年6月6日、応力研生産研本館東側において行われたマンホールおよび配管の撤去工事に際し、福岡市と九州大学埋蔵文化財調査室は工事立会を行った。この立会に立試1811の調査番号を与え、調査地点を立試1811地点と呼んでいる。立会の結果、配管の周囲に中世の包含層および遺構が遺っていることが明らかとなった。そこで事業者の理解を得て、同日から工事エリア内の記録に務めることとした。この地点の調査成果についても、詳細は本章で述べることとする。

上述のように当該エリアにおいて中世の遺跡が良好な形で残っている可能性を把握していたため、九州大学埋蔵文化財調査室は、平成31年1月28日付の福岡県教育委員会あて「九大統統第90号」にて HZK1804地点の埋蔵文化財発掘届を提出した。これに対して、福岡県教育委員会より平成31年2月15日付「30教文第3035号」にて許可通知があり、A区は平成31年3月4日から3月8日、B区は令和元年6月6日、C区は6月21日に現地調査を開始した。調査の目的は、中世箱崎遺跡北端部の様相解明である。

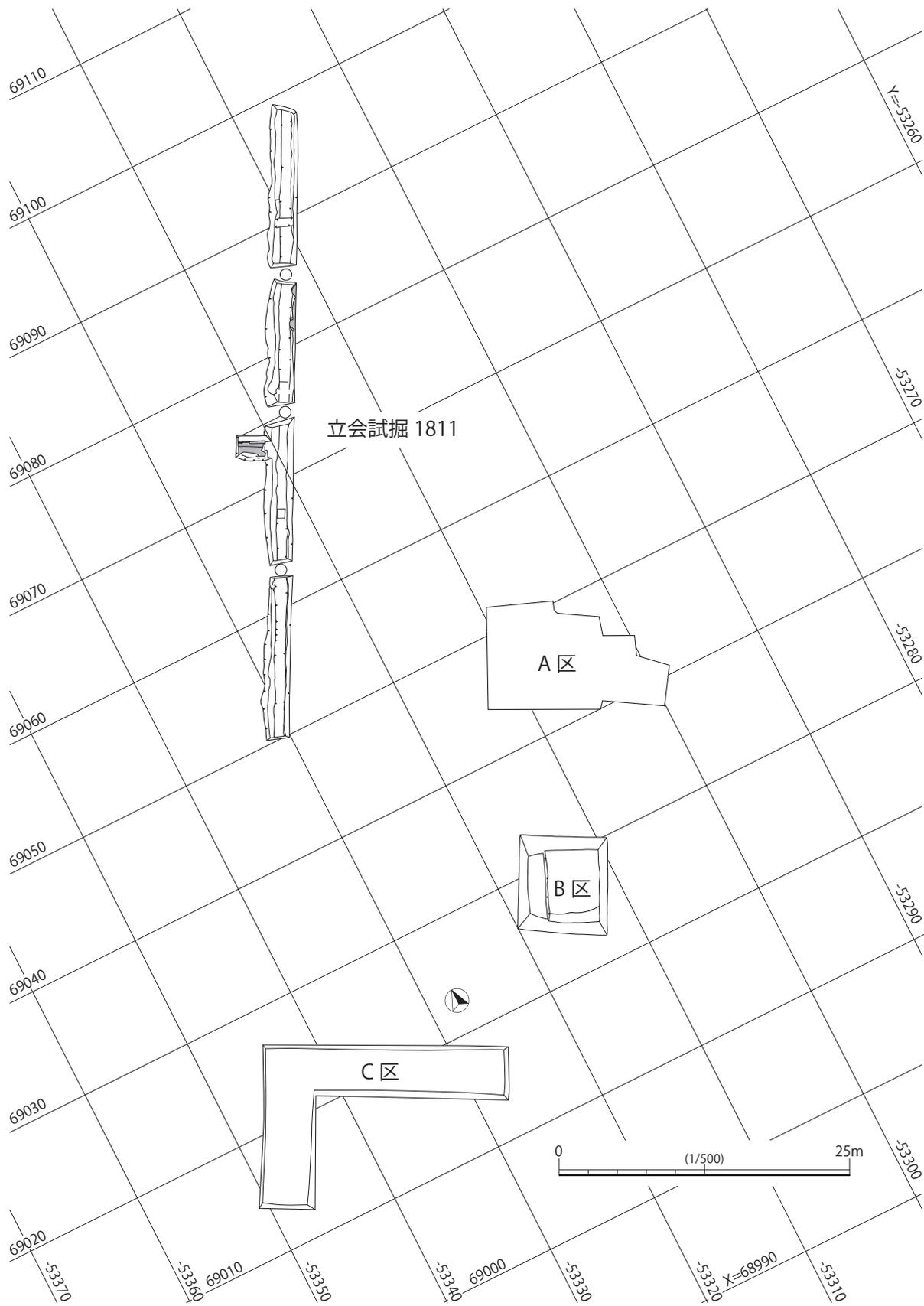
この調査後、本調査地点の南側では HZK1903地点 C区（九州大学埋蔵文化財調査室報告10集第Ⅰ章）として2018年度～2019年度に調査されており、また、2020年度に調査された HZK2003地点 D区（本報告書Ⅲ章）の調査範囲の一部が重複している。

立試1811地点は応力研生産研本館東側に存在する配管及びマンホールの位置に合わせ、南北55m、東西2.5mのトレンチを設定した。北から A・B・C・D に分けし、発掘調査を進めた。中世の遺構、遺物を検出し、平成30年6月22日に無事終了した。

HZK1804地点 A区では、記録資料館の北東部に8.5m×15mの調査区を設定し、重機掘削による表土の除去から始めたが、現代の攪乱が深部まで及んでおり、遺構などを確認することができないまま、3月8日に調査を終了した。

HZK1804地点 B区では、中世箱崎遺跡北端部の様相解明を目的とし、東西約8m、南北約8mの調査区を設定し、現代の表土と近現代以降の攪乱層・造成土を重機掘削により除去した。HZK1804地点 A区が本調査地点に先行して調査されており、近現代の攪乱により遺跡が破壊されていることが判明していた。その南側に隣接する本調査地点でも、同様の状況が想定されていたものの、幸いなことに地表下1.5m付近で遺構が残っていた。遺構検出を行った結果、土坑24基、溝1条、ピット11基を検出した（第11図）。

遺構の調査・記録を終えた後、調査区の東側を深掘し、調査区東壁における土層断面の観察を行った。また、調査区南側で溝 SD30の北側半分を検出していたが、その南側半分は調査区南側に続いていることが想定された。同遺構南側の立ち上がりの状況を把握するため、調査区南東部を1m程度拡



第1図 HZK1804地点・立試1811地点全体図

張して、調査区東壁の土層断面図でその確認を試みた。

発掘調査は7月23日に無事終了した。

HZK1804地点C区は、記録資料館建物基礎の北西隅に沿うような形で、5m幅の調査区をL字状に設定した。重機によって現代の表土と近現代以降の攪乱層・造成土を除去したところ、地表下1m付近で遺構が残っていた。この面を遺構確認面として検出作業を行った結果、井戸2基、溝2条、土坑40基、ピット10基を検出した。

遺構の調査・記録を順調に進めていたのだが、7月18日の豪雨により、調査区内に雨水と土砂が流れ込み、遺構が軒並み破壊されてしまうという事態が発生した（写真1）。雨に備えて養生していたものの、ブルーシートで覆っていた調査区壁面から、地下を移動した雨水が土砂とともに流れ込んだようである。遺構が破壊されたことで、遺構平面図・断面図の一部と遺構配置図の作成を実施できなかったことは悔やまれる。なお、遺構配置図については、調査区の形状を写真測量で記録を残して作図し（第21図左側）、内部の遺構配置状況は野帳にメモしていた内容をもとに復元した（第21図右側）。

豪雨被害によって調査区内の景色は一変したが、調査記録を最大限残すように努めた。調査区南壁を清掃し、調査地点における堆積状況の把握を行った。また、調査区北西部で井戸SE14-cが見つかり、井戸主体部の木枠を検出していたものの、まだ調査が十分に行えていなかった。そこで、重機で流れ込んだ土砂を除去し、SE14-c主体部の周りを広く掘り下げて安全な作業スペースを確保しつつ、井戸主体部の構造の把握を試みた。これによって井戸主体部の円形木桶の部材を回収することができたため、回収した部材を対象に放射性炭素年代測定を実施した。

豪雨被害により後味の悪い幕引きとなったが、発掘調査は7月26日に終了した。

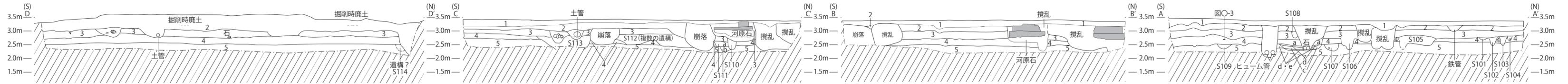
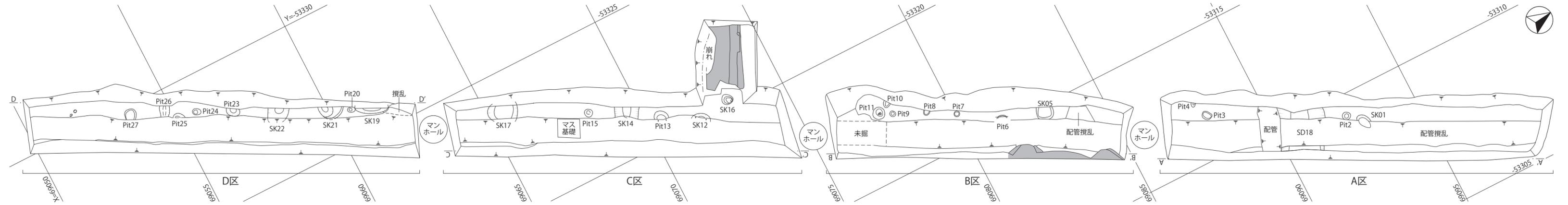
（2）調査要項

立試1811地点

遺跡名	箱崎遺跡
地点名	九州大学箱崎キャンパス立試1811地点
調査名	九州大学埋蔵文化財調査室調査番号：立試1811
所在地	福岡市東区箱崎6-10-1
調査面積	137㎡
調査原因	記録保存



写真1 豪雨災害状況



S114 10YR3/4暗褐、中砂(粗砂含む)、しまる

S110 2.5Y3/3暗オリーブ褐、中砂(粗砂含む)、炭化物含む、しまる
 S111 a 10YR4/3にぶい黄褐、中砂(粗砂含む)、しまる
 b 10YR3/4暗褐、中砂(粗砂多く含む)、わずかにしまる
 S112 10YR4/3にぶい黄褐、中砂(粗砂含む)、しまる
 S113 10YR4/3にぶい黄褐、中砂(粗砂多く含む)、しまる

1 上半5~10cm: 上部のアスファルトに伴うバラス、近・現代の旧地表か?
 下半5cm程度の礫、レンガ片含む、しまる、近・現代の旧地表か?
 2 2.5Y3/2黒褐、中砂、強くしまる、炭化物多く含む、遺物含む(中世~)、中世以降と考えられる
 3 10YR3/3暗褐、中砂(粗砂含む)、しまる、遺物含む(中世)、中世の包含層、遺構が形成されるが検出は難しい、一部壁面で3・4層上面から遺構が形成されている。暗褐色砂層
 4 10YR4/4褐、中砂(粗砂多く含む)、わずかにしまる、中世の包含層、遺構が形成されるが検出は難しい、一部壁面で3・4層上面から遺構が形成されている。暗褐色砂層
 5 10YR6/6明黄褐、粗砂、遺物含む(中世、ローリングを受ける)、いわゆる箱崎砂層、5層上層より大半の遺構検出、黄褐色砂層
 S101 10YR4/3にぶい黄褐、中砂(粗砂多く含む)、しまる、遺物含む、3層と4層の中間的な砂質・土色
 S102~105 S101と同様、ただし遺物は含まれず
 S106 3層と同質
 S107 10YR4/3にぶい黄褐、中砂(粗砂含む)、しまる、遺物含む
 S108 2.5Y4/2暗灰黄、中砂、強くしまる、炭化物多く含む
 S109 S107と同質、ただし遺物は含まれず
コンクリート・レンガ

第2図 立会・試掘1811地点全体図・断面図

調査期間	平成30年6月6日～22日
遺物量	コンテナ（内寸54cm×34cm×15cm）6箱
調査主体	九州大学埋蔵文化財調査室
発掘担当	三阪一徳・齋藤瑞穂
調査作業員	穴井和子、伊藤未紀、井上光江、内山圭子、浦崎てい子、大浦旗江、大藺英美、 奥 敦子、門脇尚子、城野勝彦、河野さやか、高武奈美、小林敏子、定永靖史、 真田文子、篠崎繁美、節政善憲、竹本葉子、田代 薫、田中悦子、田中ゆみこ、 田野和代、堤 末子、永濱弘子、仲前富美子、中村尚美、中山大輔、西浦喜久子、 西田和廣、原田由佳、東嶋 茜、東島真弓、松下さゆり、松下由希子、三辻香奈子、 宮原ゆかり、宮元亜希世、武藤マリ子、安里由利子、山田幹裕、山本加奈子、 横谷明美
遺物整理担当	谷 直子
整理作業員	石井若香菜

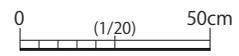
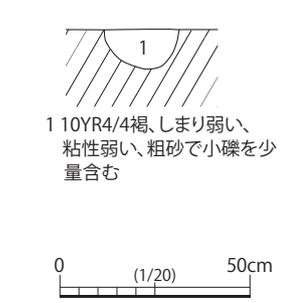
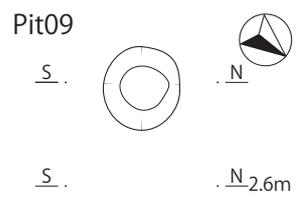
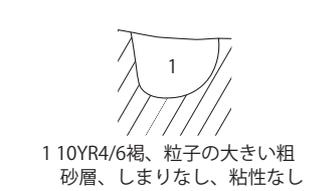
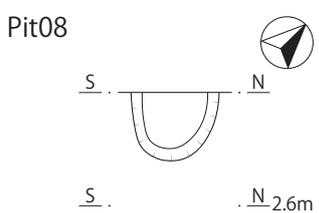
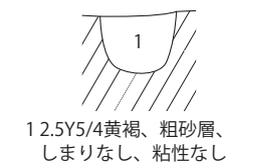
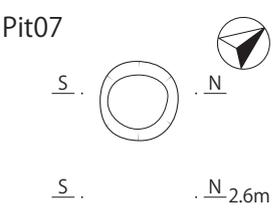
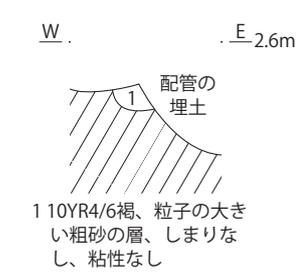
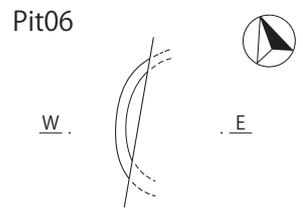
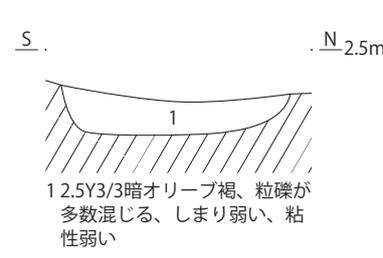
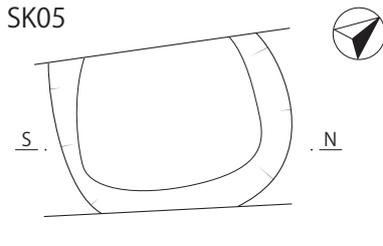
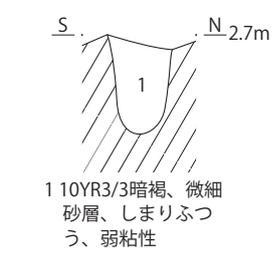
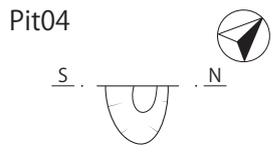
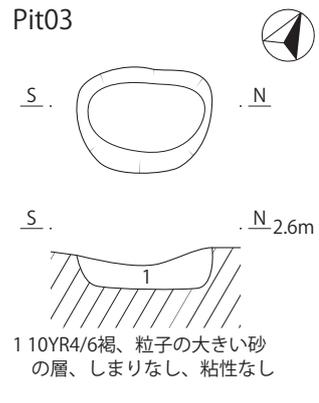
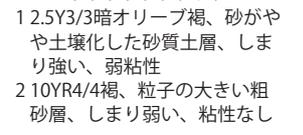
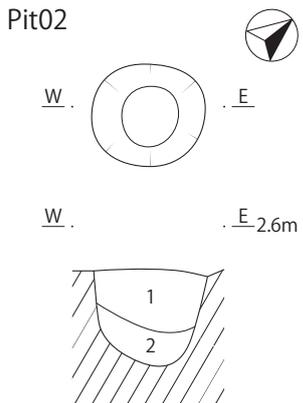
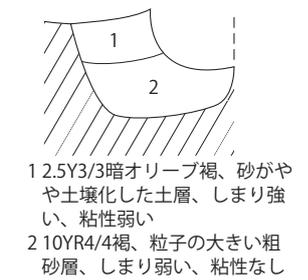
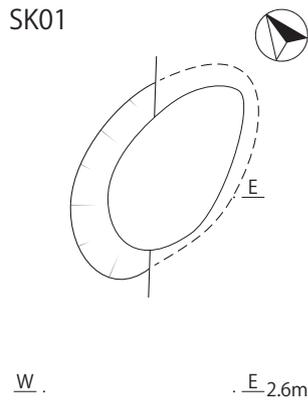
HZK1804地点

遺跡名	箱崎遺跡
地点名	九州大学箱崎キャンパス HZK1804地点B区（記録資料館地点）
調査名	九州大学埋蔵文化財調査室調査番号：HZK1804 福岡市調査番号：1839、箱崎遺跡第93次調査
所在地	福岡市東区箱崎6-10-1
調査面積	400㎡（HZK1804地点全体の調査面積）
調査原因	学術研究
調査期間	平成31年3月4日～令和元年7月29日
遺物量	コンテナ（内寸54cm×34cm×15cm）4箱
調査主体	九州大学埋蔵文化財調査室
発掘担当者	三阪一徳、齋藤瑞穂、福永将大
調査作業員	穴井和子、伊藤未紀、井上光江、内山圭子、浦崎てい子、大浦旗江、大藺英美、 奥 敦子、春日ゆかり、門脇尚子、岸本佐知子、城野勝彦、釘崎知子、高武奈美、 小林敏子、定永靖史、真田 明、真田文子、篠崎繁美、節政善憲、竹本葉子、 田代 薫、田中悦子、田野和代、堤 末子、永瀬太平、永濱弘子、仲前富美子、 中村尚美、中山大輔、西浦喜久子、西田和廣、原田由佳、東嶋 茜、東島真弓、 日並ゆみ子、松尾美恵、松下さゆり、松下由希子、三辻香奈子、宮原ゆかり、 宮元亜希世、武藤マリ子、安里由利子、山田幹裕、吉田辰義
遺物整理担当	谷 直子
整理作業員	石井若香菜、犬山真弓、板倉佳代子、小名真理子、尾座本洋子、樫本真理、 坂口由美子、田邊八子、富田文代、富田麗子、濱古賀美和（谷 直子）

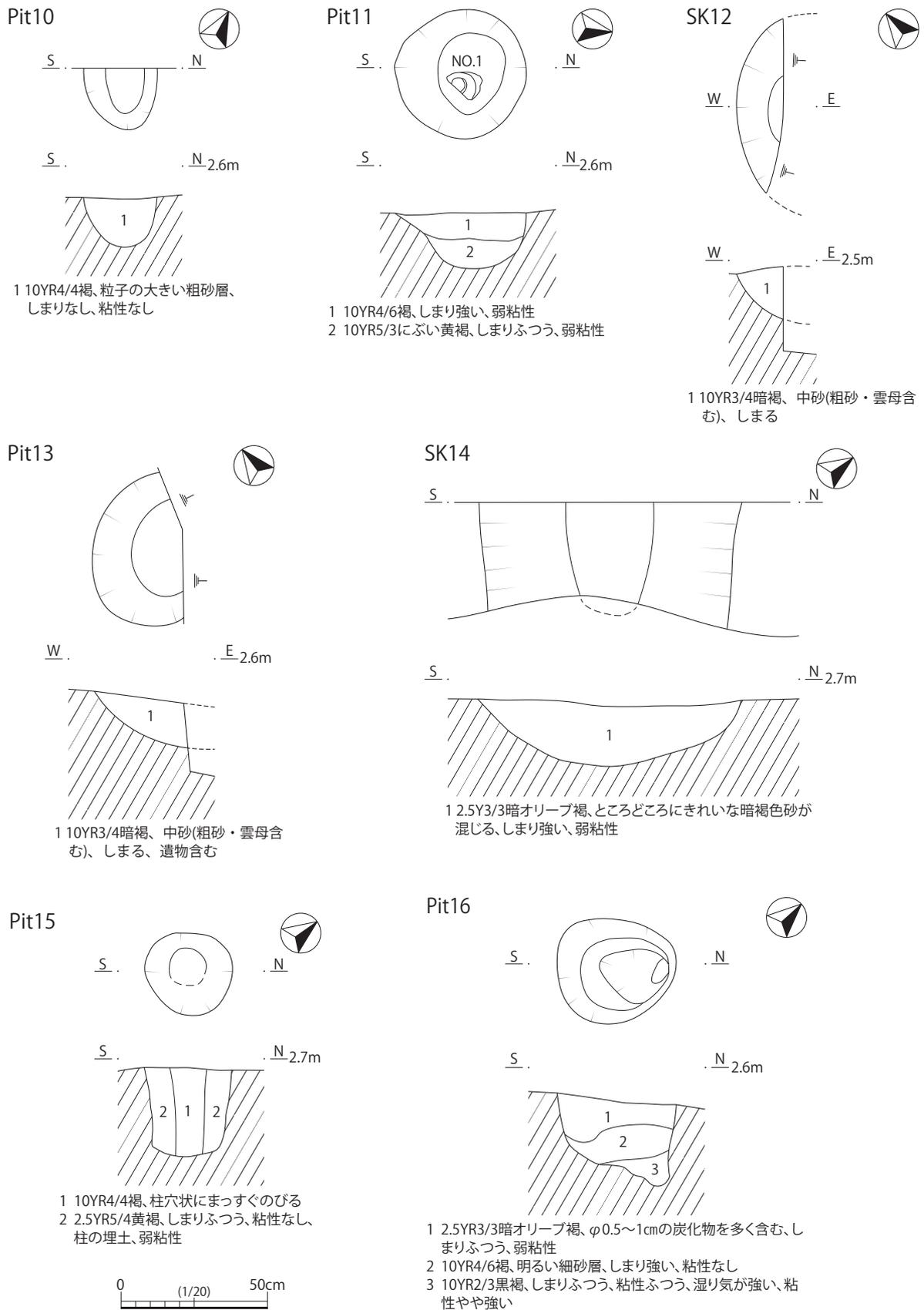
2. 立試1811地点の調査

1. 中世の遺構と遺物

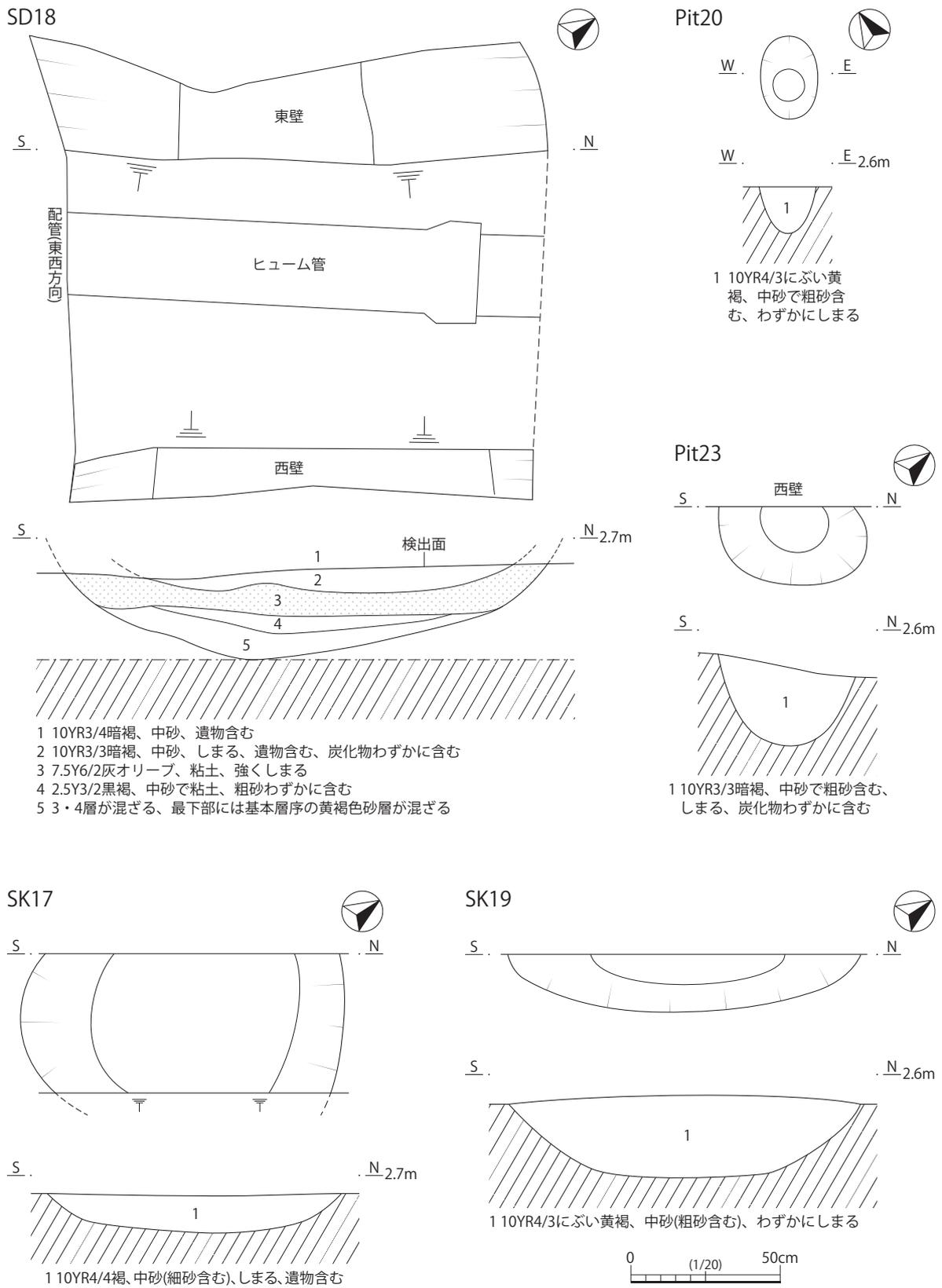
本調査区は、応力研生産研本館東側に存在する配管及びマンホールの位置に合わせ、南北55m、東



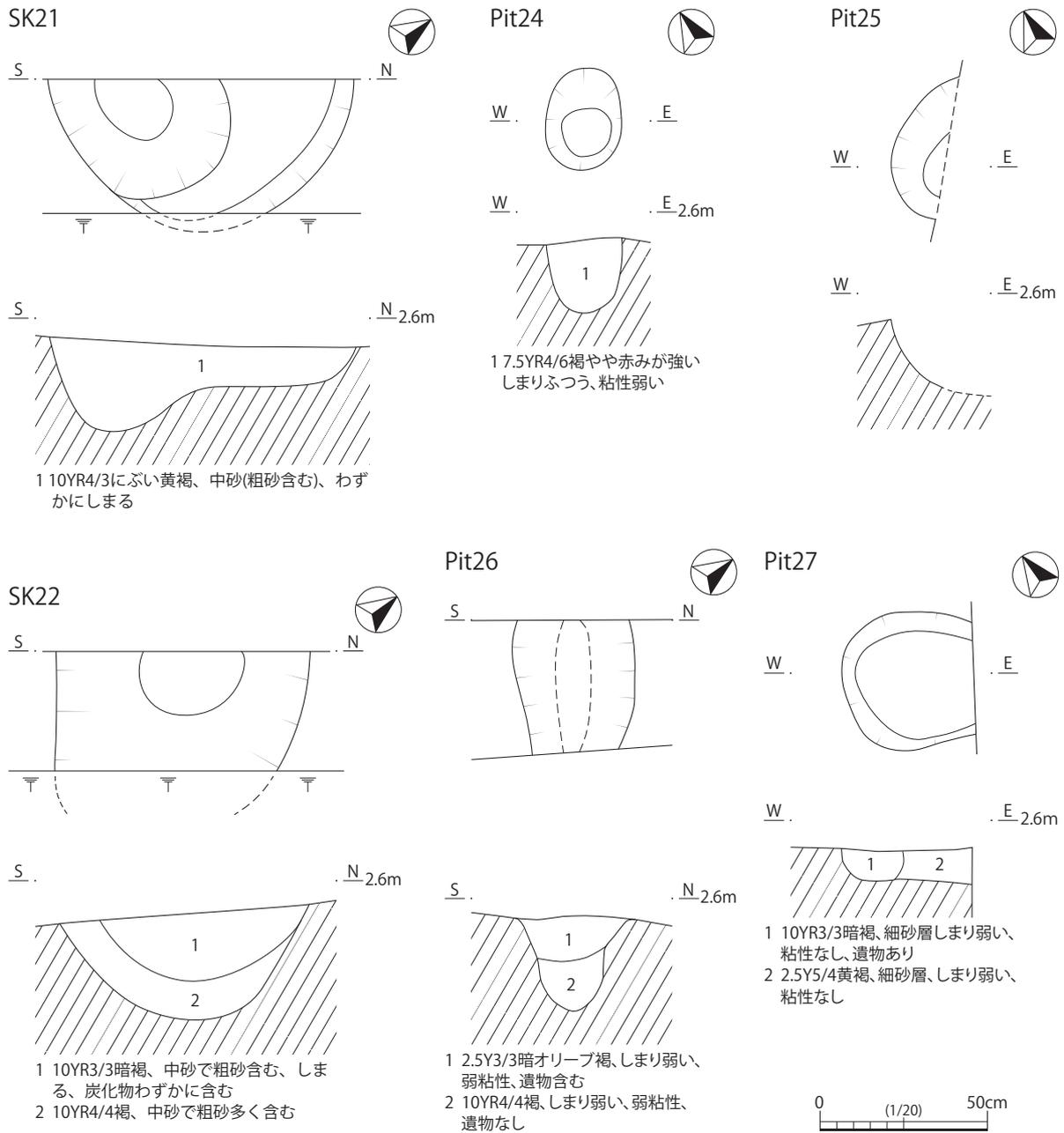
第3図 立会・試掘1811地点 SK01・Pit02~04・SK05・Pit06~09遺構平面・断面図



第4図 立会・試掘1811地点 Pit10・11・SK12・Pit13・SK14・Pit15・16遺構平面・断面図



第5図 立会・試掘1811地点 SK17・SD18・SK19・Pit20・23遺構平面・断面図



第6図 立会・試掘1811地点 SK21・22・Pit24～27遺構平面・断面図

西2.5mのトレンチを設定した。北からA・B・C・Dに区分けし、発掘調査を進めた。

土坑 SK01 (第3図) A区で検出。東側を配管に切られる。楕円形で、遺存部分の径は50cm。長軸は60cmを越えるものとみられる。確認面からの深さは28cmである。土師質の鍋が出土した。

土坑 SK05 (第3図) B区で検出した隅丸方形の土坑で、東側を配管に切られる。一辺は62cmで、確認面からの深さは12cmを測る。白磁碗の他、土師器杯・皿が出土しているが、いずれも小破片である。

土坑 SK12 (第4図) C区の円形土坑で円形もしくは楕円形になるとみられる。径は60cm以上に

なり、確認面からの深さは18cmを測る。土師器の小破片が出土した。

土坑 SK14（第4図） C区西側で検出した。配管の東側まで続かないから、溝でない。楕円形で長軸は90cmを下回るまい。確認面からの深さは20cmである。青磁碗が出土。

土坑 SK17（第5図） C区で検出。円形で径は108cmを測る。確認面からの深さは12cmである。土師器の坏・皿片が出土したが、いずれも小破片で図化し得ない。

溝 SD18（第5図） A区で検出された溝で、東西に延びる。幅は168cm、確認面からの深さは30cmである。青磁・白磁の碗、土師皿、捏鉢などが出土している。

土坑 SK19（第5図） D区で検出した土坑で、形はわからない。長軸は119cm、確認面からの深さは28cmを測る。遺物は出土していない。

土坑 SK21（第6図） D区で検出した。径92cm前後の円形を呈するものとみられる。南側がやや深い。遺物は小破片で図化し得るものはない。

土坑 SK22（第6図） D区で検出した土坑で、東側を配管に切られる。形は詳らかでない。径は76cm前後になろう。SK21同様、図化に堪え得る遺物はない。

ピット群 SP (Pit)（第3～6図） 上記の土坑や溝のほか、A区でSP (Pit) 02～04、B区でSP (Pit) 06～11、C区でSP (Pit) 13・15・16、D区でSP (Pit) 20・23～27の小ピットが検出された。このうち、SP15は堆積の様子から柱穴の可能性が高い。（齋藤瑞穂）

出土遺物 第7図1はSK01出土の土師質の鍋である。口縁部に屈曲が見られる。内面はハケメ、外面にススが多く付着する。第7図2はSD18のe層出土の糸切り底の土師皿である。ほかに、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類や白磁碗Ⅱ類、瓦質土器の捏鉢が出土したが、いずれも小片で図化し得ない。

第7図3はA区4層出土で、外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗で、龍泉窯系青磁碗Ⅳ類である。小ぶりで鋭利なケズリ高台で厚く釉薬がかかる。釉調は深い明緑色を呈し、畳付は釉を拭き取っており、赤褐色に発色する（宮崎編 2000）。

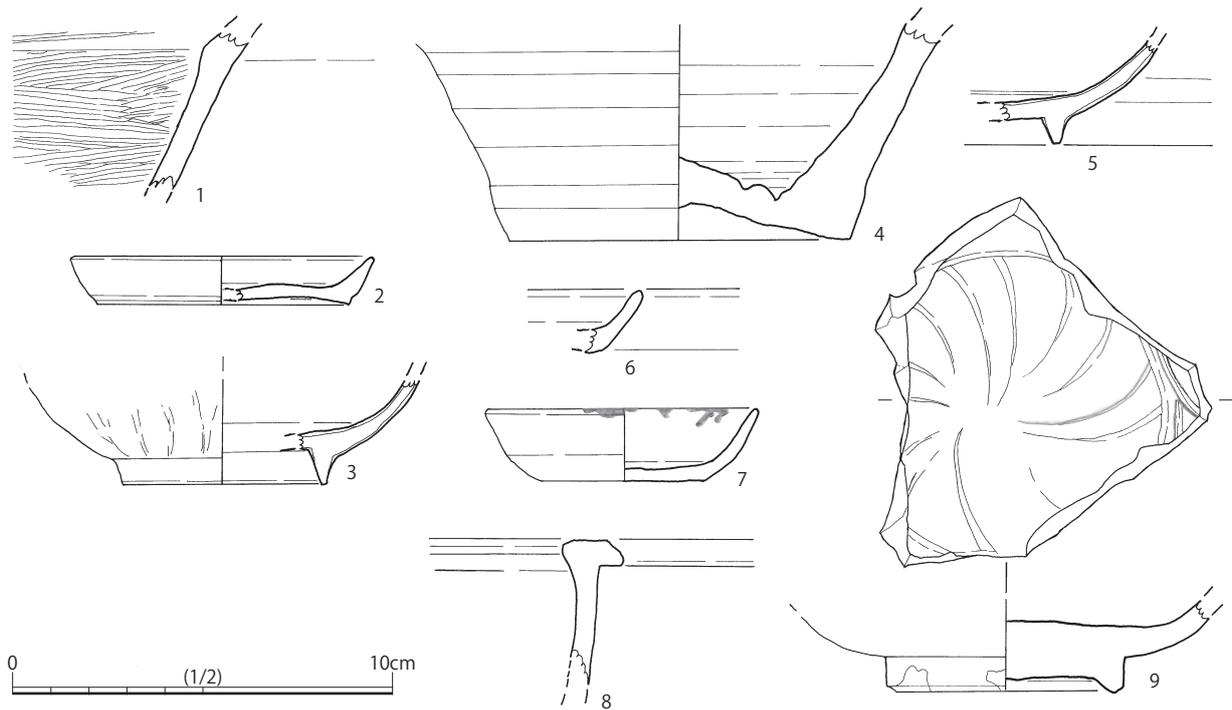
第7図4はSP11出土の陶器壺である。内外面とも回転ヘラケズリの後施釉する。大宰府編年の陶器壺Ⅴ類と考えられる（宮崎編 2000）。第7図5はSK14出土の青磁碗である。小ぶりで鋭利なケズリ高台で厚く釉薬がかかる。釉調は深い明緑色を呈し、畳付は赤褐色に発色する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類である（宮崎編 2000）。第7図6はSP26-1層上面出土の土師皿である。他に青磁片が出土したが小片で図化していない。

第7図7はD区南端出土の糸切り底の土師皿である。口縁部にススが付着しており、灯明皿として使用されたことが分かる。第7図8はD区南端土層3層出土の磁窰窯の黄釉盤で、口縁部は平坦に作り、内面は施釉、外面は露胎である。大宰府編年の陶器盤Ⅱ類である（宮崎編 2000）。第7図9はD区南端出土の青磁碗である。低いケズリ高台で内面に片彫りで放射状の文様を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類である（宮崎編 2000）。（谷 直子）

2. 近代遺構

近代遺構 SQ28（第10図） B区東壁面で検出された煉瓦積の建物基礎である。調査区内に向かって、V字状に2箇所迫り出す形で検出された。全体の形状は詳らかでないものの、砂利を敷き、厚さ20cmほどのモルタルを流し込んだ後、煉瓦を積み始めたらしい。

近代遺構 SQ29（第10図） C区西壁面で検出した煉瓦敷遺構である。検出の後、調査区を拡張した結果、煉瓦敷は西方に真っすぐ延びていくことが明らかとなった。砂利やモルタルの標高はSQ28



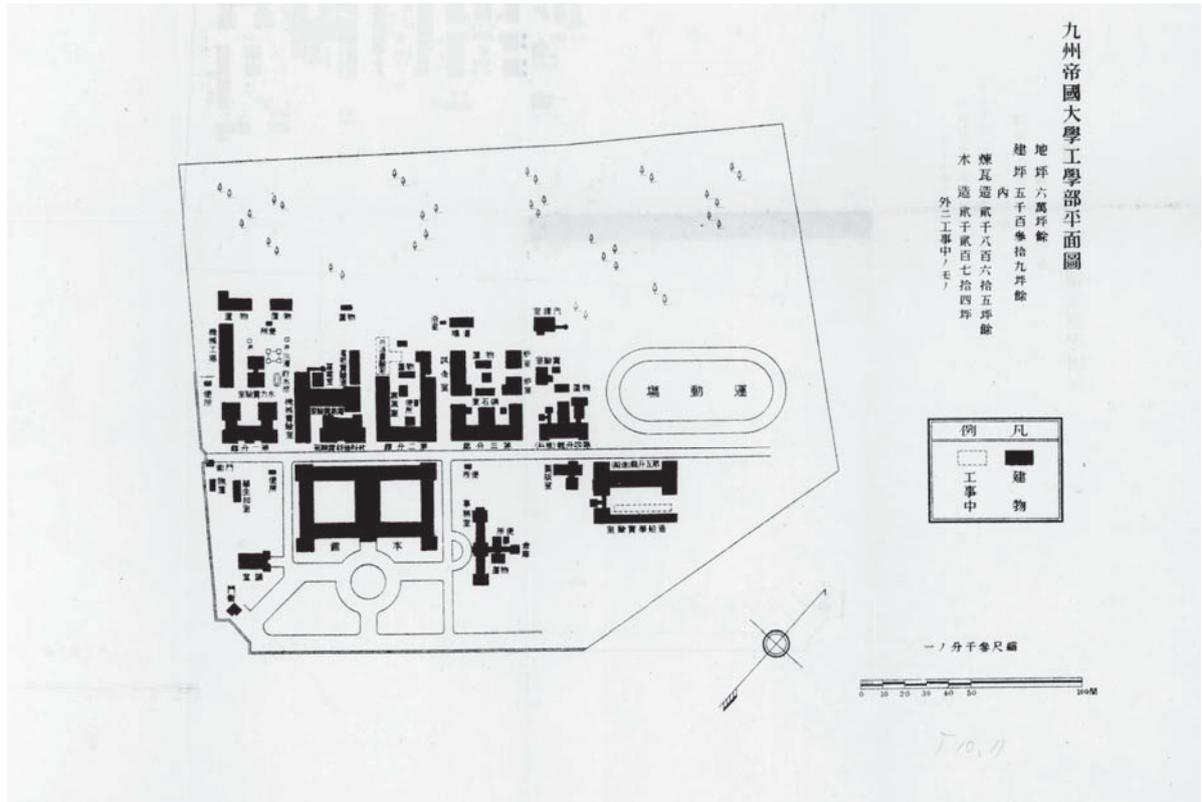
第7図 立会・試掘1811地点出土遺物

のそれより高く、モルタルは厚みがない。上部にあっただろう構造物の重量がSQ28ほどもないことを、これは示している。

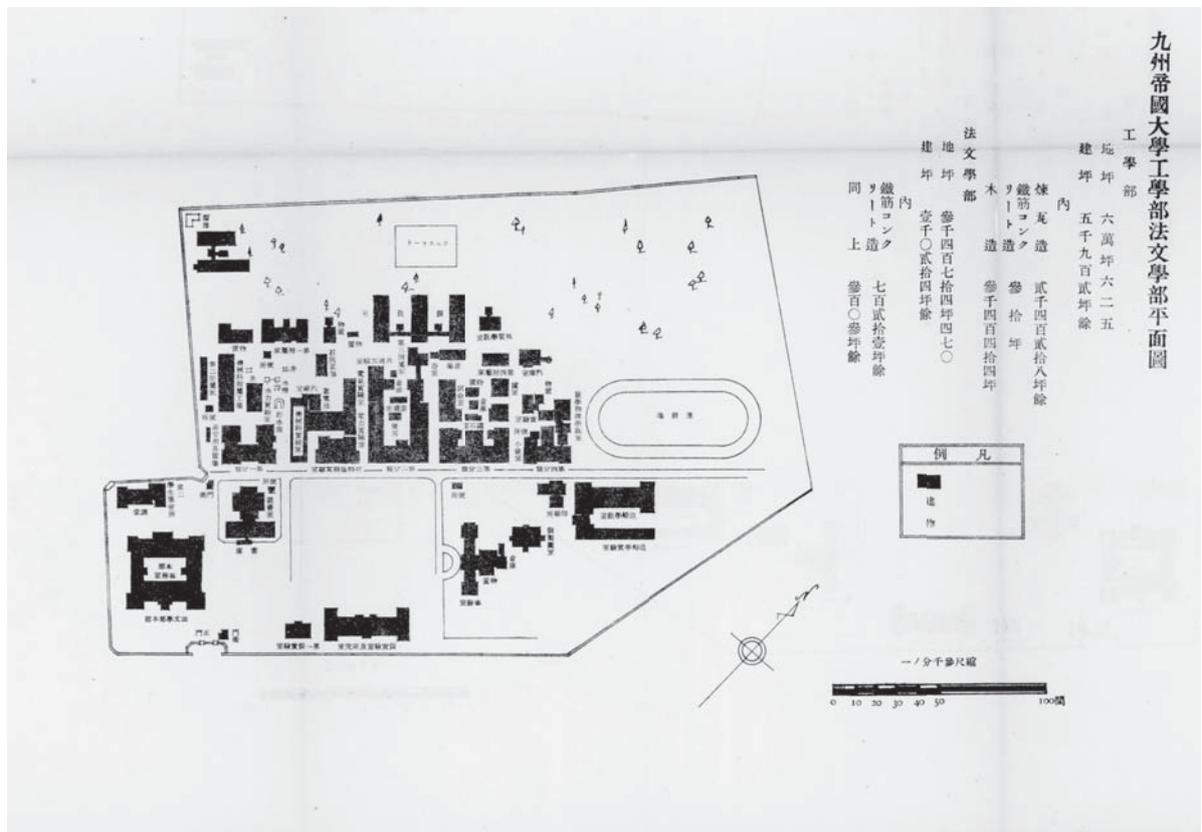
SQ28とSQ29は何か 昭和元年（1926）作製の九州帝国大学工学部法文学部平面図は、応力研究生産研本館建物が法文学部本館建物として描かれた最も古い図面である（第9図）。立試1811地点は、この図でいう法文学部本館建物と正門との間に位置し、相当する構築物は図面上に見当たらない。ところが、先行する大正10年（1921）作製の九州帝国大学工学部平面図をみると（第8図）、昭和元年（1926）図面と違って法文学部本館建物が建ったエリアはなく、キャンパス南辺は直線的で、南に張り出していないことが見て取れる。正門の位置や向きも異なっていたことが知られるのである。

今回検出した近代遺構をこの大正10年図に重ね、おおよその位置を合わせるならば、SQ28は「門衛」と書かれた旧門衛所建物部分にあたり、SQ29は南に拡幅する以前のキャンパス南辺と重なる。SQ29はすなわち、境界塀の基礎部分であるとみて差し支えない。（齋藤瑞穂）

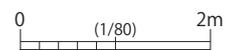
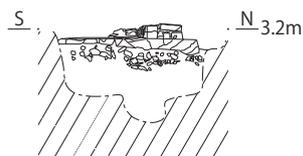
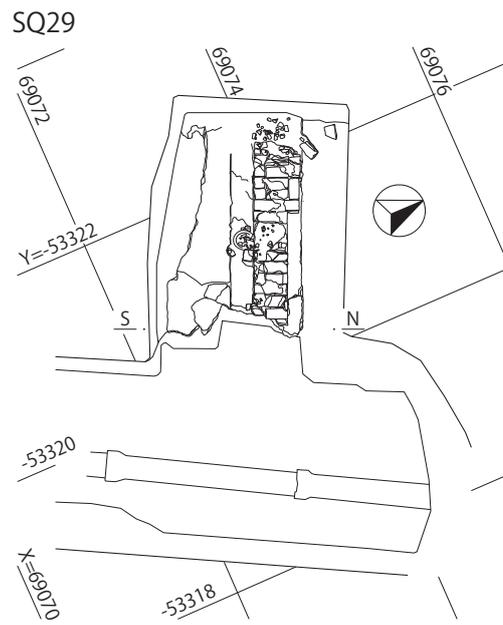
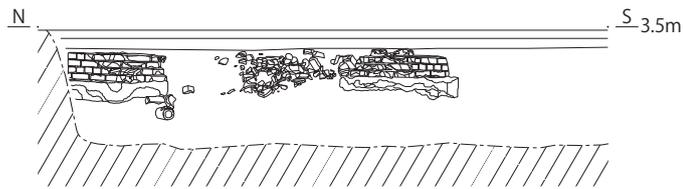
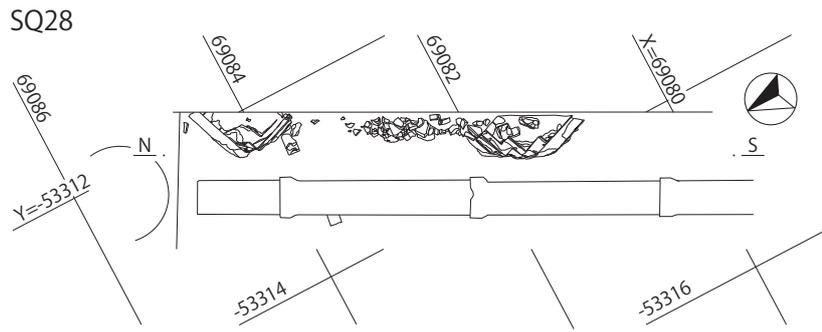
II HZK1804地点（記録資料館地点）



第8図 大正10（1921）年 九州帝国大学工学部平面図



第9図 昭和元（1926）年 九州帝国大学工学部法文学部平面図



第10図 立会・試掘1811地点 SQ28・29平面・断面図

3. HZK1804地点 B 区の調査

1. 調査地点における堆積状況

第12図は調査区東壁の土層断面図である。1層はバラスを含んでおり、大学建設時の整地層と考えられる。2層は1層と同様に木の根を多く含むが、バラスや建築時の廃材なども含まれていない。大学建設以前の堆積層の可能性が高いが、大学建設に伴う整地・盛土層である可能性も排除できない。

3層は遺構埋土と思われるが、調査区北側は土壤汚染区域のため拡張して性格究明することができず、詳細は不明である。2層に切られている。4層・6層は水平方向に広く堆積する層であり、両者は色調に微妙な差異があるものの、その土質は類似している。4層と6層の間に5層（SK09埋土）が介在しており、5層上面は4層によって切られている。また、7層（SD30埋土）やSP28埋土を含む8層～13層、14層・15層（SK12埋土）は、6層によって切られている。なお、この6層までは重機掘削で除去し、16層上面で遺構検出を実施した。

8層～13層が堆積していたエリアは、遺構検出の際に自然堆積層（16層・17層）より暗い色調を呈する砂を確認していたものの、遺構やその切り合い関係の判断は難しく、深掘り後に調査区東壁を精査することで初めて確認することができた。8層～13層にみる複雑な切り合い関係は、何らかの人為を反映している可能性が高いものの、その性格を論じるだけのデータ・所見が不足している。

以上のような堆積状況から、本調査地点では、少なくとも三度の遺構構築と、三度の整地の痕跡を確認することができよう。これらを整理すると以下ようになる。

自然堆積層：16層・17層

→1回目の遺構構築：7～15層（SK12・SP28・SD30）

→1回目の整地：6層

→2回目の遺構構築：5層（SK09）

→2回目の整地：4層

→3回目の遺構構築：3層

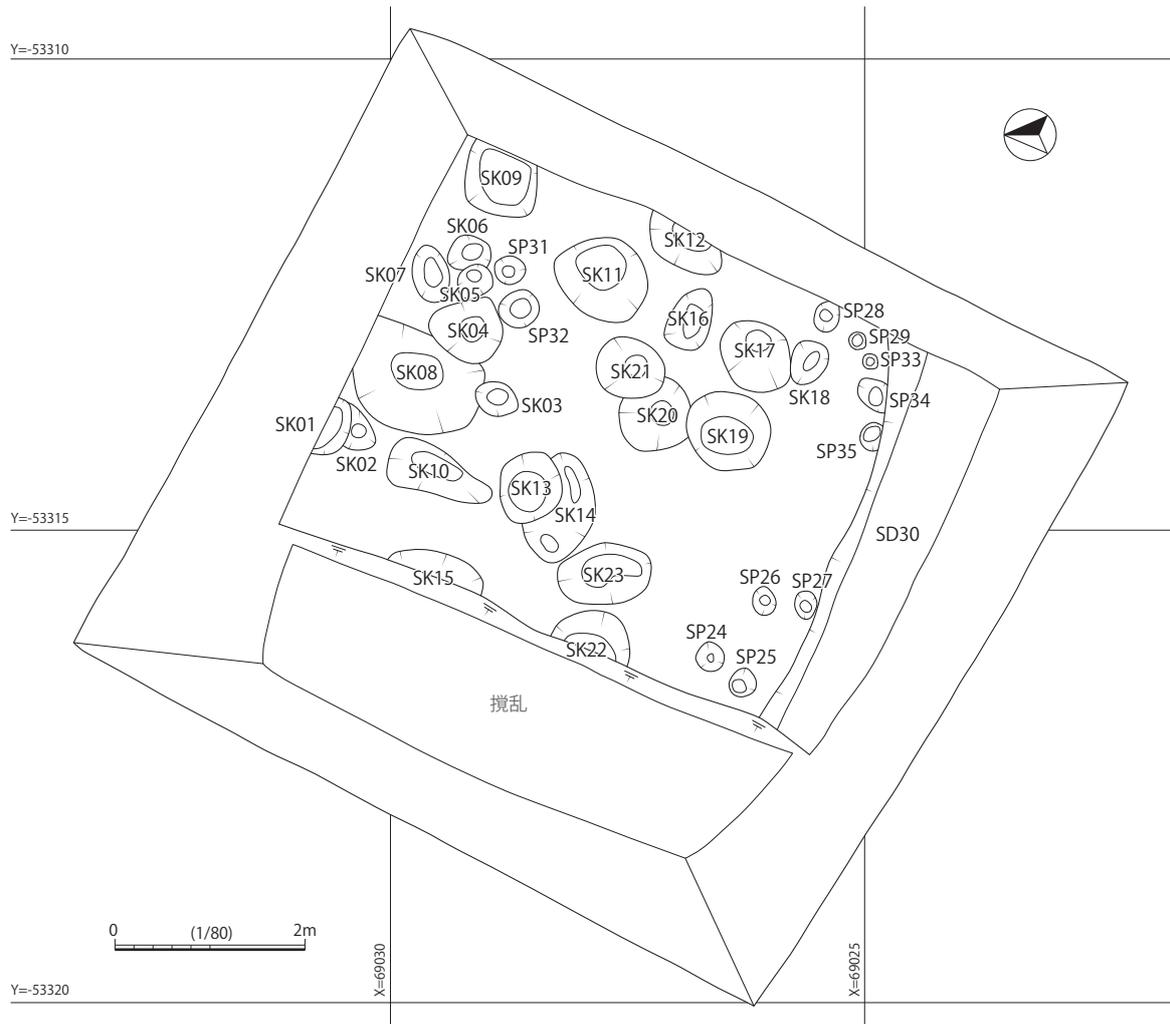
→3回目の整地：2層

後に述べるように、SK09（5層）からは12世紀中頃、SK12（14層・15層）からは12世紀後半、SD30（7層）からは12世紀後半の遺物が出土している。こうした出土遺物の状況を見る限り、少なくとも5層～7層の間に大きな時期差が存在するとは考えられず、12世紀後半代に遺構の構築と整地が繰り返されたことが読み取れる。

しかし、調査区内からは13世紀前半や15世紀～16世紀の所産と考えられる遺構（SK06、SK19、SK20、SK21）が見つかっており、注意が必要である。これらの遺構が、3層として把握される遺構のように、かなり上部から掘り込まれた遺構であるという保証はない。5層より下のレベルから掘り込まれた遺構である可能性を排除できない以上、5層以下を12世紀後半以前の所産として単純に評価することはできない。当該エリアにおいて、遺構の構築と整地が繰り返されたことは間違いないが、そうしたイベントの時期を限定することはできず、12世紀後半～16世紀までの年代幅を見込んでおく必要がある。

なお、16層と17層のどちらから出土したかを特定できないが、自然堆積層から8世紀前後と推定される須恵器片が出土している。 (福永将大)

出土遺物と年代（第19図） 第19図8・9は自然堆積層出土である。8は須恵器の高台付の坏である。低い高台で、時期は8世紀前半と考えられる。9は瓦質土器の破片である。 (谷 直子)



第11図 HZK1804地点B区 遺構配置図

2. 遺構と遺物

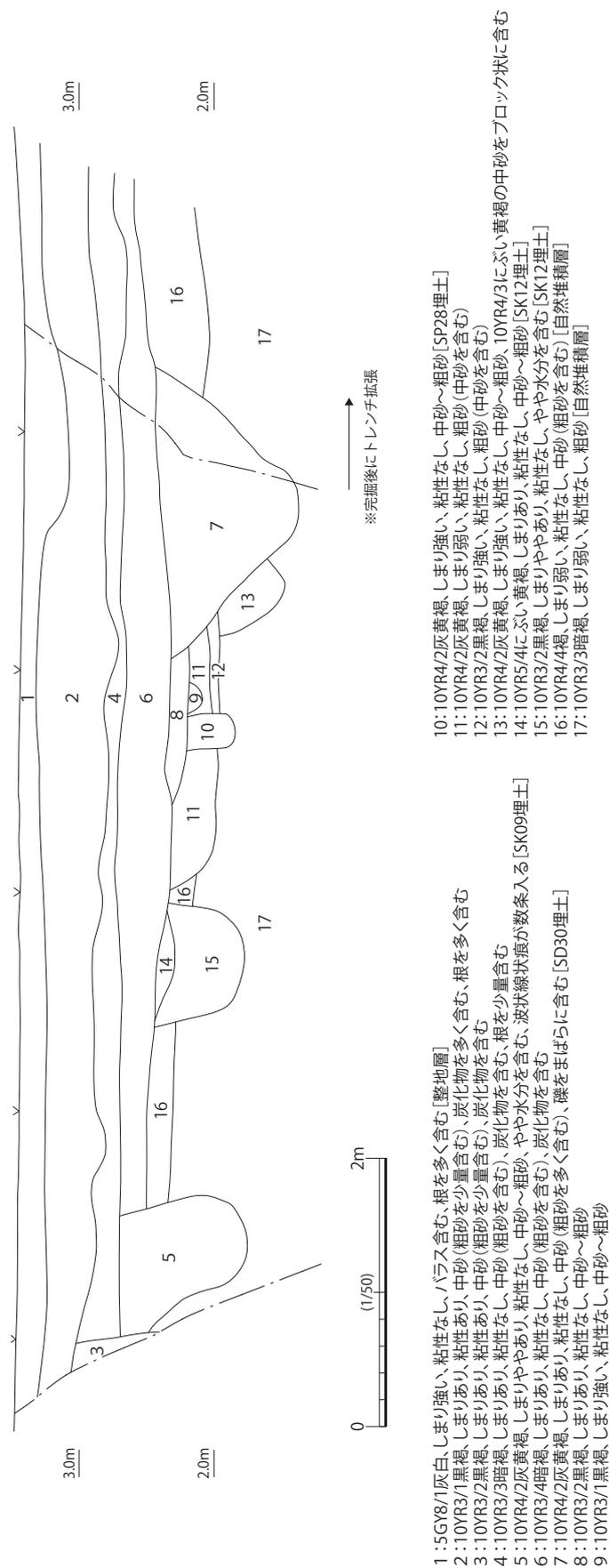
(1) 溝 SD30

調査区南側で検出した。南側は調査区外に続いており、遺構の全体像は不明であるが、北西方向を長軸とする溝だと推定される。調査区南東部を1m程度拡張して、調査区東壁の土層断面図で同遺構南側の立ち上がりの状況を確認した。その結果、溝の断面形状を把握することができ、確認面からの深さは最大1m前後、幅2.2m前後であることが判明した。

溝の埋土は1層のみで(第12図7層)、分層はできなかった。肉眼観察による所見ではあるが、埋土の状況から、溝内部に水が溜まっていた痕跡を確認することはできない。

12世紀後半の所産と考えられる同安窯系青磁碗が出土しており、これが遺構の年代を示している可能性が高いと推察される。(福永将大)

出土遺物と年代(第13図) 第13図はSD30出土である。1は青磁碗である。外面に櫛描き、内面に片彫りで施文する。大宰府編年の同安窯系青磁碗I-1b類である(宮崎編 2000)。13世紀初頭から中頃の所産。2は青磁皿である。龍泉窯系と考えられる。3は須恵質の捏鉢で、玉縁状に仕上げた口縁部外面に自然釉がかかる。東播系須恵器の捏鉢である。11世紀中頃～13世前半頃に多く見られる



第12図 HZK1804地点 B 区 調査区東壁土層図

(山本ほか 1997)。4 は土師器の坏で、口縁部に穿孔がある。

(谷 直子)

(2) 土坑 SK01～SK23 (第14～17図)

全部で24基の土坑を確認した。各土坑の位置は第11図参照のこと。

SK01・SK02 SK01は、SK02を切って構築されており、遺構北側は調査区北側に続いている。当初、SK02がSK01を切って構築されていると考えていたが、土層断面を精査した結果、切り合い関係が逆であることが判明した。SK01の埋土を2層に分層しているが、その根拠は波状線状痕が入るかどうかの違いであり、その他の特徴に大差はない。波状線状痕の形成要因は不明であり(本章 HZK1804地点 C 区、35・36頁参照)、この存在を根拠に分層することに躊躇したが、後世に波状線状痕の性格が明らかになることを期待して、ここでは1層を a・b と細分する形で分層することにした。SK01から出土した遺物はなく、SK02は土師器小片が出土している。遺構の所属時期の特定は難しい。

SK03・SK04・SK05・SK06・SK07・SK08 SK03～SK08は切り合い関係にあり、SK08→SK03・SK04・SK06→SK05・SK07の順番で構築されている。SK03とSK06は埋土の類似性が高く、近い時期に埋没した可能性がある。

SK04の埋土は2層に分層しているが、2層は自然堆積層で掘りすぎの可能性も否定できない。

SK08の底面から約25cm 上方で、円形かつ扁平な形をした花崗岩が出土している。出土状況からこの石は遺構に伴うものではないと判断した。上述のSK01と同様、SK08は波状線状痕の有無によって分層している。

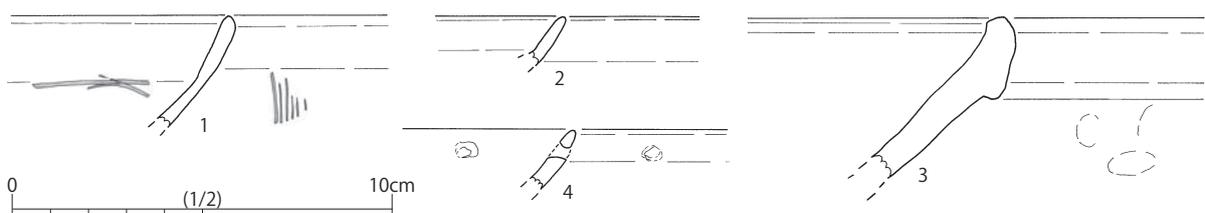
SK06からは同安窯系青磁碗が出土しており、遺構の年代は12世紀後半と判断できる。SK08からは龍泉窯系青磁碗や天目碗、土師質捏鉢が出土しており、これらの遺物から遺構の年代は13世紀前半の可能性もある。SK03からは白磁小片、SK04からは同安窯系土師器碗や土師器坏・皿の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。SK05とSK07からは遺物は出土していない。

SK09 長楕円形を呈し、遺構東側は調査区外に続く。遺構の調査・記録を終えた後、調査区の東側を深掘し、調査区東壁における土層断面の観察を行った結果、SK09は遺構検出面より上方から掘り込まれた遺構だったことが判明した。埋土には波状線状痕が数条入る。白磁皿が出土しており、当該遺構は12世紀後半の所産と考えられる。

SK10 長楕円形を呈し、遺構南側で底面から約20cm 上方で石が出土している。石の大きさは25cm 程度で、石材は砂岩。SK08で出土した石のように丸みを帯びていない。柱穴の礎石に丁度良い石だが、遺構の平面プランから考えて、その可能性は低かろう。石の性格は不明である。土師器片や石鍋片が出土したが、小片のため時期の特定は困難である。

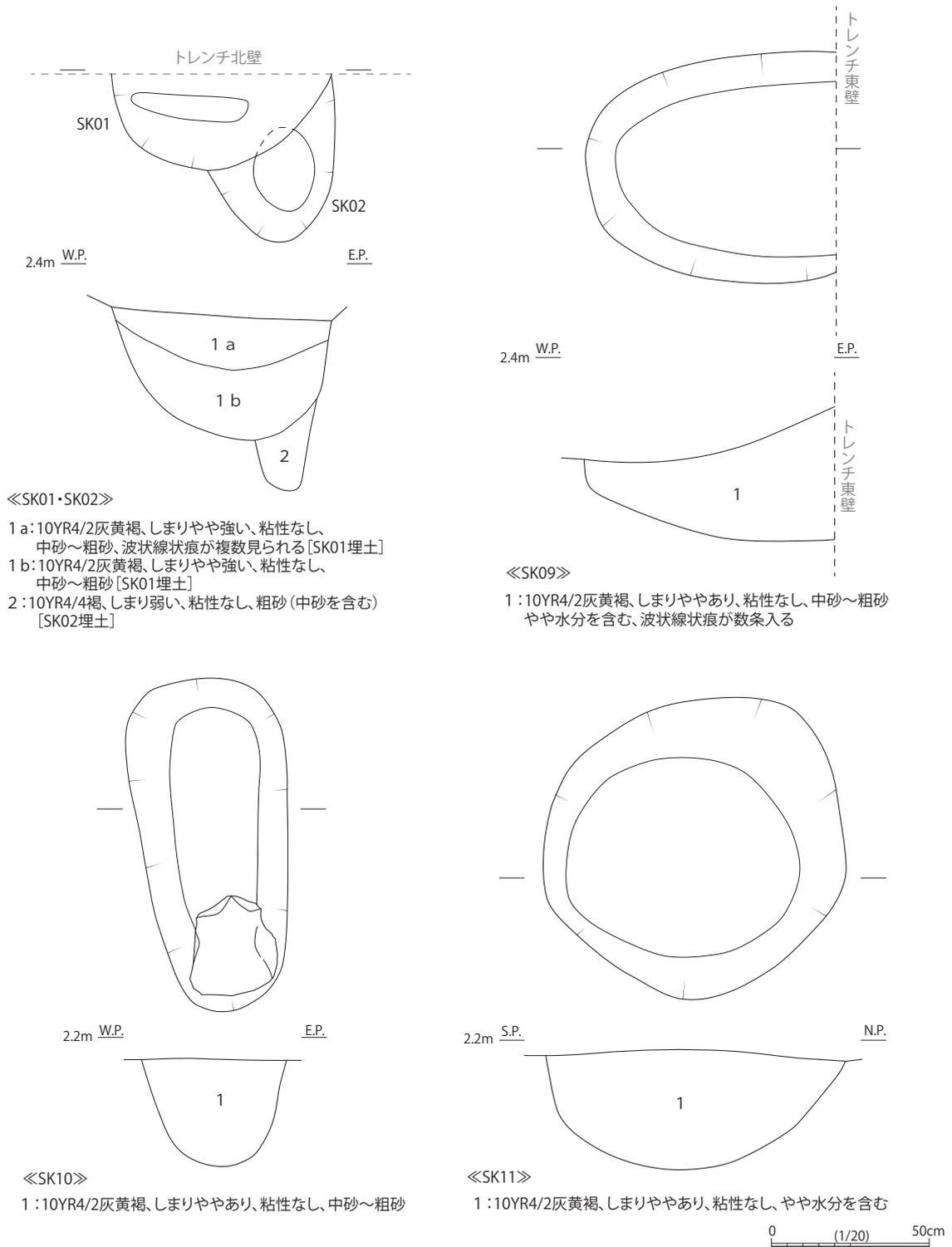
SK11 直径1m 前後の円形を呈する。陶器の甕や鉢の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。13世紀の所産であろうか。

SK12 円形を呈し、遺構東側は調査区外に続く。埋土上部で青磁碗(第18図10)が出土したほか、

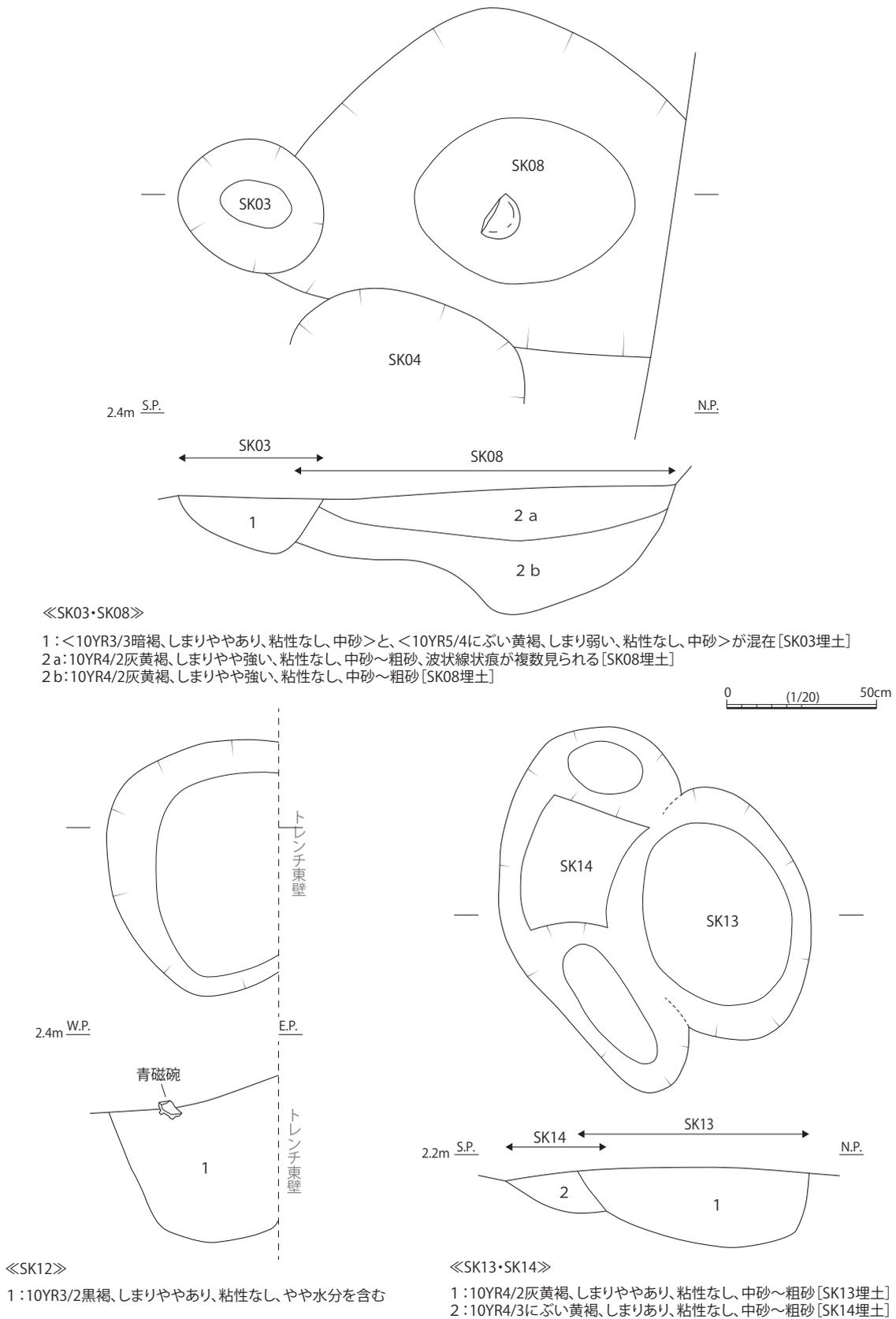


第13図 HZK1804地点 B 区 SD30出土遺物

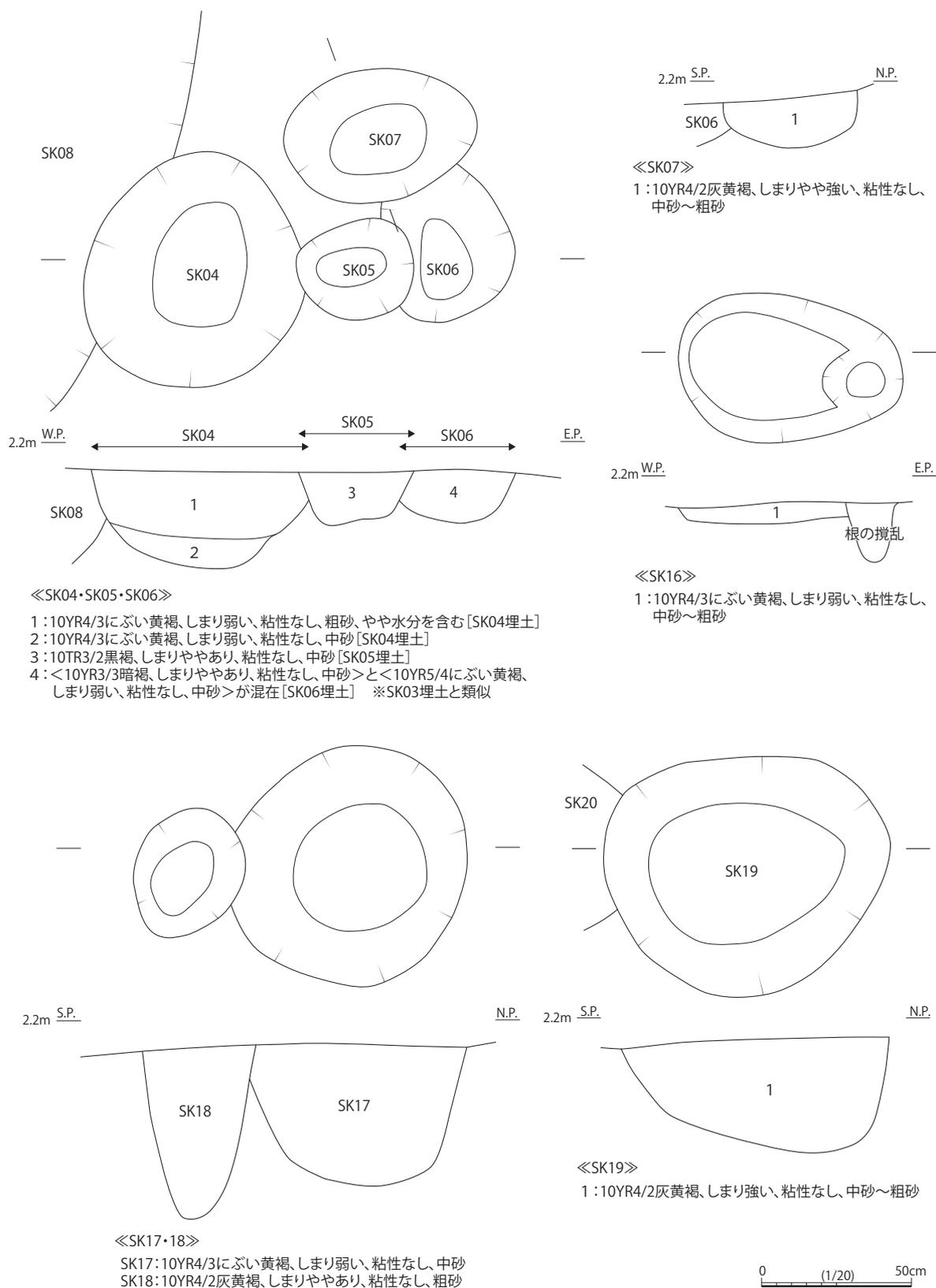
II HZK1804地点 (記録資料館地点)



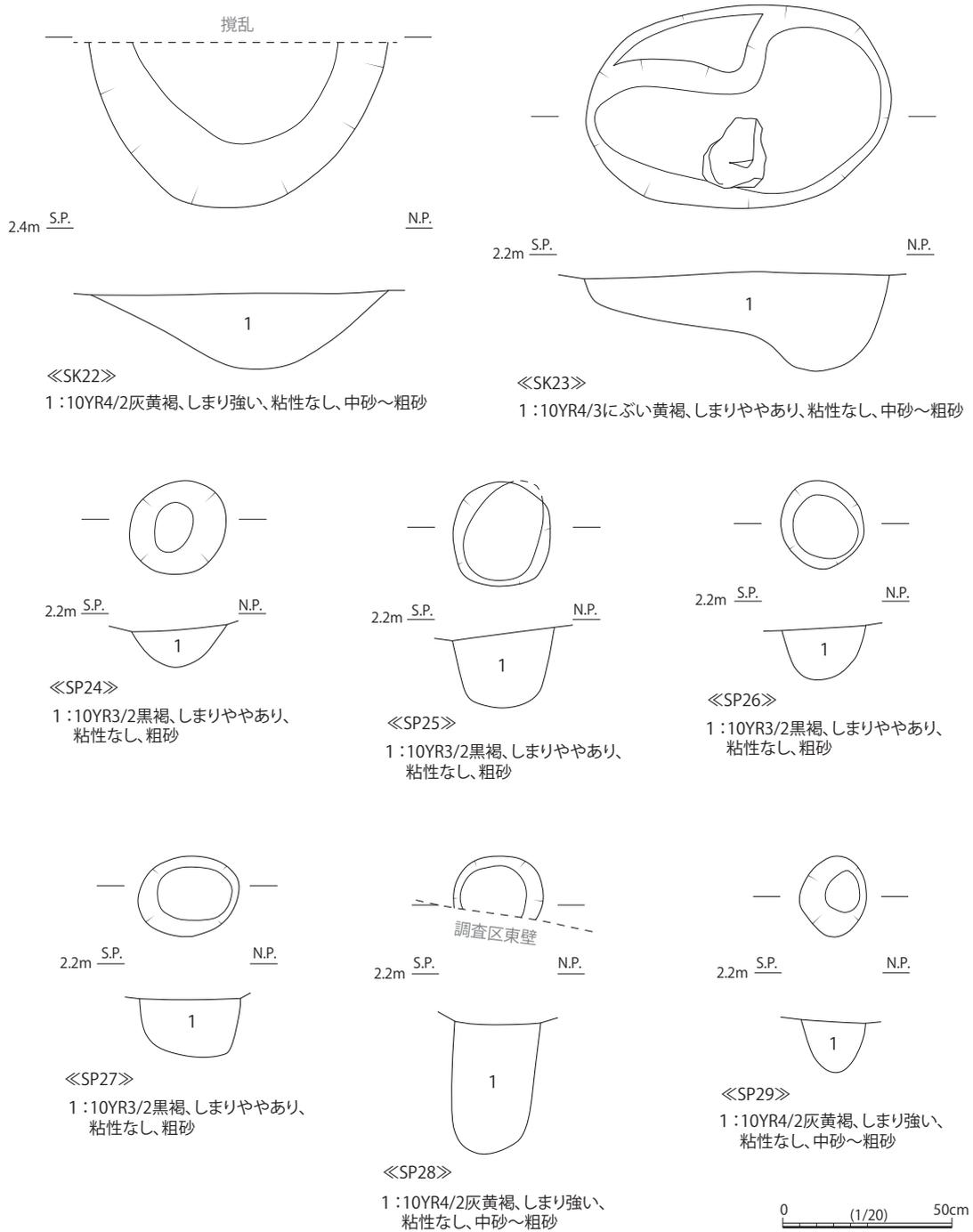
第14図 HZK1804地点 B区 SK01・02・09～11 遺構平面・断面図



第15図 HZK1804地点B区 SK03・08・12～14遺構平面・断面図



第16図 HZK1804地点 B 区 SK04～07・16～19遺構平面・断面図

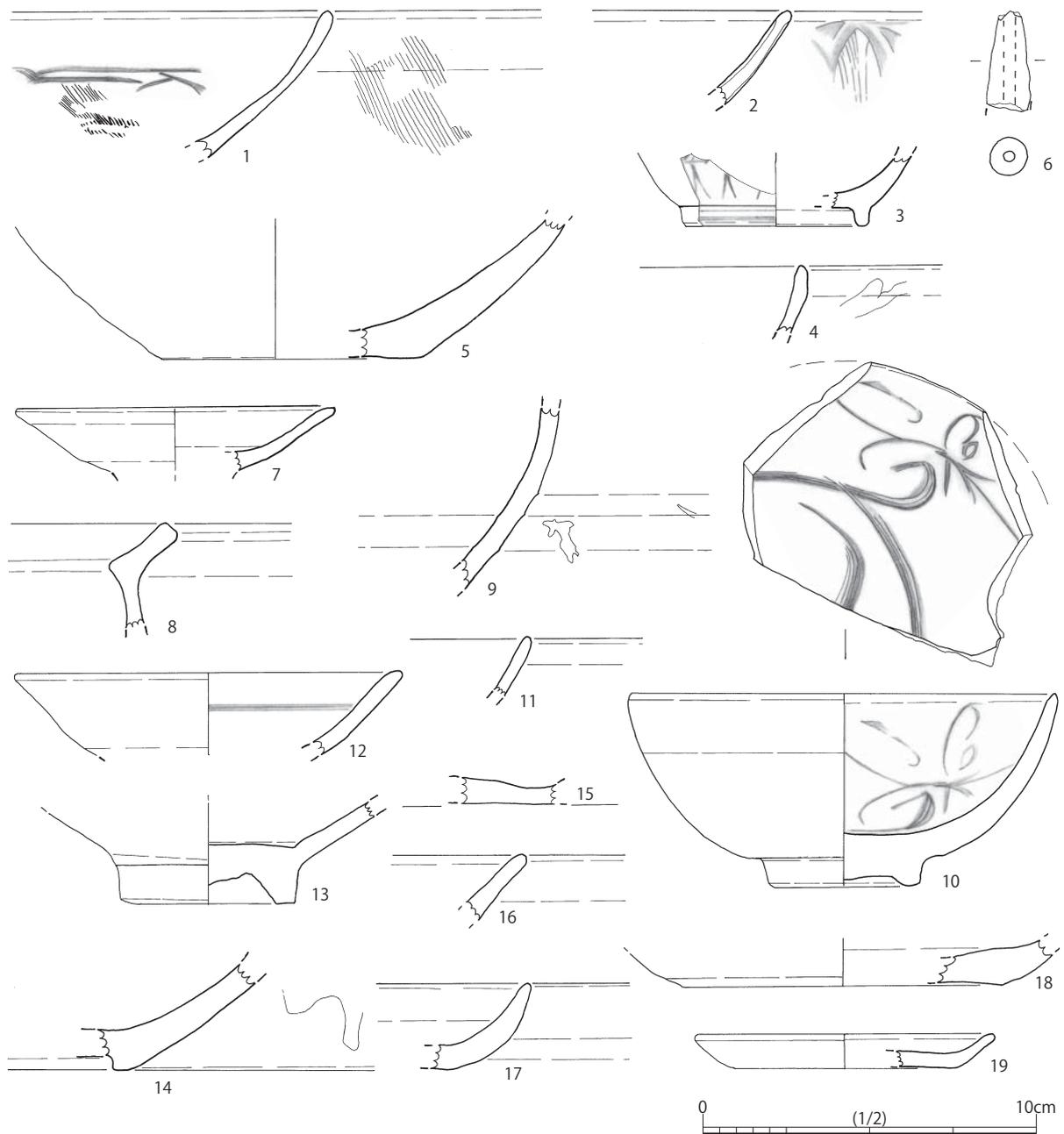


第17図 HZK1804地点 B 区 SK22・23・SP24～29遺構平面・断面図

青磁皿や白磁碗、土師器などが出土している。12世紀後半の所産であろうか。

SK13・SK14 SK13がSK14を切って構築されている。当初、SK14は別の2つの遺構かと考えて、土層断面で確認したが、最終的に東西両端に落ち込みがある一つの遺構だと判断した。SK13からは白磁や陶器、土師器の小片、SK14からは土師器碗が出土しているが、遺構の時期特定は難しい。

SK15・SK22 SK15・SK22は、ともに遺構西側を攪乱により破壊されている。ともに平面プランは円形を呈すると考えられるが、詳細は不明である。SK15からは土師器や瓦質土器の小片が出土し



第18図 HZK1804地点B区 SK06・08・09・11・12出土遺物

ているものの、時期の特定は困難である。SK22から遺物は出土していない。

SK16 楕円形を呈し、遺構東側が根の攪乱を受けている。土師器小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK17・SK18 とともに平面プランは円形を呈しており、SK18はSK17を切って構築されている。SK17からは土師器や瓦質土器、SK18からは土師器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK19・SK20・SK21 それぞれ切り合い関係にあり、SK20→SK19・SK21の順番で構築されている。SK20とSK21の埋土はしまりが弱く、土層断面の観察のために残っていたベルトが調査の過程

で崩壊してしまった。そのため、これらの土層断面図を残すことができなかったことは悔やまれる。SK20とSK21はともに1層のみで、埋土の特徴は以下の通り。

SK20…10YR3/2黒褐、しまり弱い、粘性なし、中砂～粗砂

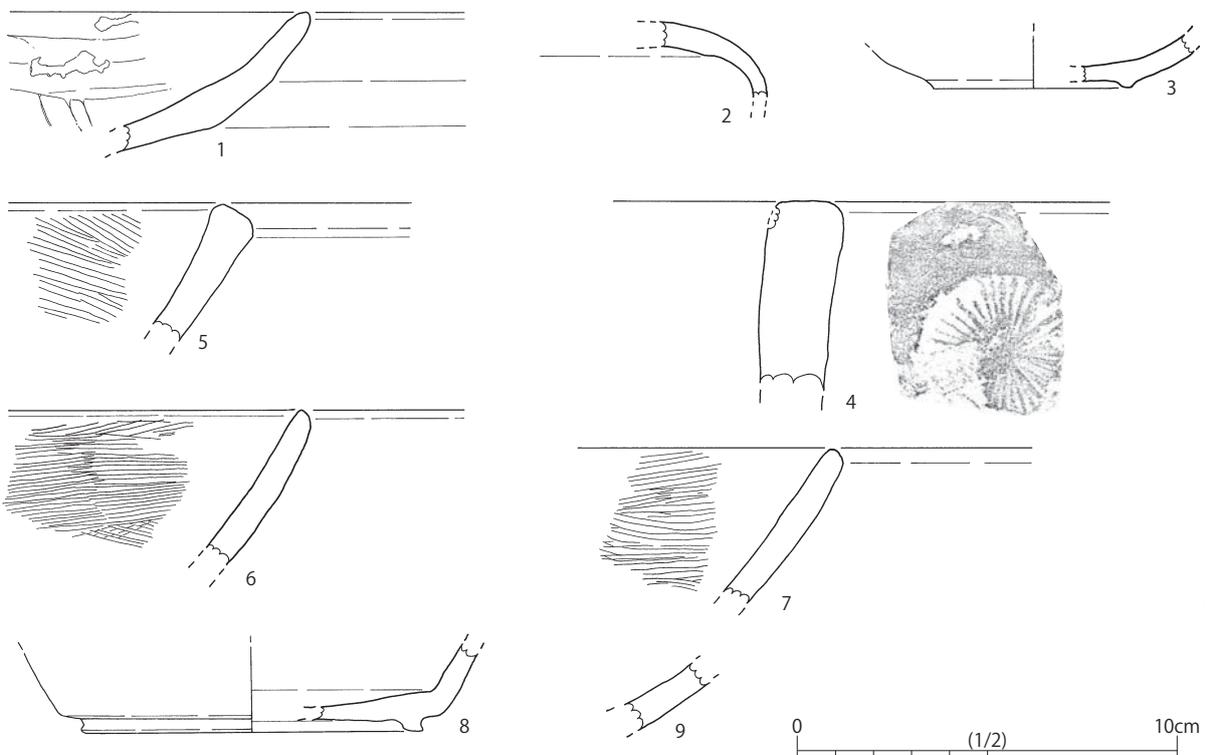
SK21…10YR4/3にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂～粗砂

SK20からは白磁、瓦器碗、瓦質の火鉢、土師質の捏鉢や鍋などが出土している。土師質の鍋は15世紀～16世紀の特徴を有しており、遺構の年代もこれに近いと推察される。SK19・SK21から土師器の小片が出土しているが、時期の特定は難しい。切り合い関係からSK20より新しいことは確実にあろう。

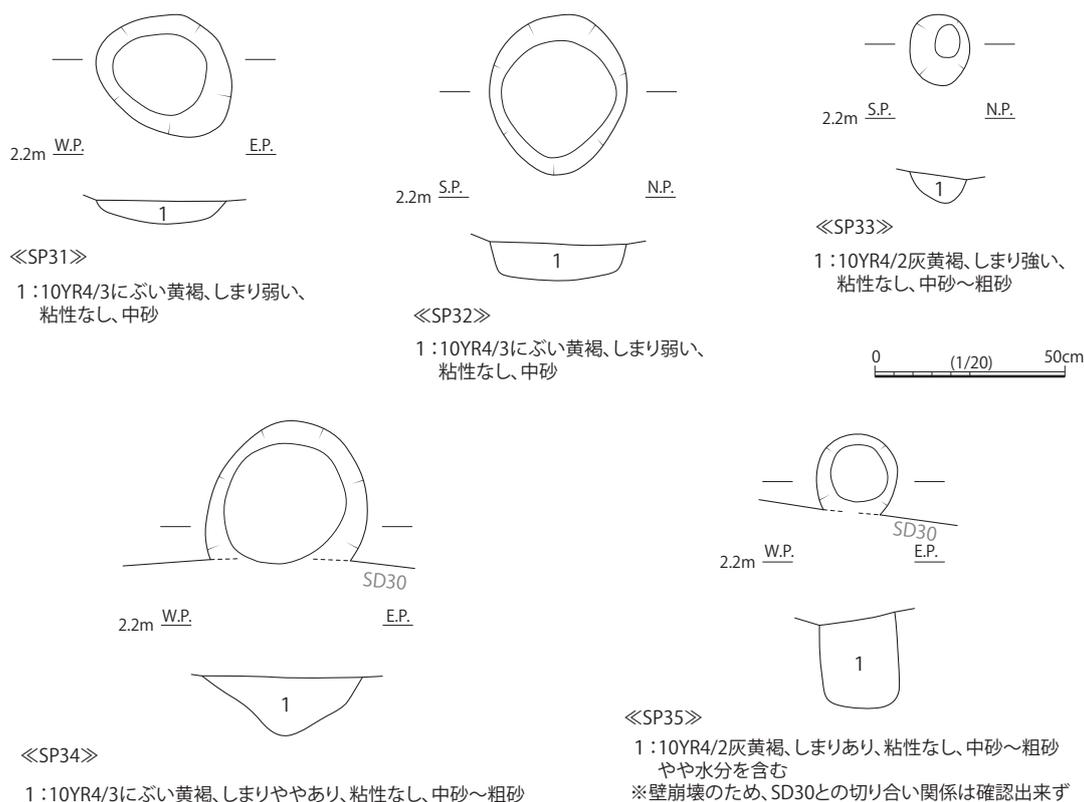
SK23 楕円形を呈し、遺構西南側がテラス状になっている。底面付近で約20cm 大の石が出土している。石材は砂岩で、SK08で出土した石のように丸みは帯びない。SK10で出土した石と特徴は類似している。土師器や瓦質土器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。（福永将大）

出土遺物と年代（第18図） 第18図1はSK06出土の青磁碗で、大宰府編年の同安窯系青磁碗 I-1b類である。外面に櫛描き、内面に片彫りと櫛描きでジグザグ文を施す。12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）

第18図2～6はSK08出土である。2は龍泉窯系青磁碗 II-b類で、外面に鎬蓮弁文を施す。13世紀初頭から中頃の所産。3は丸みのある広い高台の染付碗である。外面に呉須で松葉状の文様と圏線を施す。内面は釉を掻き取る。4は天目碗である。口縁部が立ち上がり、黒褐色の釉が厚く垂れる部分はやや黄～白味を帯びる。12世紀後半から13世紀前半の所産である（田中 2008）。5は土師質の捏鉢底部である。捏鉢は13世紀後半以降在地化する（山本ほか 1997）。6はやや紡錘形の土錘で、半分が残存する。



第19図 HZK1804地点B区 SK14・20・遺構外出土遺物



第20図 HZK1804地点 B 区 SP31～35遺構平面・断面図

第18図7はSK09出土の白磁皿である。見込み部分の釉を環状に掻き取っている。大宰府編年の白磁皿Ⅲ類で、12世紀中頃の所産である（宮崎編 2000）。

第18図8・9はSK11出土である。8は陶器の甕である。胎土や釉調は黄釉盤に類似する。9は陶器の鉢の胴部である。内外面とも回転ケズリで、釉が薄くかかる。

第18図10～19はSK12出土である10・11は青磁碗で、10は内面に片彫りの蓮華文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類。12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）。12は青磁皿である。口縁部内面に沈線が1条めぐる。大宰府編年の龍泉窯系青磁皿Ⅰ類。12世紀中頃から後半の所産である。13は白磁碗である。厚みのあるケズリ高台である。14は陶器の鉢底部である。内外面とも薄く施釉し、外面は一部露胎する。胎土は均質である。近世の所産か。15は須恵器の底部である。16～18は土師器の坏で、17・18は糸切り底である。19は糸切り底の土師皿である。

第19図1はSK14出土の土師器碗である。型押しの後、外面に回転ナデを施す。内面は黒色を呈する。

第19図2～7はSK20出土である。2は白磁の蓋であろう。内外面とも施釉する。胎土は不純物をあまり含まない。3は瓦質土器の碗の底部で、細い粘土紐を巻き付けて低い高台を作る。4は瓦質土器の火鉢で外面に菊花のスタンプ文を施す。5は土師質の捏鉢である。6・7は土師質の鍋である。口縁部の屈曲は見られず、いずれも外面にスガが付着する。15世紀後葉～16世紀末の所産である（山本ほか 1997）。

（谷 直子）

(3) ピット SP24～SP29、SP31～SP35 (第17・20図)

全部で11基のピットを確認しており、そのうち9基 (SP24～SP29・SP33～SP35) は調査区南側のSD30付近で見つかっている (第11図)。SP34とSP35は、SD30との切り合い関係を確認するため、土層確認用のベルトを残していたが、調査の過程で崩壊してしまい、把握することができなかった。これら9基のピットが、SD30と関係があるかどうかについては不明である。

確認面からの深さや断面形状は多様である。また、空間的に近接して存在するピット群は、埋土の特徴に類似性が見られるものの、その配置に規則性があるわけではなく、各ピット間に有機的なあり方を見出すことは難しい。

SP28、SP29、SP33から土師器の小片などが出土しているが、時期の特定は困難である。SP24～SP27、SP31、SP32、SP34、SP35から遺物は出土していない。

4. HZK1804地点 C 区の調査

1. 調査地点における堆積状況

第22図は調査区南壁の土層断面図である。最上部に記録資料館の建物基礎が残存しており、その下の1層も建築時の整地層である。1層西側では4～7cm程度の円礫を基礎下に敷き詰めている様子が窺える。記録資料館は1937 (昭和12) 年に建設されており、建物基礎下がバラス敷きでないところに歴史を感じさせる。

南壁西側はやや複雑な堆積状況を示している。6層 (SD24)・7層 (SK25)・8層 (SK31)・10層 (SK32)・14層 (SK22) は遺構の埋土であるが、4層・5層・9層・11層～13層も人為的に掘り込んだ痕跡の可能性がある。SD24 (6層)・SK25 (7層)・SK31 (8層)・SK32 (10層)・SK22 (14層) は4層や5層に切られており、特にSK32 (10層) は16層を切って掘り込まれている。一方、SD53 (17層) は16層に切られており、16層という水平方向に広く堆積する層を介在させて、SD53とSK32の構築の間には時間的断絶が存在することが読み取れる。こうした遺構の構築と整地の繰り返しは、本調査地点の北東に位置するHZK1804地点B区でも確認されており、当該エリアにおける土地利用史を考えるうえで興味深い。

SD53 (17層) は出土遺物から14世紀前半の年代が与えられ、SD24 (6層) からは14世紀後半以降の土師質播鉢が出土している。SK22 (14層) からは13世紀後半の褐色陶器壺が出土しているが、近代の磁器小片もわずかに出土している。これらの状況を踏まえると、当該エリアにおける遺構の構築と整地の繰り返しは、14世紀以降に行われた可能性が高いと考えられる。

波状線状痕について 本調査地点における土層断面で、波状線状痕を複数個所で確認した。この波状線状痕は、遺構の切り合いや埋土の差異に関係なく、横方向に複数入っている (写真2)。

波状線状痕の形成要因の特定には至っていない。現在考えている仮説は、地下水位の上昇によって、土中のマンガンを鉄などが沈着して痕跡として現れたのではないかと、いうものである。地下水位の上昇を想定すれば、遺構の切り合いや埋土の差異に関係なく痕跡が見られることの説明も可能である。

九州大学大学院工学研究院の安福規之氏、同研究院石藏良平氏、同研究院古川全太郎氏のご協力のもと、波状線状痕の土を分析にかけて強熱減量を調べていただいたところ、他の層に比べて有機分を多く含むことが判明した。地盤中に鉄分が存在している場合、鉄が有機酸 (フミン酸) と結合して錯体を形成するケースがあることから (夏池ほか 2016)、地下水の影響で錯体の鉄分が集積し、結果としてその層の有機分が多くなった可能性もあることをご教示いただいた。

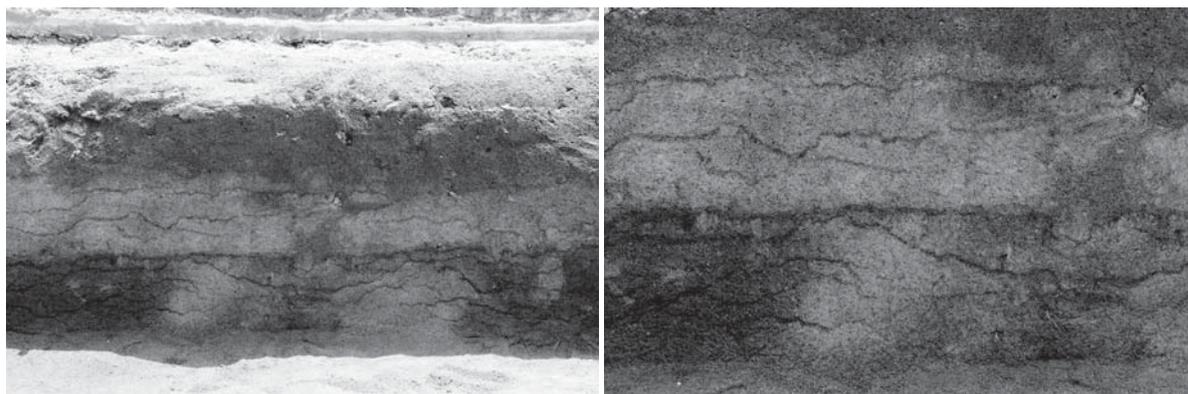


写真2 波状線状痕

しかし、地下水の影響を考える場合、痕跡が波状を呈することの説明が難しい、というご指摘もいただいている。この波状線状痕跡については、いまだ不明な点が多く、今後類例などを蓄積しながら検討を深めていく必要がある。

2. 遺構と遺物

(1) 井戸 SE14（第23図）

調査区北西隅で検出した。検出当初は遺構の輪郭が曖昧で、複数の遺構が切り合っている様子は窺えたものの、明確な線引きは不可能であった。サブトレンチを複数入れながら、土層断面でも遺構の切り合い関係を確認した結果、3つの遺構が切り合っていることが判明したため、東側から SK14-a・SE14-b・SE14-c とした。なお、SE14-c は北西部を SK13 に切られている。

SE14-b と SE14-c の平面プランは円形で、その大きさから井戸であることが推察された。両遺構を合わせる形で半裁したところ、SE14-b が SE14-c によって切られており、しかも SE14-b と SE14-c では埋土の様相が全く異なることが判明した。SE14-c は黒褐色砂と暗黄褐色砂が複雑に堆積しているが、SE14-b ではそうした状況は確認できず、埋土を分層することはできない。両遺構の埋土の差異は、堆積プロセスの差異を表していると考えられる。

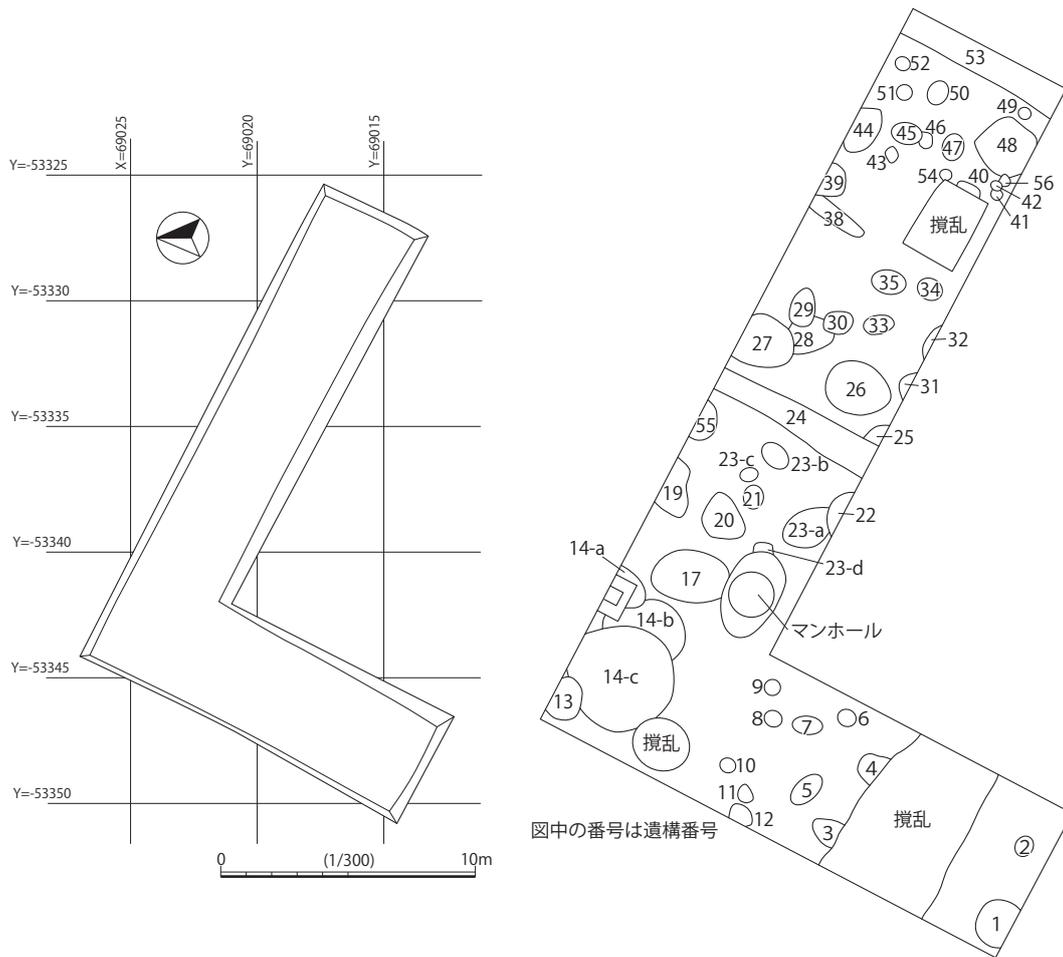
SE14-b からは、12世紀後半と考えられる青磁や白磁、瓦などが出土しているのに対し、SE14-c からは12世紀後半の青磁のほか、埋土上部からは14世紀のものと考えられる蓮華唐草文軒平瓦が出土している。12世紀後半に SE14-b が埋没してからのち、あまり時間を置かずに SE14-c が構築され、SE14-c は14世紀まで断続的に埋没していった、あるいは14世紀に一気に埋没した、という堆積プロセスが推察される。

なお、SE14-c では、最下部において井戸主体部の円形木桶を検出した。円形木桶の部材2点を対象に放射性炭素年代測定を実施したところ、1039-1111 cal AD (56.64%)、1156-1220 cal AD (91.74%) の測定値を示した¹⁾。出土遺物からみた SE14-c の構築年代と比べて、そこまで大きな矛盾はない。

（福永将大）

出土遺物と年代 第24図1は SK14-a 出土の土錘である。中央がやや膨らむ円筒形を呈す。

第24図2～15は SE14-b 出土の遺物である。2・3は青磁碗である。2は口縁部内面に圈線、胴部内面に片彫りで施文する。龍泉窯系青磁碗 I 類である。4は青磁の皿で、見込みに櫛描きのジグザグ文を施す。大宰府編年の同安窯系青磁皿 I-2b 類である。12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編2000）。5は口縁部を玉縁に仕上げる碗で、大宰府編年の白磁碗 IV 類である。11世紀後半から12世紀

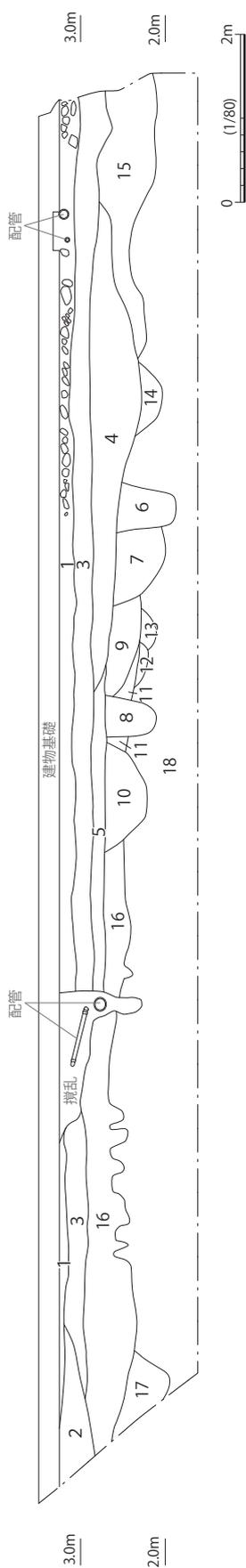


第21図 HZK1804地点 C 区 遺構配置図

が主体で12世紀後半まで一定量を占める（宮崎編 2000）。6は白磁碗の底部で低いケズリ高台が付く。7は白磁の皿で低い高台が付く。8は土師質の捏鉢である。捏鉢は13世紀後半以降在地化する（山本ほか 1997）。9～12は土師器の坏である。10～12は糸切り底。13は雁振瓦である。雁振瓦は榎斗瓦の上に丸瓦を置く形から変化するもので、鎌倉期のものは丸瓦であった部分の形態が残るが、室町期になると山形に変化する（芦田 2019）。13は丸瓦であった部分との境の屈曲が明瞭である。14は丸瓦である。15は滑石製石鍋。

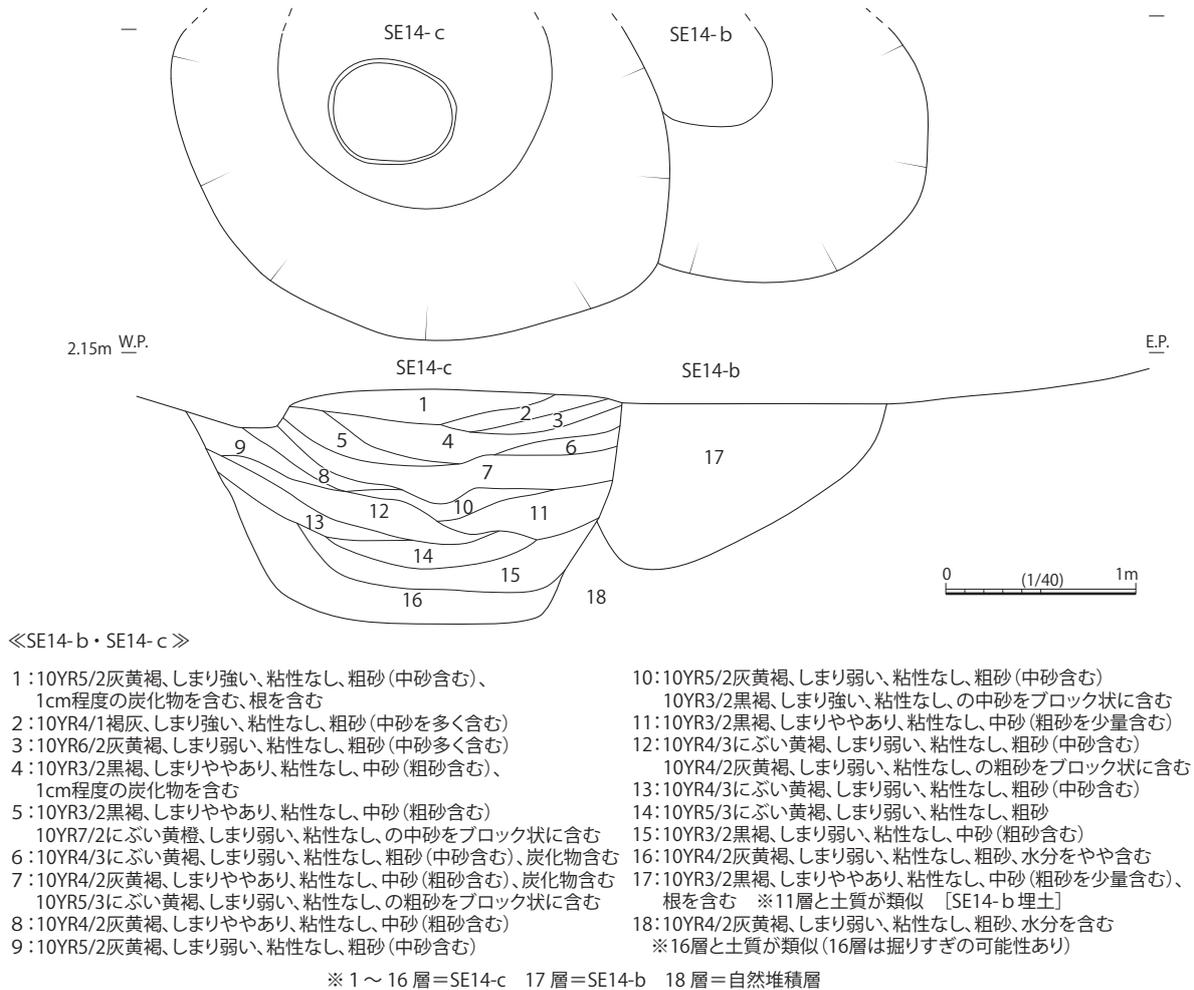
第24図16～27はSE14-c 出土の遺物である。16は青磁碗である。内面に片彫り文が見られる。17は青磁の壺口縁部である。18は青磁の皿で見込み部分に片彫り文と櫛描きのジグザグ文を施す。大宰府編年の同安窯系青磁皿 I-1b 類で、12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）。19は焼締め陶器の播鉢である。20は須恵器の甕口縁部である。端部を欠損する。21は土師質の捏鉢である。捏鉢は13世紀後半以降在地化する（山本ほか 1997）。22～26は土師器の坏である。22・24・26は糸切り底である。27は糸切り底の土師皿。

第25図1～4はSE14-c 井戸上層出土である。1は土師質の捏鉢である。捏鉢は13世紀後半以降在地化する（山本ほか 1997）。2は軒平瓦である。瓦当文様は端部のみであるが、蓮華唐草文と考えられる。九州における蓮華唐草文軒平瓦は14世紀のものが大部分である（松田ほか 2019）。3・4は平瓦



- 1: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性なし、中砂(粗砂を含む)、4~7 cm程度の礫を含む、1 cm程度の炭化物を含む [整地層]
- 2: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性なし、中砂(粗砂を含む)、10YR4/4褐の中砂を互層状に含む [撹乱層か?]
- 3: 10YR3/2黒褐、しまり強い、粘性弱い、中砂(粗砂を含む)、5 mm程度の炭化物を含む、根を含む (特に東側に多い)
- 4: 10YR4/2灰黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂(粗砂を含む)、5 mm程度の炭化物を含む、根を含む、波状線状痕が数条入る
- 5: 10YR5/3にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂(粗砂を含む) 1~2 mm程度の炭化物を含む、波状線状痕が数条入る
- 6: 10YR4/2灰黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂(粗砂を含む)、6~10 cm程度の礫を含む、根を含む、波状線状痕が数条入る [SD24埋土]
- 7: 10YR3/2黒褐、しまり弱い、粘性なし、中砂(粗砂を含む)、根を含む、波状線状痕が数条入る [SK25埋土]
- 8: 10YR4/3にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂(粗砂をやや多く含む) 1 cm程度の炭化物を含む、波状線状痕が数条入る [SK31埋土]
- 9: 10YR4/2灰黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂(粗砂を含む)、根を含む、波状線状痕が数条入る
- 10: 10YR4/2灰黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂(粗砂を含む)、根を含む、波状線状痕が数条入る
- 11: 10YR4/4褐、しまり弱い、粘性なし、中砂(粗砂を多く含む)、波状線状痕が数条入る
- 12: 10YR4/2灰黄褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂(中砂を含む)
- 13: 10YR4/3にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂(中砂を含む)
- 14: 10YR3/2黒褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂(中砂を含む)、上部に波状線状痕が数条入る [SK22埋土]
- 15: 10YR4/2灰黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂(粗砂を含む)、根を含む、3~4 cm程度の礫を含む、5 mm程度の炭化物を含む、上部に波状線状痕が数条入る
- 16: 10YR4/2灰黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂(粗砂を含む)、根を含む (特に東側に多い)、5 mm程度の炭化物を含む、波状線状痕が数条入る
- 17: 10YR4/3にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂(粗砂を含む)、根を含む [SD53埋土]
- 18: 10YR4/4褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂 [自然堆積層]

第22図 HZK1804地点 C 区 調査区南壁土層図



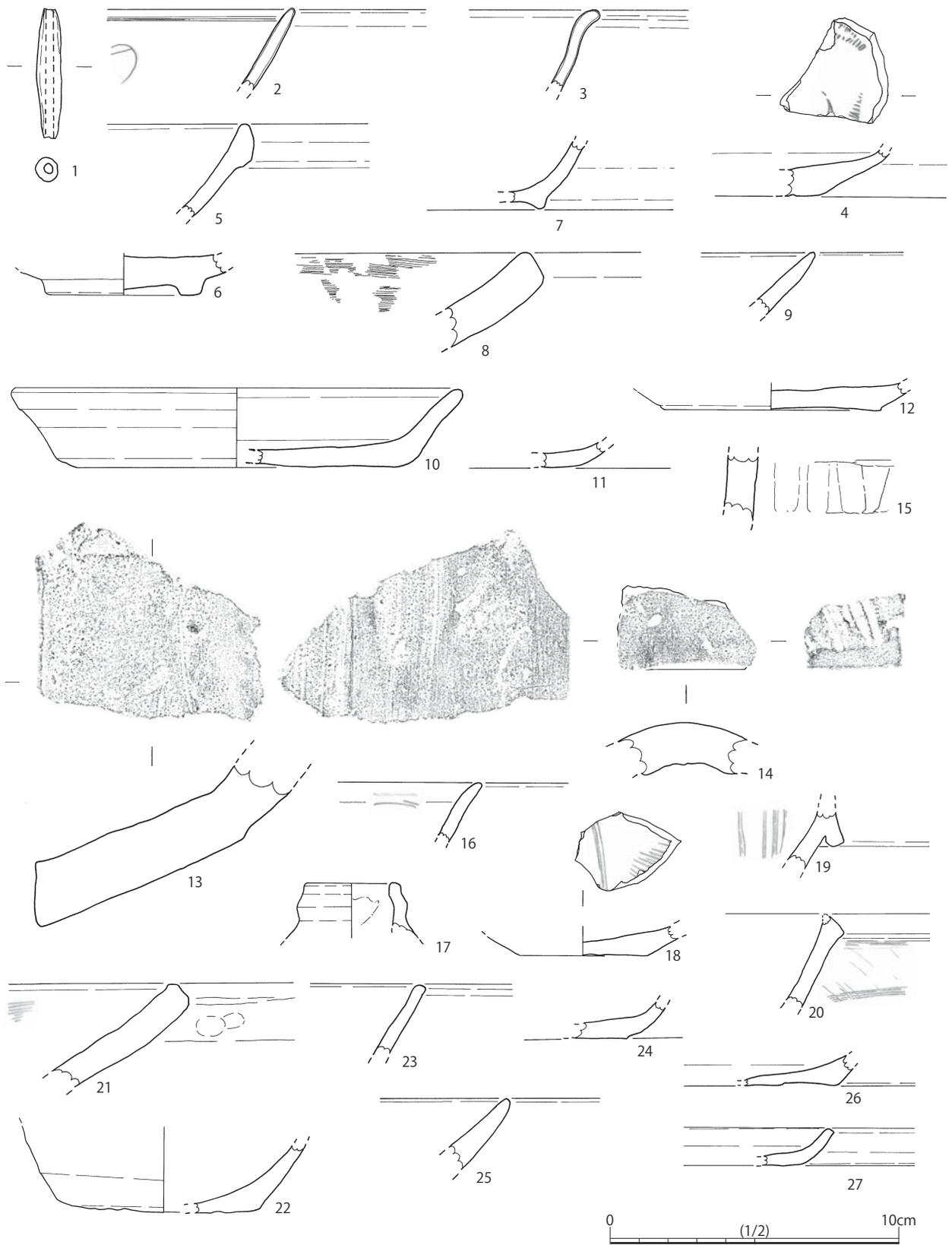
第23図 HZK1804地点 C 区 井戸 SE14平面・断面図

である。

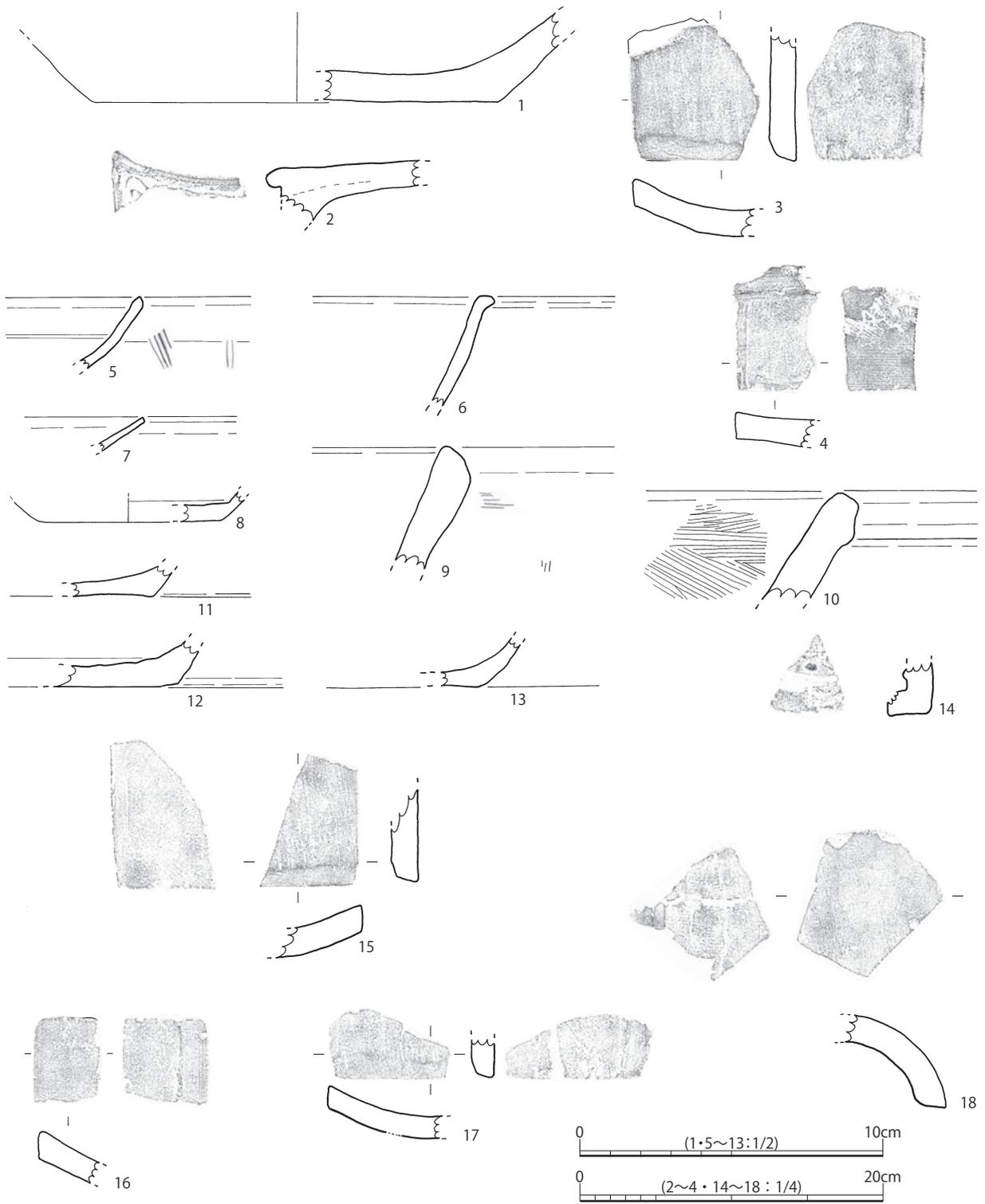
第25図 5～18は SE14として一括で取りあげた遺物である。5は青磁の皿である。内面に圈線が1条めぐり、外面には櫛描き文を施す。同安窯系青磁皿Ⅰ類である。12世紀中頃から後半の所産である(宮崎編 2000)。6は白磁碗で、口縁端部が短く屈折する。大宰府編年の白磁碗ⅤまたはⅧ類である。いずれにせよ12世紀中頃から後半を主体とする時期の所産である。7・8は白磁の皿で、7は口縁端部が口禿となる。大宰府編年の白磁皿Ⅸ類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する(宮崎編 2000)。9・10は瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀後半以降在地化する(山本ほか 1997)。11～13は糸切り底の土師皿である。14は軒丸瓦の瓦当部分である。連珠文のみ残存する。15～17は平瓦である。18は丸瓦である。吊り紐痕が見られる。(谷 直子)

(2) 溝 SD24・SD53

溝 SD24 調査区中央付近で検出した。豪雨によって遺構が破壊されてしまったため、遺構の平面・断面に関する情報を記録できていないが、調査区南壁から土層断面の情報をかろうじて抽出することができた(第22図)。残存幅は約60cmで、北西方向を長軸とする溝である。埋土には波状線状



第24図 HZK1804地点C区 SK14a・SE14-b・c 出土遺物



第25図 HZK1804地点 SE14-c・SK14-a・SE14-b・c 一括出土遺物

痕が数条入る。12世紀後半の所産と考えられる青磁や白磁が出土しているが、14世紀後半以降に位置づけられる土師質の播鉢が出土しており、この播鉢が遺構の年代を示すと考えられる。

溝 SD53 調査区の東端で検出しており、遺構東側は調査区外に続いている。SD24と同様、調査区南壁から土層断面の情報をかろうじて抽出することができた（第22図）。残存幅は約1mだが、遺構東側が調査区外にどの程度続くのか不明であるため、実態はよくわからない。SD24と同様、長軸方向は北西である。口禿の白磁や蓮華唐草文軒平瓦が出土しており、これらの出土遺物から遺構の年代は14世紀前半と考えられる。（福永将大）

出土遺物と年代 第26図1～8はSD24出土である。1は青磁碗、2は青磁皿で、いずれも薄い釉がかかり無文である。3は白磁碗の高台部分で大宰府編年の白磁碗Ⅴ類に相当し、11世紀後半から12世紀後半の所産である。4は白磁皿である。底部外面の釉を工具でのばしている。5は黄釉葉鉄絵盤で、11世紀後半から12世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。6は素焼きの陶器鉢。7は土師質の播鉢である。14世紀後半以降の所産である（山本ほか 1997）。8は平瓦である。

第26図9～13はSD53出土である。9は青磁碗で外面に鎬蓮弁文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ-b類で、13世紀初頭から中頃の所産。10は白磁の皿で、口禿である。大宰府編年の白磁皿Ⅸ類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。11は紡錘形を呈する土錘である。12は軒平瓦の瓦当部分である。瓦当文様は一部しか残存しないが蓮華唐草文と考えられる。

九州における蓮華唐草文軒平瓦は14世紀のものが大部分である（松田ほか 2019）。13は丸瓦である。（谷 直子）

（3）土坑（第27～33図）

全部で40基の土坑を確認した。各土坑の位置は第21図参照のこと。なお、豪雨によって遺構が破壊されてしまったため、遺構の平面・断面に関する情報が不十分なものがある。

SK01 平面プランは円形を呈し、遺構南側は調査区外に続いている。土師器の坏が出土しているが、遺構の所属時期の特定は難しい。

SK03 遺構の大部分を近現代の攪乱によって破壊されており、平面プランは不明である。土師器小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK04 遺構南側を近現代の攪乱によって破壊されているが、平面プランは円形と推定される。遺構底面から20cmほど上方で、30cm大の石が出土している。土質の見極めが難しく、二つに分層しているが、掘りすぎの可能性も否定できず、その場合1層までが遺構埋土ということになる。柱穴の可能性があり、SK07と組み合って掘立柱建物をなしたかもしれない。土師器小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

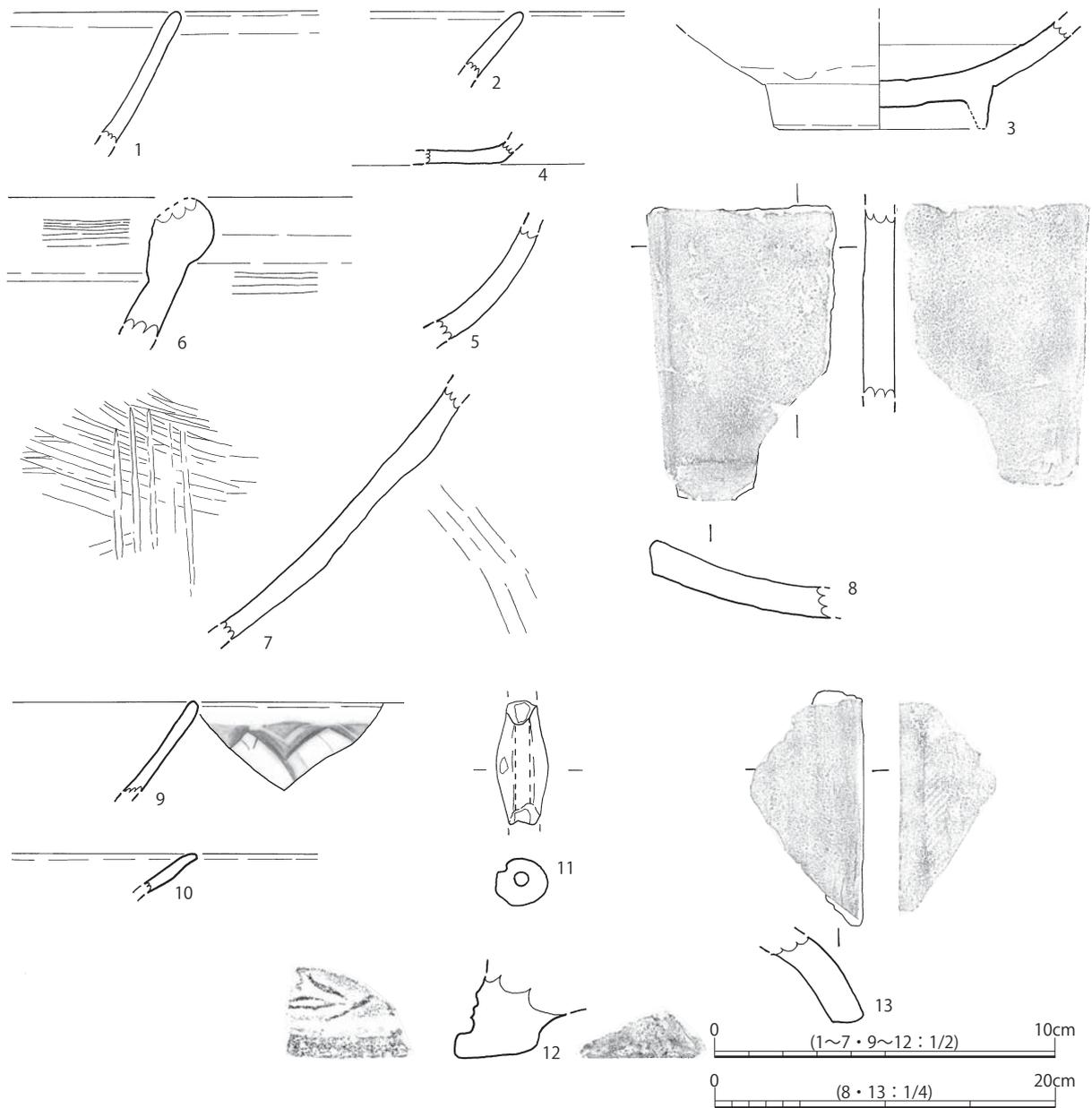
SK05 楕円形を呈する。埋土は二つに分層でき、後述するSK08と埋土の特徴は類似している。本遺構から遺物は出土していない。

SK06 直径40cm程度の円形を呈する。土師器小片が出土したが、時期の特定は困難である。

SK07 直径70cm程度の円形を呈する。SK04と状況は類似しており、土質の見極めが難しく、掘りすぎの可能性も否定できず、その場合1層までが遺構埋土ということになる。1層最下部で20cm大の石が出土している。柱穴の可能性があり、SK04と組み合って掘立柱建物をなしたかもしれない。土師器小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK08 一部がテラス状に高まっており、やや歪な形をしている。遺物は出土していない。

SK09 直径40cm程度の円形を呈する。ピットとしたほうが良いかもしれない。土師器小片が出



第26図 HZK1804地点C区 SD24・53出土遺物

土しているが、時期の特定は困難である。

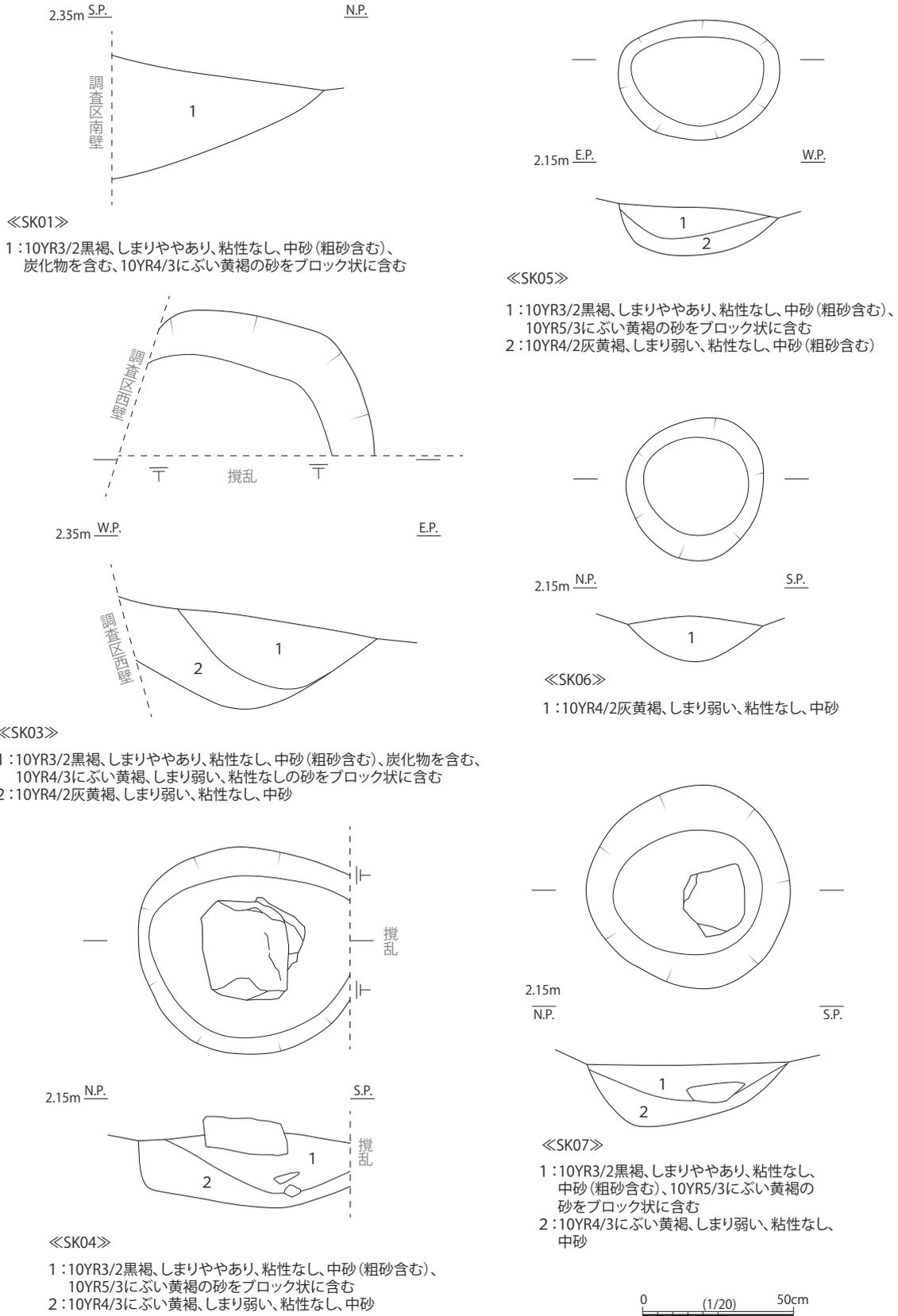
SK12 円形を呈しており、遺構西側は調査区外に続いている。土師器小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK13 SE14-cを切って構築されており、遺構北側は調査区外に続いている。12世紀後半の青磁や白磁が出土しているが、14世紀前半のものと考えられる陶器の播鉢も出土しており、この播鉢が遺構の年代を示すと考えられる。先述のとおり、SE14-cは出土遺物の検討から14世紀になって完全に埋没したことがわかっており、SK13との切り合い関係について大きな矛盾はない。

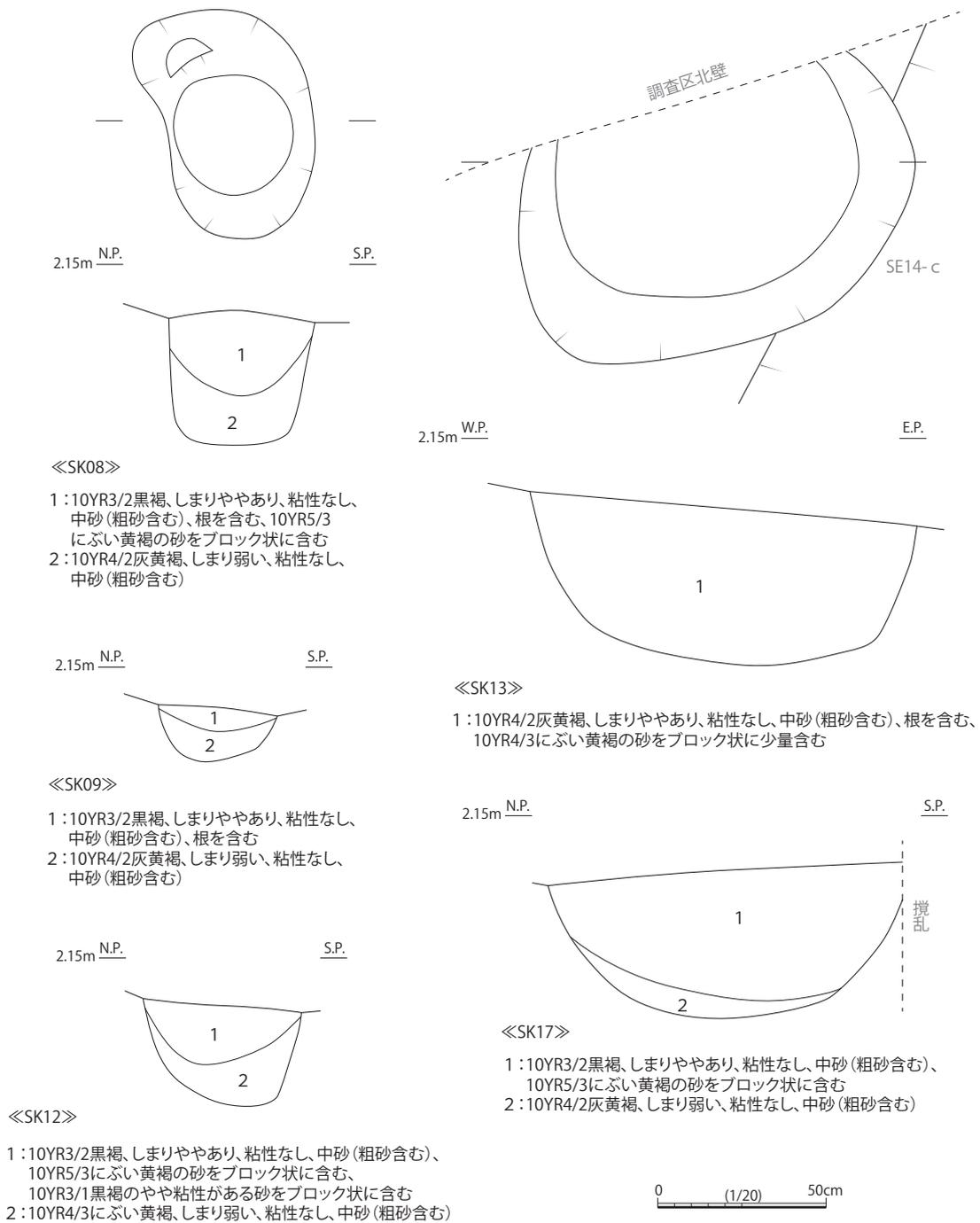
SK17 楕円形を呈しており、遺構南側を現代の攪乱によって破壊されている。青磁や白磁、滑石、土師器の坏が出土しているが、小片のため時期の特定は困難である。

SK19 遺構北側の大部分は調査区外に位置しており、平面プランは不明である。土師器や陶器の

II HZK1804地点 (記録資料館地点)



第27図 HZK1804地点C区 SK01・03~07遺構平面・断面図



第28図 HZK1804地点 C 区 SK08・09・12・13・17遺構平面・断面図

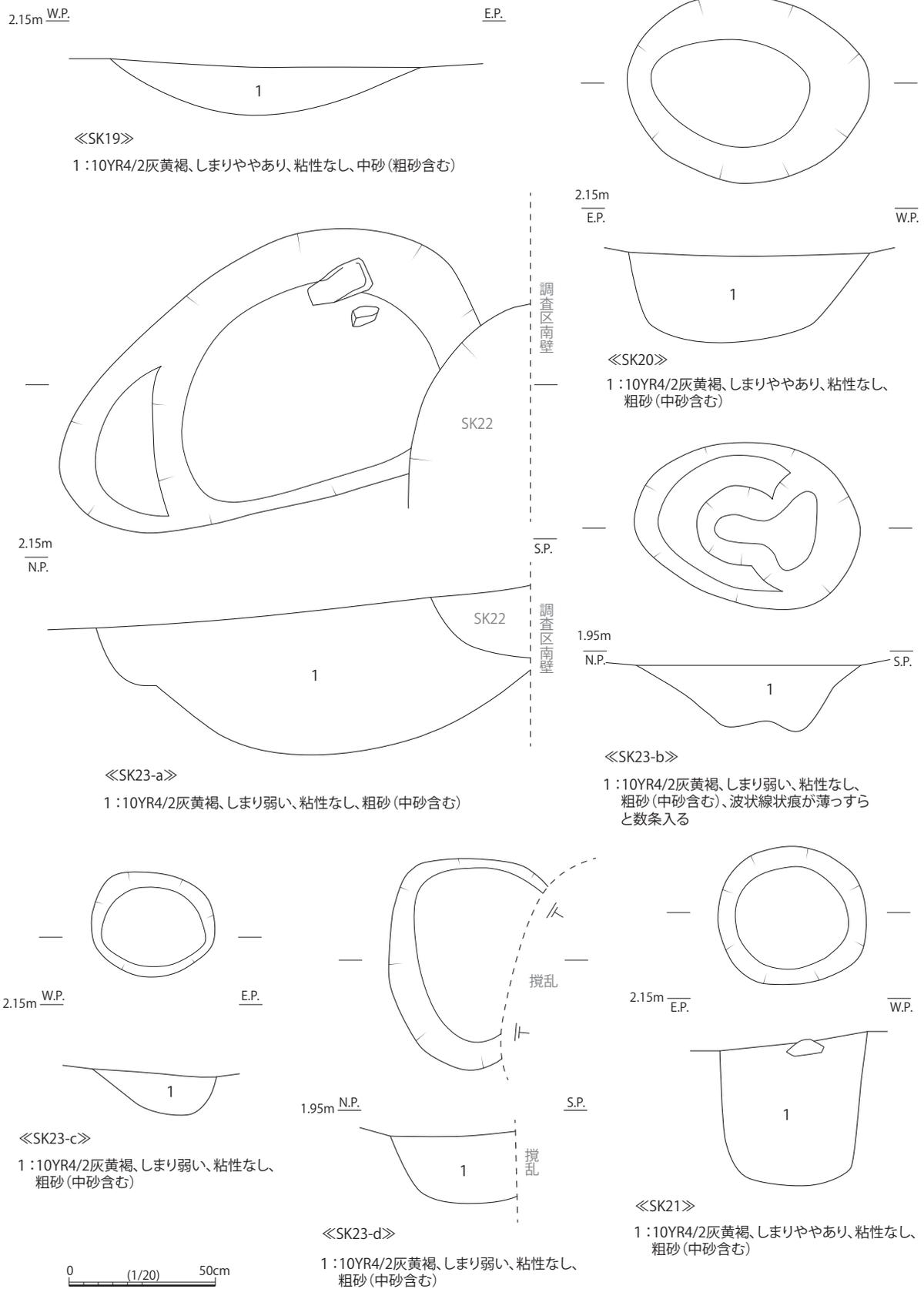
小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK20 楕円形を呈し、最大長は約80cmを測る。土師器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

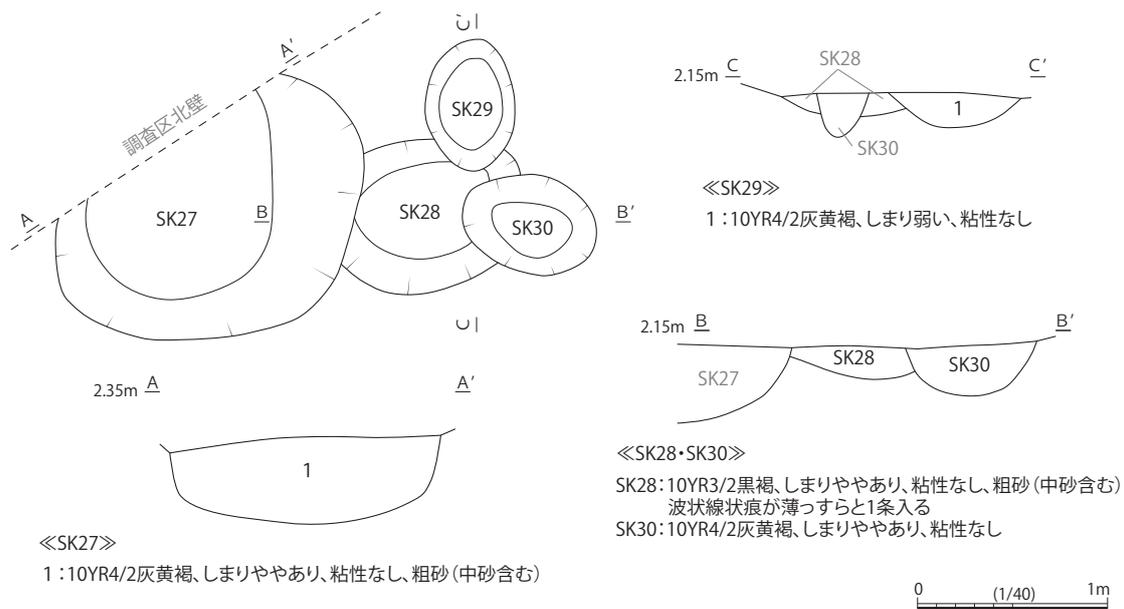
SK21 直径50cm程度の円形を呈する。埋土上部から10cm程度の小礫が出土しているが、遺構に伴うものではないと判断した。土師器小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK22 遺構南側の大部分は調査区外に位置しており、平面プランは不明である。埋土上部に波状

II HZK1804地点 (記録資料館地点)



第29図 HZK1804地点 C 区 SK19~21・23-a~d 遺構平面・断面図



第30図 HZK1804地点 C 区 SK27～30遺構平面・断面図

線状痕が数条入る。13世紀後半のものとは推定される褐釉陶器の壺が出土しているが、近代の磁器小片もわずかに出土しており、遺構の年代は近代まで下る可能性がある。

SK23 検出当初は遺構の輪郭が曖昧で、明確な線引きは不可能であった。全体的に掘り下げながら精査した結果、SK23-a・SK23-b・SK23-c・SK23-dの4つの土坑を検出するに至った。

SK23-aはSK22に切られている。長楕円形を呈し、遺構北側にテラス状の高まりがある。埋土中から小礫が複数出土しているが、遺構に伴うものではないと判断した。SK23-a・SK23-b・SK23-c・SK23-dはすべて埋土の特徴が類似している。SK23-bのみ、埋土に波状線状痕が薄っすらと入る。

全体を掘り下げながら精査する過程で遺物が複数出土しており、「SK23」として一括して取り上げている。SK23-a・SK23-b・SK23-c・SK23-dの各遺構の年代を特定することは難しい。

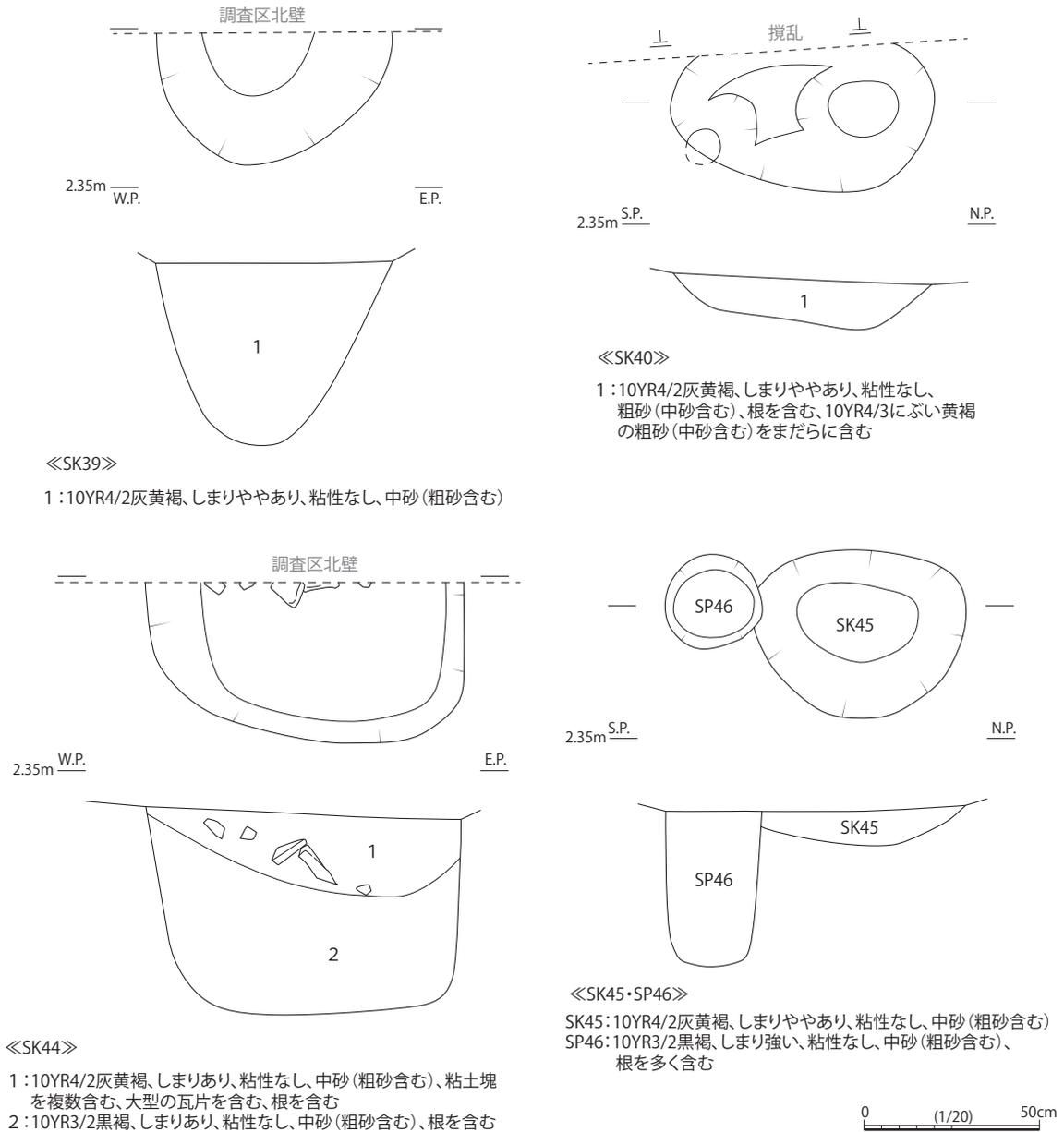
SK25 遺構南側の大部分は調査区外に位置しており、平面プランは不明である。SD24と切り合い関係にあり、SD24に切られている。埋土には波状線状痕が数条入る。土師器や須恵質土器、瓦質土器、陶器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。SD24の年代は14世紀前半であるため、本遺構の年代がそれより新しくなることはない。

SK26 直径約1.4mの大型の円形土坑である。埋土は二つに分層できるが、層序とは関係なく、波状線状痕が数条入る。12世紀代の白磁が出土しており、遺構の時期を示すと考えられる。

SK27・SK28・SK29・SK30 SK27～SK30は切り合い関係にあり、SK28→SK27・SK29・SK30の順番で構築されている。SK27・SK29・SK30は埋土の特徴が類似しており、SK28の埋土のみに波状線状痕が薄っすらと入る。SK27からは龍泉窯系青磁碗が出土しているが、近世の陶器甕も出土しており、遺構の時期も近世と推定される。SK28から遺物は出土しておらず、SK29とSK30からは土師器小片などの遺物が出土しているものの、時期の特定は困難である。

SK31 遺構南側の大部分は調査区外に位置しており、平面プランは不明である。埋土上部に波状線状痕が数条入る。遺物は出土していない。

SK32 遺構南側の大部分は調査区外に位置しており、平面プランは不明である。埋土上部に波状



第32図 HZK1804地点 C 区 SK39・40・44・45・SP46遺構平面・断面図

線状痕が数条入る。遺物は出土していない。

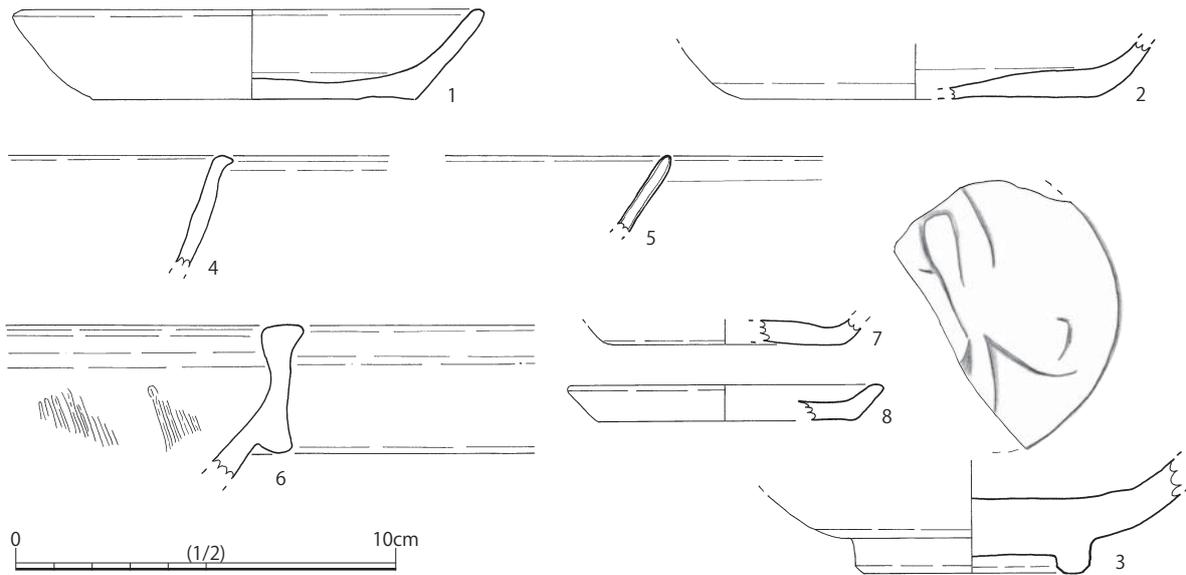
SK33 楕円形を呈する。青磁や土師器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK34 楕円形を呈し、確認面からの深さは最大で10cm と浅い。遺物は出土していない。

SK35 楕円形を呈し、確認面からの深さは最大で10cm と浅い。12世紀後半の青磁碗が出土しており、遺構の年代を示すと考えられる。

SK38 長楕円形を呈し、最大長は約1.1m を測る。土師器小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK39 SK38の東側に近接して存在し、遺構北側は調査区外に続いている。埋土はSK38の1層と特徴が類似している。土師器の甕が出土しており、小片のため時期の特定は難しいが、12世紀代の所



第34図 HZK1804地点 C 区 SK01・13出土遺物

ものの、時期は特定できない。

SK47 楕円形を呈する。本遺構から遺物は出土していない。

SK48 直径約1.3mの円形を呈する大型の土坑である。土質の見極めが難しく、二つに分層しているが、掘りすぎの可能性も否定できず、その場合1層までが遺構埋土ということになる。埋土上部で瓦の破片や小礫が出土している。青磁や土師器の甕が出土しており、いずれも小片のため時期の特定は難しいが、12世紀代の所産と考えられる。遺構の年代もこれらの遺物と近い時期と推定できよう。

SK49 直径50cm程度の円形を呈する。12世紀後半の青磁碗が出土しており、遺構の年代を示すと推察される。

SK50 直径50cm程度の円形を呈する。土師器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK55 遺構北側の大部分は調査区外に位置しており、平面プランは不明である。埋土に波状線状痕が数条入る。土師器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。(福永将大)

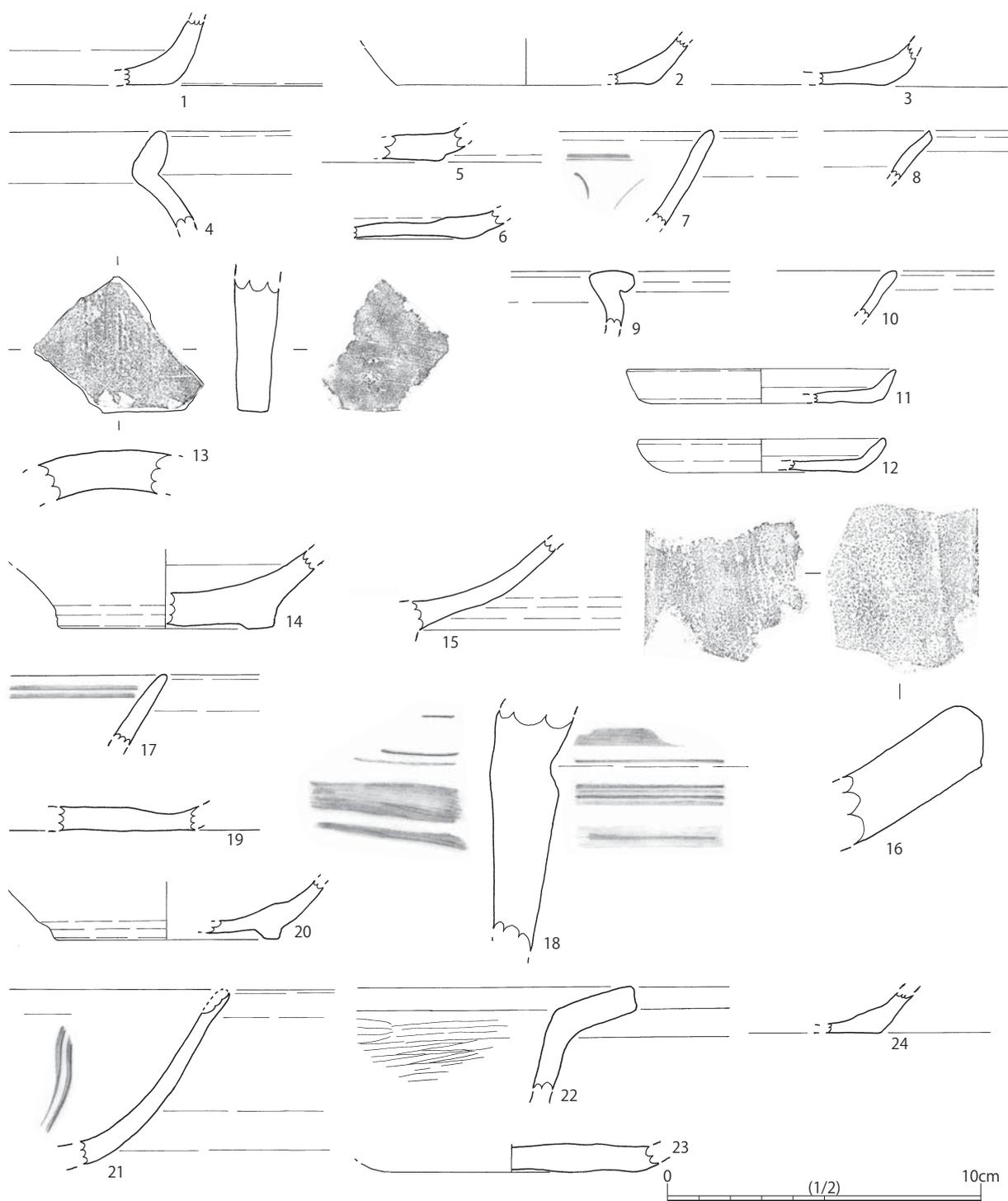
出土遺物と年代 第34図1・2はSK01出土である。いずれも糸切り底の土師器の坏である。

第34図3～8はSK13出土である。3は内面見込み部分に片彫りで施文する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I類である。12世紀中頃から後半の所産である。4・5は白磁碗である。4は屈折する短い口縁部で、大宰府編年の白磁碗V-4類。12世紀中頃から後半を主体とする時期の所産である。6は陶器の挿鉢である。大宰府編年の陶器鉢II類で、14世紀前半頃の所産である(宮崎編 2000)。7・8は糸切り底の土師皿である。

第35図1～3はSK17出土である。いずれも糸切り底の土師器の坏である。SK17からはほかに青白磁片や滑石が出土したが、小片で図化し得ない。

第35図4～6はSK22出土である。4は褐釉陶器の壺である。13世紀後半頃の所産である(宮崎編 2000)。5・6は糸切り底の土師器の坏である。他に図化できなかったが、近代の磁器小片がわずかに出土した。

第35図7～13はSK23出土である。7は龍泉窯系の青磁碗で内面に片彫りで施文する。8は青磁皿である。9は陶器の黄釉盤の口縁部である。大宰府編年の磁甗窯の陶器盤II類である(宮崎編 2000)。

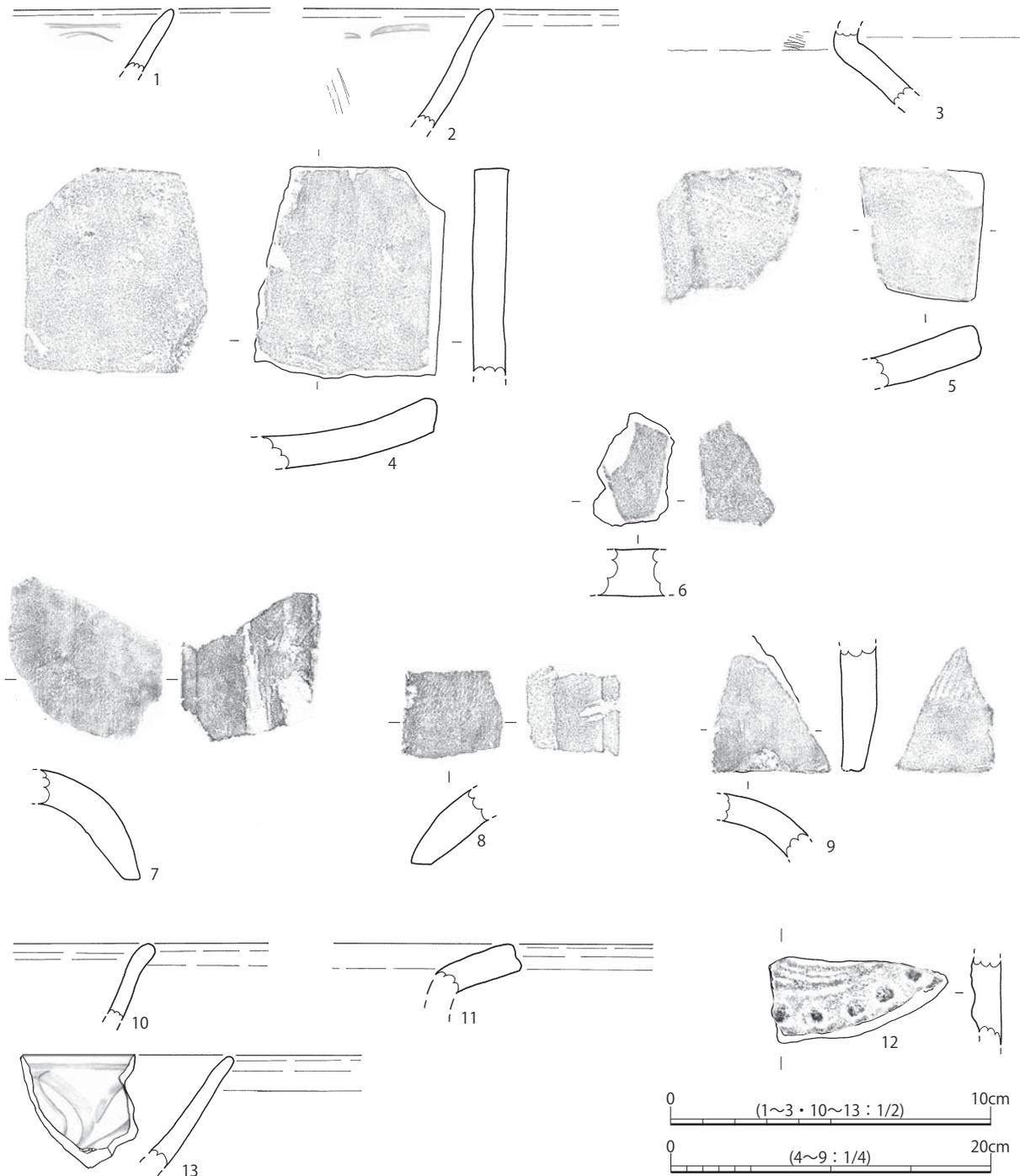


第35図 HZK1804地点C区SK17・22・23・26・27・35・39・40出土遺物

10は土師器の坏口縁部である。11・12は糸切り底の土師皿である。13は丸瓦である。

第35図14～16はSK26出土である。14・15は白磁碗である。14は低いケズリ高台の付く底部で、大宰府編年の白磁碗Ⅳ類である。11世紀後半から12世紀が主体で12世紀後半まで一定量を占める（宮崎編 2000）。16は平瓦である。

第35図17～20はSK27出土である。17は龍泉窯系の青磁碗で内面に圈線が2条めぐる。18は近世の



第36図 HZK1804地点 C 区 SK44・48・49出土遺物

陶器甕で内外面とも釉薬を刷毛で塗付し施文する。19は糸切り底の土師器の坏である。20は低い高台付の土師器坏である。

第35図21は SK35出土の青磁碗である。内面に片彫りで施文する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗 I 4類で12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）。

第35図22・23は SK39出土である。22は土師器の甕である。23は糸切り底の土師器の坏である。

第35図24は SK40出土の糸切り底の土師器の坏である。他に図化できなかったが、瓦質土器や陶器

の小片が出土した。

第36図1～9はSK44出土である。1・2は青磁碗でいずれも内面に片彫りで施文する。龍泉窯系青磁である。3は中世の須恵器の甕である。4～6は平瓦である。7～9は丸瓦である。

第36図10～12はSK48出土である。10は青磁碗である。11は土師器の甕である。12は瓦当部分である。連珠文のみ残存する。

第36図13はSK49出土の青磁碗である。内面に片彫りで施文する。龍泉窯系青磁碗Ⅰ類で12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）。（谷 直子）

（4）ピット（第37図）

全部で11基のピットを確認しており、そのうち7基（SP41～SP43・SP51・SP52・SP54・SP56）は調査区東端付近で見つかっている（第21図）。確認面からの深さや断面形状は多様であり、配置に規則性があるわけではなく、各ピット間に有機的なあり方を見出すことは難しい。

SP10・SP42・SP43・SP54から土師器の小片などが出土しているが、時期の特定は困難である。SP02・SP11・SP41・SP51・SP52から遺物は出土していない。（福永将大）

（4）遺構外出土遺物

第38図は遺構外出土の遺物である。1は青磁碗で内面に片彫りで施文する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-4類か。2は外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗で、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類（宮崎編 2000）。3は瓦質土器の甕である。4は円筒形の土錘である。5は丸瓦である。6は陶器の壺である。外面に自然釉がかかり、灰が付着している。7は泥面子である。額縁型の長方形の枠の中に三角形の模様を施す。

（谷 直子）

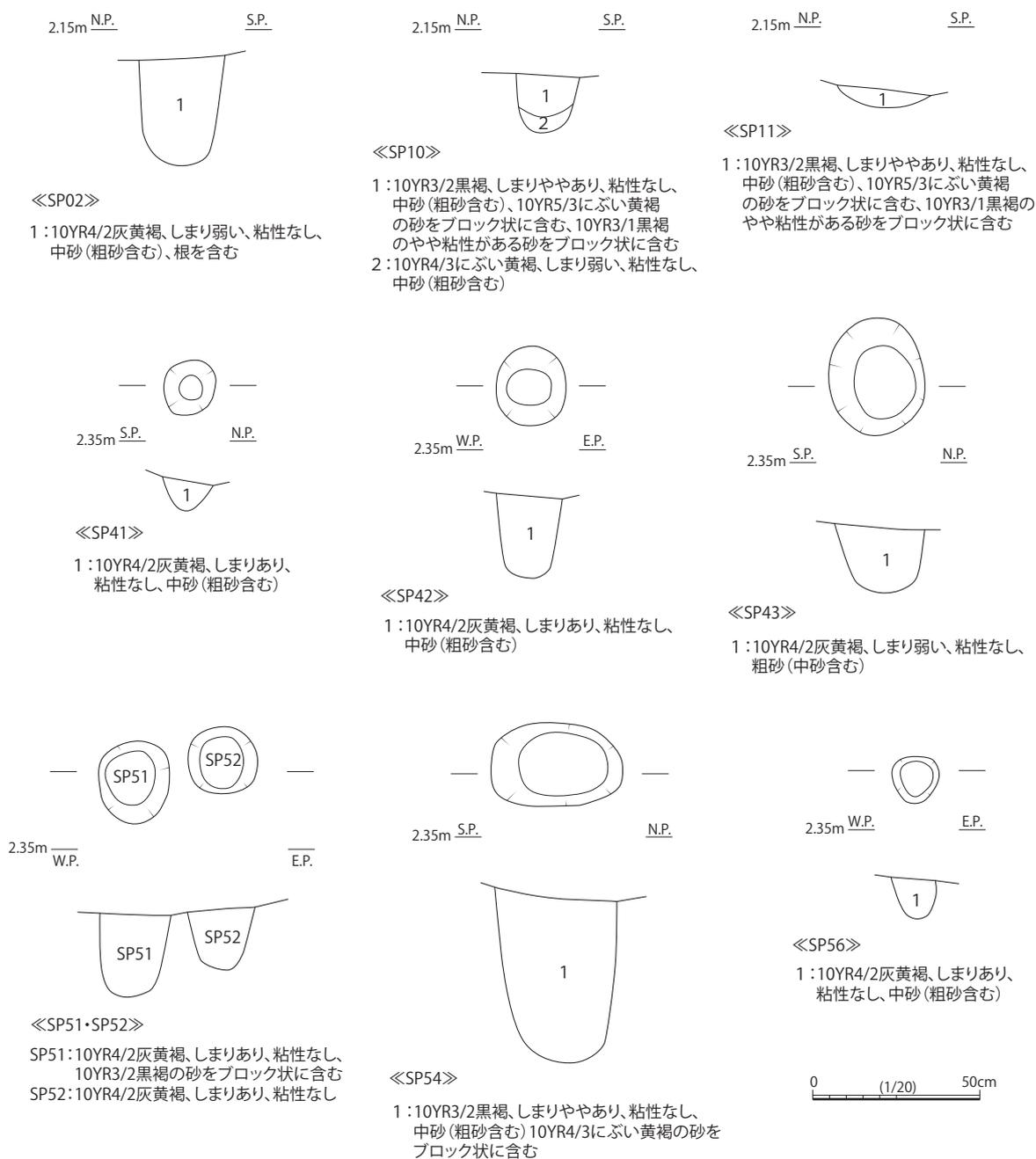
5. 小結

立試1811地点では、中世の土坑、溝、ピットと、近代遺構が検出された。近代遺構は、箱崎キャンパスが南に拡幅する以前の旧門衛所建物と、境界塀と推測される。なお、この同定作業については、岩永省三名誉教授から多くの御教示を賜ったことを明記しておく。（齋藤瑞穂）

HZK1804地点B区は、箱崎キャンパス南エリアに所在した記録資料館の北側で行われた発掘調査である。調査の結果、12世紀後半や13世紀前半、そして15世紀～16世紀の所産と考えられる、土坑や溝などが見つかった。調査地点における堆積状況を確認したところ、遺構の構築と整地が複数回にわたって繰り返し行われていることが判明した。これらのイベントの時期を特定することは困難であると結論づけたものの、中世箱崎遺跡の北端部における土地利用史を考えるうえで、貴重な成果を得ることができた。

HZK1804地点C区は、箱崎キャンパス南エリアに所在した記録資料館の北側で行われた発掘調査である。調査の結果、12世紀～14世紀にかけての遺構が多数見つかった。調査区北西隅では井戸を2基検出しており、12世紀後半に構築され、14世紀まで断続的に埋没していった、あるいは14世紀に一気に埋没した、という堆積プロセスを復元した。井戸主体部で検出した円形木桶の部材を対象に、放射性炭素年代測定も実施している。

調査地点における堆積状況を確認し、14世紀以降に遺構の構築と整地が複数回にわたって繰り返し行われた可能性を指摘した。HZK1804地点B区でも、時期の特定はできていないものの、遺構の構

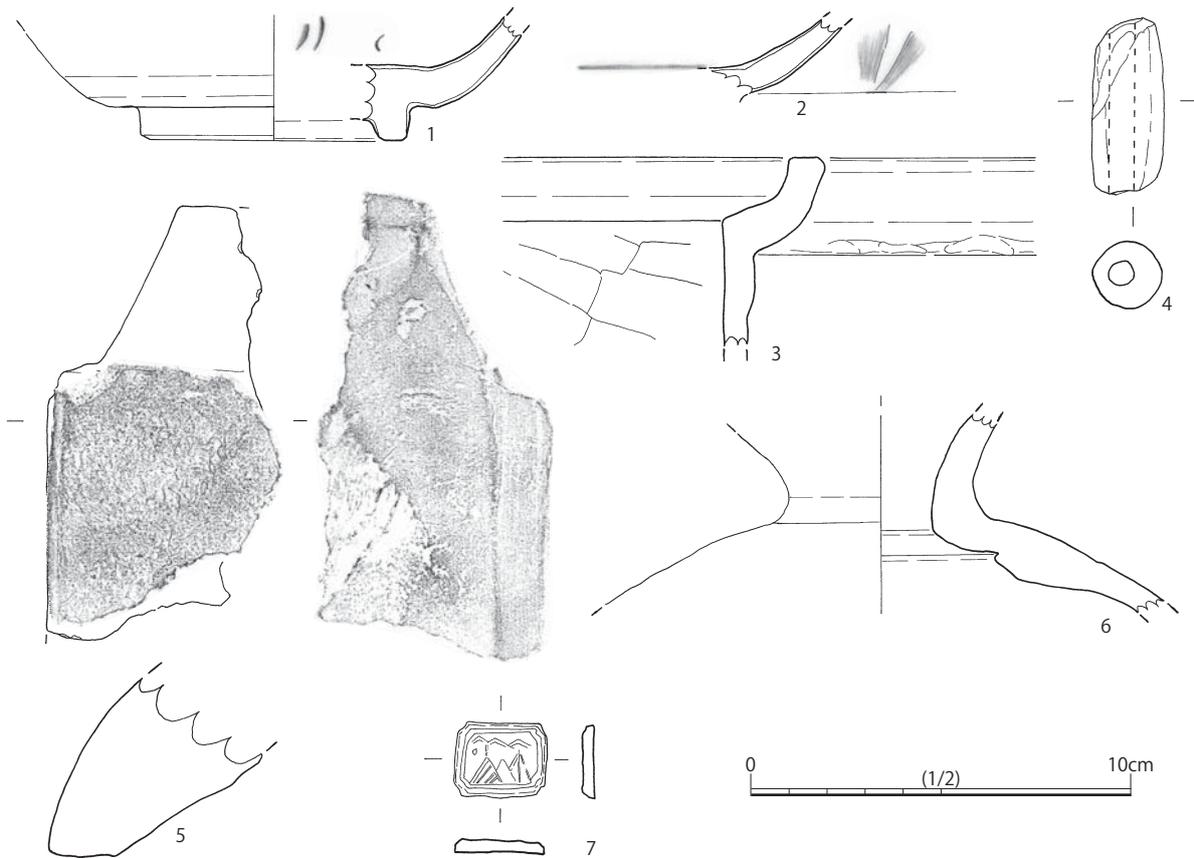


第37図 HZK1804地点C区 SP02・10・11・41～43・51・52・54・56遺構平面・断面図

築と整地が繰り返し行われた痕跡が見つかっており、中世箱崎遺跡の北端部における土地利用史を考えるうえで興味深い。

また、本調査地点における土層断面で、波状線状痕を複数個所で確認した。この波状線状痕は、遺構の切り合いや埋土の差異に関係なく、横方向に複数入っている。波状線状痕の形成要因の特定には至っていないが、地下水位の上昇によって、土中のマンガンを鉄などが沈着して痕跡として現れた可能性を提示している。しかし、地下水の影響を考える場合、痕跡が波状を呈することの説明が難しく、波状線状痕跡の形成要因については、今後類例などを蓄積しながら検討を深めていく必要がある。

(福永将大)



第38図 HZK1804地点C区 遺構外出土遺物

註

1) 放射性炭素年代測定値については、本報告書第8章パレオ・ラボ AMS 年代測定グループの報告に基づき、 2σ 暦年代範囲を示した。

引用文献

- 芦田淳一2019「大和」『中世瓦の考古学』中世瓦研究会編 169～182頁
 夏池真史・菊地哲郎・Lee Ying Ping・伊藤紘晃・藤井学・吉村千洋・渡部徹2016「自然水中における鉄の化学種と生物利用性－鉄と有機物の動態からみる森・川・海のつながり－」『水環境学会誌』39- 6 197～210頁
 田中克子2008「中国陶磁器」『中世都市・博多を掘る』海鳥社 112～128頁
 松田麻里・桃崎祐輔2019「筑前・筑後・豊前・肥前」『中世瓦の考古学』中世瓦研究会編 237～254頁
 宮崎亮一（編）2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編』太宰府市教育委員会
 山本信夫・山村信榮1997「九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第79集 国立歴史民俗博物館 237～310頁

第1表 立試1811地点中世遺構観察表

遺構名	図版番号	エリア	平面形態	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	遺構名	図版番号	エリア	平面形態	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
SK01	第3図	A区	楕円形	60-	36-	28	SP15	第4図	C区	円形	30	28	30
SP02	第3図	A区	円形	30	26	26	SP16	第4図	C区	円形	40	36	28
SP03	第3図	A区	楕円形	36	28	10	SK17	第5図	C区	円形	108	50-	12
SP04	第3図	A区	楕円形	16-	16	26	SD18	第5図	A区	溝状	138-	168	30
SK05	第3図	B区	隅丸方形	62	43-	12	SK19	第5図	D区	不明	119	20	28
SP06	第3図	B区	不明	32-	6-	7	SP20	第5図	D区	楕円形	28	18	16
SP07	第3図	B区	円形	21	20	15	SK21	第6図	D区	円形	92	40-	28
SP08	第3図	B区	楕円形	18-	13	17	SK22	第6図	D区	不明	76	36-	32
SP09	第3図	B区	円形	22	20	11	SP23	第5図	D区	楕円形	50	26-	26
SP10	第4図	B区	楕円形	22-	25	16	SP24	第6図	D区	楕円形	31	22	22
SP11	第4図	B区	円形	44	44	19	SP25	第6図	D区	楕円形	42	16-	20
SK12	第4図	C区	不明	60-	16-	18	SP26	第6図	D区	楕円形	40-	36	28
SP13	第4図	C区	楕円形	51	31-	15-	SP27	第6図	D区	円形	40-	42	9
SK14	第4図	C区	楕円形	38-	90	20							

第2表 立試1811地点遺物観察表

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
7-1	A区 SK01	土師質鍋			[4.2]	緻密, 直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	外: 7.5YR2/1黒 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, スス付着 内: ハケメ	
7-2	A区 SD18e 層	土師器皿	(8.0)	(6.6)	1.3	緻密, 直径1~2mmの砂粒・雲母片をわずかに含む	良好	5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-3	A区 4層	青磁碗		(5.4)	[2.7]	緻密	良好	2.5GY5/1オリーブ灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗
7-4	B区ピット11	陶器壺		(9.0)	[5.7]	緻密, 白色粒子を含む	良好	外: 5YR5/3にぶい赤褐 内: 5YR4/2灰褐	外: 回転ヘラケズリ, 施釉 内: 回転ヘラケズリ, 施釉	陶器壺Ⅴ類
7-5	C区 SK14	青磁碗			[2.7]	緻密	良好	7.5GY7/1明緑灰	外: ケズリ, 施釉 内: ナデ, 施釉	龍泉窯系青磁碗Ⅳ類
7-6	D区ピット26	土師器皿			1.6	緻密	良好	10YR4/3にぶい黄褐	外: ナデ 内: ナデ	
7-7	D区	土師器皿	(6.2)	4.3	1.9	緻密	やや軟質	5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り, スス付着 内: ナデ, スス付着	糸切り底
7-8	D区 3層	陶器黄釉盤			[3.8]	やや粗い, 直径1~2mmの砂粒・黒色粒子を含む	良好	外: 7.5YR6/3にぶい褐 内: 2.5Y6/4にぶい黄	外: 露胎 内: 施釉	
7-9	D区	青磁碗		6.2	[2.4]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外: ケズリ, 施釉 内: 施釉, 放射状文	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類

第3表 HZK1804地点 B 区出土遺物観察表

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
13-1	SD30	青磁碗			[2.9]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：施釉，施文 内：施釉，施文	大宰府編年 同安窯系青磁 碗 I -1b 類
13-2	SD30	青磁皿			[1.3]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系
13-3	SD30	須恵質捏鉢			[4.2]	緻密，直径1~3mmの砂粒を含む	良好	N6/ 灰	外：ナデ，自然釉 内：ナデ	東播系
13-4	SD30	土師器坏			[1.5]	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ 内：ナデ	
18-1	SK06	青磁碗			[4.4]	緻密	良好	2.5Y7/2灰黄	外：施釉，施文 内：施釉，施文	同安窯系青磁 碗 I -1b 類
18-2	SK08	青磁碗			[2.8]	緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁 碗 II -b 類
18-3	SK08	染付碗		(5.6)	[2.2]	緻密	良好	外：5GY8/1灰白 内：5Y8/1灰白	外：施釉，露胎，施文 内：施釉，露胎	
18-4	SK08	陶器碗			[2.0]	緻密	良好	10YR3/2黒褐	外：施釉 内：施釉	天目
18-5	SK08	土師質捏鉢		(6.8)	[4.1]	やや緻密，直径1~4mmの砂粒を多く含む	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：10YR8/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
18-6	SK08	土鍾	[3.1]	1.1	1.0	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ	3.80g
18-7	SK09	白磁皿	(9.6)		[1.9]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，露胎	白磁皿 III 類
18-8	SK11	陶器甕			[3.2]	緻密，直径1~3mmの砂粒を含む	良好	外：2.5Y7/3浅黄 内：2.5Y6/2灰黄	外：施釉 内：露胎	
18-9	SK11	陶器鉢			[5.4]	緻密	良好	外：2.5Y5/3黄褐 内：2.5Y6/3にぶい黄	外：ケズリ，施釉 内：ケズリ，施釉	
18-10	SK12	青磁碗	12.9	4.6	5.8	緻密	良好	2.5GY6/1オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁 碗 I -2類
18-11	SK12	青磁碗			[1.8]	緻密	良好	2.5Y7/4浅黄	外：施釉 内：施釉	
18-12	SK12	青磁皿	(11.6)		[2.5]	緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉，露胎 内：施釉	龍泉窯系青磁 皿 I 類
18-13	SK12	白磁碗		5.2	[3.1]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：ケズリ，露胎 内：施釉	
18-14	SK12	陶器鉢			[3.2]	緻密，赤褐色粒子を含む	良好	外：10YR8/2灰白 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：施釉，露胎 内：施釉	
18-15	SK12	須恵器			[0.8]	緻密	良好	外：N5/ 灰 内：N6/ 灰	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
18-16	SK12	土師器坏			[2.0]	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：10YR8/2灰白 内：2.5Y8/2灰白	外：ナデ 内：ナデ	
18-17	SK12	土師器坏			[2.6]	緻密，赤褐色粒子を多く含む	良好	外：7.5YR6/3にぶい褐 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
18-18	SK12	土師器坏		(9.6)	[1.3]	緻密，赤褐色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
18-19	SK12	土師器皿	(9.0)	(6.6)	1.1	緻密，赤褐色粒子を多く含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-1	SK14東	土師器碗			[3.7]	緻密，雲母片を含む	良好	外：2.5Y5/1黄灰 内：2.5Y4/1黄灰	外：型押し，ナデ 内：内黒，ミガキ	
19-2	SK20	白磁蓋			[2.0]	緻密	良好	7.5GY8/1明緑灰	外：施釉 内：施釉	
19-3	SK20	瓦質土器碗		(5.2)	[1.3]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：ナデ 内：ナデ	
19-4	SK20	瓦質土器火鉢			[5.0]	緻密	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：2.5Y7/1灰白	外：ナデ，菊花スタンプ文 内：ナデ	
19-5	SK20	土師質捏鉢			[3.6]	緻密，直径1mm大の砂粒を含む．雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ 内：ハケメ	
19-6	SK20	土師質鍋			[4.1]	緻密，直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR2/1黒 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，スス付着 内：ハケメ	
19-7	SK20	土師質鍋			[4.1]	緻密，直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：7.5YR6/2灰褐 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，スス付着 内：ハケメ	
19-8	遺構外	須恵器坏		(9.0)	[2.4]	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：N7/ 灰白 内：5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
19-9	遺構外	瓦質土器破片			[1.8]	緻密	良好	外：2.5Y7/1灰白 内：2.5Y8/2灰白	外：ナデ 内：ナデ	

第4表 HZK1804地点C区出土遺物観察表

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
24-1	SK14-a	土錘	4.5	0.8	0.9	緻密	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ	2.30g
24-2	SE14-b 床面出土	青磁碗			[2.7]	緻密	良好	5Y5/3灰オリーブ	外：施釉 内：施釉, 施文	大宰府編年 龍泉窯系青磁 碗Ⅰ類
24-3	SE14-b	青磁碗			[2.9]	緻密	良好	5GY6/1オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	
24-4	SE14-b	青磁皿			[1.6]	緻密	良好	10Y7/2灰白	外：施釉 内：施釉, 施文	同安窯系青磁 皿Ⅰ-2b類
24-5	SE14-b	白磁碗			[3.2]	緻密	良好	2.5Y8/2灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗Ⅳ類
24-6	SE14-b	白磁碗		(5.4)	[1.4]	緻密	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外：ケズリ, 施釉, 露胎 内：施釉	
24-7	SE14-b	白磁皿			[2.4]	緻密	良好	10GY8/1明緑灰	外：施釉, 露胎 内：施釉	
24-8	SE14-b	土師質 捏鉢			[3.2]	やや緻密, 直径1~6 mmの砂粒を含む	良好	外：10YR8/2灰白 内：2.5Y8/2灰白	外：ナデ 内：ハケメ	
24-9	SE14-b	土師器 坏			[2.2]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
24-10	SE14-b	土師器 坏	(15.6)	(11.2)	2.8	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	外：10YR8/4浅黄橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-11	SE14-b 床面出土	土師器 坏			[0.9]	緻密, 赤色粒子を含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-12	SE14-b	土師器 坏		(7.6)	[0.9]	やや緻密, 直径1~3 mmの砂粒・雲母片を含 む	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-13	SE14-b	雁振瓦	[7.2]	[8.9]	2.3	やや緻密, 直径1~5 mmの砂粒を含む	良好	7.5Y6/1灰	外：ナデ 内：ナデ	
24-14	SE14-b	丸瓦	[2.9]	[4.7]	1.4	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を多く含む	良好	表：10YR7/2にぶい黄橙 裏：2.5Y7/2灰黄	外：ナデ 内：工具痕	
24-15	SE14-b	滑石製 石鍋			[2.3]				加工痕	
24-16	SE14-c	青磁碗			[2.1]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉, 施文	
24-17	SE14-c	青磁 壺	(3.3)		[1.9]	緻密	良好	5G7/1明緑灰	外：施釉 内：施釉, 露胎	
24-18	SE14-c	青磁皿		(4.5)	[1.0]	緻密	良好	7.5Y6/1灰	外：露胎 内：施釉, 施文	同安窯系青磁 皿Ⅰ-1b類
24-19	SE14-c	陶器 播鉢			[2.1]	緻密	良好	外：5YR2/1黒褐 内：10R4/1暗赤灰	外：施釉 内：施釉, スリ溝	
24-20	SE14-c	須恵器 甕			[3.3]	緻密	良好	外：N6/ 灰 内：2.5Y5/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ	
24-21	SE14-c	土師質 捏鉢			[3.5]	緻密, 直径1~3mmの 砂粒・赤色粒子を含む	良好	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR6/2灰褐	外：ナデ 内：ハケメ, 摩滅	
24-22	SE14-c	土師器 坏		(6.4)	[2.3]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒・赤褐色粒子を少 し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-23	SE14-c	土師器 坏			[2.4]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒・黒色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ 内：ナデ	
24-24	SE14-c	土師器 坏			[1.2]	緻密, 赤色粒子を少し 含む	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：7.5YR8/6浅黄橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-25	SE14-c	土師器 坏			[2.5]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：2.5Y6/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ	
24-26	SE14-c	土師器 坏			[1.1]	緻密	良好	外：10YR5/1褐灰 内：10YR6/1褐灰	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-27	SE14-c	土師器 皿			1.3	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を多く含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
25-1	SE14-C 井戸内上層	土師質 捏鉢		(13.3)	[3.0]	緻密, 直径1~3mmの 砂粒・茶褐色粒子を多 く含む	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：2.5Y7/2灰黄	外：ナデ 内：ナデ	
25-2	SE14-C 井戸内上層	軒平瓦	[10.2]		1.8	緻密, 直径1~3mmの 砂粒・茶褐色粒子を含 む	良好	表：5Y6/1灰 裏：2.5Y6/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ, ケズリ	連華唐草文
25-3	SE14-C 井戸内上層	平瓦	[9.5]	[8.2]	1.8	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を多く含む	良好	表：7.5Y5/1灰 裏：5Y6/1灰	外：ナデ 内：コビキ, ナデ	
25-4	SE14-C 井戸内上層	平瓦	[7.2]	[5.6]	1.8	やや緻密, 直径1~5 mmの砂粒を含む	良好	表：2.5Y7/1灰白 裏：5Y8/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
25-5	SK・SE14 一括	青磁皿			[2.4]	緻密	良好	外：2.5GY7/1明オリーブ灰 内：10Y8/1灰白	外：施釉, 施文 内：施釉	同安窯系青磁 皿Ⅰ類

II HZK1804地点 (記録資料館地点)

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
25-6	SK・SE14 一括	白磁碗			[3.6]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	大宰府編年 白磁碗ⅦかⅧ類
25-7	SK・SE14 一括	白磁皿			[1.1]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	外：5GY8/1灰白 内：7.5GY8/1明緑灰	外：施釉, 口禿 内：施釉	白磁皿Ⅸ類
25-8	SK・SE14 一括	白磁皿		(5.9)	[1.1]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	
25-9	SK・SE14 一括	瓦質土器 捏鉢			[4.1]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：2.5GY8/1灰白 内：2.5Y7/2灰黄	外：ナデ, ハケメ 内：ナデ	
25-10	SK・SE14 一括	瓦質土器 捏鉢			[3.5]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	外：10YR6/1褐灰 内：10YR5/3にぶい黄褐	外：ナデ 内：ナデ, ハケメ	
25-11	SK・SE14 一括	土師器 皿			[1.0]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
25-12	SK・SE14 一括	土師器 皿			[1.5]	やや粗い, 直径1mm大の砂粒を多く含む	良好	外：10YR5/2灰黄褐 内：10YR6/2灰黄褐	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
25-13	SK・SE14 一括	土師器 皿			[1.6]	緻密, 雲母片を含む	良好	外：10YR4/2灰黄褐 内：7.5YR6/2灰褐	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
25-14	SK・SE14 一括	軒丸瓦			[3.5]	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒・黒色粒子を含む	良好	表：N6/ 灰 裏：N5/ 灰	外：ナデ 内：ナデ	連珠文
25-15	SK・SE14 一括	平瓦	[10.2]	[5.8]	1.9	緻密, 直径1~2mmの砂粒・茶褐色粒子を含む	良好	表：5Y6/1灰 裏：7.5Y6/1灰	外：ナデ 内：ナデ	
25-16	SK・SE14 一括	平瓦	[5.8]	[4.0]	1.8	やや粗い, 直径1~5mmの砂粒・赤色粒子を多く含む	良好	2.5Y6/2灰黄	外：ナデ 内：ナデ	
25-17	SK・SE14 一括	平瓦	[5.0]	[7.4]	1.5	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	2.5Y6/2灰黄	外：ナデ 内：ナデ	
25-18	SE14 一括	丸瓦	[10.4]	[7.6]	2.1	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	表：N5/ 灰 裏：N6/ 灰	外：ナデ 内：布目, 吊り紐痕	
26-1	SD24	青磁碗			[3.9]	緻密	良好	10Y6/1灰	外：施釉 内：施釉	
26-2	SD24	青磁皿			[2.0]	緻密	良好	5Y5/3灰オリーブ	外：施釉 内：施釉	
26-3	SD24	白磁碗		(6.2)	[3.2]	緻密	良好	外：10Y7/1灰白 内：5Y7/2灰白	外：ケズリ, 施釉, 露胎 内：施釉	白磁碗Ⅴ類
26-4	SD24	白磁皿			[0.6]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：施釉 工具でのばす 内：施釉	
26-5	SD24	陶器 黄釉鉄絵 盤			[3.5]	やや粗い, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：5Y6/3オリーブ黄	外：露胎 内：施釉	
26-6	SD24	陶器 鉢			[4.1]	緻密, 赤褐色粒子を含む	良好	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR6/4にぶい橙	外：ハケメ, ナデ 内：ハケメ, ナデ	
26-7	SD24	土師質 播鉢			[7.5]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR8/3浅黄橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ハケメ, スリ溝	
26-8	SD24	平瓦	[17.4]	[10.8]	1.8	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：2.5Y5/1黄灰 内：10YR6/4にぶい黄橙	表：ナデ 裏：ナデ	
26-9	SD53	青磁碗			[2.6]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉, 施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗Ⅱ-b類
26-10	SD53	白磁皿			[1.1]	緻密	良好	10Y8/1灰白	外：施釉 内：施釉, 口禿	白磁皿Ⅸ類
26-11	SD53	土鉢	3.7	1.5	1.4	緻密, 赤褐色粒子を含む	良好	10YR8/3浅黄橙	外：ナデ	5.78g
26-12	SD53	軒平瓦			[2.4]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：2.5Y5/2暗灰黄 内：10YR5/2灰黄褐	表：型押し 裏：ナデ	
26-13	SD53	丸瓦	[13.9]	[5.6]	1.9	緻密, 直径1~5mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5Y6/1灰 内：2.5Y6/1黄灰	表：ナデ 裏：布目, 吊り紐痕, ナデ	
34-1	SK01	土師器 坏	(12.4)	(8.5)	2.4	やや緻密, 直径1~4mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
34-2	SK01	土師器 坏		(9.5)	[1.4]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
34-3	SK13	青磁碗		(6.2)	[3.0]	緻密	良好	2.5Y6/3にぶい黄	外：施釉 内：施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類
34-4	SK13	白磁碗			[3.0]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗Ⅴ-4類
34-5	SK13	白磁碗			[2.0]	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外：施釉 内：施釉	
34-6	SK13	陶器 播鉢			[4.0]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	外：N4/ 灰 内：10YR4/1褐灰	外：施釉 内：施釉, スリ溝	陶器鉢Ⅱ類
34-7	SK13	土師器 皿		(6.0)	[0.7]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
34-8	SK13	土師器 皿	(8.4)	(6.8)	1.0	緻密、直径1~2mmの 砂粒・赤褐色粒子を含 む	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
35-1	SK17	土師器 坏			[2.1]	やや緻密、直径1~5 mmの砂粒・赤色粒子を 多く含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：5.5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
35-2	SK17	土師器 坏		(8.4)	[1.5]	緻密、赤褐色粒子を含 む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
35-3	SK17	土師器 坏			[1.4]	緻密、直径1~3mmの 砂粒を含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
35-4	SK22	陶器 壺			[3.1]	緻密	良好	10YR3/2黒褐	外：施釉 内：施釉	
35-5	SK22	土師器 坏			[1.1]	緻密、黒色粒子を含む	良好	5YR6/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
35-6	SK22	土師器 坏			[0.9]	緻密、直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
35-7	SK23 検出時	青磁 碗			[3.0]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉、施文	龍泉窯系
35-8	SK23	青磁 皿			[1.6]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	
35-9	SK23	陶器 盤			[1.8]	緻密、直径1~2mmの 砂粒・黒色粒子を含む	良好	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：7.5Y7/1灰白	外：露胎 内：施釉	大宰府編年 陶器盤II類
35-10	SK23 検出時	土師器 坏			[1.5]	緻密	良好	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、スス付着 内：ナデ	
35-11	SK23	土師器 皿	(8.6)	(7.4)	1.1	緻密、赤色粒子・雲母 片を少し含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧 痕 内：ナデ	糸切り底
35-12	SK23-C	土師器 皿	(8.0)	(6.0)	1.1	緻密、直径1~4mmの 砂粒含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧 痕 内：ナデ	糸切り底
35-13	SK23	丸瓦	[4.3]	[5.4]	1.3	緻密、直径1mm大の砂 粒・黒色粒子を含む	良好	表：N5/ 灰 裏：N6/ 灰	外：ナデ 内：ナデ	
35-14	SK26	白磁 碗		(6.9)	[2.5]	緻密	良好	2.5Y8/2灰白	外：ケズリ、露胎 内：施釉	白磁碗IV類
35-15	SK26	白磁 碗			[2.9]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉、露胎 内：施釉	
35-16	SK26	平瓦	[5.7]	[5.0]	1.9	やや粗い、直径1~4 mmの砂粒を多く含む	良好	表：5Y8/1灰白 裏：5Y5/1灰	外：ナデ 内：ナデ	
35-17	SK27	青磁 碗			[2.2]	緻密	良好	7.5Y4/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉、施文	龍泉窯系
35-18	SK27	陶器 甕			[7.5]	やや粗い、直径1~3 mmの砂粒を多く含む	良好	外：2.5Y8/3淡黄 内：2.5Y7/2灰黄	外：施釉 内：施釉	近世
35-19	SK27	土師器 坏			[0.8]	緻密、赤褐色粒子を含 む	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙 内：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
35-20	SK27	土師器 高台付坏		(7.2)	[1.9]	緻密、赤褐色粒子を多 く含む	良好	5Y8/2灰白	外：ナデ 内：ナデ	
35-21	SK35	青磁 碗			[5.5]	緻密	良好	7.5Y5/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁 碗1-4類
35-22	SK39	土師器 甕			[3.3]	やや粗い、直径1~5 mmの砂粒・赤色粒子を 多く含む	良好	外：7.5YR6/3にぶい褐 内：7.5YR7/6橙	外：ナデ 内：ナデ、ハケメ	
35-23	SK39	土師器 坏			[0.8]	緻密	良好	5YR6/8橙	外：ナデ、糸切り、板状圧 痕 内：ナデ	糸切り底
35-24	SK40	土師器 坏			[1.3]	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
36-1	SK44	青磁 碗			[2.0]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉、施文	龍泉窯系
36-2	SK44	青磁 碗			[3.7]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：施釉 内：施釉、施文	龍泉窯系
36-3	SK44	須恵器 甕			[1.9]	やや緻密、直径1~6 mmの砂粒を含む	良好	外：5Y4/1灰 内：2.5Y7/2灰黄	外：ナデ 内：ナデ、ハケメ	
36-4	SK44	平瓦	[13.4]	[11.4]	2.0	やや緻密、直径1~6 mmの砂粒を含む	良好	表：N6/ 灰 裏：5Y6/1灰	外：コビキ、ナデ 内：コビキ、ナデ	
36-5	SK44 (壁)	平瓦	[8.5]	[7.8]	2.0	やや緻密、直径1~4 mmの砂粒を含む	良好	表：2.5Y7/3浅黄 裏：5Y8/2灰白	外：ナデ 内：ナデ	
36-6	SK44 (壁)	平瓦	[7.1]	[4.7]	2.9	やや緻密、直径1~7 mmの砂粒を多く含む	良好	NS/ 灰	外：ナデ 内：ナデ	
36-7	SK44 (壁)	丸瓦	[10.6]	[6.2]	2.2	やや緻密、直径1~8 mmの砂粒を多く含む	良好	表：5Y8/2灰白 裏：5YR8/4淡橙	外：縄目タタキ、ナデ 内：コビキ、布目、ナデ	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
36-8	SK44	丸瓦	[6.6]	[5.1]		緻密, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	表: N6/ 灰 裏: 5Y8/1灰白	外: 縄目タタキ 内: 布目, ナデ	
36-9	SK44	丸瓦	[8.6]	[6.2]	1.9	緻密, 砂粒を多く含む	良好	表: N5/ 灰 裏: N4/ 灰	外: ナデ 内: コビキ, ナデ	
36-10	SK48	青磁碗			[2.4]	緻密	良好	5Y6/3オリーブ黄	外: 施釉 内: 施釉	
36-11	SK48	土師器甕			[1.5]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外: 10YR4/1褐灰 内: 10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
36-12	SK48	軒丸瓦			[2.4]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	N6/ 灰	内: ナデ	連珠文
36-13	SK49	青磁碗			[3.6]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉 内: 施釉, 施文	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗I類
38-1	遺構外	青磁碗		(7.0)	[3.3]	緻密	良好	7.5GY7/1明緑灰	外: ケズリ, 施釉 内: 施釉	龍泉窯系青磁碗I-4類
38-2	遺構外	青磁碗			[2.0]	緻密	良好	2.5GY5/1オリーブ灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉	龍泉窯系青磁碗II類
38-3	遺構外	瓦質土器甕			[4.9]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外: N4/ 灰 内: 5Y8/1灰白	外: ナデ, スス付着 内: ナデ	
38-4	遺構外	土錘	4.7	1.9	1.8	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	5YR4/3にぶい赤褐	外: ナデ	15.98g
38-5	遺構外	丸瓦	[11.5]	[5.7]		やや緻密, 直径1~5mmの砂粒を含む	良好	表: N4/ 灰 裏: N5/ 灰	外: ナデ 内: ナデ	
38-6	遺構外	陶器壺			[5.0]	緻密, 黒色砂粒を含む	良好	外: 7.5YR5/3にぶい褐 内: 10YR6/6明黄褐	外: ナデ, 自然釉 内: ナデ	
38-7	遺構外	泥面子(芥子面)	2.0	2.4	0.4	緻密	良好	2.5Y8/2灰白	表: 型押し 裏: ナデ	

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

1. 調査の経緯

（1）調査の経緯と目的

本調査地点は、箱崎キャンパス南エリアに所在した記録資料館の南側に位置しており、キャンパス全体の発掘調査グリッド（本報告書Ⅰ章第2図）ではQ41、R41、S39～41にあたる。2018年度～2019年度には、記録資料館を挟んで北側でHZK1804地点が調査され（本報告書Ⅱ章）、また、本調査地点から北西に位置する旧応力研生産研本館の周りには、2017年度に調査されたHZK1703地点（本報告書Ⅳ章）、2019年度に調査されたHZK1903地点（九州大学埋蔵文化財調査室報告第10集Ⅰ章）が存在している。

HZK1703地点やHZK1804地点では、遺構面が複数検出されていた。特に、HZK1804地点B区・同地点C区における堆積状況の検討から、遺構の構築と整地が繰り返し行われた痕跡が確認されている（本報告書Ⅱ章）。HZK1804地点では12世紀から16世紀までの遺構が見つかり、中世における当該エリアの土地利用史の一端が明らかにされた。

これまで九州大学埋蔵文化財調査室が行った調査の中で最も南の地点は、HZK1804地点C区であった。それより南側に関しては、これまで調査されておらず、その様相については不明であった。箱崎キャンパス跡地で最南端に位置する本調査地点において、HZK1703地点やHZK1804地点で確認されているような、遺構面が複数検出できるような土地利用のあり方が認められるかどうかを確かめる必要がある。

また、HZK1804地点C区の調査区北西部やHZK1903地点、HZK1904地点では、多数の井戸が見つかり、現在の調査状況では、旧応力研生産研本館の周辺域での井戸の発見事例が顕著であると言える。おそらくこのエリアに地下水脈が存在していたことが推察されるが、本調査地点で井戸が構築されているかどうかとも気になる点であった。

以上のような問題意識のもと、令和2年5月14日付の福岡県教育委員会あて「九大統統第14号」にてHZK2003地点の埋蔵文化財発掘届を提出した。これに対して、福岡県教育委員会より令和2年5月28日付「2教文第561号」にて許可通知があり、6月22日に現地調査を開始した。

記録資料館地点第1次（HZK1804）の調査では、A・B・Cの3区を設けて調査を行った。今次の調査対象地はそれらに近接することから、整理上の混乱防止を期してA～Cの名を避け、L字状に設定した5m幅の調査区のうち、県道550号線に並行する東側をD区、箱崎キャンパスの南辺に沿う西側をE区として区分し、それぞれ発掘担当者を違えて調査を実施している。

本稿で報告するHZK2003地点E区は、7月より発掘調査が行われていたが、諸事情により、9月15日より発掘担当者が交代する事態となった。交代した段階で、7月から行われていた調査の経緯や現状について、前担当者から引継ぎが全くなされていない状況だった。調査区内を確認すると、包含層である暗褐色砂の面を遺構確認面として調査を進めていることがわかったが、一部近現代の攪乱層も混じっていた。そのため、自然堆積層である黄褐色砂が認められるようになる面まで再度重機で掘り下げを行い、この面を改めて遺構確認面として調査を再開することを決めた。

HZK1703地点やHZK1804地点で遺構面が複数確認されている調査成果を踏まえると、本来であれば、暗褐色砂の面で遺構検出を行うなど時間をかけて精査するべきであった。しかし、本調査地点は

10月初めから開発工事が開始することが決まっており、9月末までに発掘調査を完了する必要があった。残りの調査日数を考えると、暗褐色砂の面で精査する時間的余裕はなく、自然堆積層である黄褐色砂の面まで重機で掘り下げて調査を進めざるを得なかったことは、苦渋の決断であった。

重機掘削の結果、調査区内の大部分は近現代の攪乱を受けていることが判明した。遺構の検出作業を行ったところ、調査区内で遺構が密集して見つかるエリアが複数あることがわかった。そこで、調査区中央部南側を「エリアⅠ」、同北側を「エリアⅡ」、調査区西部南側を「エリアⅢ」、調査区東側を「エリアⅣ」として調査を進めることにした（第1・38図）。各エリアの調査成果については後述する。

急ピッチで作業を進めたものの、結局9月末までに調査を完了することができなかった。あらゆる関係者の方々にご迷惑をおかけしながら、何とか10月10日に発掘調査を終了した。

（齋藤瑞穂・福永将大）

（2）調査要項

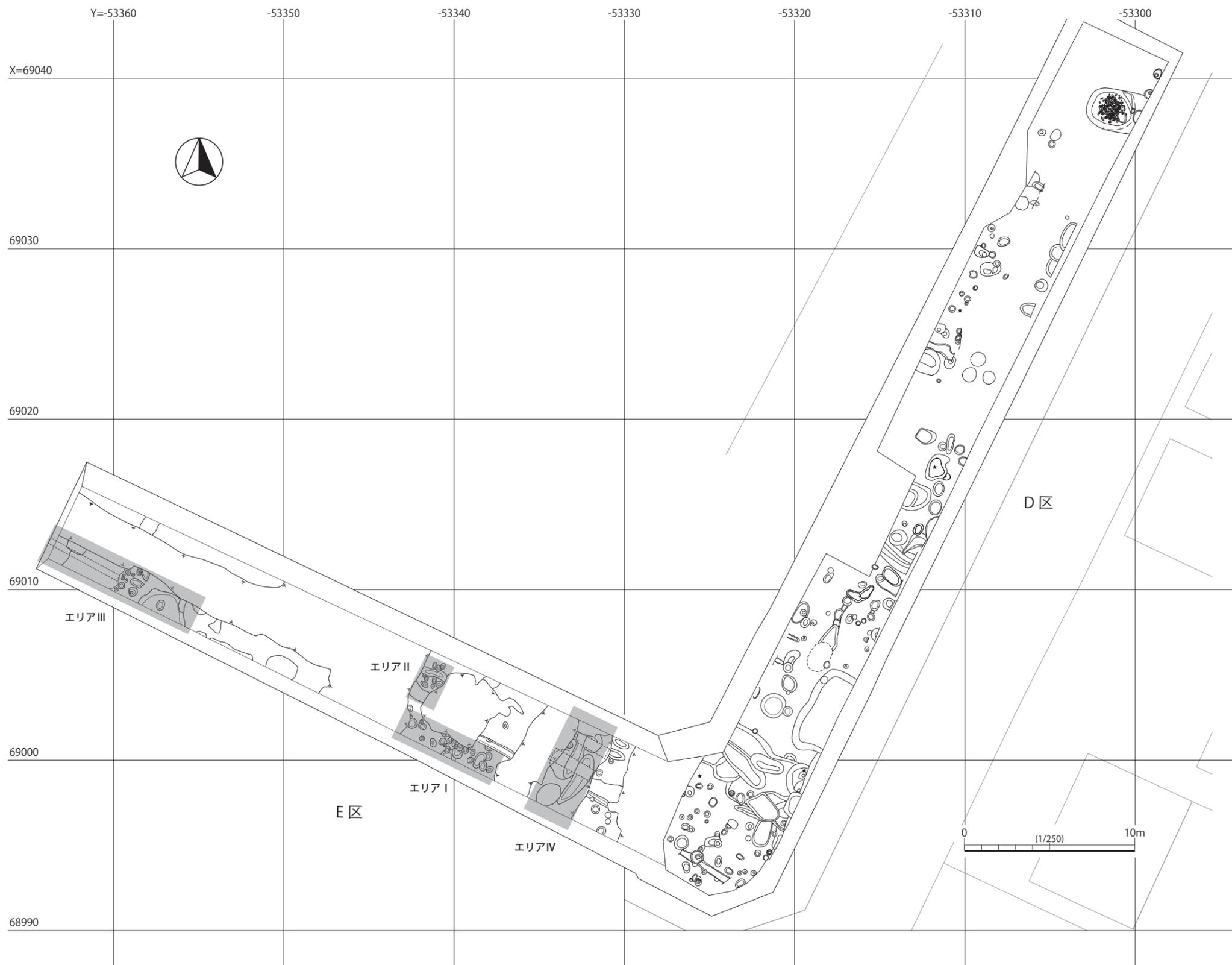
遺跡名	箱崎遺跡
地点名	九州大学箱崎キャンパス HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）
調査名	九州大学埋蔵文化財調査室調査番号：HZK2003 福岡市調査番号：2015、箱崎遺跡第109次調査
所在地	福岡市東区箱崎6-10-1
調査面積	530㎡（HZK2003地点全体の調査面積）
調査原因	学術研究
調査期間	令和2020年6月22日～10月10日
遺物量	コンテナ（内寸54cm×34cm×15cm）36箱
調査主体	九州大学埋蔵文化財調査室
発掘担当者	齋藤瑞穂・福永将大・石川 健
調査作業員	浅田ふえ、有井みずえ、穴井和子、伊藤未紀、稲富聡、犬山颯真、犬山琉晴、井上光江、浦崎てい子、大藪英美、奥 敦子、春日ゆかり、門脇尚子、金子伸子、城野勝彦、釘崎知子、定永靖史、真田 明、篠崎繁美、節政善憲、竹本葉子、田中悦子、田中裕子、堤 末子、田代 薫、永濱弘子、仲前富美子、中村尚美、中山大輔、西浦喜久子、西田和廣、原田由佳、東島真弓、日並ゆみ子、深野人美、藤田房佳、松尾美恵、松下さゆり、松下由希子、三辻香奈子、美濃洋子、宮元亜希世、武藤マリ子、守 治美、安里由利子、山下聡子、山田幹裕、吉田辰義、渡辺みゆき
遺物整理担当	谷 直子
整理作業員	石井若香菜、板倉佳代子、犬山真弓、尾座本洋子、小名真理子、坂口由美子、田邊八子、富田文代、富田麗子、濱古賀美和

（谷 直子）

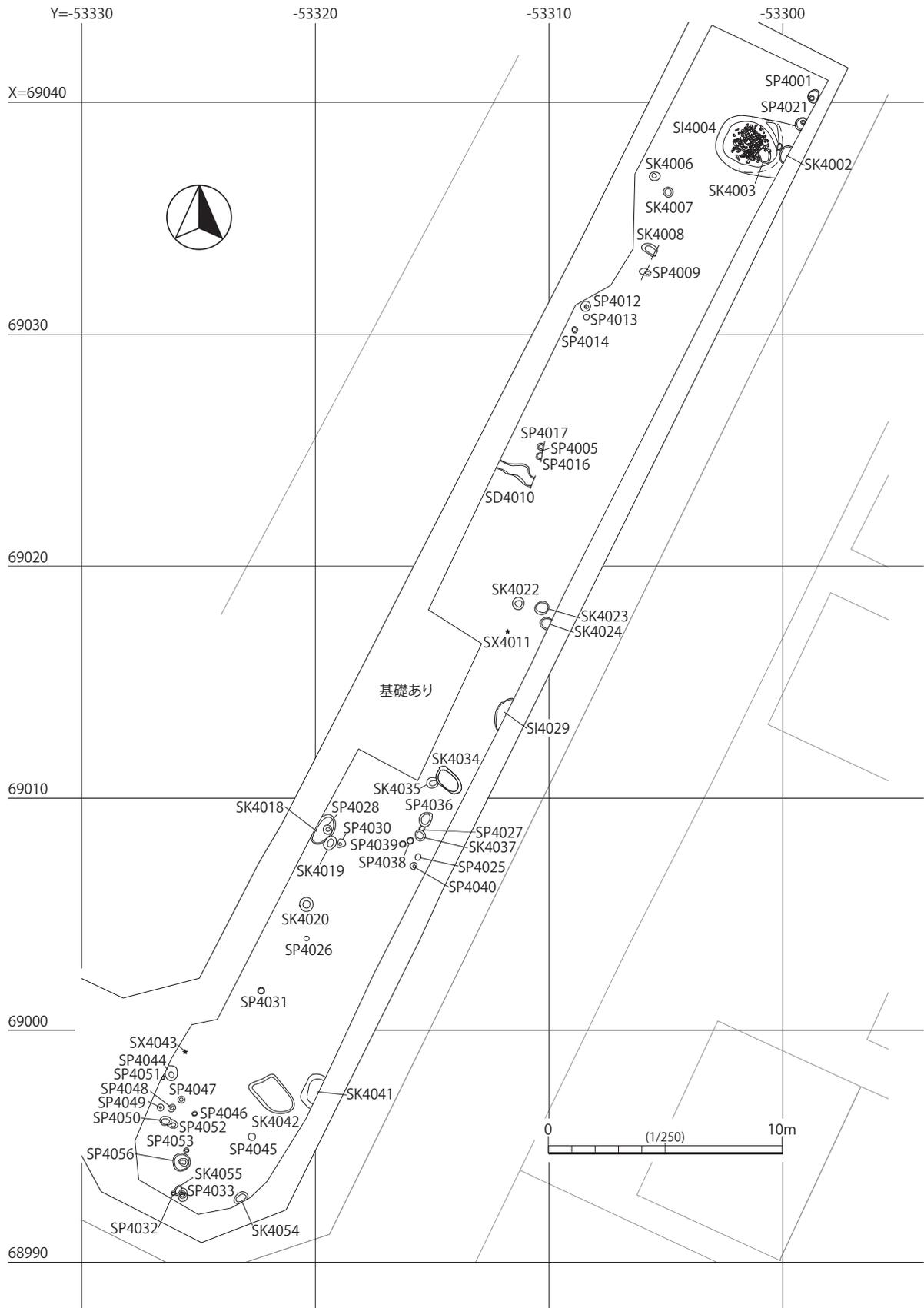
2. D区の遺構と遺物

（1）第1遺構面の調査

D区は、記録資料館の基礎撤去工事および汚染土撤去工事がすでに完了していた部分を含む。そのため、㊦当該工事を経て新しく白砂が埋められた箇所と、㊩工事対象から外れて包含層や遺構が比較



第1図 HZK2003地点全体図



第2図 HZK2003地点D区遺構配置図 1面

的高いレベルまで遺っている箇所とがあり、それらはパッチ状に存在していた。調査では、まず高いレベルまで包含層や遺構が遺る④の部分の精査から着手した。それらのエリアでまず遺構が確認された面を第1面と呼ぶ。
(齋藤瑞穂)

溝 (第4図)

溝 SD4010 東西に掘られた溝である。形は整っていないが、自然流路ではない。最も広い箇所では幅68cmを測る。確認面からの深さは8cmである。SD4010からは土師器片と七輪のすのこが出土したが、小片で図化し得ない。
(齋藤瑞穂・谷 直子)

竪穴 (第4図)

竪穴 SI4004 本遺構は、シルトの広がりによって検出された。円形土坑 SK4002、SK4003、SP4021に切られる。楕円形でおおよそ東西方向を向き、短軸は80cm余、長軸は110cm以上となる。遺構が検出された最上層およびシルト層は遺物をそう多く含まない。厚いシルト層を剥ぐと、杯皿類が多量に出土し始める。この部分は、北側から東側にかけてテラスをもち、東側は調査区の外まで延びていく。一方、西側にはこのテラスがない。杯皿類はおおよそ3面に互って重なり、最下層の形状に沿って円形に分布する。杯皿類の下からは角礫などが出土する。礫のレベルは一定で、投げ込んだのではなく、意図的に敷いたらしいことを推知し得る。
(齋藤瑞穂)

第5～8図はSI4004出土である。第5図1は口禿の白磁碗で、大宰府編年の白磁碗Ⅸ類である。13世紀後半～14世紀前半に増加する(宮崎編 2000)。2～5は瓦質土器の捏鉢である。6は瓦質土器の火鉢である。7は陶器の搗鉢である。8～10は土師質の鍋である。8・10は口縁部が屈曲するが、9は素口縁である。14世紀後半～16世紀の所産である(山本他 1997)。11は滑石製石鍋である。口縁部に鏝が付き、加工痕が残る。第5図12～21はSI4004の4層下部一括である。12は内面に2条の突帯が付く陶器の鉢である。大宰府編年の陶器鉢Ⅰ類で、12世紀中頃から13世紀の所産である(宮崎編 2000)。13は黄釉盤の胴部である。14は瓦質土器の火鉢である。丸みのある脚がつく。15～17は瓦質土器の捏鉢である。18は土師質の捏鉢である。19は加工のある石で台石などに使用したと考えられる。20は短い鏝の付く滑石製石鍋である。外面に加工痕が残る。21は滑石製石鍋を再加工した石錘で、上下端部を削って紐かけ部を作る。

第6図・第7図1～69・71～94は糸切り底の土師器の坏と考えられる。概ね口径12cm～13.5cm、底径7.5cm～10cm、器高2cm～3.3cmの範囲に収まるサイズである。第7図25～59はSI4004の4層一括である。第7図24・52・55・56・60～94はSI4004から出土した土師器の坏・皿のうち、完形に復元できなかったものである。

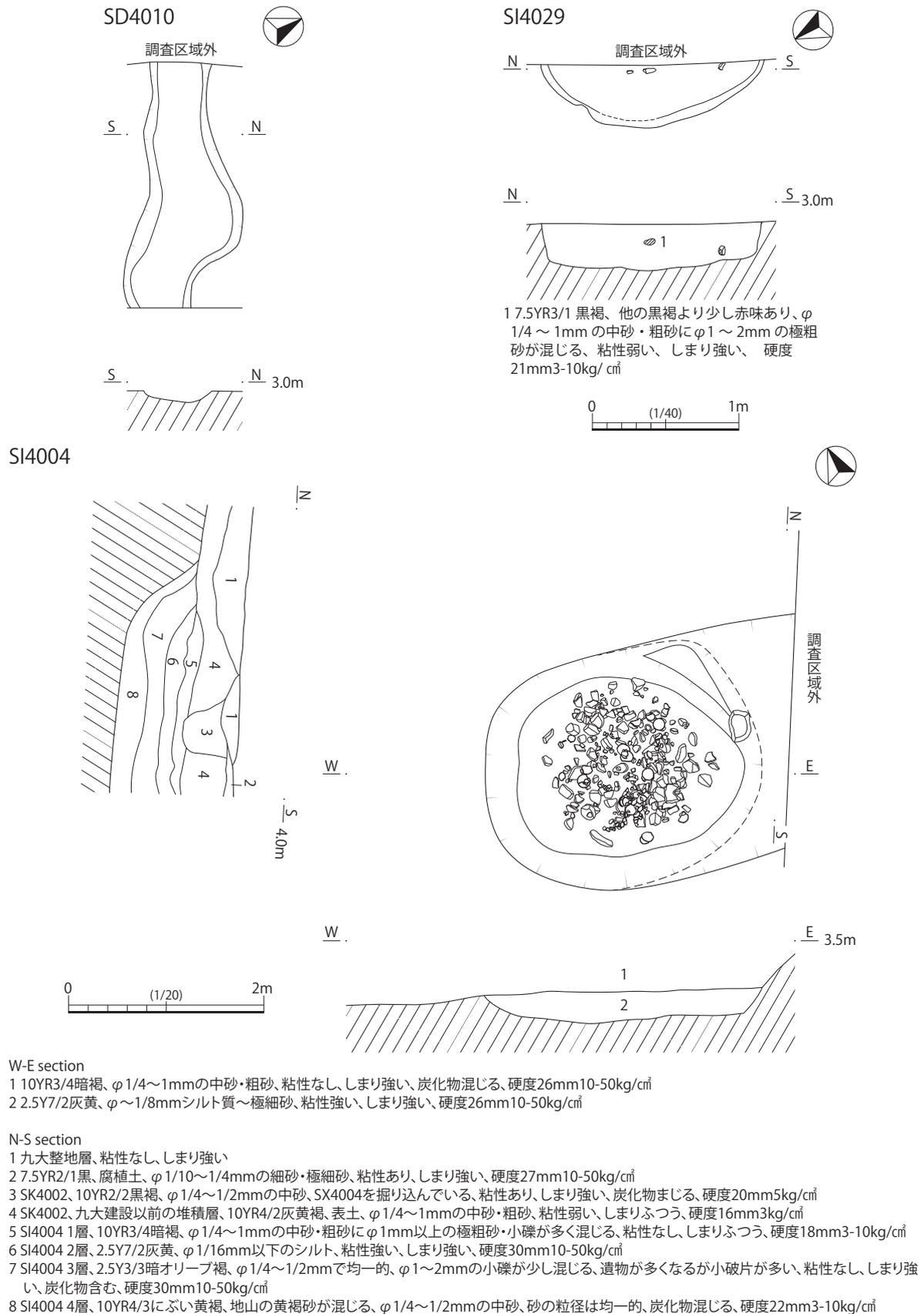
第8図は糸切り底の土師皿と考えられる。口径7.2cm～8.8cm、底径5.2cm～7.4cm、器高1.1cm～1.9cmの範囲に収まるサイズである。
(谷 直子)

竪穴 SI4029 調査区の東寄りで検出した。検出した範囲の限りでは、152cmに達する。確認面からの深さは32cmで、壁は垂直に立ち上がる。
(齋藤瑞穂)

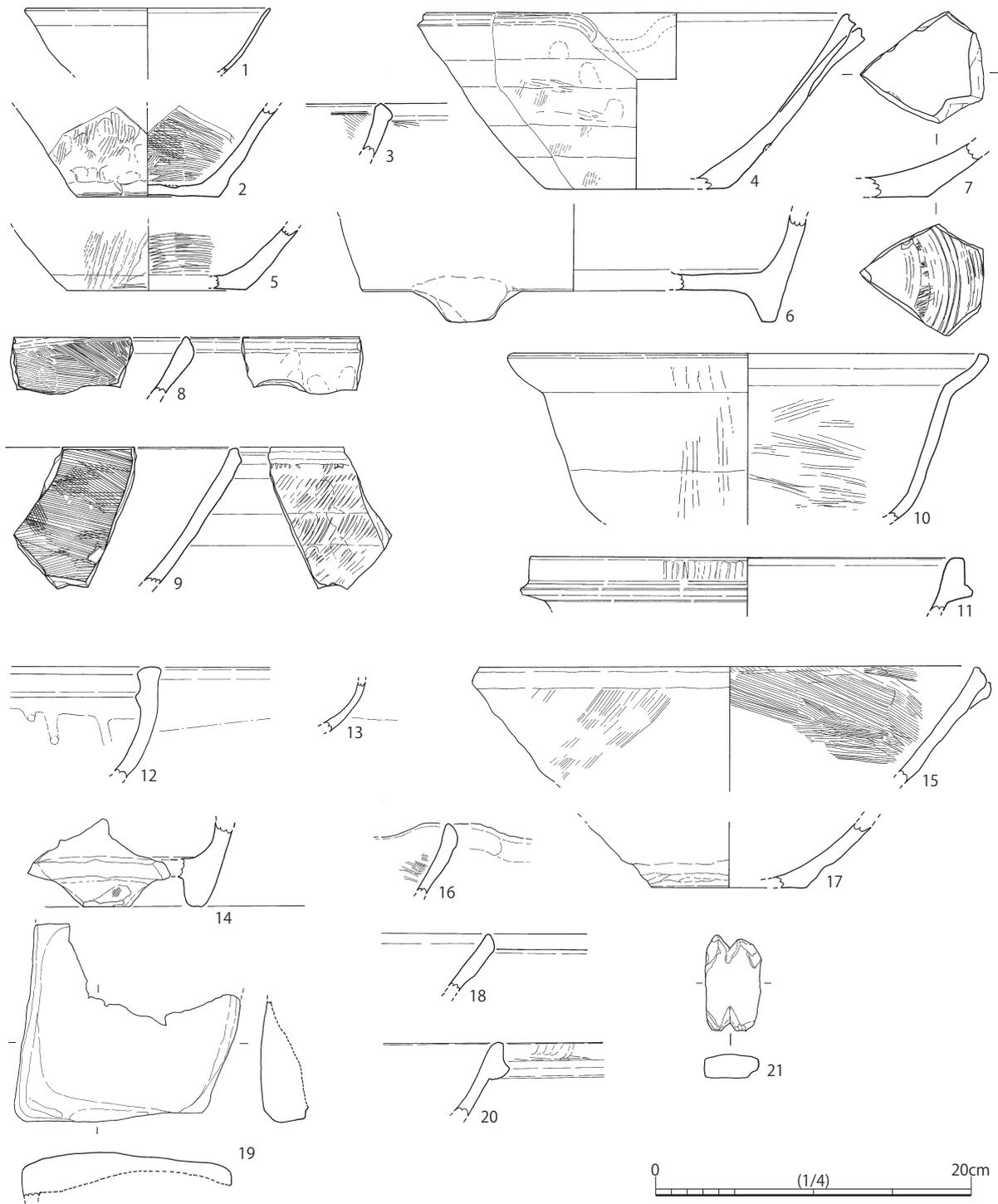
第14図8～10はSI4029出土である。8は陶器の甕である。灰白色の釉が薄くかかる。9は平瓦である。10は滑石製石鍋の鏝部分である。
(谷 直子)

土坑 (第9～10図)

土坑 SK4002 (第9図) SI4004を切る土坑で、長軸79cmを測る。確認面からの深さは13cmである。土師器の坏・鍋片が出土したが、小片で図化し得ない。
(齋藤瑞穂・谷 直子)



第4図 HZK2003地点 D 区1面 SD4010・SI4004・4029平面・断面図

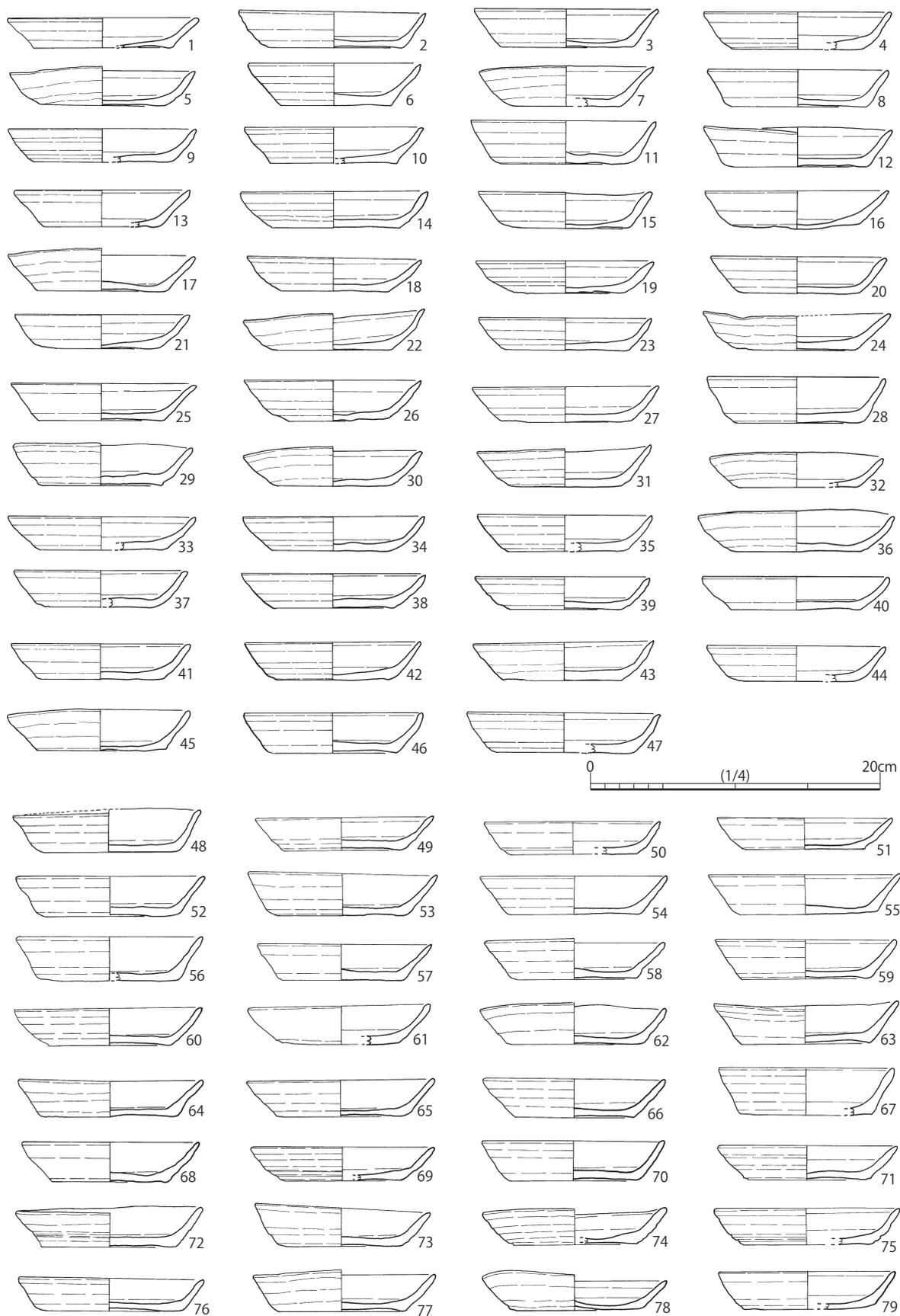


第5図 HZK2003地点D区1面SI4004出土遺物1

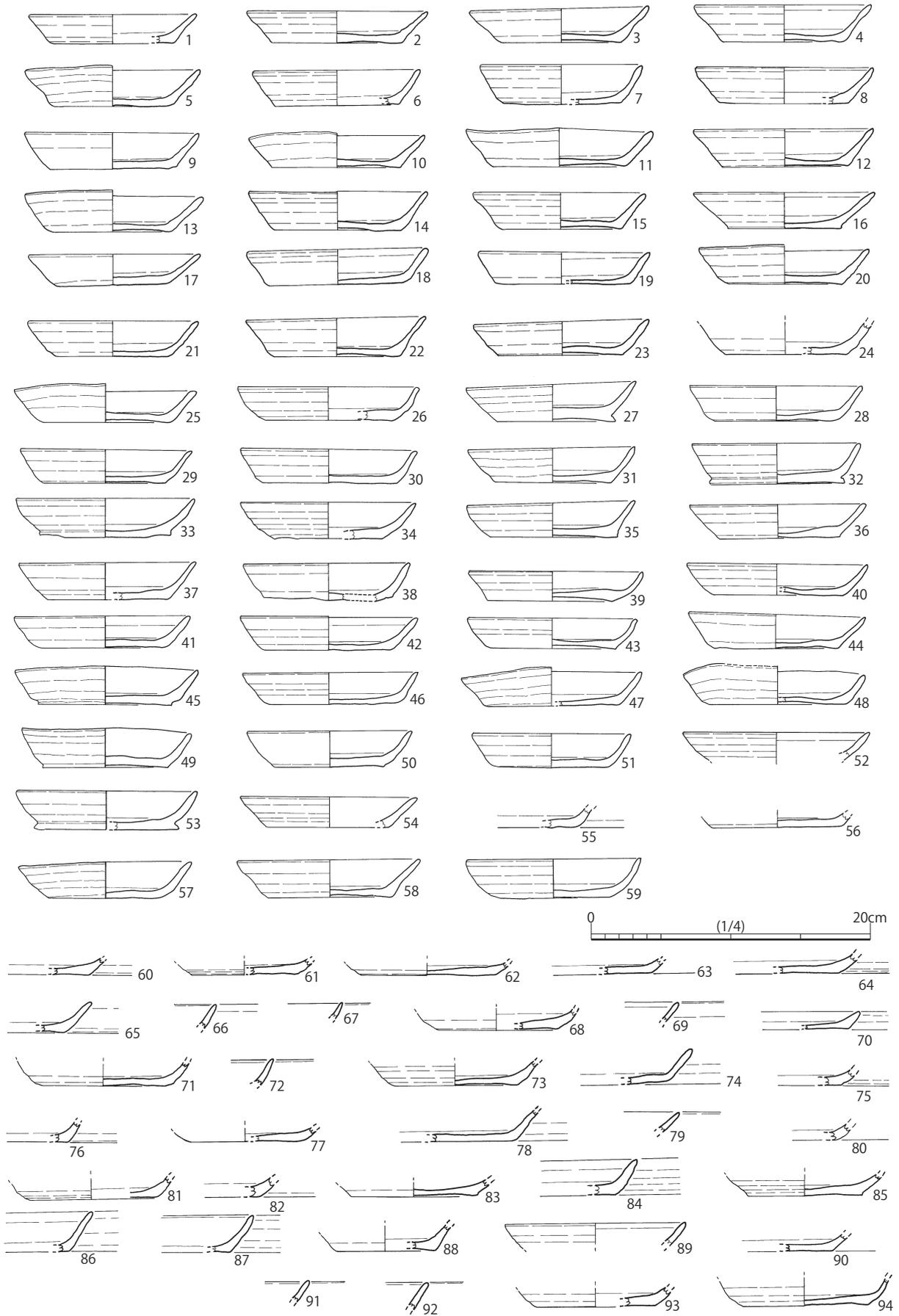
土坑 SK4003 (第9図) SI4004を切る不整形の土坑で、長軸63cm、短軸51cmを測る。確認面からの深さは14cmである。SK4003からは土師器片の他、瓦質土器、青磁片、染付、人形など中世から近代の遺物が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷直子)

土坑 SK4006 (第9図) 長軸45cm、短軸38cmの土坑で、確認面からの深さは13cmである。SK4006からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷直子)

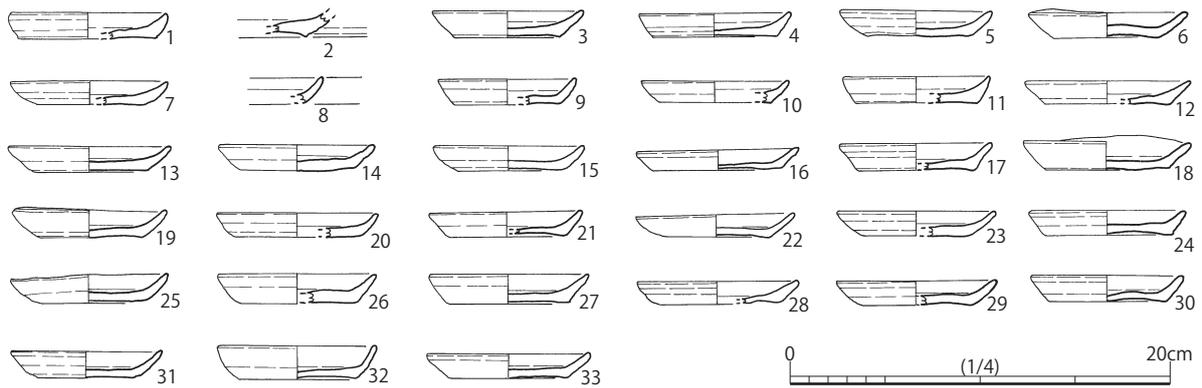
土坑 SK4007 (第9図) 円形の土坑で径40cm、確認面からの深さは9cmである。第14図1は



第6図 HZK2003地点D区1面SI4004出土遺物2



第7図 HZK2003地点D区1面SI4004出土遺物3



第8図 HZK2003地点 D 区 1 面 SI4004出土遺物4

SK4007出土の平瓦である。側面を面取りする。

（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK4008（第9図） 楕円形の土坑で長軸は60cm、短軸は40cmを超える。確認面からの深さは14cmである。第14図2はSK4008出土の丸瓦である。端部と内面側面を面取りする。他に中世の土師質の鍋や白磁片、瓦が出土したが小片で図化できなかつた。

（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK4018・SK4019・ピット SP4028・SP4030（第10図） まずプランを捉えたのが、SK4018とSK4019である。その後SK4018の精査を進めた際、同土坑の中央で別種の堆積がみつめられ、セクションの観察を経て別の遺構と判定した。SP4028と呼ぶのが、これにあたる。またSK4019の東方でも、同土坑に先行する不整形のピットが確認された。これを、SP4030と呼ぶ。

SK4018は長軸138cmで、楕円形を呈する。確認面からの深さは18cmを測る。SK4019は、SK4018とSP4030を切る。長軸63cm、短軸は48cmで、確認面からの深さは36cmである。SK4018を切るSP4028は、径40cm、深さは20cm、不整形のピット SP4030は、長軸は40cm以上、確認面からの深さは28cmであった。

（齋藤瑞穂）

第14図3・4はSK4018出土遺物である。3は白磁碗である。素口縁で、内面の口縁部に細い圈線が一条めぐる、大宰府編年の白磁碗Ⅷ類で、12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）。4は瓦質土器の播鉢である。播鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる（山本他 1997）。

SK4019・SP4028およびSP4030からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。

（谷 直子）

土坑 SK4020（第9図） 60×58cmの円形ピットで、確認面からの深さは27cmである。SK4020からは土師器の坏・鍋、中世の陶器片、瓦器碗、瓦が出土したが、小片で図化し得ない。

（齋藤瑞穂・谷 直子）

柱穴 SP4021（第11図） SI4004を切る柱穴で、中央が一段深い。58cm×40cm以上で、最も深い部分で確認面から16cmを測る。SP4021からは土師器・須恵器・白磁が出土したが、小片で図化し得ない。

（齋藤瑞穂・谷 直子）

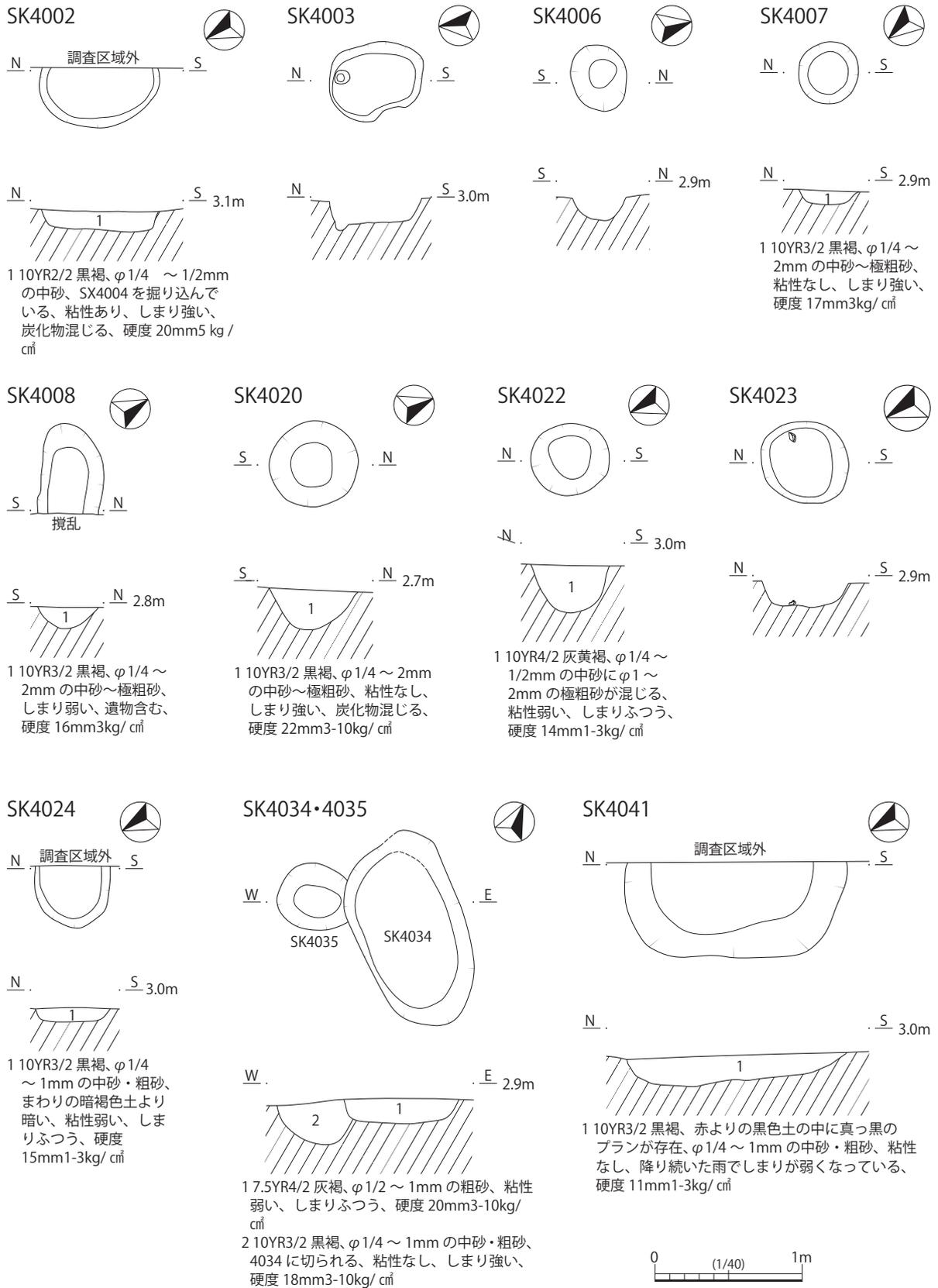
土坑 SK4022（第9図） 長軸53cm、短軸49cmの土坑で、確認面からの深さは32cmである。

（齋藤瑞穂）

第14図5～7はSK4022出土遺物である。5は平瓦である。端部を面取りする。6・7は外面に縄目タタキが残る丸瓦である。内面は布目残り、7には九州型吊り紐痕が見られる。14世紀以降の瓦と考えられる。

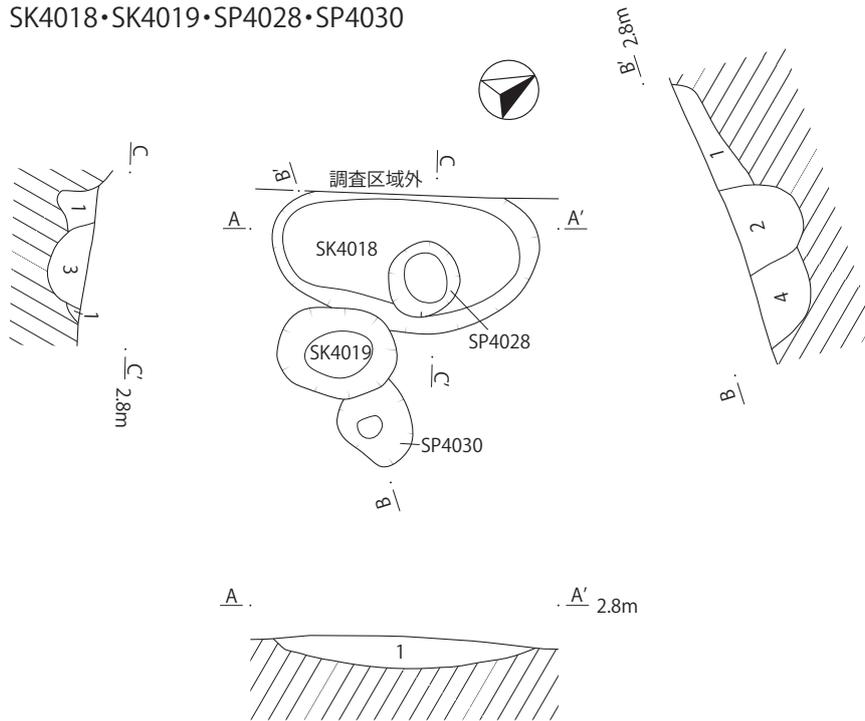
（谷 直子）

土坑 SK4023（第9図） 長軸59cm、短軸55cmの土坑で、確認面からの深さは16cmである。



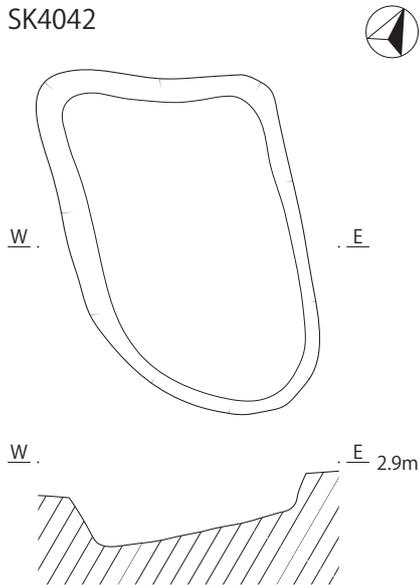
第9図 HZK2003地点D区1面SK4002・4003・4006~4008・4020・4022~4024・4034・4035・4041平面・断面図

SK4018・SK4019・SP4028・SP4030

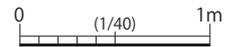
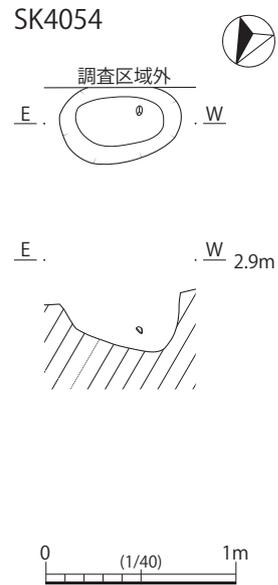


- 1 7.5YR4/3 褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂にφ1～2mmの極粗砂が混じる、粘性なし、しまりふつう、硬度 18mm3-10kg/cm³
- 2 10YR3/3 暗褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂、粘性なし、しまりふつう、硬度 15mm1-3kg/cm³
- 3 10YR3/4 暗褐、φ1/2～1mmの粗砂、粘性なし、しまり強い、硬度 20mm3-10kg/cm³
- 4 2.5Y4/4 オリーブ褐、φ1/4～2mmの中砂～極粗砂、粘性なし、しまり弱い、硬度 12mm1-3kg/cm³

SK4042



SK4054



第10図 HZK2003地点 D区1面 SK4018・4019・SP4028・4030・SK4042・4054平面・断面図

SK4023からは土師器の坏、瓦器碗、瓦が出土したが小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK4024 (第9図) 楕円形の土坑で長軸は50cm以上、短軸50cmを見込む。確認面からの深さは10cmである。SK4024からは土師器の坏、青磁碗、瓦が出土したが小片で図化し得ない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK4034・土坑 SK4035 (第9図) 切り合った2つの土坑で、SK4035が古く、SK4034が新しい。SK4034は長軸130cm、短軸74cmの土坑である。確認面からの深さは17cmである。他方SK4035は、径50cmほどの円形土坑である。深さ30cmほどとして図化しているが、若干掘りすぎた感があり、実際はもう幾分浅い。

(齋藤瑞穂)

第14図11・12はSK4034出土である。11は玉縁口縁の碗で、大宰府編年の白磁碗Ⅳ類である。時期は11世紀後半から12世紀前半で、12世紀後半まで一定量を占める(宮崎編 2000)。12は陶器の碗である。暗オリーブ灰色の釉に白色釉がかかる。

第14図13～16はSK4035出土である。13は龍泉窯系の青磁皿である。体部中位で屈曲し、内面に段が付く。口縁部は直線的である。大宰府編年の皿Ⅰ類で、12世紀中頃から後半の所産である(宮崎編 2000)。14は瓦質土器の碗である。粘土紐を巻き付けて高台とする。15は糸切り底の土師器の坏である。16は糸切り底の土師皿である。

(谷 直子)

土坑 SK4041 (第9図) 調査区東寄りで検出した土坑である。南北150cm、確認面からは最も深い箇所では21cmを測る。

(齋藤瑞穂)

第14図17～20はSK4041出土である。17は外面に櫛描文を有する青磁碗で、同安窯系青磁碗Ⅰ類である。12世紀中頃から後半の所産である(宮崎編 2000)。18は白磁碗である。体部内面に細い圈線が1条めぐり、19は平瓦、20は吊り紐痕のある丸瓦である。14世紀以降の所産である(松田他 2019)。

(谷 直子)

土坑 SK4042 (第10図) 九州大学設置以降に掘り込まれた遺構で、近代の遺物が多くを占める。

(齋藤瑞穂)

第14図34～37はSK4042出土の弥生土器である。34は甕の底部で丸底化している。35は甕の頸部である。36は壺の胴部で3条の断面三角形の突帯がめぐり、37は高坏の脚部で、外面にミガキを施し、赤色顔料が付着している。

(谷 直子)

土坑 SK4054 (第10図) 調査区東壁際で検出。楕円形の土坑で、長軸63cm、短軸43cm、確認面からの深さは30cmを測る。

(齋藤瑞穂)

第14図22はSK4054出土の糸切り底の土師器の坏である。

(谷 直子)

柱穴・ピット・礎石 (第11～13図)

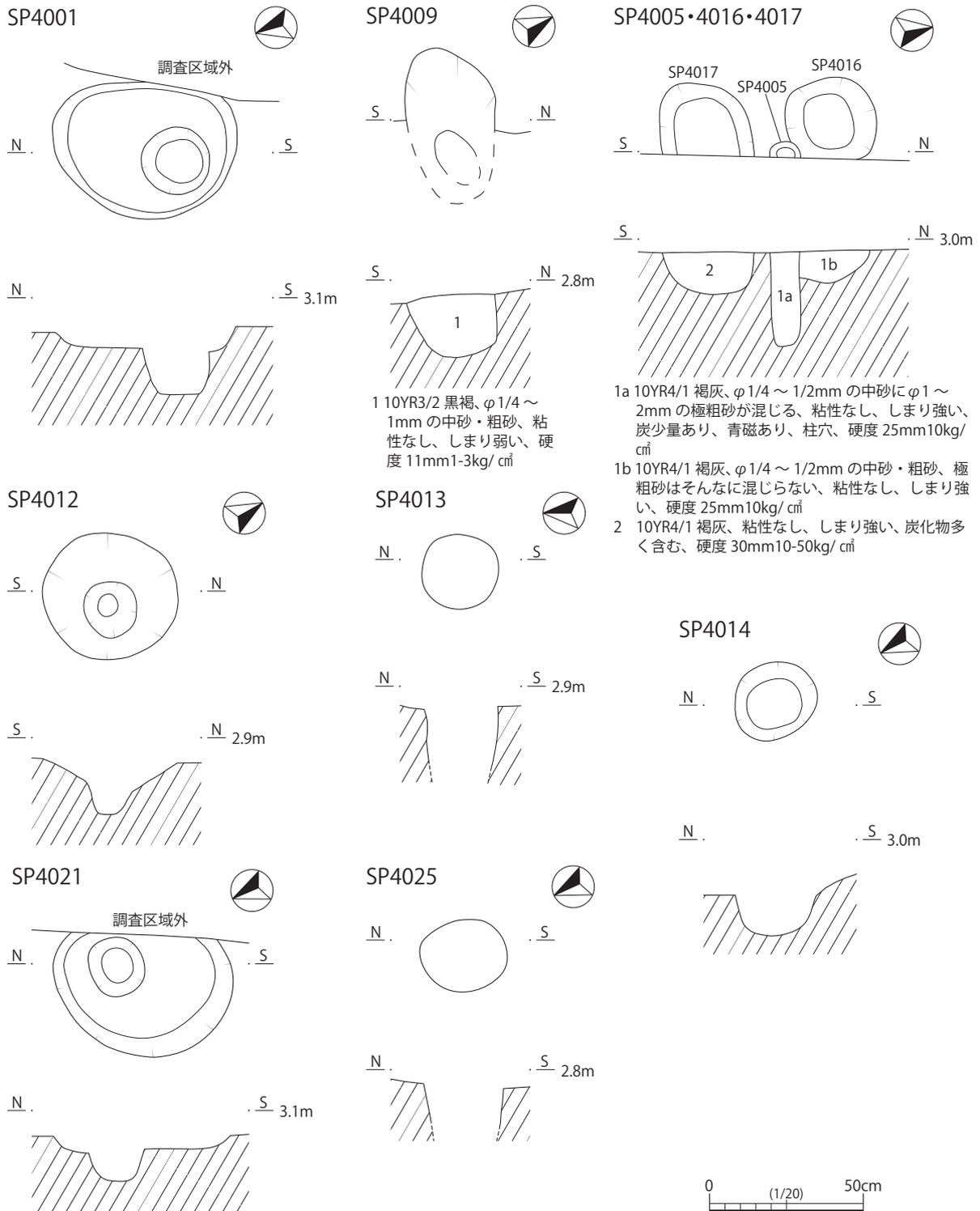
柱穴 SP4001 長軸58cmで、短軸は45cm前後になると見込まれる。柱穴とみられ、一部分が深くなる。最も深い部分は、確認面から23cmを測る。SP4001からは土師器片の他、青磁・白磁・染付・瓦など中世から近世の遺物が出土したが、小片で図化し得ない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

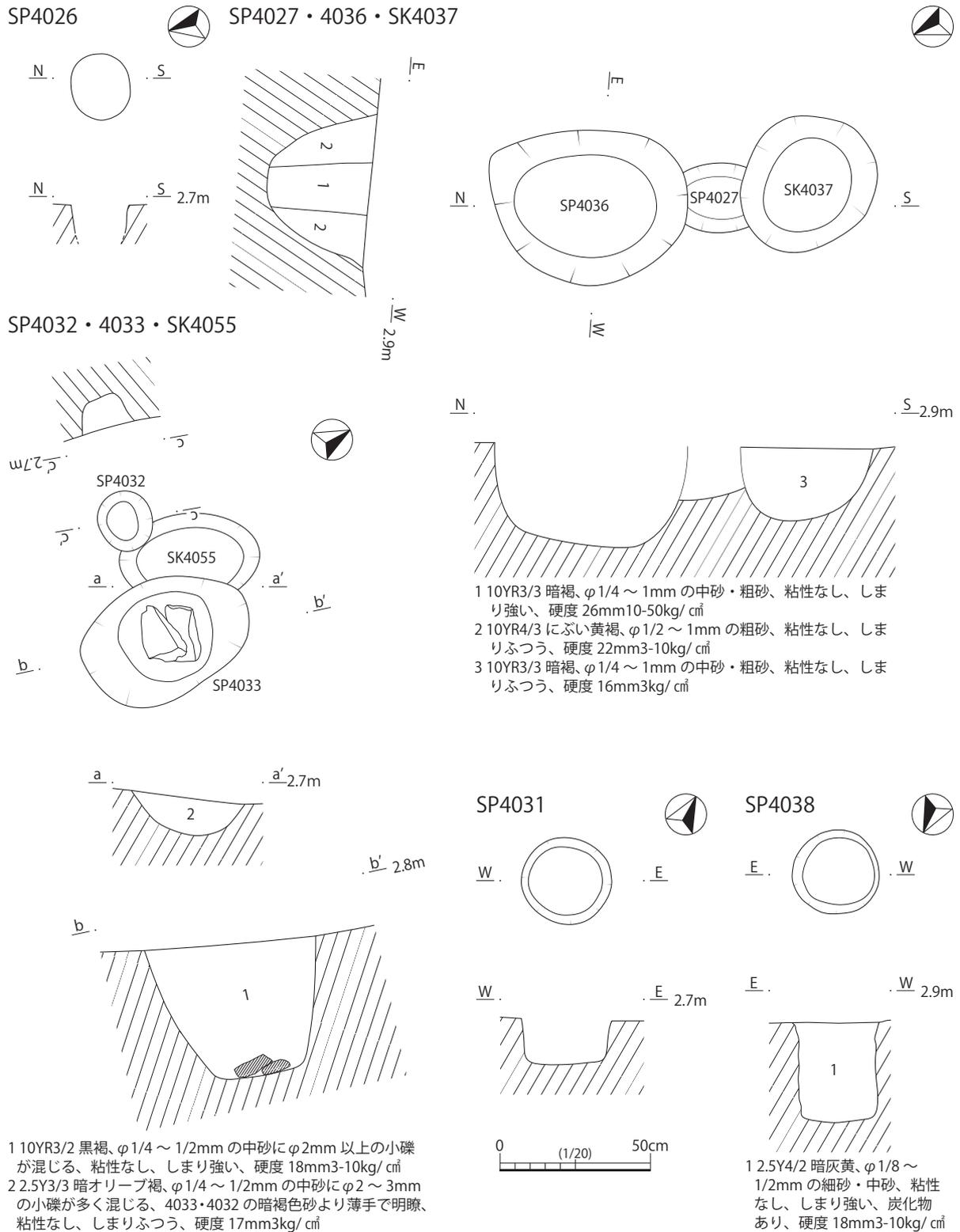
ピット SP4005・4016・4017 (第11図) 近接するピット群である。SP4005とSP4016の覆土の色味にそう違いはないが、炭の混じり方が明瞭に違っており、それを根拠として重複する2遺構と判断した。SP4005がSP4016を切る。SP4005は径10cm、深さ30cmを測る。SP4016は径30cm。確認面からの深さは11cmである。SP4017は長軸は25cmほど、短軸30cmを遺る。確認面からの深さは14cmである。

(齋藤瑞穂)

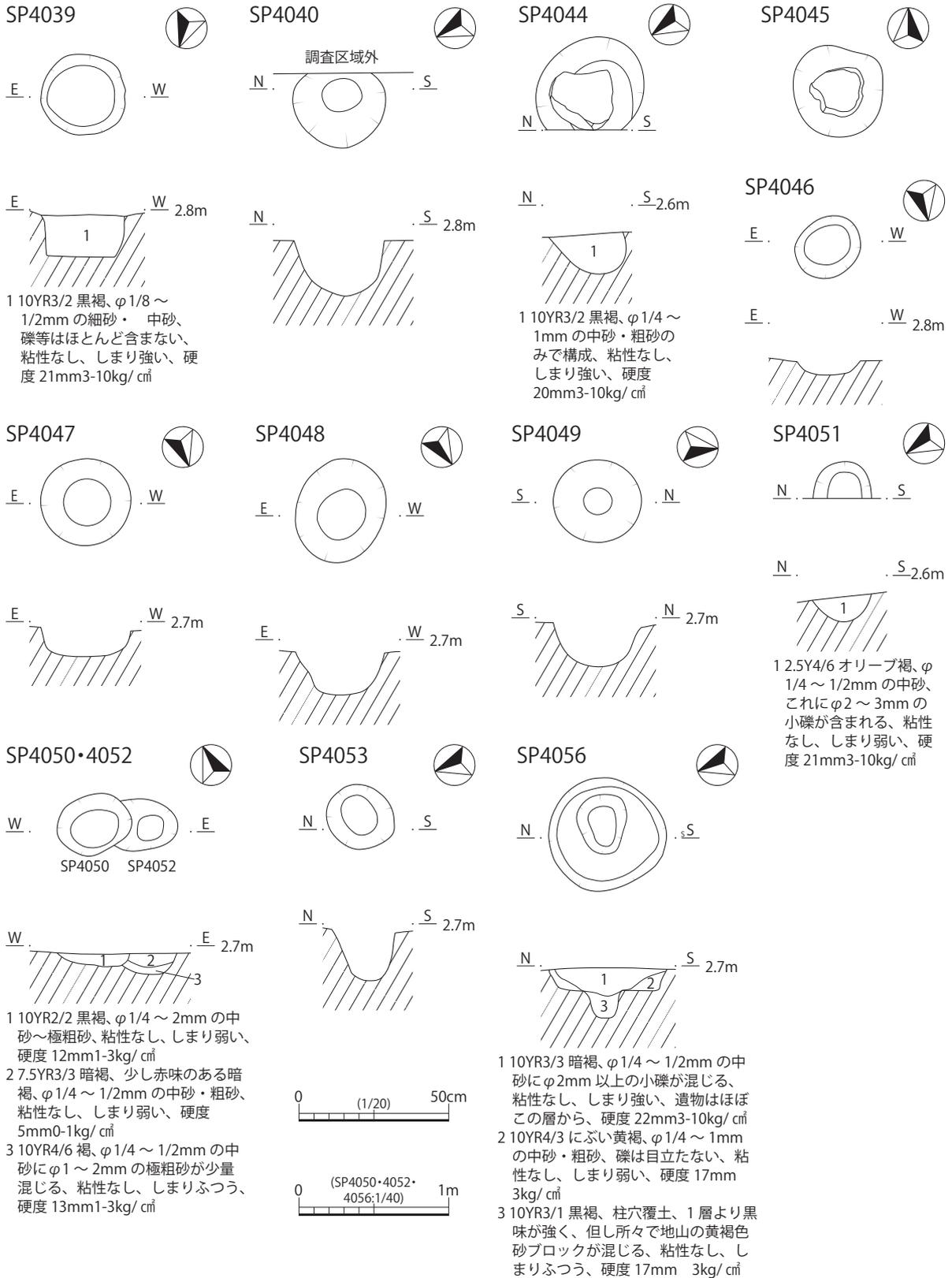
第14図23はSP4005出土の龍泉窯系青磁碗である。内面口縁部下に細い圈線が1条めぐり、片彫り



第11図 HZK2003地点 D区1面 SP4001・4005・4009・4012~4014・4016・4017・4021・4025平面・断面図



第12図 HZK2003地点D区1面 SP4026・4027・4031~4033・4036・SK4037・SP4038・SK4055平面・断面図



第13図 HZK2003地点 D 区1面 SP4039・4040・4044~4053・4056平面・断面図

で施文する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類である。12世紀中頃から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。SP4016からは遺物は出土していない。SP4017からは土師器片の他、中世の青磁片と陶器片が出土したが小片で図化し得ない。（谷 直子）

ピット SP4009（第11図） 楕円形のピットで東側は湮滅しているが、おそらく50cmを超えるであろう。確認面からの深さは20cmを測る。遺物は出土していない。（齋藤瑞穂）

礎石 SX4011 第1面で検出した礎石である。このレベルに底面が来る柱穴が存在したことを示す。（齋藤瑞穂）

柱穴 SP4012（第11図） 柱穴と推測されるピットで、中央が一段深くなる。中央部分は18cm × 16cmで、確認面からの深さは18cmである。SP4012からは土師質の挿鉢や白磁、陶器の破片など中世の遺物が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP4013（第11図） 真っ直ぐ立ちあがったピットで、径は24cm、確認面からの深さは26cmを測る。柱穴の可能性はある。（齋藤瑞穂）

第14図24はSP4013出土の糸切り底の土師器の坏である。他に中世の陶器片が出土したが小片で図化し得ない。（谷 直子）

ピット SP4014（第11図） 径26cmのピットで、確認面からの深さは13cmである。SP4014からは土師器片や陶器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP4025（第11図） 先だって行われた試掘調査地点付近で検出したピットで、柱穴の可能性はある。28cm × 24cmの楕円形で、確認面からの深さは28cmを測る。SP4025からは土師器片、青磁碗、瓦が出土したが小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP4026（第12図） 径20cmの小ピットで、確認面からの深さは16cmである。SP4026からは遺物は出土していない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP4027・柱穴 SP4036・土坑 SK4037（第12図） SP4036とSK4037を精査している過程でSP4027を検出した。SP4027が古く、SP4036・SK4037が新しい。SP4036は長軸65cm、短軸52cmの柱穴である。径18cm程度の柱を立てたらしい。SK4037は46cm × 44cmの円形土坑である。確認面からの深さは24cmを測る。SP4027は径22cmの小ピットである。（齋藤瑞穂）

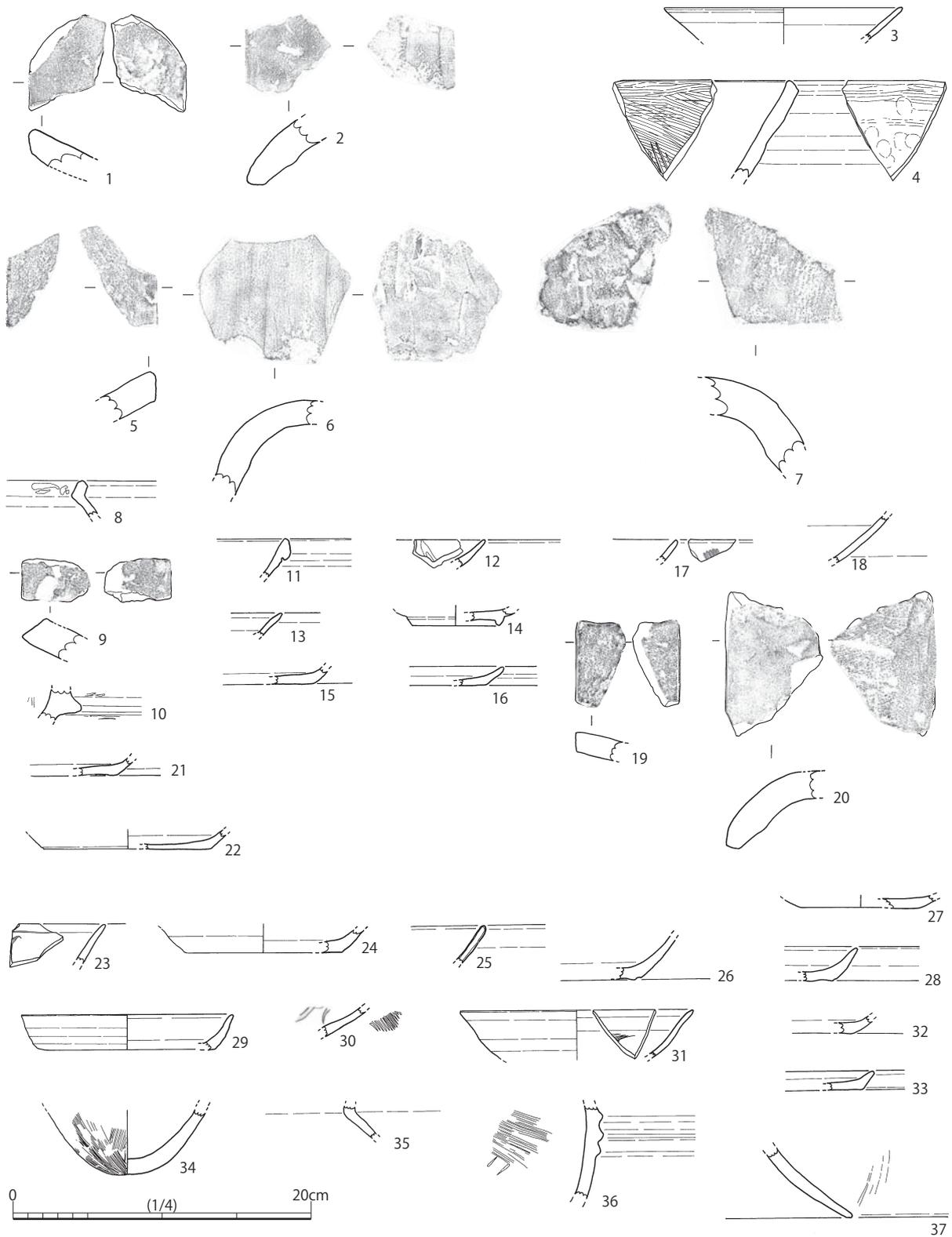
SP4027からは土師器片、SP4036からは土師器の坏・皿、陶器片が出土したが、小片で図化し得ない。SP4037からは、土師器の坏・挿鉢と陶器片が出土したが、小片で図化し得ない。（谷 直子）

ピット SP4031（第12図） 径30cmのピットで、確認面からの深さは15cmである。遺物は出土していない。（齋藤瑞穂）

ピット SP4032・柱穴 SP4033・土坑 SK4055（第12図） SK4055をSP4032とSP4033が切る。SP4032は20cm × 18cmの小ピットで、確認面からの深さは10cmである。SP4033は、長軸57cm、短軸40cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは44cmを測る。底面で、片岩3枚が重なった状態で検出された。片岩は南側に傾いていたが、当初は礎石として、水平に敷いていたものであろう。柱を抜き取った際に傾いた可能性が考えられてよい。これらに先行するSK4055は、長軸46cm、短軸22cm以上の楕円形土坑で、確認面からの深さは12cmである。（齋藤瑞穂）

SP4032からは遺物は出土していない。第14図25～28はSP4033出土である。25は青磁碗である。半濁する釉を厚く施し、外面に稜線を削り出す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類で、14世紀以降の所産である（宮崎編 2000）。26～28は糸切り底の土師器の坏である。SK4055からは遺物は出土していない。（谷 直子）

柱穴 SP4038（第12図） 径28cmの円形ピットで、確認面からの深さは33cmである。礎石を欠



第14図 HZK2003地点 D区1面 SK・SP・SX・SI 出土遺物

くものの、覆土には片岩の小破片が覆土に含まれる。(齋藤瑞穂)

第14図29は SP4038出土の土師器の坏で、底部に板状圧痕が付く。(谷 直子)

柱穴 SP4039 (第13図) SP4039もまた径28cmの円形ピットである。底面標高に違いがあるものの、壁の垂直ぶりは SP4038によく似る。SP4039からは土師器片、陶器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4040 (第13図) 径30cm、確認面からの深さ18cmの小ピットである。(齋藤瑞穂)

第14図30は SP4040出土の青磁碗で内面に篋描き、外面に櫛描きで施文する。同安窯系青磁碗 I 類で、12世紀中頃から後半の所産である(宮崎編 2000)。(谷 直子)

礎石 SX4043 第1面で検出した礎石である。このレベルに底面が来る柱穴があったことを示すが、プランを検出することはできなかった。(齋藤瑞穂)

柱穴 SP4044 (第13図) SX4043の南側で検出した柱穴で、礎石をもつ。礎石の標高は、SX4043とほぼ等しい。西側を攪乱で失っている。径は65cmで、確認面からの深さは26cmである。

(齋藤瑞穂)

第14図31は SP4044出土の白磁碗である。内面口縁部下に細い圈線が1条目めぐり、櫛描き文が付く。大宰府編年の白磁碗 V-4類で、12世紀中頃から出土開始し、後半まで量を占める(宮崎編 2000)。

(谷 直子)

柱穴 SP4045 (第13図) 径30cmの柱穴で、中央底面に礎石が残る。(齋藤瑞穂)

第14図32・33は SP4045出土である。32は土師器の坏、33は土師器の皿で、底部に板状圧痕が付く。

(谷 直子)

ピット SP4046 (第13図) 径22cmの小ピットで、確認面からの深さは5cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4047 (第13図) 径30cmのピットで、確認面からの深さは8cmを測る。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4048 (第13図) 径35cm×29cmのピットで、確認面からの深さは14cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4049 (第13図) 径29cmのピットで、確認面からの深さは13cmを測る。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4050・SP4052 (第13図) SP4050がSP4052を切る。SP4050は長軸48cm、短軸41cmの楕円形、SP4052は長軸は40cm、短軸33cm以上が見込まれる。確認面からの深さはそれぞれ、8cm、13cmを測る。(齋藤瑞穂)

SP4050からは土師器の坏片が出土したが、小片で図化し得ない。第14図21は SP4052出土の糸切り底の土師器の坏である。(谷 直子)

ピット SP4051 (第13図) 径20cm、確認面からの深さ8cmの小ピットが半分ほど残存している。遺物は出土していない。(谷 直子)

ピット SP4053 (第13図) 径22cm、確認面からの深さ16cmの小ピットである。SP4053からは遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

柱穴 SP4056 (第13図) 中央を深く掘り込んだ土坑である。最深部が面をとることから柱穴と評価した。第2遺構面で輪郭が明らかとなった溝 SD5003より新しい。径は77cm、確認面からの深さは概ね15cm、中央最深部で35cmである。SP4056からは土師器の坏・皿・鍋、青磁、白磁、陶器が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

（2）第2遺構面の調査

第1遺構面から20cm余り層を剥ぐと、遺構のプランが新たに検出され始める。第1遺構面で本来検出されるはずの遺構を含む可能性があるが、多くはない。第1遺構面から20cm余り深い部分で検出した遺構検出面を、D区第2遺構面と呼ぶ。

溝（第15・17・20・23・30図）

土坑 SK4072・溝 SD4073・土坑 SK4076・溝 SD4144（第15・20・21図） 円形の土坑 SK4072と北東－南西方向に掘られた溝 SD4144が、東西方向に掘られた SD4073を切る。SK4072は径96cmの土坑で、確認面からの深さは18cmを測る。それに先行する SD4073は、幅128cmの溝である。最も深い部分で、40cmを測る。2層の堆積ぶりからみて、覆土は西から埋まっていったらしい。SD4144は、不整形で、断面計測部分での幅は68cm、確認面からの深さは34cmである。SD4144はSK4076に切られる。したがって形成順序は、㊦ SD4073→SK4072、㊧ SD4073→SD4144→SK4076と整理し得る。SK4076は長軸70cm、短軸52cm、確認面からの深さは32cmである。（齋藤瑞穂）

SK4072からは土師器、陶器の破片が出土したが、小片で図化し得ない。

第16図1～12はSD4073出土である。1は内面に片彫りで分割線を描いており、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-4類である。2・3は青磁皿で、3は内面にジグザグの櫛点描文を施し、同安窯系青磁皿Ⅰ類である。青磁碗、青磁皿ともに12世紀の後半から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。4は白磁の皿である。5・6は須恵器である。5はラッパ状に開く口縁部で櫛描きの波状文の下部に突帯が2条めぐる。ハソウの口縁部か。6は高坏脚部である。7は須恵質の捏鉢の口縁部である。8は土師器の坏である。9～11は土師皿で9・11は糸切り底である。12は滑石製石鍋の底部である。

（谷 直子）

SK4076からは遺物は出土していない。

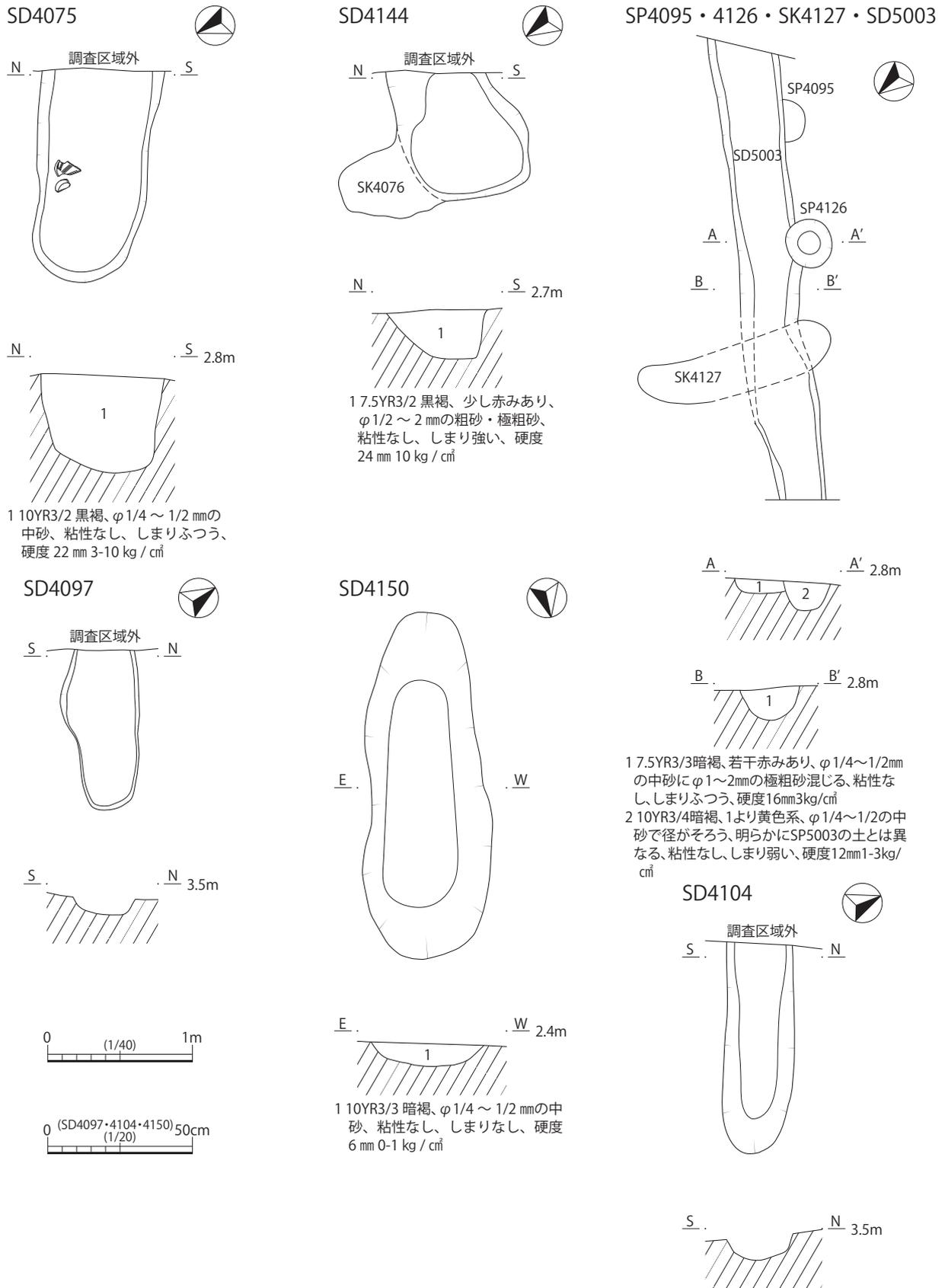
第16図32～38はSD4144出土である。32は青磁碗底部である。33は口縁部が短く屈曲する白磁碗で、大宰府編年の白磁碗ⅤまたはⅧ類である。いずれにせよ12世紀中頃に増加する。34・35は白磁皿で35は口禿となり、白磁皿Ⅸ類である。13世紀後半～14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。36は瓦質土器の捏鉢。37は糸切り底の土師器の坏である。38は平瓦である。（谷 直子）

溝 SD4075（第15図） 東西方向に掘られた溝で、東は調査範囲の外まで続いていく。幅は84cm、確認面からの深さは74cmを測る。北・南壁ともほぼ垂直に立ち上がる。（齋藤瑞穂）

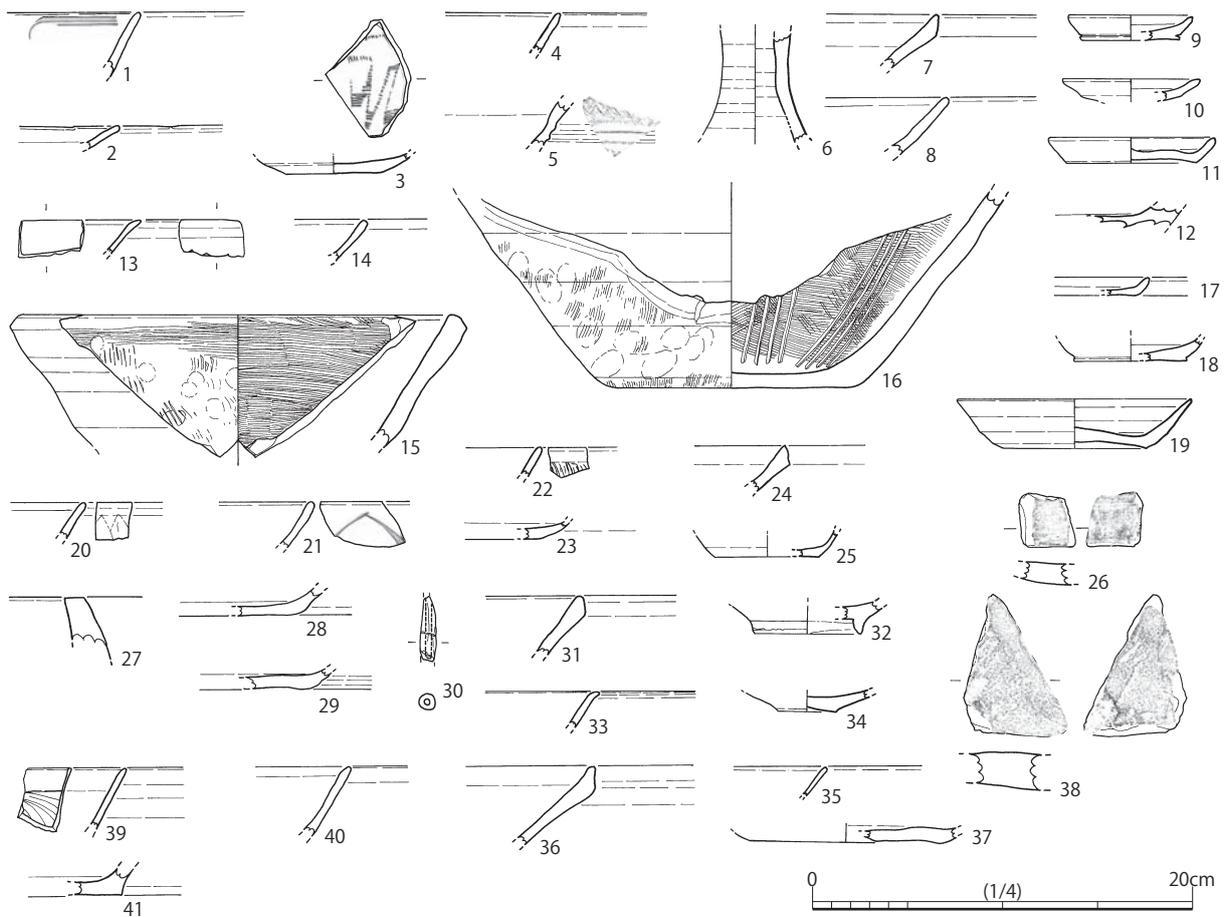
第16図13～19はSD4075出土である。13・14は白磁である。13は皿で、体部中位で屈曲する。14は碗で短く屈曲する口縁部を持つ。大宰府編年の白磁碗ⅤまたはⅧ類と判断され、12世紀中頃に増加する（宮崎編 2000）。15は瓦質土器の捏鉢、16は搦鉢である。搦鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる（山本他 1997）。17・18は糸切り底の土師皿である。19は糸切り底の土師器の坏である。（谷 直子）

土坑 SK4087・不明遺構 SX4088・礎石 SX4107・ピット SP4110・土坑 SK4111・土坑 SK4116・土坑 SK4117・溝 SD4118（第17・30図） 第2遺構面の遺構検出作業において、当初大型溝1条として検出したのがSX4088である。当初は「SE」4088の番号をあたえ、同溝の北壁がSP4087を、南壁がSK4111、SK4116、SD4118を切る、SK4117に切られるという関係で理解した。まずは、これらの諸遺構の特徴を解説する。

SK4087は径70cmの土坑である。確認面からの深さは15cmである。SP4110は径31cmのピットで、確認面からの深さは17cmである。確認面で青磁碗が出土した。SK4111を切る。SK4111は、一部の



第15図 HZK2003地点D区2・3面 SD4075・4097・4104・SK4127・SD4144・4150・5003・SP4095・4126平面・断面図



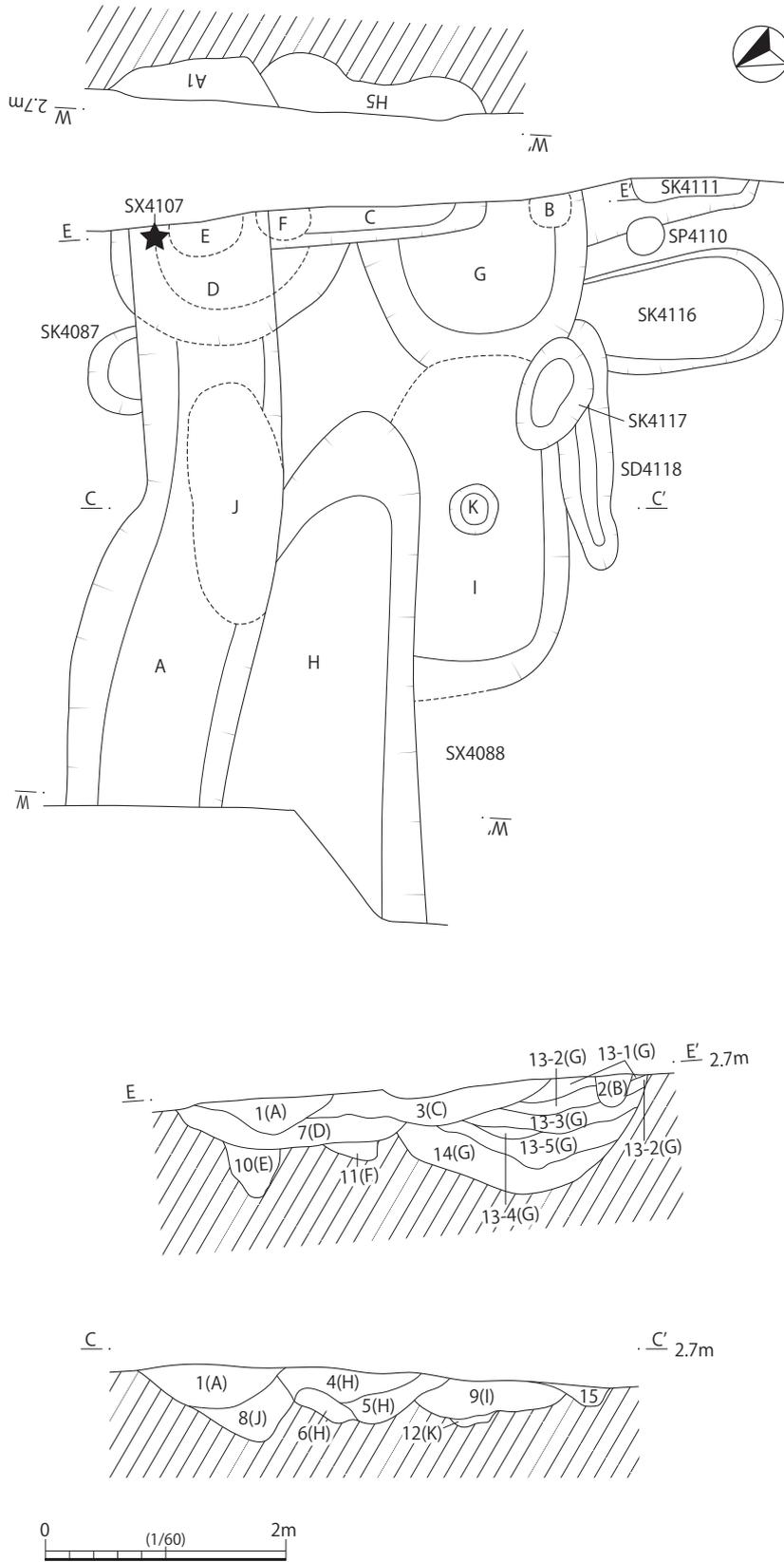
第16図 HZK2003地点 D 区 2 面 SD・SK 出土遺物

み検出し得た遺構で、さしあたって土坑と評価するものの、溝の可能性も存する。確認面からの深さは12cmである。SK4116は長軸は160cm以上、短軸100cmになるものとみられる。確認面からの深さは15cmである。SD4118は、SK4116を切る。幅45cm、確認面からの深さは15cmほどであった。SK4117はこのSD4118とSX4088とを切る。なお、「SE」4088を検出した時点で、その確認面で角礫が1例検出された。これをSX4107と呼ぶ。このレベルに底面が来る柱穴が存在したことを示す。

さて、「SE」4088は1条の大型溝とみて番号を附したものの、部分ごとに覆土の色味が異なっていた。そこで、調査担当者は中央にベルトを残し、断面確認ラインを3面設定して（E-E'断面、C-C'断面、W-W'断面）、遺構の実態解明に努めた。結果、12の遺構が複雑に切り合っていることが判明している。それぞれSX4088A～4088Jの番号で整理する。

最も新しいのは、北側を貫く溝SX4088Aである。SP4087と、後述する土坑SX4088C、土坑SX4088D、溝SX4088Hを切る。よく遺っている部分で幅141cm、溝の底の標高はおおよそ2.25～2.4mである。ピットSX4088Bは、E-E'断面によって検出された小ピットである。南東部の土坑SX4088Gより新しい。幅は10cmである。土坑SX4088Cは東隅で検出された遺構である。SX4088Aに先行し、土坑SX4088D、土坑SX4088Gより新しい。本来の土坑のプランの南西隅を検出し得たものと理解している。南北60cmで、確認面からの深さは8cmである。

土坑SX4088Dは、溝SX4088Aと如上のSX4088Cに先行し、土坑SX4088G、ピットSX4088EとSX4088Fより新しい。南北は165cm程度を測る。SX4088Aの溝底より15cm程度深い。



- 1 10YR4/2灰黄褐、 ϕ 1/4~2mmの中砂~極粗砂、粘性なし、しまり強い、硬度26mm10-50kg/cm²
- 2 (ピットB)の覆土、10YR5/3にぶい黄褐、 ϕ 1/4~1mmの中砂・粗砂に2mm以上の小礫混じる、粘性なし、しまり強い、硬度20mm3-10kg/cm²、うねうねなし、うねうねを切る
- 3 (溝?土坑?C)、7.5YR4/3褐、 ϕ 1/4~1/2mmの中砂に ϕ 2mm以上の小礫が多く混じる、粘性なし、しまり強い、硬度24mm10kg/cm²
- 4 (溝H)の上層、10YR4/3にぶい黄褐、 ϕ 1/4~1/2mmの中砂に ϕ 1/2~1mmの粗砂が混じる、うねうねあり、粘性なし、しまり強い、硬度22mm3-10kg/cm²、W-W面には見えず
- 5 (溝H)の下層、10YR3/4暗褐、 ϕ 1/4~1/2mmの中砂に ϕ 1~2mm以上の極粗砂・小礫が混じる、4層よりも粒が大きい、粘性なし、しまり強い、硬度22mm3-10kg/cm²
- 6 (溝H)の最下層、7.5YR3/1やや赤みのある黒褐、 ϕ 1/4~1mmの中砂・粗砂、貝ブロック状、混貝土層、貝はシジミ系か?、粘性なし、しまり強い、硬度24mm3-10kg/cm²
- 7 (溝D)の覆土、10YR3/3暗褐、 ϕ 1/8~1/2mmの中砂・細砂に ϕ 2mm以上の小礫混じる、粘性なし、しまり強い、硬度24mm10kg/cm²
- 8 (土坑J)の覆土、10YR6/4にぶい黄橙、 ϕ 1/8~1/2mmの細砂・中砂に ϕ 1mmの粗砂が混じる、粘性なし、しまり強い、硬度16mm3kg/cm²、中央に細長く横たわる溝A・Hより古い
- 9 (土坑I)、2.5Y4/3オリーブ褐、 ϕ 1/4~1mmの中砂・粗砂、まれに ϕ 1~2mmの極粗砂、粘性なし、しまり強い、硬度24mm10kg/cm²、溝Hより古く、ピットKよりも新しい、土坑Gよりは新しい
- 10 (小ピットE)の覆土、10YR5/3にぶい黄褐、 ϕ 1/4~1mmの細砂・中砂、粘性なし、しまりふつう、硬度18mm3-10kg/cm²
- 11 (小ピットF)の覆土、10YR4/4褐、 ϕ 1/4~1/2mmの中砂・粒が揃う、粘性ふつう、しまりふつう、硬度20mm3-10kg/cm²、7層溝に切られる
- 12 (小ピットK)の覆土、2.5Y3/2黒褐、 ϕ 1/4~1/2mmの中砂、粘性なし、しまりふつう、硬度16mm3kg/cm²、(土坑I)より古い
- 13a (土坑G)の覆土、硬度22mm3-10kg
- 13c (土坑G)の覆土、10YR5/6黄褐、黒味のある砂と地山の黄褐色がまだらに堆積、 ϕ 1/4~1/2mmの細砂~中砂+小礫、10YR3/3暗褐がうねうね入る、粘性なし、しまり弱い、硬度22mm3-10kg/cm²、一気に埋まったか
- 13d (土坑G)の覆土、硬度24mm10kg/cm²
- 13e (土坑G)の覆土、硬度14mm1-3kg/cm²
- 13h (土坑G)の覆土、硬度22mm3-10kg
- 14 (土坑G)の覆土、10YR2/2黒褐が主、黒色砂と黄褐色砂がまだらに入る、13a~e層との違いは明瞭、 ϕ 1/8~1/2mmの細砂・中砂に ϕ 1mm以上の極粗砂・小礫混じる、硬度18mm3-10kg/cm²
- 15 SD4118、10YR4/2灰黄褐、 ϕ 1/2~2mmの粗砂・極粗砂で構成、粘性なし、しまり強い、硬度20mm3-10kg/cm²
SK4116
1 2.5Y4/3オリーブ褐、 ϕ 1/4~1mmの中砂・粗砂、粘性なし、しまり弱い、硬度8mm1kg/cm²

第17図 HZK2003地点D区2・3面 SK4087・SX4088・4107・SK4116・4117・SD4118
平面・断面図

土坑 SX4088G は、土坑 SX4088D に先行し、SX4088D の坑底よりさらに55cm 深い土坑である。13・14層は北側から流れ込んでおり、13層は同種の砂が繰り返して堆積していったことを示す。短期間で埋まったに違いない。

溝 SX4088H は、中央を西側に延びていく溝で、土坑 SX4088I、土坑 SX4088J を切り、溝 SX4088A に切られる。4088A に併行するが、4088A ほどは東に達しない。幅は140cm で、溝底の標高も4088A とほぼ変わらない。6層は貝層である。

土坑 SX4088I は、南側中央を占める遺構である。SD4118を切り、SK4117と SX4088H に切られる。東側を掘りすぎてしまったため、本土坑と SX4088G の新旧関係が明確でない。ただし、確認面での色味では、本土坑の方が新しいように思われる。土坑 SX4088J は SX4088A や SX4088H に先行する土坑であり、ピット SX4088K は土坑 SX4088I にそれぞれ先行する。

なお、多数の遺構が複雑に切り合っていたため、遺物を遺構ごとに取り上げることはできなかった。SX4088内を任意にゾーン分けし、遺物を取り上げている。対応関係は次のとおりである。

ゾーン 1：4088B・4088C の一部・4088G・4088I の一部

ゾーン 2：4088A の一部・4088D・4088E・4088F

ゾーン 3：4088I の大半

ゾーン 4：4088H

ゾーン 5：4088H

ゾーン 6：4088A の一部

ゾーン 7：4088A の一部・4088J

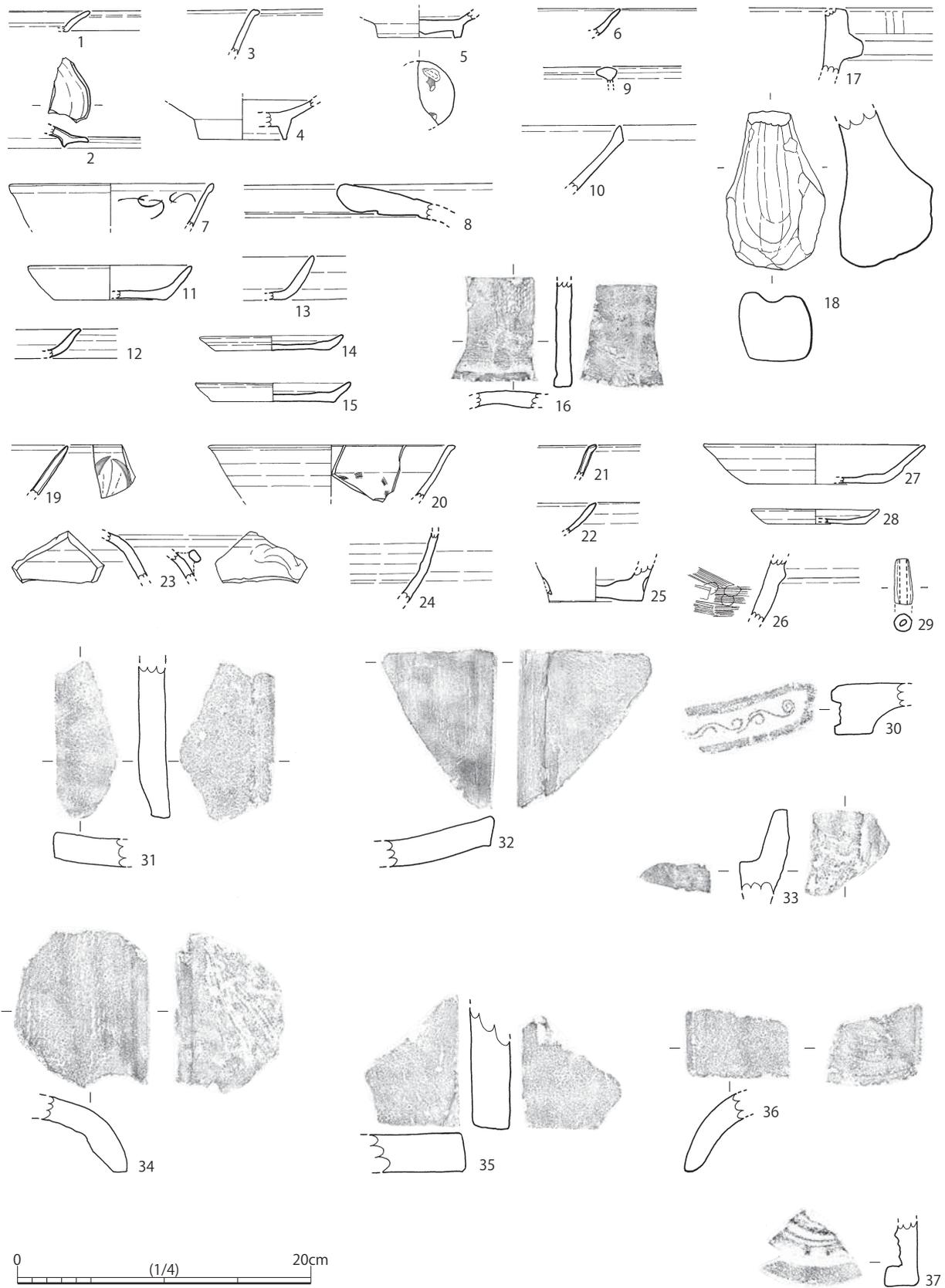
（齋藤瑞穂）

SP4087からは遺物は出土していない。

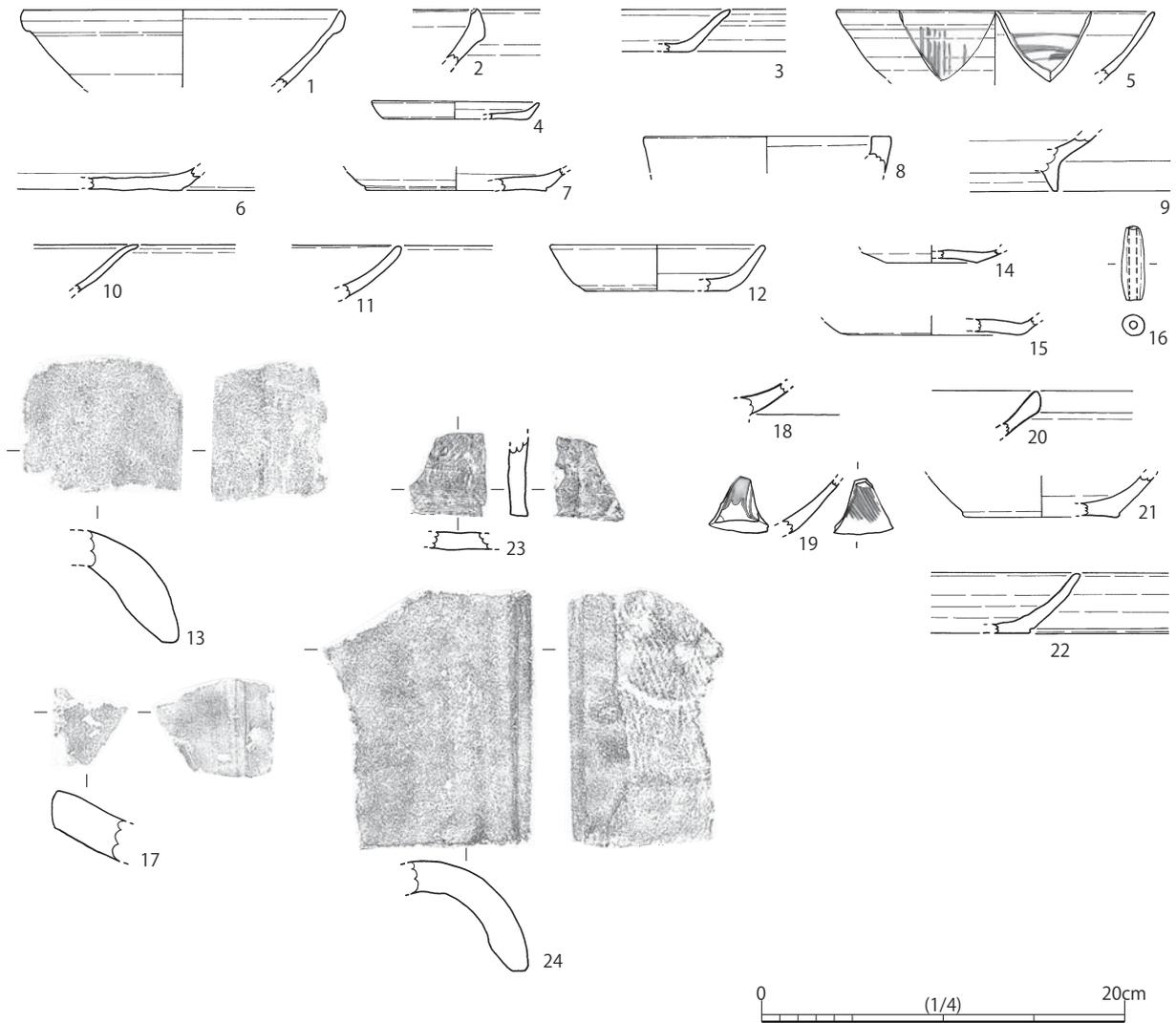
第18図・第19図は SX4088出土である。SX4088は形状が不整形の遺構であったため、ゾーンごとに遺物の取り上げを行った。第18図1～18はゾーン1出土である。1は青磁皿である。口縁部が外反し、体部中位で屈曲する形状から、大宰府編年の同安窯系青磁皿Ⅰ類と判断した。12世紀の後半から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。2は青磁の容器蓋である。小さな返しが付く。3～5は白磁碗である。3は短く屈折した口縁部から白磁碗ⅤまたはⅧ類、4は細く高く直立するケズリ高台から白磁碗Ⅴ類と判断した。いずれも12世紀中頃に増加する（宮崎編 2000）。6は白磁皿である。7は陶器碗で、内面に施文する。8は内側に大きく張り出す口縁の陶器甕である。赤褐色の胎土、釉調は灰黄褐釉で口縁部を拭きとることから、大宰府編年の陶器甕Ⅰ類で、13世紀の所産である（宮崎編 2000）。9は陶器の鉢である。10は瓦質土器の捏鉢である。11～13は土師器の坏で、11・13は糸切り底である。14・15は糸切り底の土師皿。16は平瓦で、薄造りである。17は短い鏝の付く滑石製石鍋で、外面に加工痕が残る。18は砥石である。

第18図19～34はゾーン1・2出土である。19は外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗で、厚く施釉する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅲ類である。13世紀後半から14世紀初頭の所産である。20・21はいずれも短く屈折する口縁部の白磁碗で、白磁碗ⅤまたはⅧ類と判断され、12世紀中頃に増加する。22は口禿の白磁皿で、白磁皿Ⅸ類である。13世紀後半～14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。23・24は白磁の壺で、23は耳部分である。25は陶器壺の底部である。26は瓦質土器の湯釜である。27・28は糸切り底の土師器で、27は坏、28は皿である。29は円筒形の土錘である。30は蓮華唐草文軒平瓦で、14世紀の所産である（松田他 2019）。31・32は平瓦、33・34は吊り紐痕の見られる丸瓦である。

第18図35～37はゾーン2出土の瓦で、35はコビキ A が残る平瓦。36は丸瓦。37は三巴文軒丸瓦である三巴文の外側に圏線がめぐり、連珠文が付くが、連珠は薄く小さい。



第18図 HZK2003地点D区2面SX4088出土遺物1



第19図 HZK2003地点D区2面SX4088出土遺物2

第19図1～4はゾーン3出土である。1は玉縁口縁の白磁碗で、大宰府編年の白磁碗Ⅳ類である。時期は11世紀後半から12世紀前半で、12世紀後半まで一定量を占める（宮崎編 2000）。2は瓦質土器の捏鉢である。3・4は糸切り底の土師器で、3は坏、4は皿である。

第19図5～8はゾーン4出土である。5は外面に櫛描き、内面にジグザグの櫛点描文を施し、同安窯系青磁碗Ⅰ類である。12世紀後半から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。6・7は糸切り底の土師器の坏である。8は瓦質土器の火鉢である。

第19図9～13はゾーン5出土である。9・10は白磁碗で、9は細く高く直立する高台を持ち、大宰府編年の白磁碗Ⅴ類である。12世紀中頃に増加する（宮崎編 2000）。11は瓦質土器の碗である。内面にミガキを施す。12は糸切り底の土師器の坏である。13は丸瓦で吊り紐痕がある。

第19図14～17はゾーン6出土である。14は青磁皿である。15は糸切り底の土師器の坏である。16は土錘である。17は平瓦。

第19図18～24はゾーン7出土である。18・19は青磁碗である。19は外面に櫛描き文、内面に片彫り草花文を施し、同安窯系青磁碗Ⅰ類である。12世紀後半から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。20は瓦質土器の捏鉢である。21・22は糸切り底の土師器の坏である。23は平瓦である。24外面に縄目タタキ、内面に吊り紐痕の残る丸瓦である。

第27図33はSP4110出土の青磁の小碗である。厚く施釉し、口縁部下に1か所、丸く釉が貼りつく。口縁端部と高台の豊付付近は露胎し、境目が赤橙色を呈する。大宰府編年の龍泉窯系青磁小碗Ⅲ類で、13世紀中頃から14世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。

SP4111からは土師器の坏・皿の他、青磁、白磁、陶器が出土したが、小片で図化し得ない。

第24図38・39はSK4116出土である。38は瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む（山本他 1997）。39は糸切り底の土師皿である。

第24図40～43はSK4117出土である。40・41は土師器の坏である。42・43は糸切り底の土師皿である。図化し得なかったが他に、白磁片が出土した。

第16図27～30はSD4118出土である。27は瓦質土器の火鉢の口縁部である。28・29は糸切り底の土師器の坏である。30は細い円筒形の土錘である。（谷 直子）

ピット SP4095・SP4126・土坑 SK4127・溝 SD5003（第15図） 調査区の南端エリアで重複していた遺構群である。E区まで続くSD5003がSP4095とSK4127を切り、SP4126および第1面で検出されたSP4056に切られる。すなわち、SP4095・SK4127→SD5003→SP4126・4056の順で形成されたらしい。SP4095は径32cmほどのピットで、SD5003によって半裁される。SP4126は径30cmのピットで、確認面からの深さは18cmである。SK4127は長軸132cm、短軸32cmの楕円形を呈す。

（齋藤瑞穂）

第27図31・32はSP4095出土である。31は瓦質土器の碗である。外面にミガキを施す。32は糸切り底の土師器の坏である。SP4126からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。第16図31はSK4127出土の瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む（山本他 1997）。第16図39～41はSD5003出土である。39・40は青磁碗である。39は内面に片彫りで草花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2a類で12世紀中頃から13世紀初頭の所産である。40は釉調が濁り、内面に圈線がめぐる。41は陶器の黄釉盤底部である。（谷 直子）

溝 SD4097（第15図） 底面附近をわずかに検出し得た溝で、検出レベルでの最大幅は27cmである。東端は把握したもの、西端は調査区の西先にあるらしい。確認面からの深さは7cmである。SD4097からは土師器の坏が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

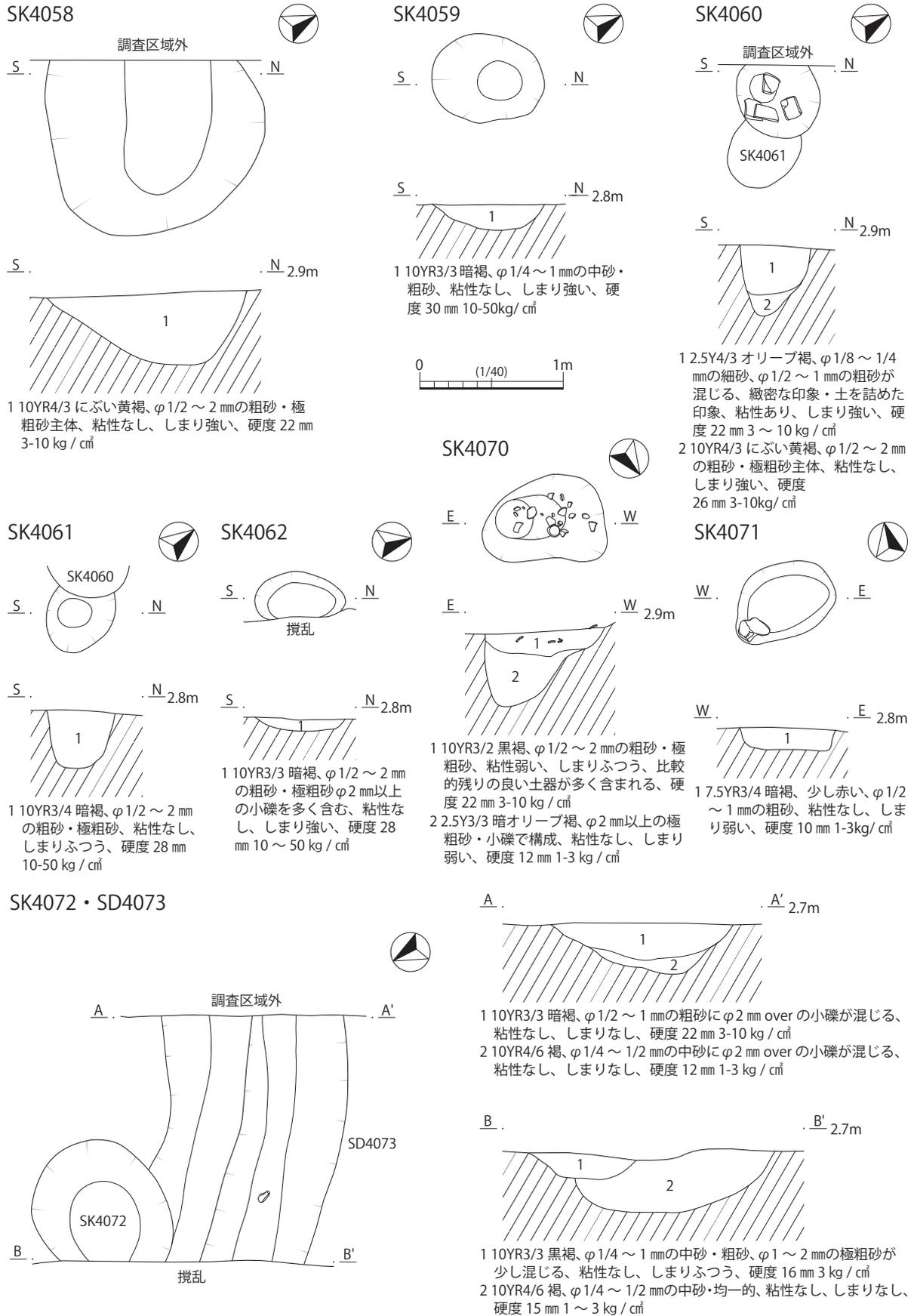
溝 SD4104（第15図） 東西方向に掘られた溝で、幅は25cm、確認面からの深さは8cmである。調査区の西先まで延びていくようである。SD4104からは遺物は出土していない。

（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK4086・土坑4100・溝 SD4120・土坑 SK4121（第23図）

SK4086は攪乱坑の可能性があるが、土師器の坏・皿・鍋・捏鉢、瓦質土器の捏鉢、青磁・白磁・瓦などが出土した。いずれも小片で図化し得なかったが、中世の範疇に収まる。SK4100からは土師器、瓦質土器、陶器が出土したが、小片で図化し得ない。SD4120からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。第24図44～46はSK4121出土である。44・45は青磁碗である。45は口縁部が外反し、半濁した釉を施す。大宰府編年の青磁碗Ⅳ類で、14世紀の所産である。46は低いケズリ高台の白磁碗である。高台外面は施釉されず、露胎部は橙色味に発色することから、大宰府編年の白磁碗Ⅺ類である。10世紀後半から11世紀中頃の所産である（宮崎編 2000）。（谷 直子）

ピット SP4130・土坑 SK4131・溝 SD4132（第30図） 調査区の溝 SD4132が最も古い。同溝を土坑 SK4131が切り、SK4131をピット SP4130が切る。SP4130は長軸48cm、短軸43cmのピットである。確認面からの深さは24cmである。同ピットに先行するSK4131は隅丸長方形を呈する土坑で、長軸は90cm、短軸は61cmほどになると見込まれる。最も早くに掘り込まれたSD4132は、長軸32cm以上、



第20図 HZK2003地点 D 区2・3面 SK4058~4062・4070~4072・SD4073平面・断面図

短軸28cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは20cmである。(齋藤瑞穂)

SP4130からは土師器の坏・鍋が出土したが、小片で図化し得ない。第27図1～3はSK4131出土である。1は陶器の甕で、粘土紐を貼付けて丸い口縁を作る。2は黄釉盤である。黄釉盤は11世紀後半から14世紀前半にかけて存在する(宮崎編 2000)。3は平瓦である。SD4132からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。(谷 直子)

土坑(第20・21・23・25・29図)

土坑 SK4058(第20図) 調査区西寄りで検出した土坑で、南北幅138cm、確認面からの深さは50cmを測る。(齋藤瑞穂)

第22図1～8はSK4058出土である。1・2は青磁皿で体部中央が屈曲する。大宰府編年の龍泉窯系青磁皿I類または同安窯系青磁皿I類と考えられ、いずれにせよ12世紀中頃から後半の所産である(宮崎編 2000)。3は褐釉耳壺の肩部である。4は黄釉盤である。5は糸切り底の土師器の坏である。6・7は平瓦である。8は丸瓦としたが、作りが薄く端部は反り、段が付く。(谷 直子)

土坑 SK4059(第20図) 長軸78cm、短軸63cmの土坑で、確認面からの深さは50cmを測る。

(齋藤瑞穂)

第22図9～12はSK4059出土である。9は龍泉窯系青磁碗の底部である。10は口禿の白磁皿である。大宰府編年の白磁皿IX類で、13世紀後半から14世紀前半に増加する(宮崎編 2000)。11・12は糸切り底の土師器で、11が坏、12が皿である。(谷 直子)

土坑 SK4060・土坑 SK4061(第20図) 切り合った2つの土坑で、SK4060がSK4061を切る。SK4060は南北58cm、東西も50cm以上になるものと見込まれる。確認面からの深さは50cmで、1層に瓦や礫がまとまる。他方SK4061は南北軸47cm、東西は40cm以上であったらう。確認面からの深さは40cmを測る。(齋藤瑞穂)

第22図13～15はSK4060出土である。13は糸切り底の土師皿である。14は平瓦、15は鬘斗瓦である。第22図16はSK4061出土の平瓦である。他に土師器、青磁、陶器の小片が出土したが、図化し得ない。(谷 直子)

土坑 SK4062(第20図) 楕円形の土坑で、東側を失っている。長軸は63cm、短軸は33cmを超え、確認面からの深さは8cmを測る。SK4062からは土師器の坏が出土したが、小片で図化し得ない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK4069(第29図) 長軸48cm、短軸45cmのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは8cmを測る。(齋藤瑞穂)

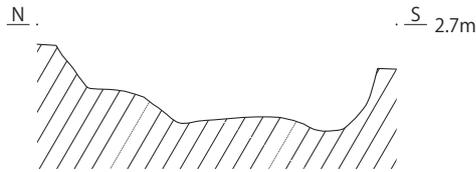
第22図17はSK4069出土の軒丸瓦である。巴文とその外側の圈線が残る。(谷 直子)

土坑 SK4070(第20図) 長軸82cm、短軸58cmの土坑である。確認面からの深さは50cmで、覆土は2つの層に分かれる。このうち1層に遺物が集中する。(齋藤瑞穂)

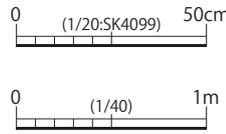
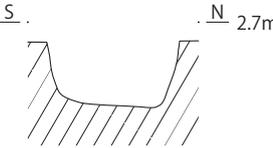
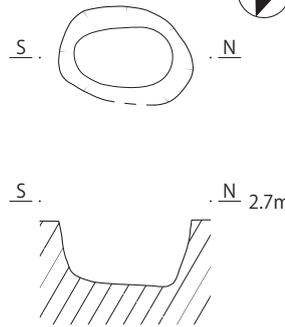
第22図18～28はSK4070出土である。18は内面に片彫りで分割線を描いており、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I-4類である。12世紀後半から13世紀初頭の所産である(宮崎編 2000)。19は天目碗である。口縁付近で角度を変え直立し「龍嘴」となり、12世紀後半の所産である(田中 2008)。20～25は糸切り底の土師器の坏である。26・27は糸切り底の土師皿である。28は外面に縄目タタキの残る丸瓦である。(谷 直子)

土坑 SK4071(第20図) 長軸74cm、短軸52cmの楕円形土坑で、確認面からの深さは15cmである。西隅底面附近で面をもつ礫が出土したが、本土坑が柱穴であったとは考えにくい。SK4071から

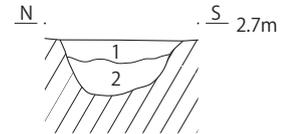
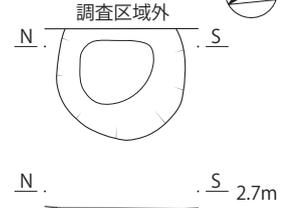
SK4074



SK4076

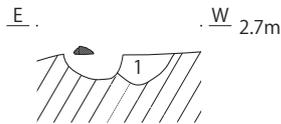
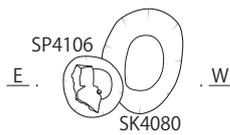


SK4078



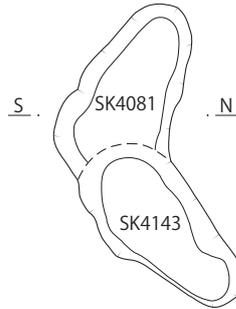
- 1 10YR2/2 黒褐、φ1～2mmの極粗砂にφ1/2～1mmの粗砂が混じる、粘性なし、しまり強い、硬度 25 mm 10 kg / cm²
- 2 10YR3/3 暗褐、φ1/2～1mmの粗砂、暗褐色 砂に地の暗褐色砂のブロックが混じる、粘性なし、しまり弱い、硬度 10 mm 1-3 kg / cm²

SK4080・SP4106

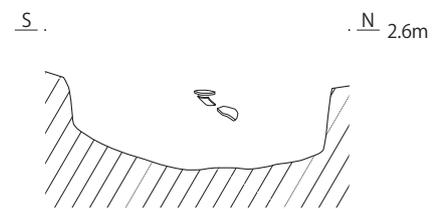


- 1 10YR3/3 暗褐、φ1/8～1/4mmの中砂に若干φ1/4～1/2mmの粗砂が混じる、比較的粗砂は揃っているように見える、粘性なし、しまりふつつ、硬度 20 mm 3-10 kg / cm²

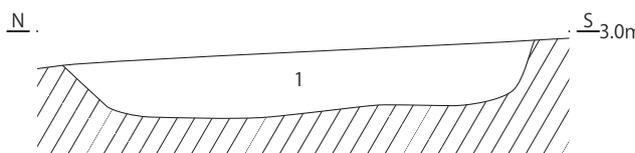
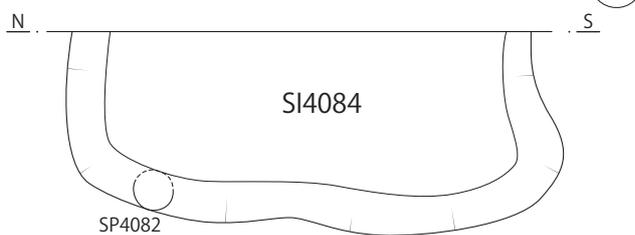
SK4081・4143



SK4099

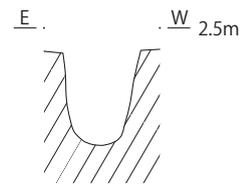
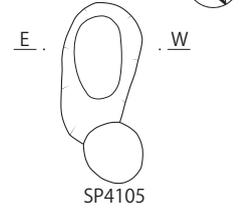


SP4082・SI4084

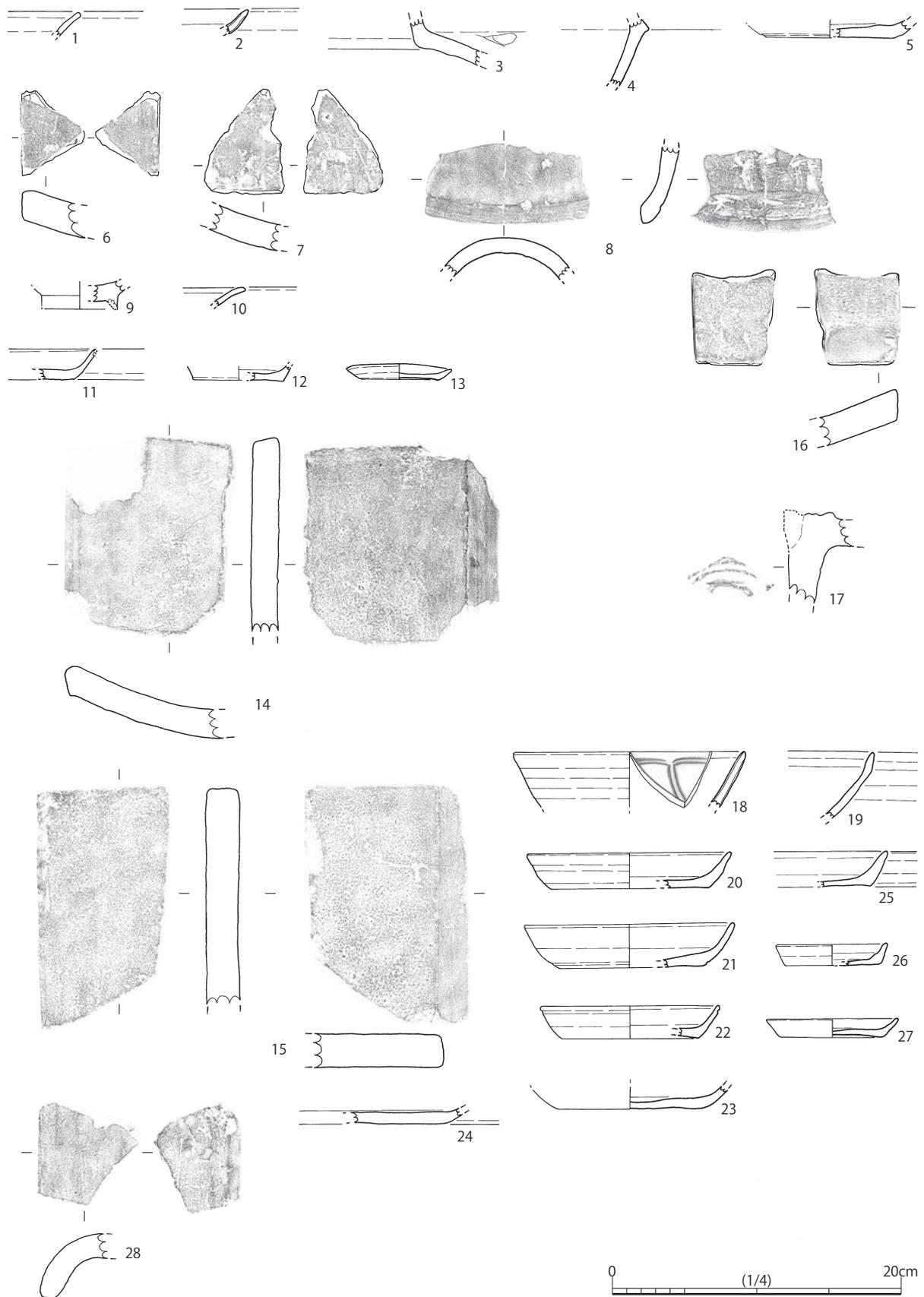


- 1 10YR2/3 黒褐、φ1/4～1/2mmの中砂φ1mm以上の極粗砂が混じる、粘性なし、しまりふつつ、硬度 16 mm 3 kg / cm²、根そのものが多分に入り込む
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐、黄褐色砂が攪拌された印象、一様ではなくまばらにブロック状の黄褐色砂が入る、粘性なし、しまりふつつ、硬度 8 mm 1 kg / cm²
- 3 10YR4/6 褐、φ1/2mm以上の粗砂・極粗砂、基盤層が攪拌されたところ、しまり、硬度 8 mm 1 kg / cm²

SK4089



第21図 HZK2003地点 D 区2・3面 SK4074・4076・4078・4080・4081・4089・4099・4143・SI4084・SP4082・4106平面・断面図



第22図 HZK2003地点D区2面SK4058~4070出土遺物

は土師器の坏・播鉢が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK4074（第21図） 大型の土坑で、南北は168cm、東西は130cm 以上になる。近代の鉄製品や茶碗も混じっており、九州大学設置以降に掘り込まれた遺構とみてよい。（齋藤瑞穂）

第24図1～11はSK4074出土である。1・2は青磁碗で、2は外面に鎬蓮弁文を施す。3は口禿の白磁碗である。大宰府編年の白磁碗Ⅸ類で、13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。4は金彩赤絵で内面に施文する碗である。近代の所産である。5・6は同一型式の碗で、白磁の口縁部に褐色の釉がかかり、体部下半を面取りする。近代の所産である。7・8は瓦質土器の捏鉢である。9・10は糸切り底の土師器の坏である。11は土師皿である。

土坑 SK4078（第21図） 径は98cm で、ほぼ円形を呈する。確認面からの深さは28cm を測る。

（齋藤瑞穂）

第24図12・13はSK4078出土で、12は青白磁の皿である。内面に片彫りで施文する。青白磁は12世紀後半から出土しはじめ、14世紀まで出土する（田中 2008）。13は磁器の耳壺である。（谷 直子）

土坑 SK4080・柱穴 SP4106（第21図） 土坑 SK4080が古く、柱穴 SP4106が新しい。当初、SK4080のみを検出していたが、その後 SP4106が確認され、かつ、同柱穴の覆土に含まれている礫がSK4080のプランまで食い込むことから、SK4080→SP4106の関係判明に到った。SP4106は、径31cmの円形ピットである。確認面で並ぶ礫は、礎石とみなしてよい。SK4080は、この柱穴に先行する土坑である。長軸54cm、短軸41cm を測り、確認面からの深さは15cm である。（齋藤瑞穂）

第24図14・15はSK4080出土である。14は東播系須恵質の捏鉢である。東播系須恵器の捏鉢は11世紀中頃以降、13世紀後半まで多く使用される（山本他 1997）。15は土師器の甕で、粘土紐貼付けの端部の丸い口縁部が付く。SP4106からは遺物は出土していない。（谷 直子）

土坑 SK4081・土坑 SK4143（第21図） 当初、屈曲した1つの溝として検出し、SD4081の遺構番号をあたえた。ところが精査の結果、屈曲部分の東西で底面のレベルが大きく異なっていて、わずかに切り合う2つの土坑として理解すべきものであることが判明した。そのため西側をSK4081と呼び直し、東側には新たにSK4143の番号を付与した。下記の出土品解説で、「20～26はSK4081およびSK4143の出土である」という記述を整理担当者に依頼している所以である。明確な根拠を欠くものの、SK4081が古く、SK4143が新しいという感触をもっている。

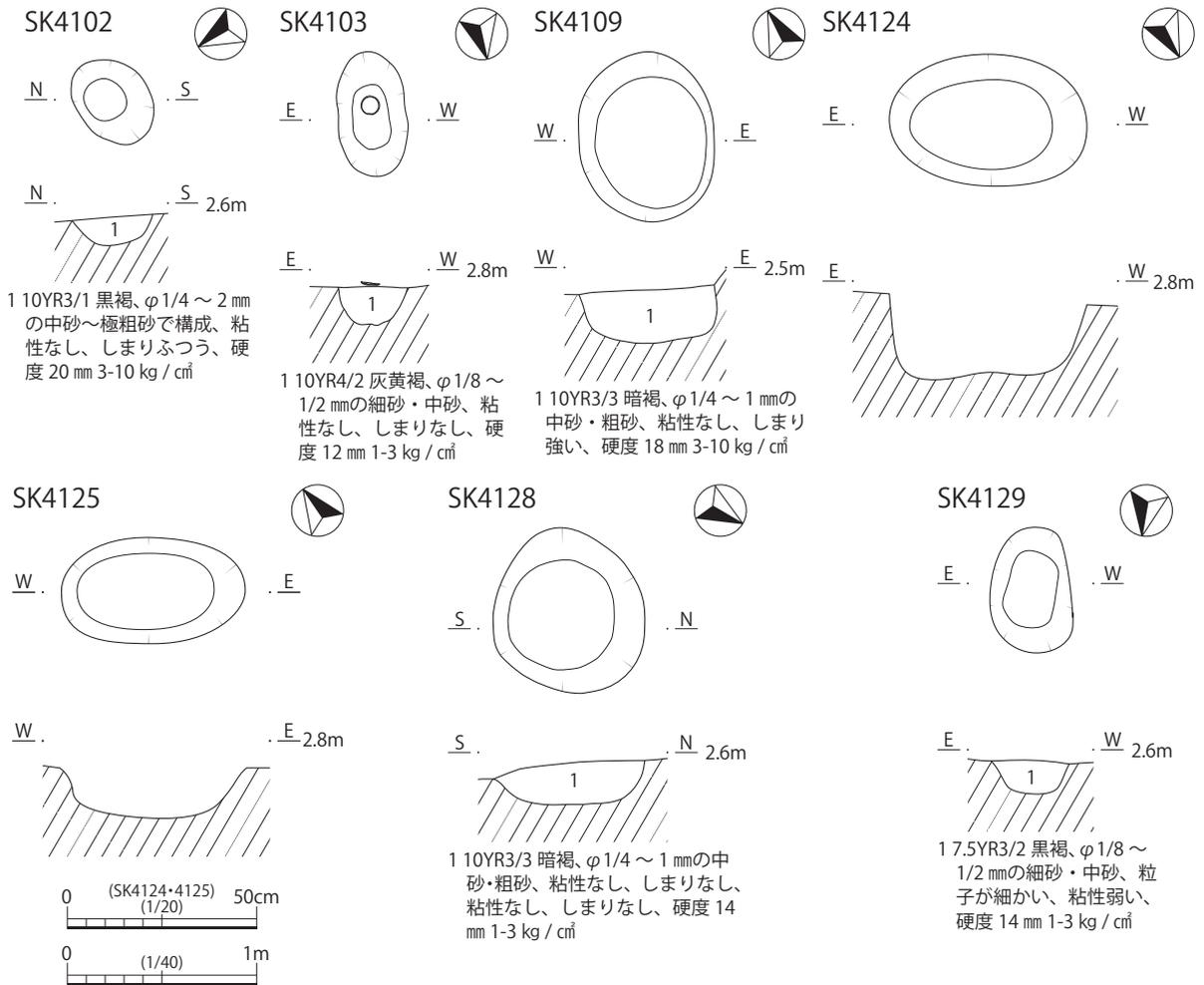
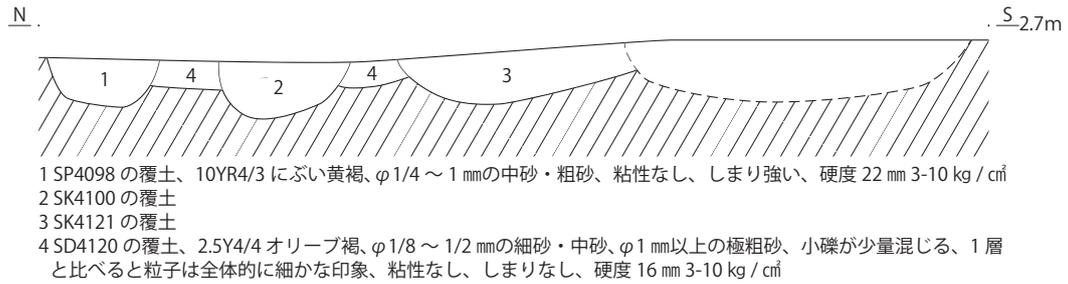
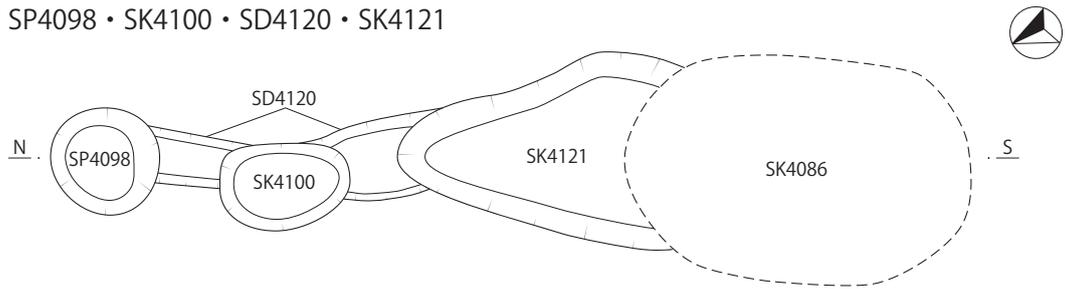
SK4081は楕円形の土坑となり、長軸103cm、短軸は最も幅のある箇所60cm を測る。確認面からの深さは27cm である。他方、SK4143の長軸もまた100cm 前後と見込まれる。短軸は50cm、確認面からの深さは40cm ほどであった。（齋藤瑞穂）

第16図20～26はSK4081およびSK4143の出土である。20～22は青磁碗で、20・21は外面に鎬蓮弁文を施し、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。22は外面に櫛描きを施し同安窯系青磁碗Ⅰ類である。23は青磁皿で、体部中位で屈曲し、底部外面の釉薬を掻き取る。龍泉窯系青磁皿Ⅰ類である。青磁の時期は、12世紀中頃から13世紀前半である（宮崎編 2000）。24は瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む（山本他 1997）。25は糸切り底の土師皿。26は布目が残る平瓦である。この他、SK4143の範囲内のみから出土した遺物として土師器、青磁、陶器、貝があるが、いずれも小片で図化し得ない。（谷 直子）

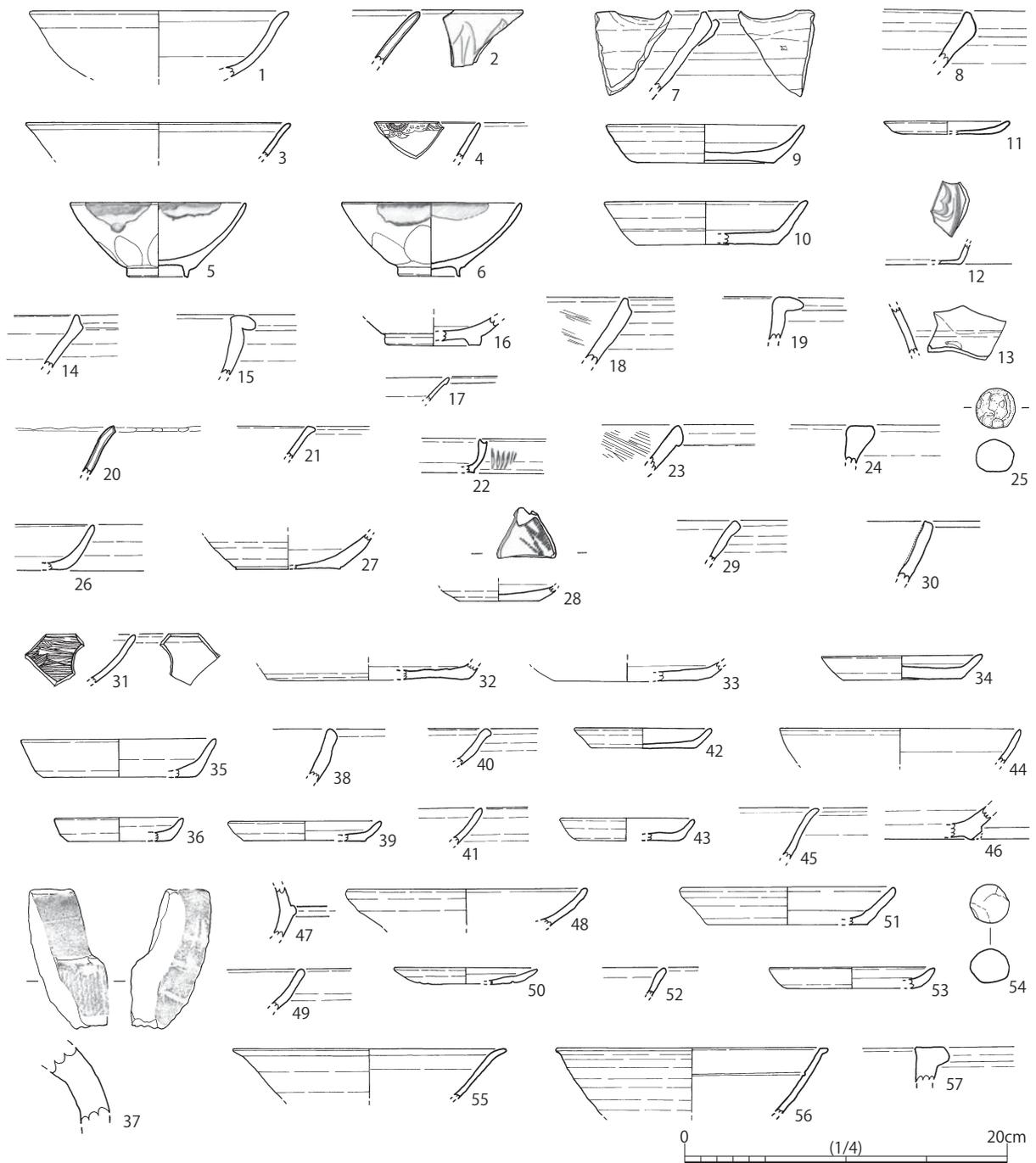
土坑 SK4083・SK4101 SK4083は径150cm の円形の土坑で、SK4101に切られる。SK4101は径50cm の円形を呈する。

第24図20～25はSK4083出土である。20は青磁碗である。21は短く屈折する口縁が付く。大宰府編年の白磁碗ⅤまたはⅧ類である。いずれにせよ12世紀中頃に増加する。22は青白磁の合子である。青

SP4098・SK4100・SD4120・SK4121



第23図 HZK2003地点D区2・3面SK4100・4102・4103・4109・4121・4124・4125・4128・4129・SD4120・SP4098平面・断面図



第24図 HZK2003地点D区2面 SK4074～4129・SP4098出土遺物

白磁は12世紀後半から出土しはじめ、14世紀まで出土する（田中 2008）。23は瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む（山本他 1997）。24は土師器の甕である。断面三角形の口縁が付く。25は石球である。SK4101からは土師器の坏の他、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類の破片が出土したが、小片で図化し得ない。（谷 直子）

土坑 SK4089・ピット SP4105（第21・29図）土坑 SK4089が古く、ピット SP4105が新しい。先行する SK4089は長軸80cm、短軸42cm ほどになると見込まれる。確認面からの深さは、52cm である。

同土坑を切る SP4105は、径32cm のピットで、確認面からの深さは45cm である。覆土上位に角礫が集中するものの、これらが柱を受けるために用いたものかはわからない。(齋藤瑞穂)

第24図26・27はSK4089出土の糸切り底の土師器の坏である。SP4105からは土師器の坏・皿・鍋、瓦質土器の捏鉢が出土したが、小片で図化できない。(谷 直子)

土坑 SK4092 (第29図) 径72cm の土坑で、確認面からの深さは20cm である。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK4099 (第21図) 土坑の東側半分を検出できている。楕円形の土坑になるとみられ、長軸は70cm を測る。確認面からの深さは24cm である。(齋藤瑞穂)

第24図31～33はSK4099出土である。31は内面にミガキを施す瓦質土器の碗である。32・33は糸切り底の土師器の坏である。(谷 直子)

土坑 SK4102 (第23図) 長軸50cm、短軸42cm の土坑で、確認面からの深さは15cm である。SK4102からは土師器の他、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類の破片が出土したが、小片で図化できない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK4103 (第23図) 長軸66cm、短軸36cm の楕円形土坑で、確認面からの深さは20cm である。第24図34はSK4103出土の糸切り底の土師皿である。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK4124 (第23図) 長軸53cm、短軸37cm で、確認面からの深さは24cm である。(齋藤瑞穂)

第24図47～50はSK4124出土である。47は土師質の鉢で被熱している。48・49は土師器の坏である。50は糸切り底の土師皿である。(谷 直子)

土坑 SK4125 (第23図) 長軸48cm、短軸28cm の楕円形土坑で、確認面からの深さ14cm である。遺物は出土していない。(谷 直子)

土坑 SK4128 (第23図) 長軸87cm、短軸80cm の土坑で、確認面からの深さは22cm である。同土坑はやや暗い色を呈する円形プランと切り合う形で検出され、本土坑がそれを切る。この円形プランは現代の植栽による攪乱と判断されたため、本土坑の構築年代も現代と結論づけられる。(齋藤瑞穂)

第24図51～54はSK4128出土である。51・52は土師器の坏で、51は糸切り底である。53は糸切り底の土師皿である。54は石球である。他に青磁や陶器の破片が出土したが、小片で図化し得ない。(谷 直子)

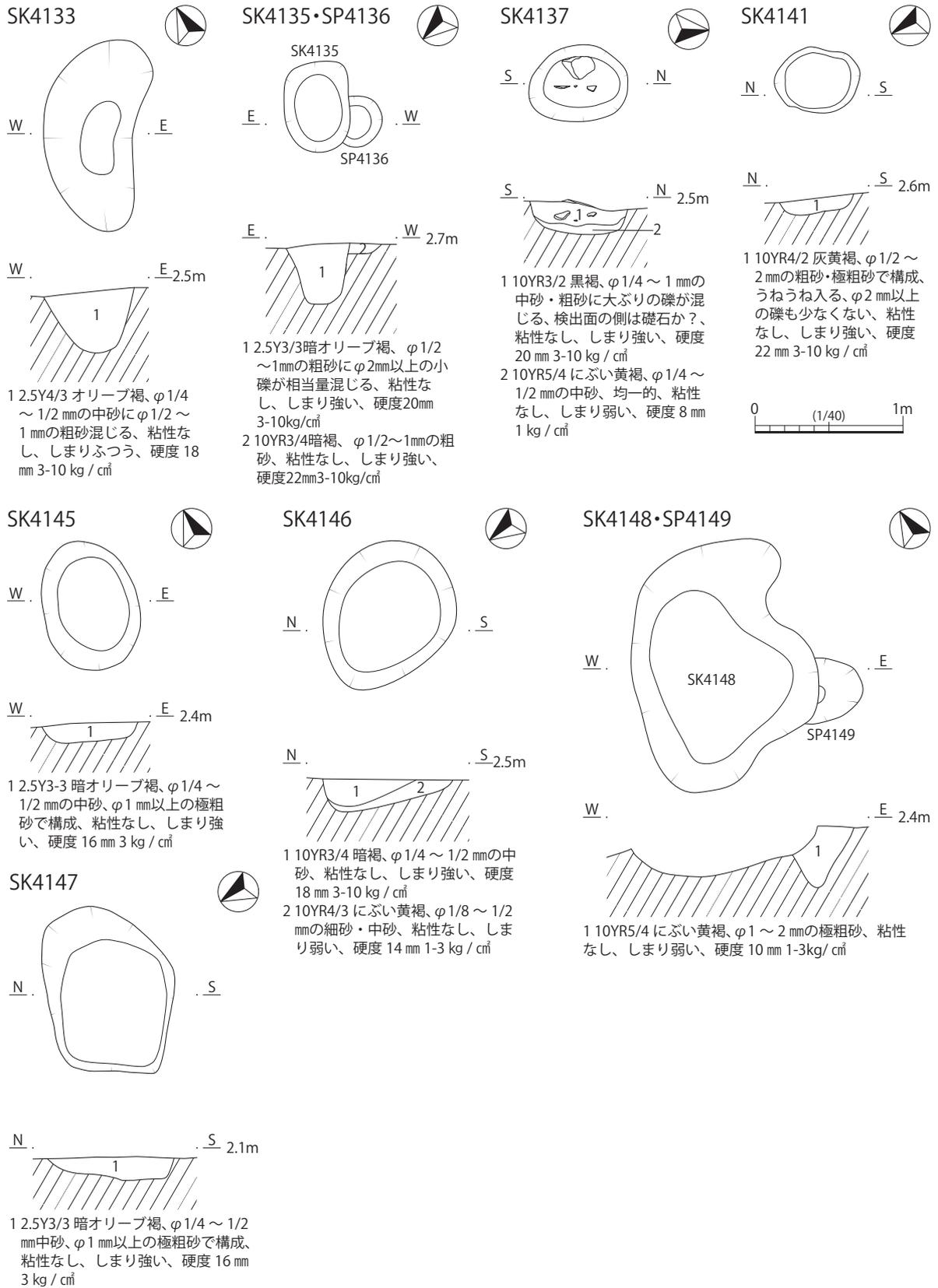
土坑 SK4129 (第23図) 長軸61cm、短軸42cm の楕円形土坑で、確認面からの深さは18cm である。同土坑もまたSK4128と同じく近接した円形プランと切り合う形で検出され、本土坑が同プランを切る。この円形プランは現代の攪乱であったことから、本土坑の構築年代も現代と結論づけられる。(齋藤瑞穂)

第24図55～57はSK4129出土である。55・56は白磁碗で、56は短く屈曲する口縁部が付き、大宰府編年の白磁碗ⅤまたはⅧ類である。いずれにせよ12世紀中頃に増加する(宮崎編 2000)。57は土師器の甕である。逆L字状の口縁部を持つ。(谷 直子)

土坑 SK4133 (第25図) 長軸128cm、短軸60cm の不整楕円形の土坑で確認面からの深さ44cm である。

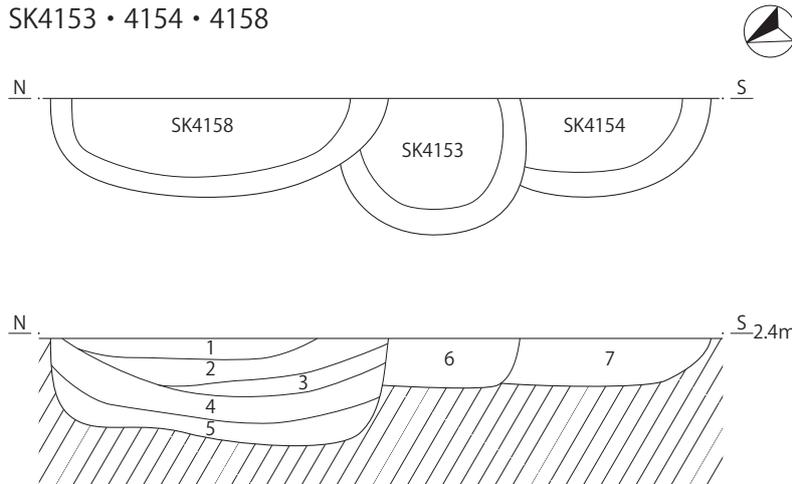
第27図4・5はSK4133出土の瓦である。4は三巴文軒丸瓦である。三巴文の外に圈線が1条めぐり、連珠文を施す。5は外面に縄目タタキのある丸瓦である。(谷 直子)

土坑 SK4135・ピット SP4136 (第25図) SP4136が古く、SK4135が新しい。SK4135は長軸



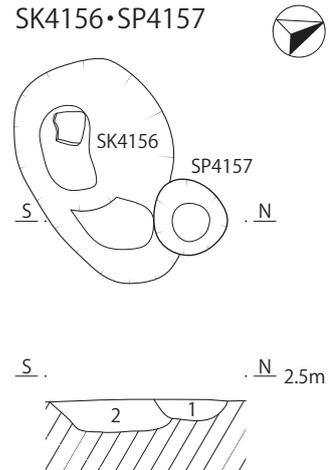
第25図 HZK2003地点 D 区2・3面 SK4133・4135・SP4136・SK4137・4141・4145~4148・SP4149平面・断面図

SK4153・4154・4158

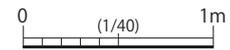


- 1 10YR5/4 にぶい黄褐、φ1/8～1mmの細砂・中砂・粗砂で構成、粘性なし、しまり強い
- 2 2.5Y4/6 オリーブ褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂にφ1～2mmの極粗砂が混じる、粘性なし、しまり強い、硬度 22mm3-10kg/cm²
- 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐、2層より暗い、1～3層が南から流れこんでいる、φ1/4～1mmの中砂・粗砂、粘性なし、しまり強い、硬度 22mm3-10kg/cm²
- 4 2.5Y3/1 黒褐、2・3層より暗い、φ1/4～1mmの中砂・粗砂にφ1～2mmの極粗砂が混じる、粘性なし、しまり強い、硬度 18mm3-10kg/cm²
- 5 2.5Y4/6 オリーブ褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂、粘性なし、しまりふつう、硬度 16mm3kg/cm²
- 6 10YR3/3 暗褐、φ1/8～1/2mmの細砂・中砂にφ2mm以上の小礫含む、粘性なし、しまりなし、硬度 20mm3-10kg/cm²
- 7 10YR4/6 褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂、粘性なし、しまり強い、硬度 24mm3-10kg/cm²

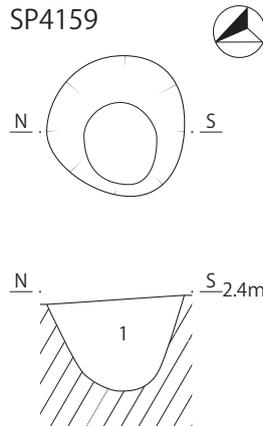
SK4156・SP4157



- 1 10YR4/6 褐、φ1/4～1/2mmの中砂～極粗砂、しまりふつう、硬度 12mm3-3kg/cm²
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐、φ1/2～1mmの粗砂にφ1～2mmの極粗砂が混じる

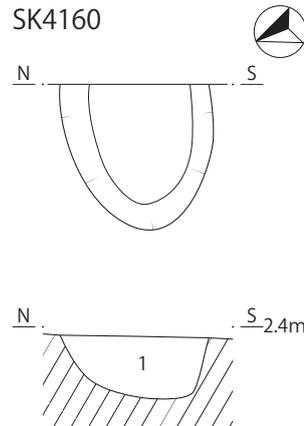


SP4159



- 1 10YR4/2 灰黄褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂にφ2mm以上の小礫が混じる、粘性なし、しまり強い、硬度 25mm10kg/cm²

SK4160



- 1 10YR3/3 暗褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂にφ2mm以上の小礫が混じる、粘性なし、しまり強い、硬度 26mm10-50kg/cm²

第26図 HZK2003地点 D区2・3面 SK4153・4154・4156・4158・4160・SP4157・4159 平面・断面図

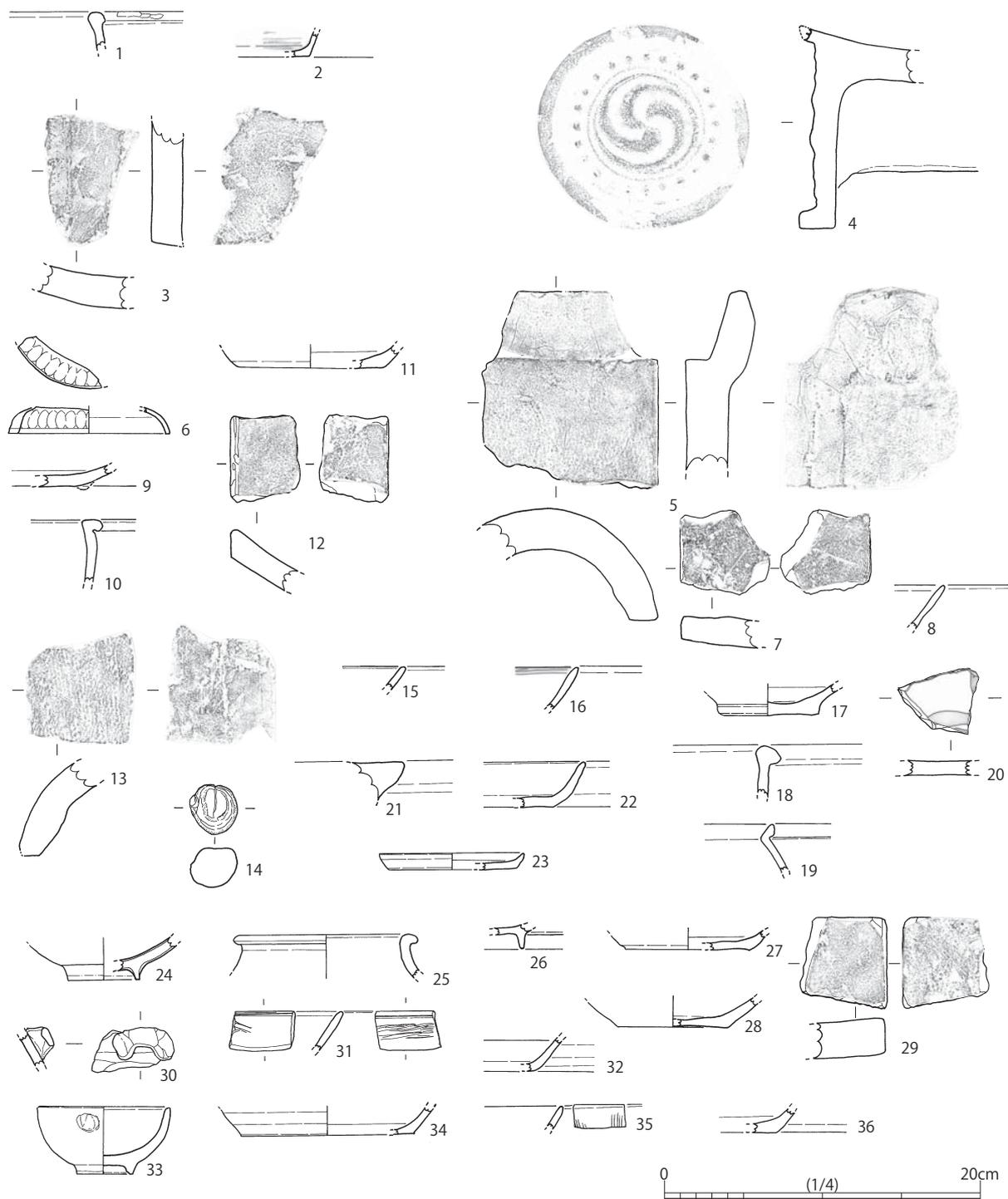
62cm、短軸45cmの楕円形土坑で、確認面からの深さは42cmである。同土坑に切られたSP4136は径33cmの小ピットで、確認面からの深さは7cmである。SK4135からは土師器の坏・皿・鍋、瓦が出土したが、いずれも小片で図化し得ない。SP4136からは遺物は出土していない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK4137 (第25図) 長軸65cm、短軸52cmの土坑で、確認面からの深さは23cmである。西よりに礎石が配置されていた。

(齋藤瑞穂)

第27図7・8はSK4137出土である。7は端部を面取りした平瓦。8は土師器の坏である。

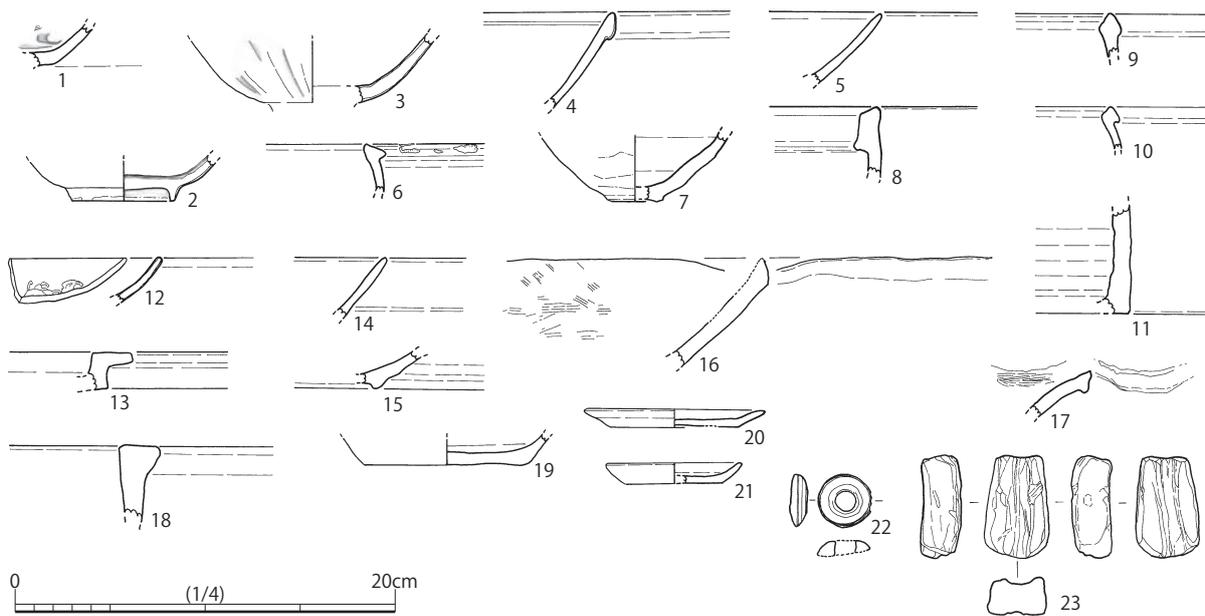


第27図 HZK2003地点 D 区 2 面 SK4131～SK4158・SP4015～SP4142出土遺物

(谷 直子)

土坑 SK4146（第25図） 長軸104cm、短軸90cmの不整円形の土坑で、確認面からの深さ24cmをはかる。

第27図9・10はSK4146出土である。9は瓦質土器の碗で、粘土紐を巻き付けて低い高台を作る。



第28図 HZK2003地点D区2面SI4084出土遺物

10は土師器の甕である。逆L字状の口縁部を持つ。

(谷 直子)

ピット・柱穴 (第21・23・29～31図)

ピット SP4057 (第29図) 径24cm × 21cm、確認面からの深さ7cmの小ピットである。SP4057からは遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

柱穴 SP4063 (第29図) 径40cmのピットで、確認面からの深さは18cmを測る。確認面で水平に配された礫が検出されており、礎石の可能性を考えてよい。SP4063からは土師器の坏・皿・鍋が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

板碑集中地点 SX4064 3点の板碑が集中していた地点である。土坑などに投棄された可能性があるが、プランは検出できなかった。(齋藤瑞穂)

SX4064からは頂部を三角形に尖らせた、定型化した板碑など3点が出土した。中央にキリクの種類字を配し、その下に文字を刻むが下方が欠損するものなどがある。(谷 直子)

ピット SP4065・SP4066 (第29図) 切り合った2つのピットで、SP4065がSP4066を切る。SP4065は径23cm、確認面からの深さは10cmである。他方、SP4066は径37cm、確認面からの深さは13cmである。SP4065からは瓦が出土したが、小片で図化し得ない。SP4066からは土師器・青磁が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

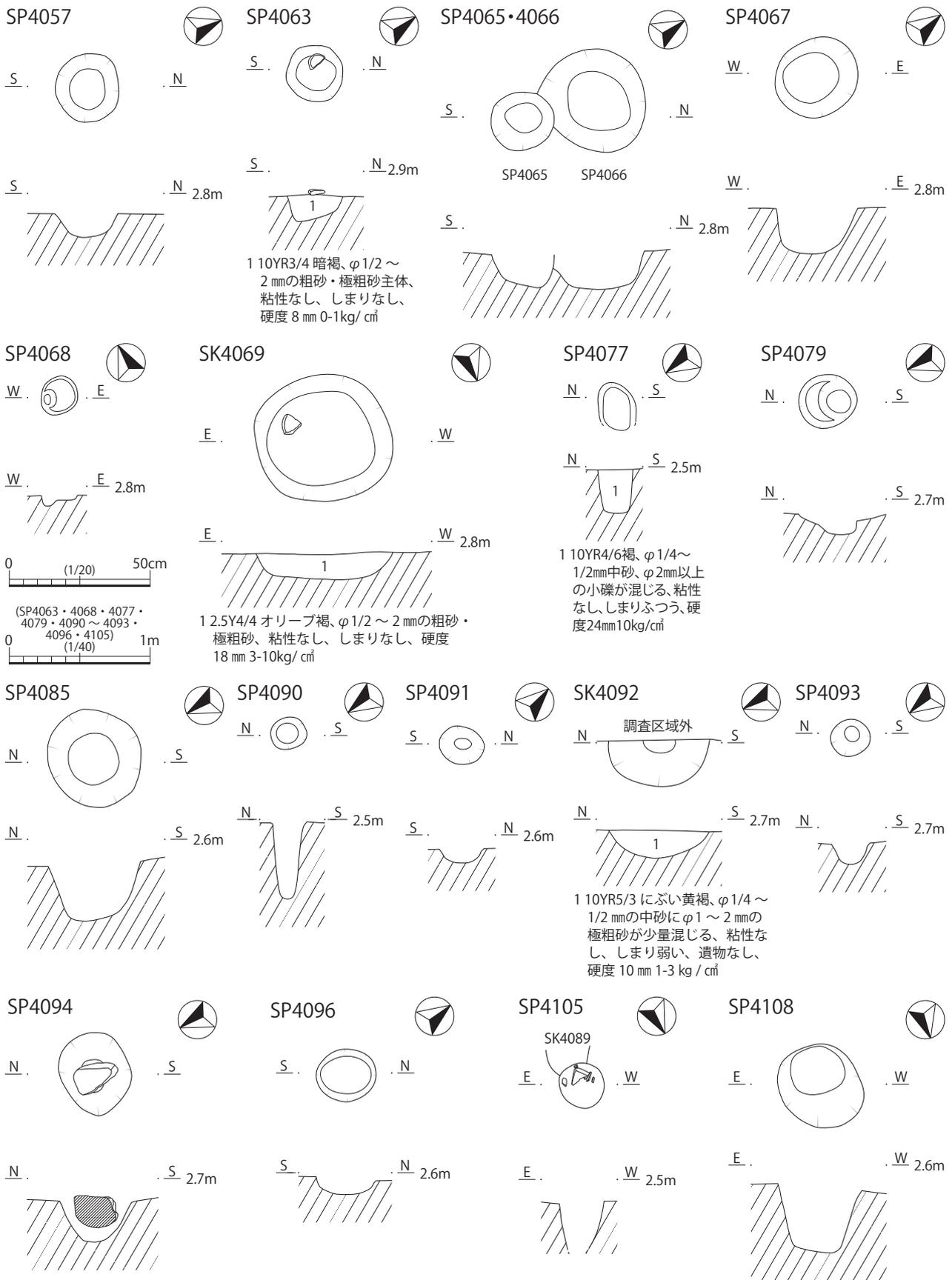
ピット SP4067 (第29図) 径28cm、確認面からの深さ16cmの小ピットである。SP4067からは土師器の坏・皿が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4068 (第29図) 径27cm × 25cmの円形ピットで、確認面からの深さは4cmである。掘りすぎた部分があって完掘時は段がついてしまったが、本来の底面は平坦になる。(齋藤瑞穂)

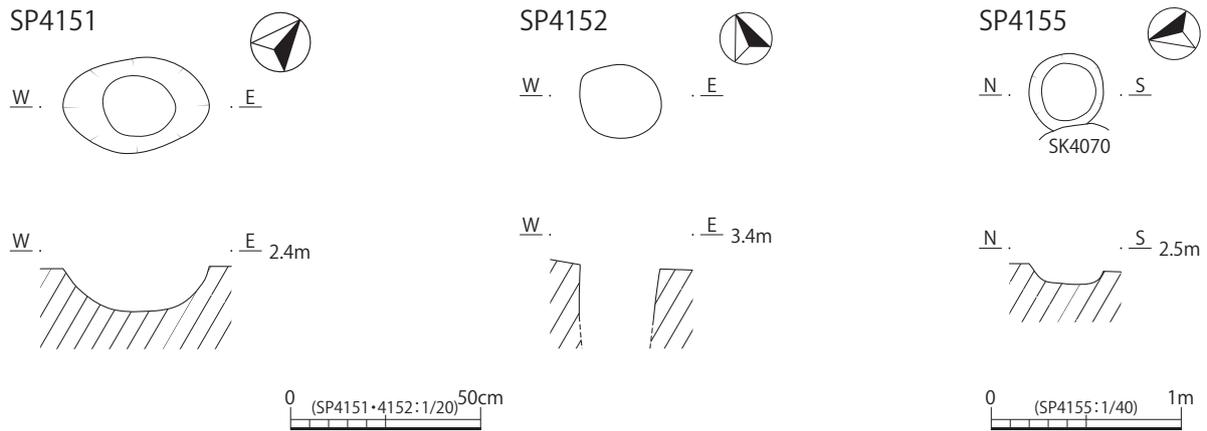
第28図30はSP4068出土の薄く釉がかかる磁器の耳壺の耳部分である。(谷 直子)

ピット SP4077 楕円形で長軸は35cm、短軸24cm以上になる。確認面からの深さは31cmである。SP4077からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4079 径は40cmで円形を呈する。最も深い箇所、深さ12cmであった。SP4079から



第29図 HZK2003地点D区2・3面 SP4057・4063・4065~4068・4077・4079・4085・4090・4091・4093・4094・4096・4105・4108・SK4069・4092平面・断面図



第31図 HZK2003地点 D 区2・3面 SP4151・4152・4155平面・断面図

は土師器の坏が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP4082・竪穴 SI4084（第21図） SP4082は径20cm ほどのピットで、SI4084を切っている。SI4084は長軸260cm、短軸の残存長が108cm、確認面からの深さが32cmをはかる。（齋藤瑞穂）

第24図16～19は SP4082出土である。16は白磁の碗である。低い角高台である。17は体部中位で屈曲する白磁の皿である。大宰府編年の白磁皿Ⅷ類と考えられ、12世紀中頃から後半の所産である。18は瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む（山本他 1997）。19は土師器の甕である。逆L字状の口縁部を持つ。

第28図は SI4084出土である。1～3は青磁碗である。1は内面に片彫り文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類である。2は釉を厚く施し、龍泉窯系青磁碗Ⅲ類の特徴を有す。3は外面に鎬蓮弁文を施すが、釉は薄く、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類の特徴を示す。時期は1が12世紀中頃から13世紀初頭、2が13世紀の中頃から14世紀初頭、3が13世紀前半頃である。4・5は白磁碗である。4は玉縁口縁で大宰府編年の白磁碗Ⅳ類である。時期は11世紀後半から12世紀前半で、12世紀後半まで一定量を占める（宮崎編 2000）。5は素口縁である。6は白磁の壺口縁部である。7は天目碗である。8は内側に突帯が付く中国陶器の鉢で、大宰府編年の陶器鉢Ⅰ-1a類である。12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）。9・10は陶器の黄釉盤である。11は陶器の壺底部で、外面に回転ヘラケズリ、内面に回転ナデの痕跡が良く残る。12は青白磁の碗である。内面にレリーフ状に施文する。青白磁は12世紀後半から一定量出土するようになり、14世紀まで出土する。（田中 2008）。13は瓦質土器の壺である。均整の取れた口縁部で、金属器の模倣品の可能性がある。14・15は瓦質土器の碗で、14は口縁部、15は底部で、粘土紐を巻き付けて成形した低い高台が付く。16・17は瓦質土器の捏鉢である。18は土師器の甕である。19～21は糸切り底の土師器で、19が坏、20・21は皿である。22は滑石製品で環状を呈す。23は滑石製石錘で、中央部に溝を彫って紐かけとする。

ピット SP4085（第29図） 径32cm、確認面からの深さ19cmの小ピットで、やや暗い色を呈する円形のプランの内部で検出された。しかし、同プランは最終的に現代の植栽による攪乱と判断され、それにともない本ピットの構築年代もまた、近代以降と結論づけられる。SP4085からは土師器の坏・鍋が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP4090（第29図） 径25cm × 23cmのピットで、確認面からの深さは55cmほどである。SP4090からは遺物は出土していない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP4091 (第29図) 径32cm × 26cm のピットで、確認面からの深さは8cmである。SP4091からは土師器の坏が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4093 (第29図) 径26cm のピットで、確認面からの深さは14cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

柱穴 SP4094 (第29図) 径29cm × 25cm のピットで、確認面からの深さは15cmである。ピット中央に埋まる角礫は礎石として機能していたとみられる。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4096 (第29図) 径42cm × 38cm のピットで、確認面からの深さは11cmである。SP4096からは土師器片が出土したが小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4098 (第23図) 径56cm のピットで、確認面からの深さは26cmである。

第24図28～30は SP4098出土である。28は青磁皿で内面にジグザグの櫛点描文と片彫りの草花文を施す。同安窰系青磁皿 I 類で、12世紀の後半から13世紀初頭の所産である(宮崎編 2000)。29は陶器の碗である。30は瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む(山本他 1997)。

(谷 直子)

ピット SP4108 (第29図) 径30cm のピットで、確認面からの深さは24cmである。SP4108からは遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4112・SP4113 (第30図) SP4112は径32cm、SP4113は径29cm の小ピットである。SP4112・4113からは遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4114 (第30図) 径32cm のピットで、確認面からの深さは23cmである。SP4114からは土師器の坏が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4115 (第30図) 径38cm のピットで、確認面からの深さは10cmである。SP4115からは遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4119 (第30図) 径42cm × 38cm のピットで、確認面からの深さは22cmである。SP4119からは、土師器の坏・皿の他陶器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4122 (第30図) 径28cm × 26cm のピットで、確認面からの深さは16cmである。SP4122からは遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4123 (第30図) 径26cm のピットで、確認面からの深さは18cmである。(齋藤瑞穂) 第27図34は SP4123出土の糸切り底の土師器の坏である。(谷 直子)

ピット SP4134 (第30図) 径42cm × 32cm の楕円形ピットで、確認面からの深さは14cmである。SP4134からは遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

柱穴 SP4138 (第30図) は径35cm 確認面から深さ10センチのピットで確認面から礎石が検出された。SP4138からは土師器の坏・鍋の他、瓦質土器片が出土したが、小片で図化し得ない。(谷 直子)

ピット SP4139 (第30図) 径35cm のピットで、確認面からの深さは9cmである。SP4139からは遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4140 (第30図) 径42cm × 33cm のピットで、確認面からの深さは27cmである。SP4140からは土師器の坏が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK4141 (第25図) 長軸56cm、短軸44cm の土坑で、確認面からの深さは10cmである。SK4141からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP4142（第30図） 径37cmのピットで、確認面からの深さは20cmである。（齋藤瑞穂）
第27図35・36はSP4142出土である。35は青磁碗で、外面に櫛描き文を施す。大宰府編年の同安窯系青磁碗Ⅰ類で、12世紀の後半から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。36は土師器の坏である。（谷 直子）

（3）第3遺構面の調査

第2遺構面から20cm余り層を剥ぐと、本来の箱崎砂層が顔を出す。この面をD区第3遺構面と呼び、本項ではこの面以深でプランを検出し得た遺構を報告する。

溝（第15・31図）

溝 SD4150（第15図） 南北に掘り込まれた溝で、幅は38cm、長さは120cm、確認面からの深さは7cmを測る。SD4150からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP4151（第31図） 38cm×25cmの楕円形ピットで、確認面からの深さは11cmである。SP4151からは遺物は出土していない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑（第23・25・26図）

土坑 SK4109（第23図） 長軸92cm、短軸72cmになる楕円形の土坑で、確認面からの深さは24cmである。（齋藤瑞穂）

第24図35～37はSK4109出土である。35・36は糸切り底の土師器で、35は坏、36は皿である。37は表面に縄目タタキの残る丸瓦である。（谷 直子）

土坑 SK4145（第25図） 長軸88cm、短軸65cmの楕円形で、確認面からの深さは13cmである。（齋藤瑞穂）

第27図6はSK4145出土の青白磁の合子蓋である。外面を面取りして菊花状に作る。青白磁は12世紀後半から出土しはじめ、14世紀まで出土する（田中 2008）。（谷 直子）

土坑 SK4147（第25図） 長軸112cm、短軸85cmの土坑で、確認面からの深さは16cmである。（齋藤瑞穂）

第27図11・12はSK4147出土である。11は糸切り底の土師器の坏である。12は平瓦である。（谷 直子）

土坑 SK4148・ピット SP4149（第25図） SP4149が古く、SK4148が新しい。不整形の土坑SK4148は長軸162cm、短軸126cm、確認面からの深さは42cmである。土層堆積図がないのは、筆者の指示ミスに因る。手元の記録では2層構成でレンズ状に堆積しており、上層に角礫が検出された。SP4149は短軸44cmで、楕円形の土坑になるものと推測される。確認面からの深さは40cmを測る。（齋藤瑞穂）

第27図13・14はSK4148出土である。13は外面に縄目タタキが残る丸瓦である。14は石球である。他に土師器の坏・皿・鍋、瓦質土器、白磁が出土したが、いずれも小片で図化し得ない。第27図15・16はSP4149出土の土師器の坏である。他に青磁、白磁が出土したが、小片で図化し得ない。

（谷 直子）

土坑 SK4156・ピット SP4157（第26図） SP4157がSK4156を切る。SK4156は長軸120cm、短軸80cmの楕円形土坑である。断面計測ラインの西側で一段深い部分があり、その底面で片岩が出土した。柱穴の可能性はある。SP4157は径40cmのピットで、確認面からの深さは10cmである。

SK4156からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。SP4157からは遺物は出土していない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK4160 (第26図) 長軸79cm以上、短軸80cmの楕円形土坑である。確認面からの深さは32cmを測る。SK4160からは土師器の坏が出土したが、小片で図化し得ない。(谷 直子)

ピット (第26・31図)

ピット SP4152 (第31図) 径20cmの小ピットで、確認面からの深さは32cmである。SP4152からは土師質の鍋、須恵器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK4153・土坑 SK4154・土坑 SK4158 (第26図) 最も北に位置するSK4158がSK4153を切り、SK4153がSK4154を切る。SK4153は南北107cm幅の土坑で、確認面からの深さは17cmである。SK4154は南北100cm、東西52cm以上の楕円形土坑で、確認面からの深さは24cmである。SK4158は南北180cm、東西52cm以上の楕円形土坑で、確認面からの深さは58cmを測る。(齋藤瑞穂)

第27図17～23はSK4153出土である。15は白磁碗である。ごく浅いケズリ高台で大宰府編年の白磁碗Ⅳ類の特徴を持つ。11世紀後半から12世紀前半の所産である。18は陶器の甕で、粘土紐を貼付けて丸い口縁を作る。19は陶器の壺である。「く」の字状に短く外反する口縁部で、薄く施釉する。大宰府編年の壺Ⅳ類と考えられ、13世紀頃の所産である。20は黄釉鉄絵盤である。磁竈窯のものと考えられ、陶器盤Ⅰ類である。11世紀後半から12世紀前半の所産である(宮崎編 2000)。21は土師器の甕である。22・23は糸切り底の土師器で、22は坏、23は皿である。SK4154からは土師器の坏が出土したが、小片で図化し得ない。第27図24～29はSK4158出土である。24は青磁碗である。釉が厚くかかり高台は細い。高台の露体部と施釉部の境が赤く発色する。龍泉窯系青磁碗Ⅲ類である。13世紀中頃から14世紀初頭の所産。25は陶器の壺である。口縁部は外反し、端部は丸い。26は土師器の高台付の坏である。27・28は糸切り底の土師器の坏である。29は平瓦である。(谷 直子)

ピット SP4155 (第31図) 第2遺構面で検出したSK4070に切られている。径38cmの小ピットで、確認面からの深さは7cmである。SP4155からは、土師器の坏・鍋、瓦質土器の捏鉢、瓦が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

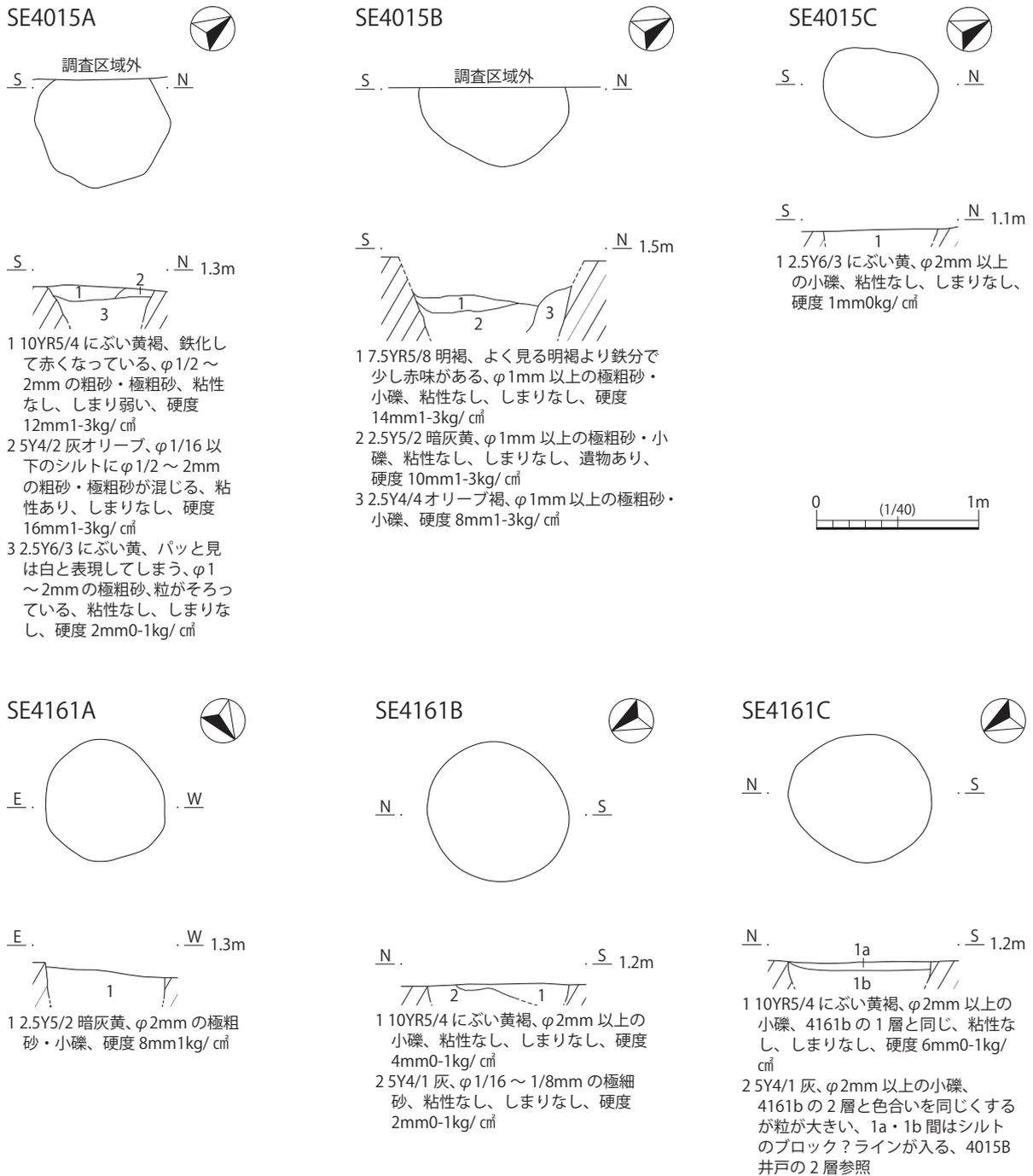
ピット SP4159 (第26図) 径72cmの円形土坑で、確認面からの深さ68cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

井戸 (第32図)

井戸 SE4161A・B・C 第3遺構面で比較的広く黒色砂が広がっていた箇所を1m余り掘削し、標高1.1mほどのところで3基の井戸プランが検出された。近接するこの3基にSE4161A、SE4161B、SE4161Cの名称をあたえている。プラン内から出土した遺物はそれぞれの個別名称でとりあげ、第3遺構面から井戸枠検出レベルまでの間で出土した遺物については「SE4161」として一括してとりあげた。

SE4161Aの径は73cm、SE4161Bの径は87cm、SE4161Cの径は88cmを測る。いずれも井戸枠はなく、素掘りの井戸とみられる。3基の新古は明確でない。ただし、上位のレベルで真っ先にプランを観察できたのがSE4161Cであり、また、AとBの間でもBがAを切るように見えることからすると、CおよびB→Aの順序を推測し得る。(齋藤瑞穂)

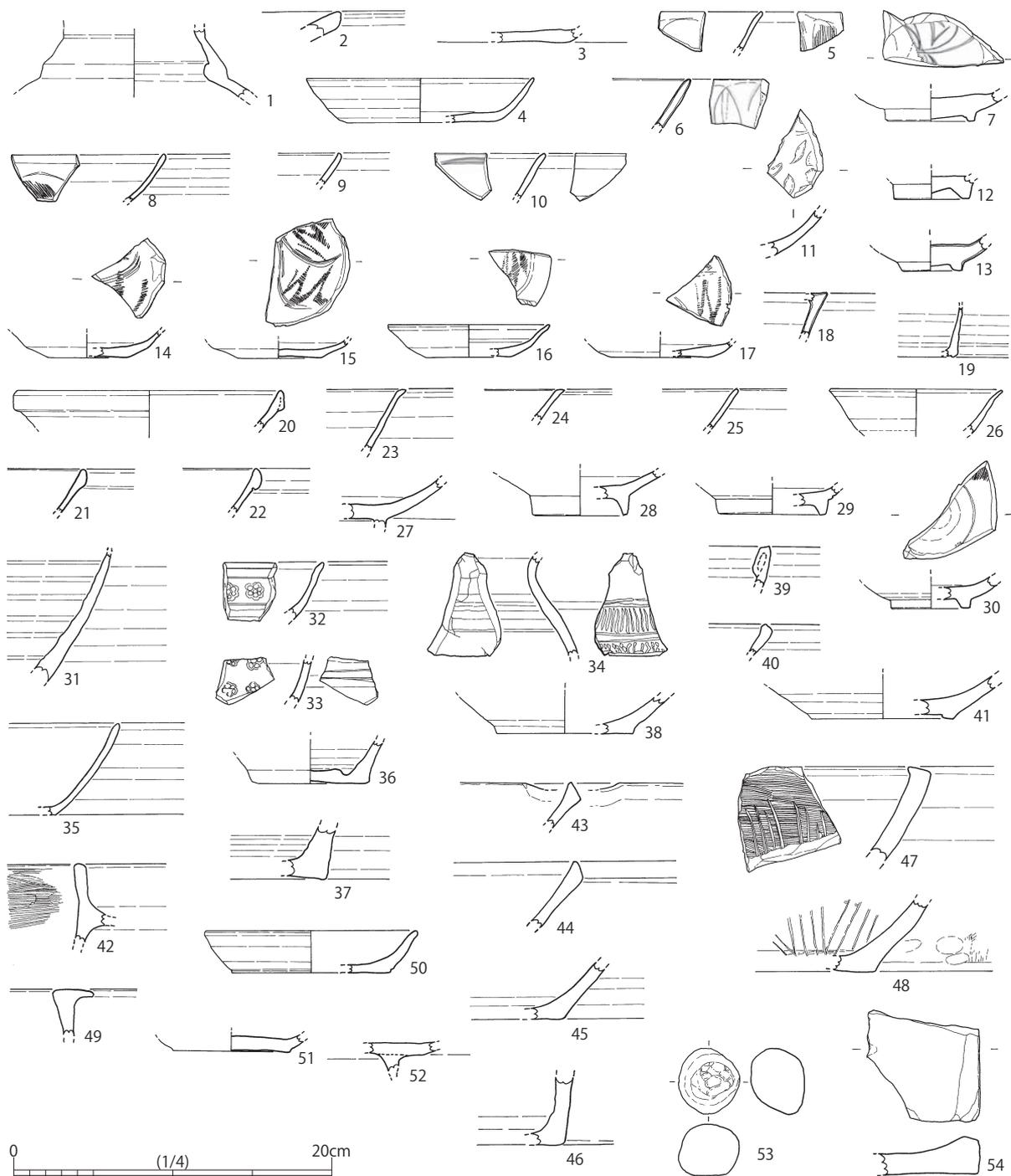
第33図1はSE4161A出土の陶器壺である。褐釉四耳壺の頸部と考えられる2・3はSE4161B出土で、2は瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀後半以降在地産になる(宮崎編 2000)。3は糸切り底



第32図 HZK2003地点 D 区2・3面 SE4015・4161平面・断面図

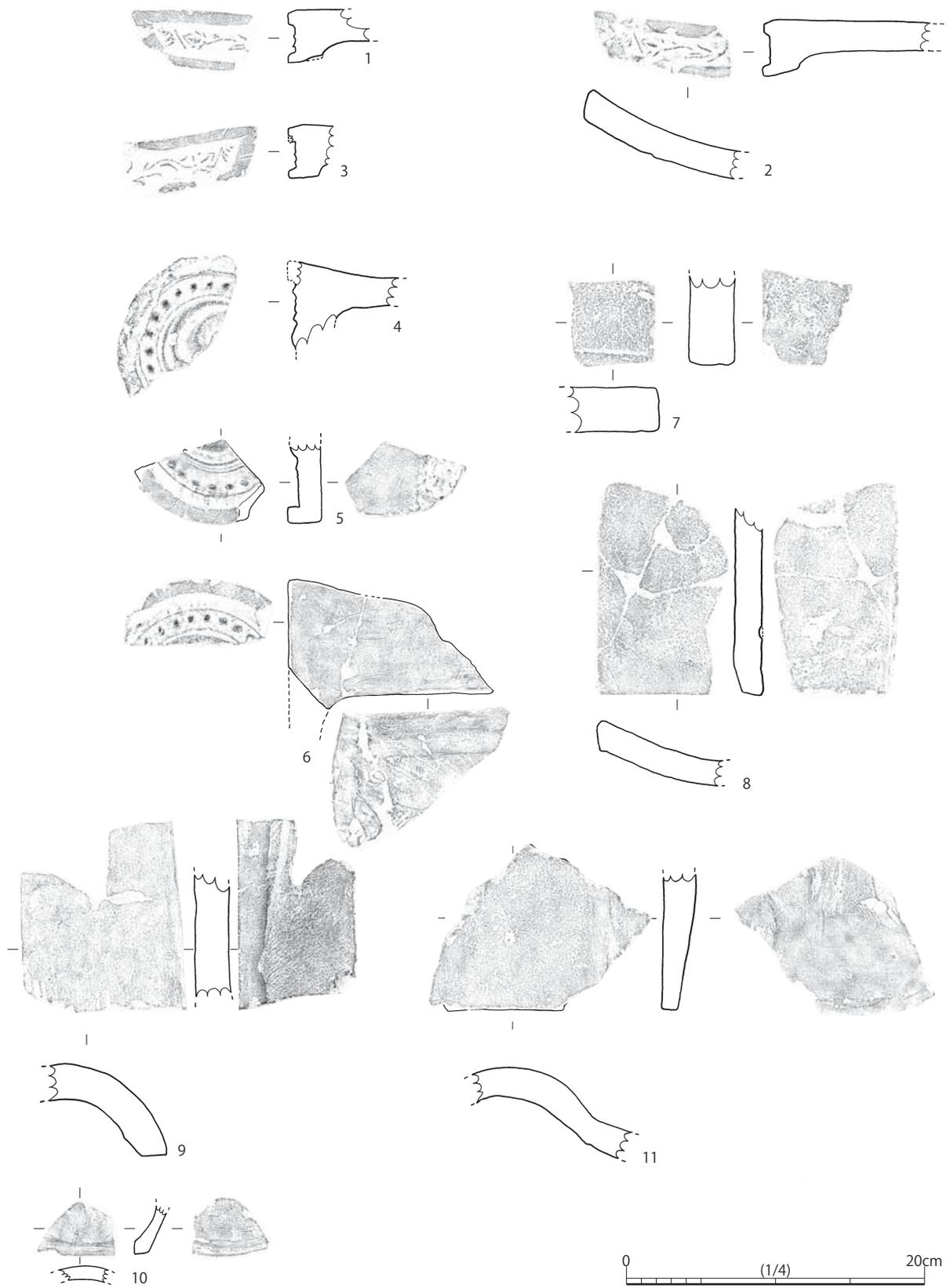
の土師器の坏である。4はSE4161C出土の糸切り底の土師器の坏である。

第33図5～54と第34図はSE4161出土である。第34図5～13は青磁碗である。5は内面に片彫り文を施し、外面に縦に櫛目と片彫り蓮弁文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I-6a類である。6は外面に鎬蓮弁文を施す。龍泉窯系青磁碗II類である。7は内面見込み部分に片彫り草花文を施す。龍泉窯系青磁碗I-1b類である。8は内面に櫛描き文と片彫り文を有し、同安窯系青磁碗I類である。10は内面に片彫りで分割線を描いており、龍泉窯系青磁碗I-4類、11は内面にレリーフ状の模様を施

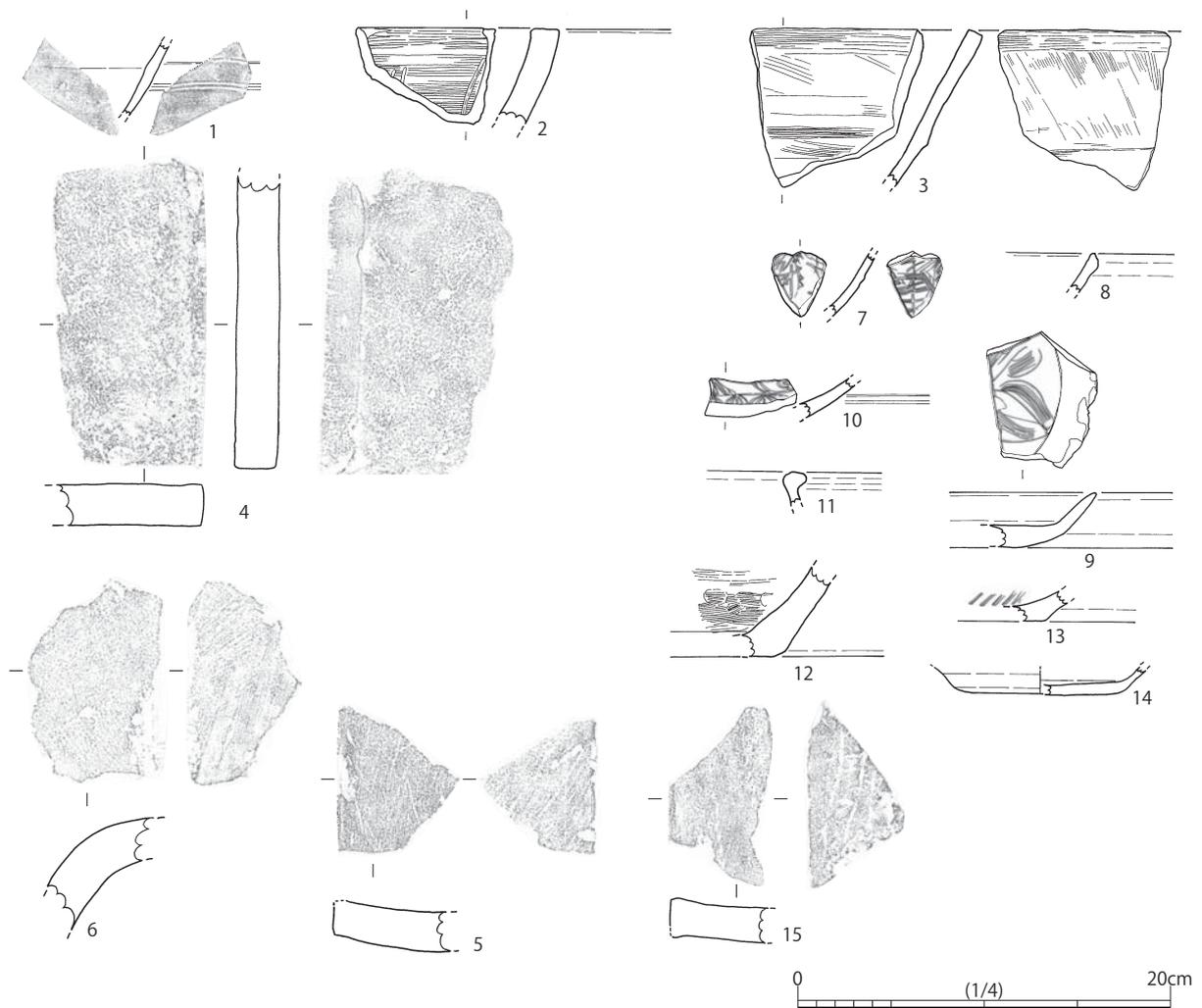


第33図 HZK2003地点D区2・3面SE4161出土遺物1

し、釉調が濁ることから、龍泉窯系青磁碗Ⅳ類である。青磁碗の時期は12世紀中頃から14世紀中頃の幅がある。14～17は同安窯系青磁皿Ⅰ類である。いずれも内面にジグザグの櫛点描文と片彫りの草花文を施す。18は青磁の蓋付容器の口縁部と考えられる。19は青磁の壺底部である。20～30は白磁碗である。20～22は口縁部が玉縁になり、大宰府編年の白磁碗Ⅳ類である。23・24は口縁部が短く屈折し、白磁碗ⅤまたはⅧ類である。25・26は口縁部が口禿となり、白磁碗Ⅸ類である。30は内面に短い櫛目



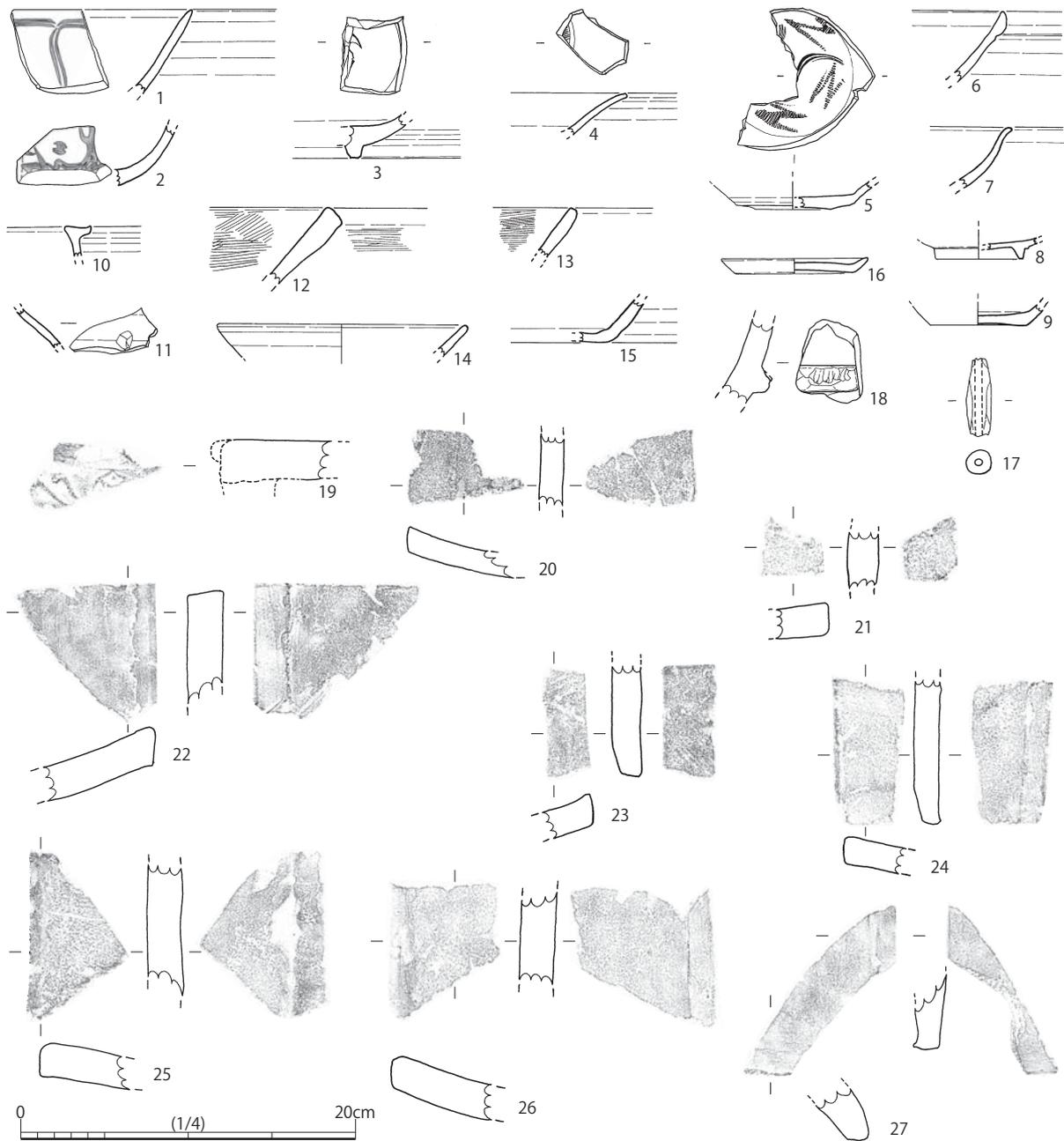
第34図 HZK2003地点D区2・3面SE4161出土遺物2



第35図 HZK2003地点D区2・3面SE4015出土遺物

文があり白磁碗V-4類である。白磁碗の時期は12世紀前半から14世紀初頭の時期幅を持つ（宮崎編 2000）。31は白磁壺の胴部である。32～34は朝鮮王朝の粉青沙器で、32・33は白色粘土で花文を象嵌する碗である。34は壺である。これらの粉青沙器は14世紀後半から15世紀中頃の所産である（佐藤 2008）。35は黒褐色の釉がかかる天目碗である。36・37は陶器の壺底部である。38～41は陶器の鉢である。42～48は瓦質土器である。42は湯釜、43～45は捏鉢、46は瓦質土器の火鉢、47・48は播鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進み、14世紀後半以降スリ目が入り播鉢となる（山本他 1997）。49～52は土師器である。49は甕、50・51は糸切り底の土師器の坏、52は高台付の坏である。53は石球、54は石皿である。第34図は瓦で、1～3は軒平瓦である。いずれも蓮華唐草文で、唐草の先端部に蕾が付き、界線で区切った端部に半裁した宝珠文を配する。4～6は軒丸瓦である。いずれも三巴文の外側に圈線がめぐり、連珠文が付く。4・6は内面にコビキAが見られる。

7・8は平瓦である。9・10は丸瓦である。11は雁振瓦である。雁振瓦は室町期になると山形に変化するが、11は丸瓦部分との屈曲がまだ明瞭である。界線を持つ蓮華唐草文軒平瓦、雁振瓦、巴文軒丸瓦のセットは、福岡市西区の野芥遺跡4次調査でも表採されている。野芥4次調査出土の瓦は14世紀前半頃に葺かれはじめ、おおよそ15世紀代を中心とする时期的なまとまりがある（中村編 1998・



第36図 HZK2003地点D区遺構外出土遺物1

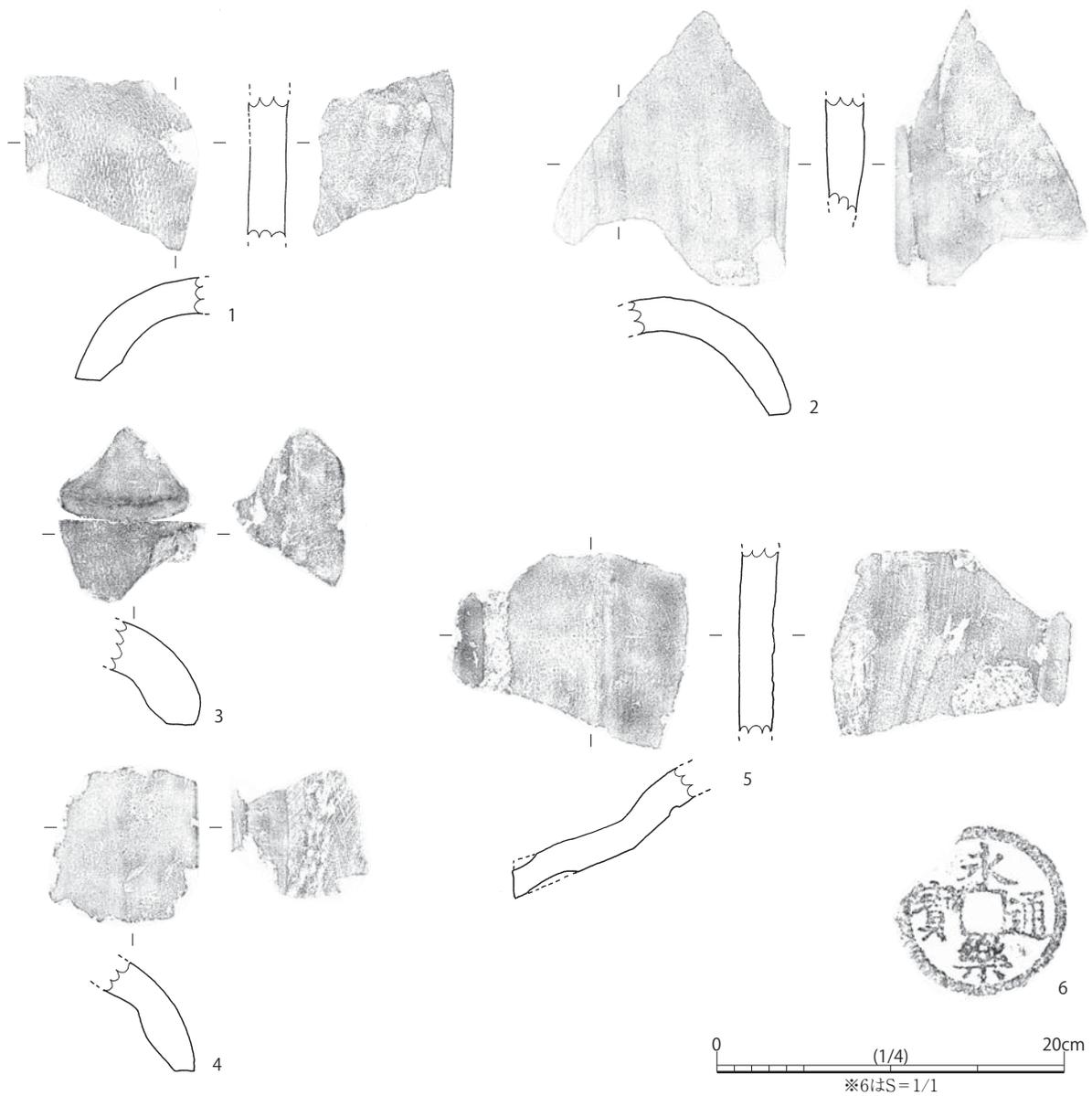
松田他 2019)。

(谷 直子)

井戸 SE4015A・B・C SE4161と同じく第3遺構面で検出された黒色砂の広がり掘削していくと、標高1.2mほどで3基の井戸プランが検出された。これを SE4015A、SE4015B、SE4015C と呼ぶ。プラン内から出土した遺物はそれぞれの個別名称でとりあげ、第3遺構面から井戸枠検出レベルまでの間で出土した遺物については「SE4015」として一括してとりあげた。3基の新古は明確でない。

4015A の径は77cm、板材を組み合わせて八角形に作る。遺存していた板材は78cm あることから、標高0.42m まで深く掘り込んだことが推察できよう。4015B は径90cm を測る。4015C は径70cm を測る。木の皮状の薄い木質から枠が成る。

(齋藤瑞穂)



第37図 HZK2003地点D区遺構外出土遺物2

この井戸枠の木材については樹種同定と年代測定を行い、その結果については第Ⅷ章で詳しく述べる。井戸枠の木材はいずれもスギ、時代は鎌倉から室町時代との成果が出ている。

第35図1～6はSE4015A出土である。1は須恵器の壺胴部である。2は備前焼の陶器の挿鉢である。3は土師質の挿鉢である。4・5は平瓦で、裏面にコビキAの痕跡が残る。6は丸瓦である。

SE4015Bからは土師器の他、瓦質土器の挿鉢、白磁が出土したが、いずれも小片で図化できなかった。

第35図7～15はSE4015一括出土である。7は青磁碗である。本来は釉が厚くかかる鎬蓮弁文であるが、内外面に釉の部分を利用して擦切ったような痕跡が見られる。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅲ類である。8は白磁碗である。9は白磁皿である。口縁端部はやや肥厚する。体部下半で屈曲しており素口縁で、底部外面は露胎。見込み部分に型押し草花文を施す。白磁皿Ⅷ類で12世紀中頃から後半

の所産である（宮崎編 2000）。10は高麗象嵌青磁の碗である。内面に・白色粘土と黒色に発色する粘土を用いて施文する。14世紀後半の所産（佐藤 2008）。11は陶器の甕口縁部である。12は瓦質土器の捏鉢、13は瓦質土器の播鉢である。播鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる（山本他 1997）。14は糸切り底の土師器の坏である。15は平瓦で表面に工具痕が残る。（谷 直子）

（4）遺構外出土遺物

第36・37図は遺構外出土である。第36図1～3は龍泉窯系青磁碗である。1は内面に片彫りで分割線を描いており、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-4類である。12世紀の後半から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。2は内面にレリーフ状の文様を施す。龍泉窯系青磁碗Ⅳ類である。4は青磁皿である。5は内面にジグザグの櫛点描文と片彫りの草花文を施す皿で、同安窯系青磁皿Ⅰ類である。12世紀後半から13世紀初頭の所産である。6～8は白磁碗である。6は玉縁口縁で、大宰府編年の白磁碗Ⅳ類。時期は11世紀後半から12世紀前半で、12世紀後半まで一定量を占める（宮崎編 2000）。7は口縁部が外反し、小さな稜が付き、白磁碗Ⅴ類である。9は白磁皿で、平底の底部外面の釉を板状工具でのばしている特徴から、白磁皿Ⅸ類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。10は黄釉盤の口縁部である。11は陶器の耳壺の耳部分である。12は土師質の捏鉢である。13は土師質の鍋である。14・15は土師器の坏で、15は糸切り痕が残る。16は糸切り底の土師皿である。17はやや中央部が膨らむ円筒形の土錘である。18は滑石製石鍋で鏝が付く。19は蓮華唐草文軒平瓦である。14世紀の所産である（松田他 2019）。20～26は平瓦である。第36図27・第37図1～4は丸瓦である。4には吊り紐痕が残る。第37図5は雁振瓦である。丸瓦部分との境の屈曲は弱い。6は永楽通宝である。（谷 直子）

3. E区の遺構と遺物

（1）エリアⅠ（第39・40図）

「エリアⅠ」としたのは、調査区中央部南側の遺構密集エリアである（第38図）。遺構の検出作業を行った結果、土坑20基、ピット6基が見つかった。

SK09 平面プランは楕円形を呈する。土師器片が出土したが、時期の特定は困難である。

SK10・SK11・SK12 SK10～12は切り合い関係にあり、SK12→SK11→SK10の順番で構築されている。SK10からは12世紀後半のものと推察される白磁碗が、SK11からは東播系須恵器の捏鉢が出土している。なお、SK12から遺物は出土していない。

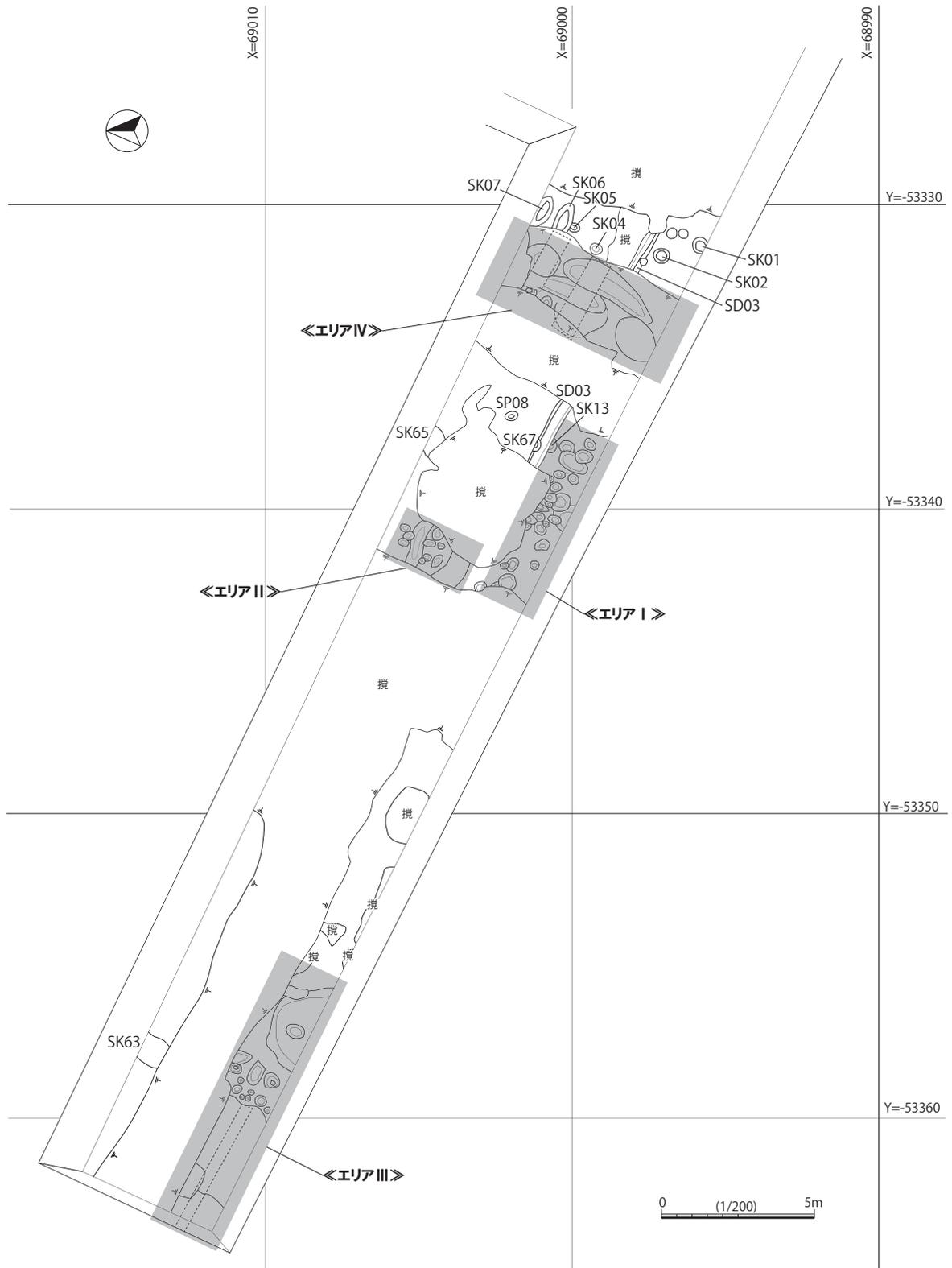
SK14 楕円形を呈する。埋土上部は若干土色が明るい、分層できるほど明瞭な境界を見出すことはできない。土師器坏が出土しているが、遺構の構築時期を絞ることは難しい。

SK15 楕円形を呈する土坑で、遺物は出土してない。

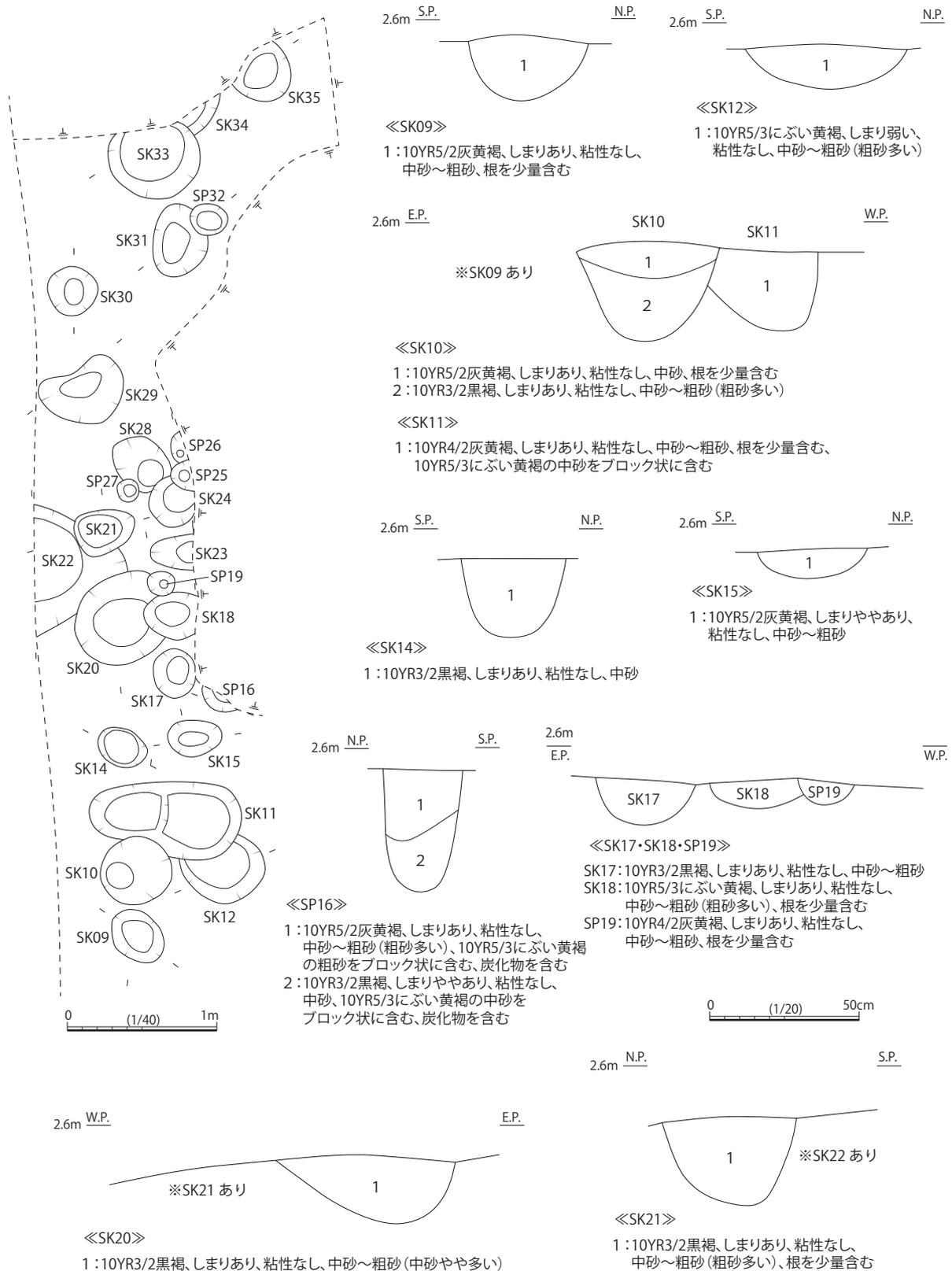
SP16 遺構北側の大部分は近現代の攪乱によって破壊されており、全体の形状は不明である。土師器小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK17 平面プランは円形を呈する。土師器坏の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

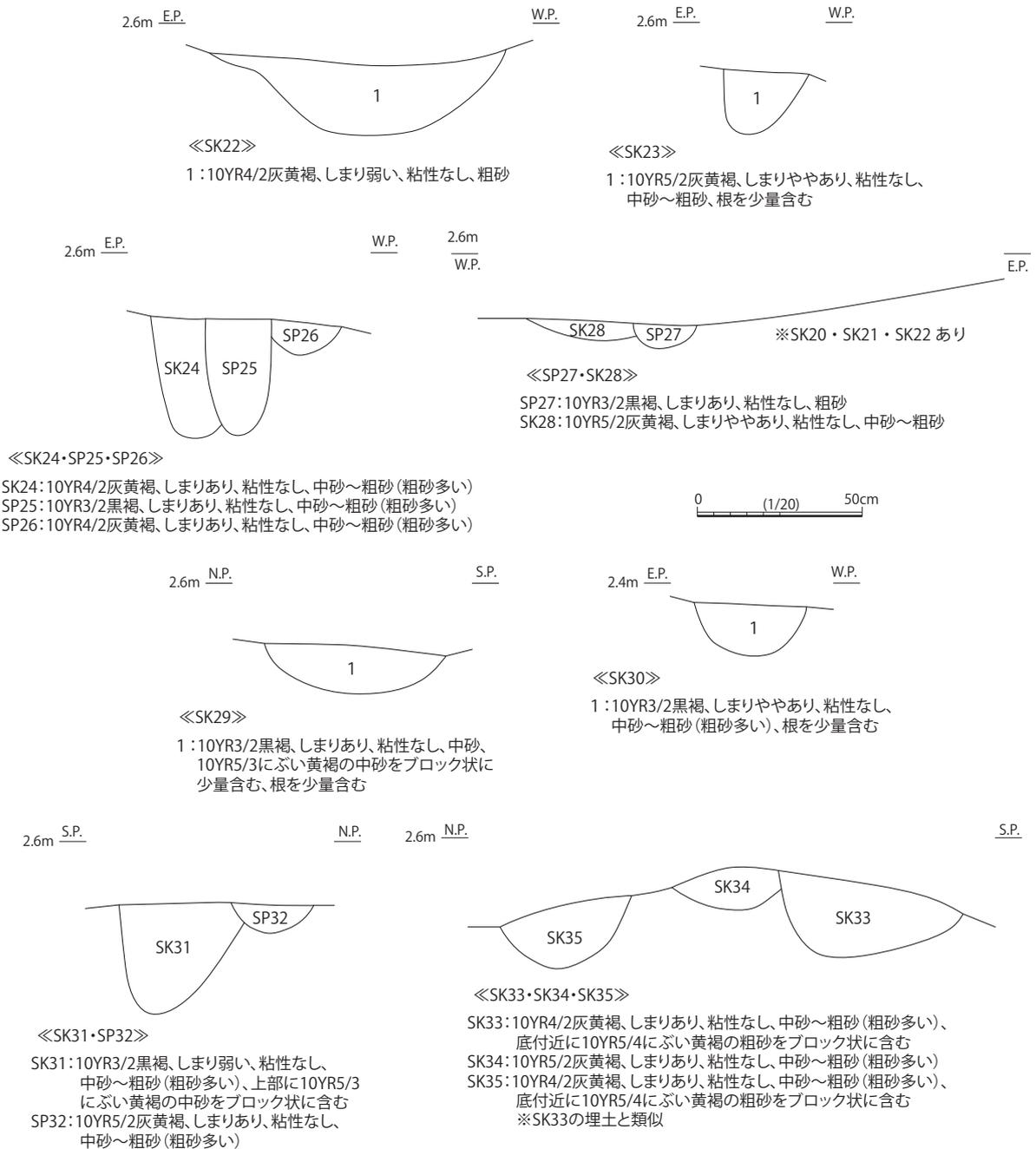
SK18・SP19・SK20・SK21・SK22 SK18・SP19・SK20・SK21・SK22は切り合い関係にある。SK22→SK20→SK18→SP19の順番で構築されている。SK21はSK22を切って構築されていることは明らかだが、その他のSK18・SP19・SK20との前後関係は不明である。SK18とSP19の埋土の類似性は高いが、微妙な色調の違いで両者を区別した。SK21からは、白磁皿・龍泉窯系青磁碗・土師器片



第38図 HZK2003地点 E区 遺構配置図



第39図 HZK2003地点 E 区 エリア I 遺構平面・断面図①

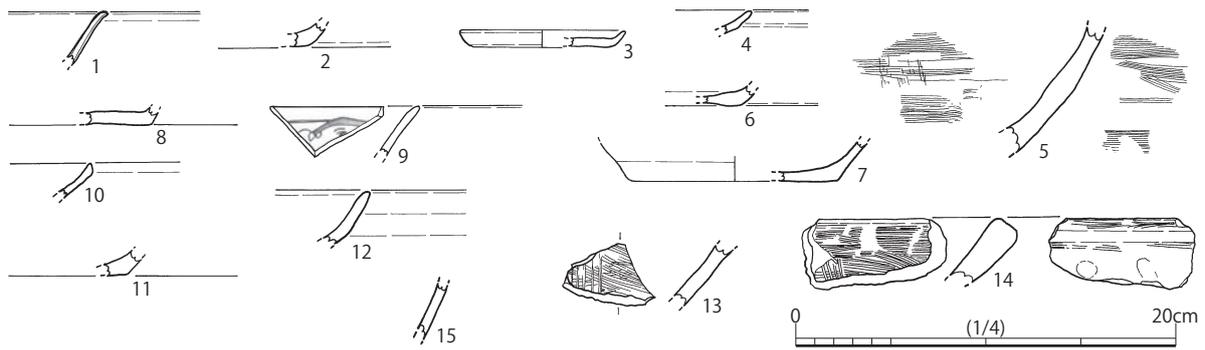


第40図 HZK2003地点E区 エリアI 遺構断面図②

が出土しており、龍泉窯系青磁碗は12世紀後半の所産で、遺構の時期をあらわしていると推察される。SK18・SK20からは土師器小片などが出土しているが、時期の特定は困難である。SP19・SK22からは遺物は出土していない。

SK23 楕円形を呈すると考えられるが、遺構北側の大部分を近現代の攪乱で破壊されており、全容は不明である。土師器片が出土しているが、時期の特定は難しい。

SK24・SP25・SP26・SP27・SK28 SK24・SP25・SP26・SP27・SK28は切り合い関係にあり、SK28→SK24→SP25の順番で構築されている。SP26はSP25に切られ、SP27はSK28で切って構築されているが、その他の遺構との前後関係は不明である。SK24とSP26は埋土の土質が類似しており、



第41図 HZK2003地点E区エリアI出土遺物

埋没時期が近い可能性もある。各遺構から遺物は出土していない。

SK29 平面プランは不定形。土師器坏や鍋、瓦質土器の碗が出土しているが、いずれも小片で時期の特定は困難である。

SK30 円形を呈する土坑であり、遺物は出土していない。

SK31・SP32 SP32がSK31を切って構築されている。SK31からは、14世紀後半以降の所産と考えられる土師器播鉢が出土しており、遺構の時期を表していると推察される。

SK33・SK34 SK33がSK34を切って構築されている。両者の埋土は類似しているが、微妙な土色の違いを根拠に切り合い関係を判断した。両者ともに遺構西側を近現代の攪乱によって破壊されている。SK33からは磁竈窯産黄釉盤が出土しているが、遺構の構築時期を絞ることは難しい。

SK35 円形を呈すると推察されるが、遺構西側が近現代の攪乱によって破壊されている。遺物は出土していない。（福永将大）

出土遺物と年代 第41図1～3はSK10出土である。1は白磁碗で短く屈曲する口縁部が付く。大宰府編年のVまたはⅧ類で、いずれにせよ12世紀中頃に増加する（宮崎編 2000）。2・3は糸切り底の土師器で2が坏、3が皿である。

第41図4～7はSK11出土である。4は瓦質土器の碗口縁部である。5は東播系須恵質の捏鉢である。東播系須恵器の捏鉢は11世紀中頃以降、13世紀後半まで多く使用される（山本他 1997）。6・7は糸切り底の土師器の坏である。

第41図8はSK14出土の糸切り底の土師器の坏である。

第41図9～12はSK21出土である。9は内面に片彫り文を施す青磁碗で、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I-2類である。12世紀中頃から13世紀初頭の所産である。10は白磁皿である。口縁は端部で屈折し上方にのびる。11・12は土師器の坏で、11は糸切り底である。

第41図13・14はSK31出土である。13は瓦質土器、14は土師質の播鉢である。いずれも内面はヨコハケでスリ溝が付く。播鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる（山本ほか 1997）。

第41図15はSK33出土の陶器の黄釉盤である。磁竈窯産の黄釉盤は11世紀後半以降出土し、14世紀前半まで存続する（宮崎編 2000）。（谷 直子）

（2）エリアII（第42図）

調査区中央部北側の遺構密集エリアを「エリアII」とした（第38図）。遺構の検出作業を行った結果、溝1条、土坑3基、ピット6基が見つかった。

SK36 楕円形を呈する土坑である。土師器坏の小片が出土したが、時期の特定は難しい。

浅かった。直上に近現代の攪乱が存在していたため、その痕跡である可能性も排除できないが、一応遺構として認定しておく。なお、SK48から遺物は出土していない。SK47はSK48を切って構築されている。白磁、青磁、土師器坏・鍋、陶器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK49 平面プランは円形を呈する。遺構底面から礎石と考えられる15cm大の扁平な礫が出土しており、柱穴と推察される。後述するSK51も柱穴と考えられるが、その堆積状況は異なっている。SK49遺構上部がSK51よりも広がっていることを踏まえると、SK49では柱を前後左右に動かしながら抜き取った可能性があり、それに起因してSK51との差異が生じたことも推察される。14世紀代の所産と考えられる土師質鍋の小片が出土しており、遺構の時期を表していよう。

SK50 平面プランは長楕円形を呈する。遺物は出土していない。

SK51・SK52 SK51がSK52を切って構築されている。SK51は底面付近から礎石と考えられる15cm大の扁平な礫が出土しており、柱穴と推察される。先述した通り、柱穴と考えられるSK49とは堆積状況が異なっており、柱の痕跡と考えられる2層の周囲には、質が異なる土が水平に重複して堆積している。2層と3層を切るように1層が堆積しており、その1層の直下から瓦質土器の捏鉢が出土している。この捏鉢から遺構時期を絞ることは難しいが、13世紀以降の所産と推察され、遺構廃絶時期もこれと近いものと考えられる。SK52からは、瓦質土器や土師器の小片が出土しているものの、時期の特定は困難である。

SP53 径20cm程度のピットである。隣接するSK54と埋土が類似しているが、SP53のほうが粗砂が多い。土師器小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK54 平面プランは円形を呈する。遺物は出土していない。

SP55～SP59 切り合い関係にはないが、一定の範囲に密集して構築されている。いずれも検出面からの深さは10cm程度と浅く、埋土の特徴は類似している。遺物は出土していないので、遺構時期の特定ができない。周辺にはSK49やSK51といった礎石をもつ柱穴や、ピットSP53も存在しているが、掘立柱建物のプランなどは確認することができない。

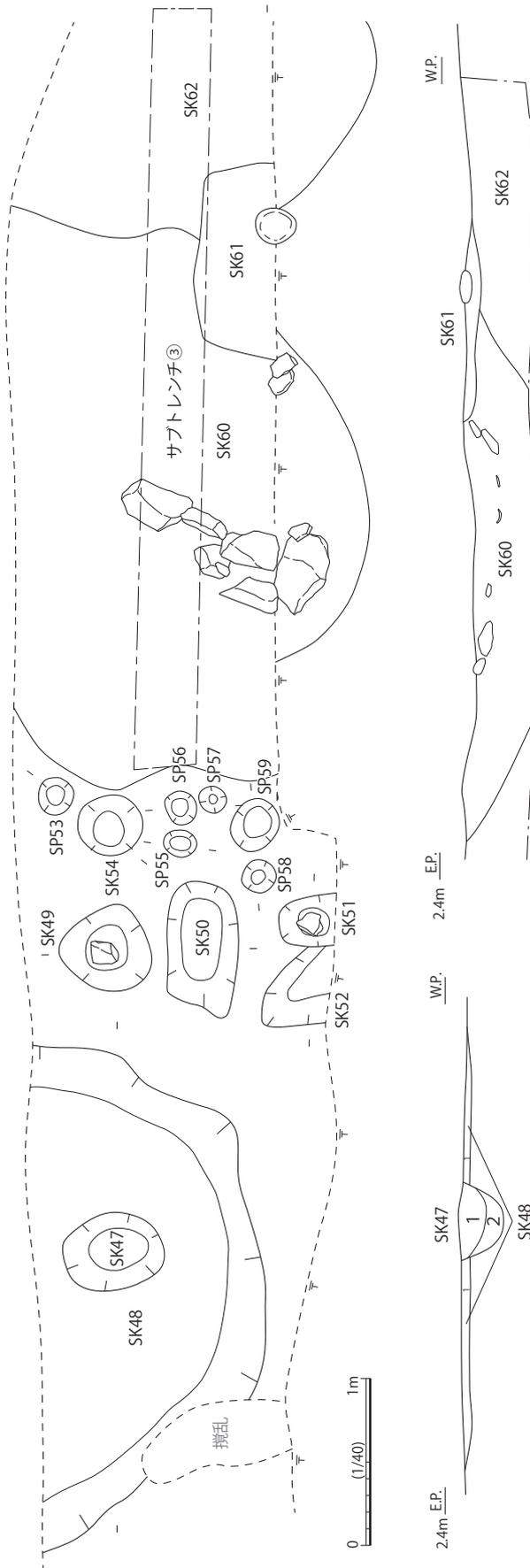
SK60～SK62・SK75 SK60・SK61・SK62の遺構検出時に、近現代の攪乱の落ち込みを利用して土層断面の観察を実施した（第43図）。その時点ではSK60・SK62を井戸ではないかと考えており、SK60がSK62を切って構築されていると判断していた。しかし、SK60とSK62の切り合い関係については、ちょうどSK60とSK62の接する箇所にSK61が存在していたこと、SK62の埋土の把握が十分に行えていないと感じていたことなどから、サブトレンチ③を設定し、再度検討を試みることにした。

再検討の結果、SK60とSK62の下にSK75という別の遺構が存在していることが判明し、SK75→SK60→SK62の順番で構築されていることがわかった（第45図）。また、SK60・SK62・SK75のいずれから井戸主体部は確認できず、これらは井戸ではないと判断した。

SK60・SK62・SK75からは、比較的多くの遺物が出土している。白磁や青磁は12世紀後半から13世紀代のものが多いが、出土している土師質鍋や瓦質土器の拵鉢などは14世紀後半から15世紀代の特徴を有する。各遺構間で出土遺物に大きな差異も見られないことから、いずれも14世紀後半から15世紀代という時間幅の中で構築・廃絶が繰り返されたものと推察される。

SK61は、SK60・SK62・SK75の廃絶後に構築された遺構である。埋土は粘土質で、最下部は接褐色を呈しており鉄分が沈着しているようなあり方を示す。13世紀から14世紀前半に比定される陶器鉢が出土しているが、切り合い関係からSK60・SK62・SK75よりも古くなることは考えられないため、14世紀後半から15世紀代以降の所産と判断される。（福永将大）

出土遺物と年代 第46図1・2はSK49出土である。1は土師質の鍋で、口縁部が屈曲することか



《SK47》

- 1 : 〈10YR3/2黒褐、しまりあり、粘性ややあり、中砂～粗砂〉と、〈10YR5/3にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂～粗砂〉が互層をなしてレンズ状に堆積している
- 2 : 10YR4/3にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)

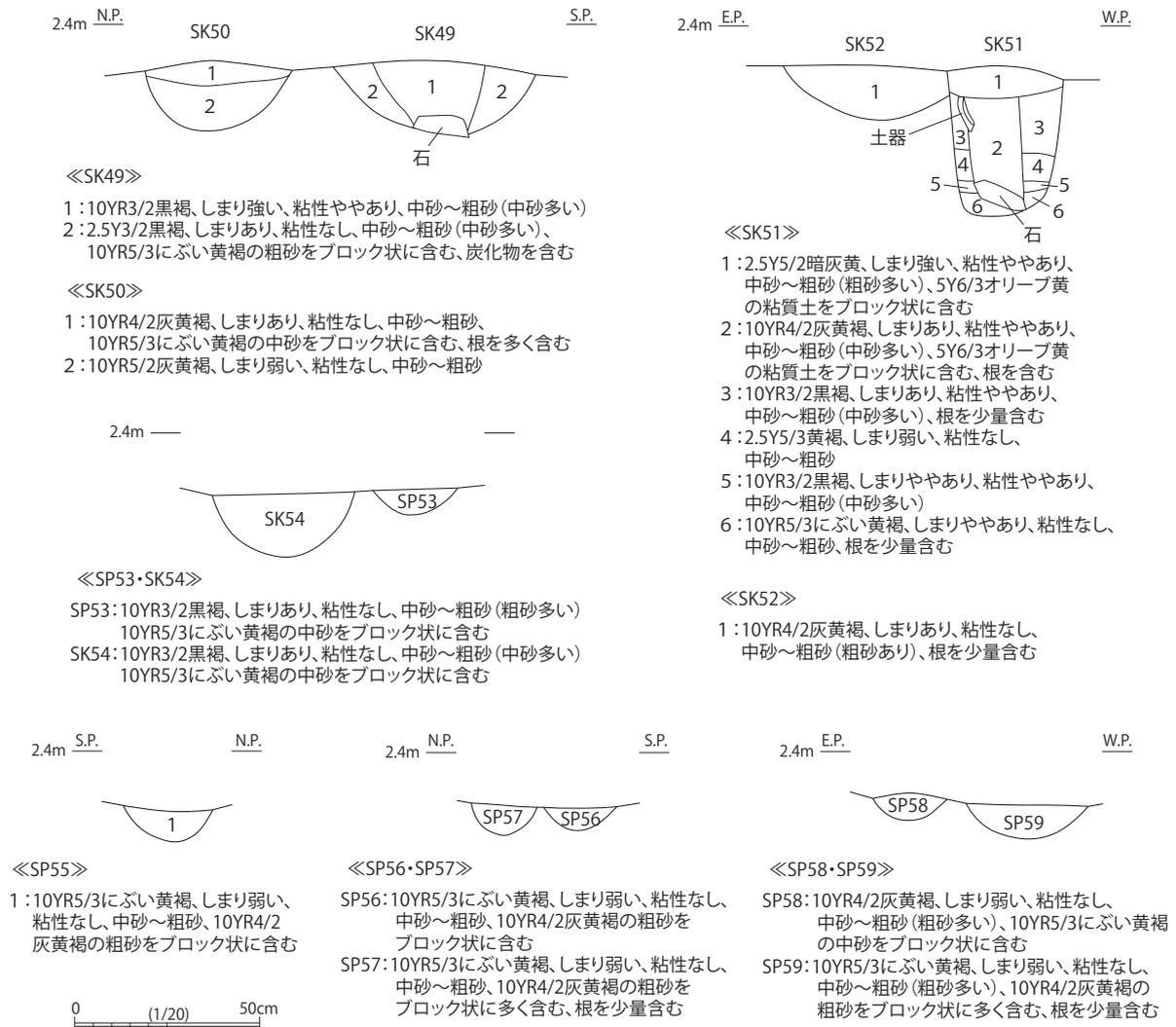
《SK48》

- 1 : 10YR5/2灰黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂、波状線状痕が数条入る

《SK60・SK61・SK62検出時の土層断面観察》

- SK60 : 10YR3/2黒褐、しまりあり、粘性あり、中砂～粗砂(中砂多い)、10YR4/2灰黄褐の中砂をブロック状に少量含む、炭化物を多く含む、上部には20～40cm大の扁平な石を含む
- SK61 : 5Y6/2灰オリーブ、しまり強い、粘性あり、泥質、2cm程度の小石を含む、炭化物を含む、最下部は7.5YR5/6明褐色呈する(鉄分か?)、15cm大の円礫を含む
- SK62 : 10YR5/2灰黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)、〈10YR3/2黒褐のやや粘質土〉と〈10YR5/4にぶい黄褐の中砂～粗砂〉をブロック状に含む、炭化物を含む、根を少量含む

第43図 HZK2003地点E区 エリアIII 遺構平面・断面図①



第44図 HZK2003地点 E 区 エリアIII 遺構平面・断面図②

ら、14世紀頃の所産である。(山本ほか 1997)。2は土師皿である。

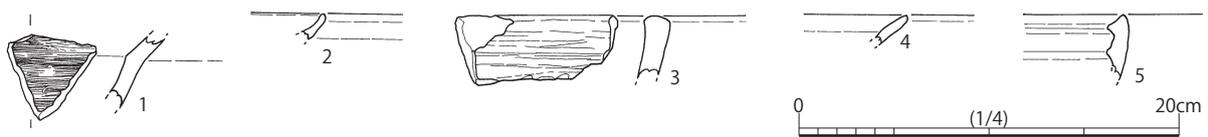
第46図3はSK51出土の瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む(山本ほか 1997)。

第47図はSK60出土である。1～8は5層出土である。1は青磁碗で内面に分割線と飛雲文を片彫りで施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I-4類で、12世紀後半から13世紀初頭の所産である(宮崎編2000)。2は龍泉窯系青磁皿である。3は素口縁の白磁碗で、内面に圏線がめぐる。大宰府編年の白磁碗VIII類で、12世紀中頃から後半の所産である。4・5は陶器の黄釉盤で、4は鉄絵を施す。5は口縁部が断面方形に近い形で、大宰府編年の盤I-2類である。11世紀後半から12世紀前半の所産である(宮崎編2000)。6は東播系須恵器の捏鉢である。東播系須恵器の捏鉢は11世紀中頃以降、13世紀後半まで多く使用される(山本ほか 1997)。7は土師質の鍋で口縁部が屈曲することから、14世紀頃の所産である(山本ほか 1997)。8は糸切り底の土師皿である。

9～15は6層出土である。9は青磁碗で、内・外面に櫛描きで施文する。大宰府編年の同安窯系青磁碗I類で、12世紀後半から13世紀初頭の所産である(宮崎編2000)。10・11は白磁碗である。10は口縁端部が短く屈曲し、内面口縁部下に圏線がめぐる。大宰府編年の白磁碗V-4またはVIII類で、いず



第45図 HZK2003地点 E区 エリアⅢ サブトレンチ③南壁土層断面図



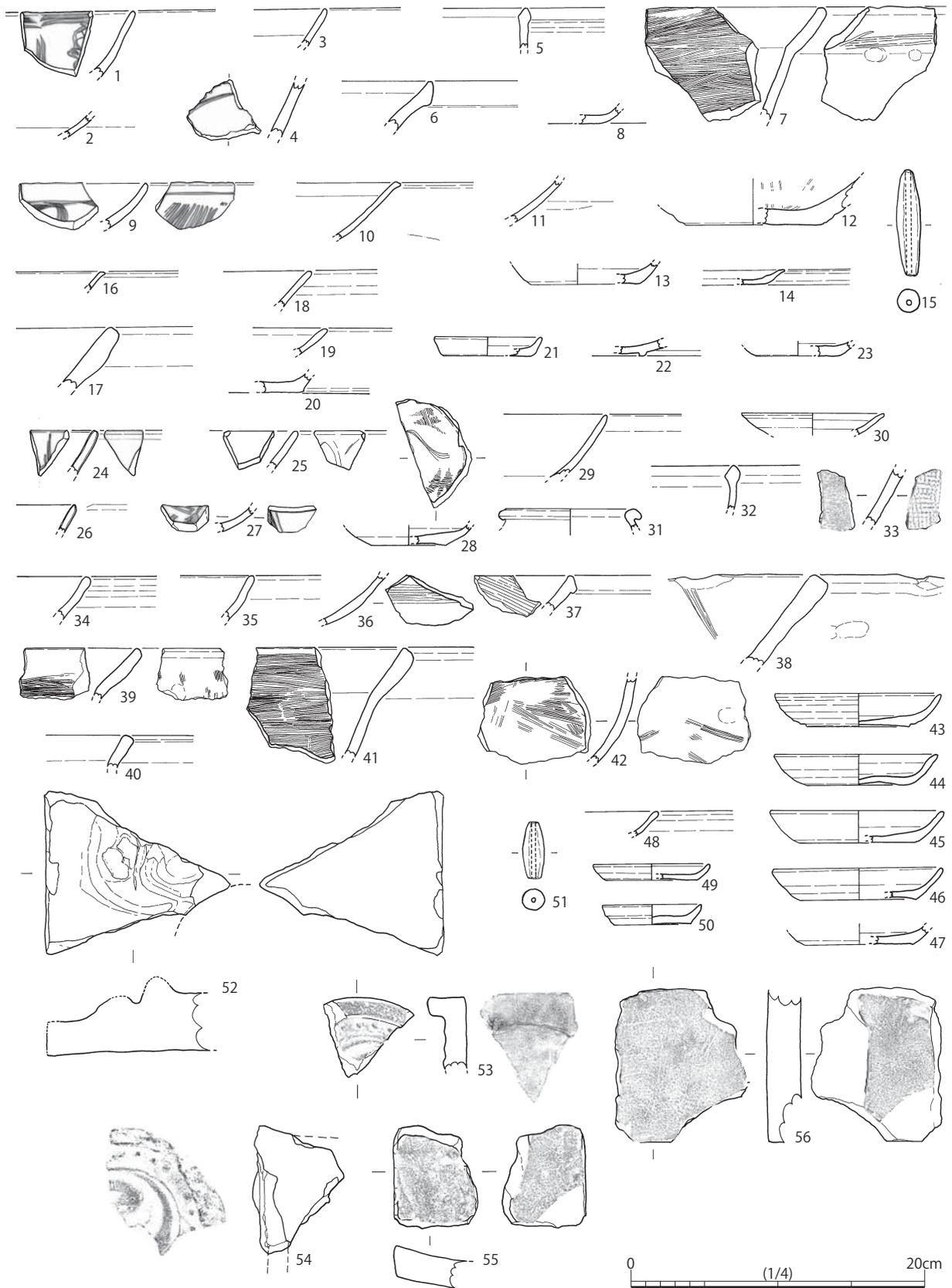
第46図 HZK2003地点 E区 エリアⅢ 出土遺物

れにせよ12世紀中頃から後半の所産である(宮崎編 2000)。12は瓦質土器の播鉢である。播鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる(山本ほか 1997) 13は土師器の坏、14は土師皿である。15はやや中央が膨らむ円筒形の土錘である。

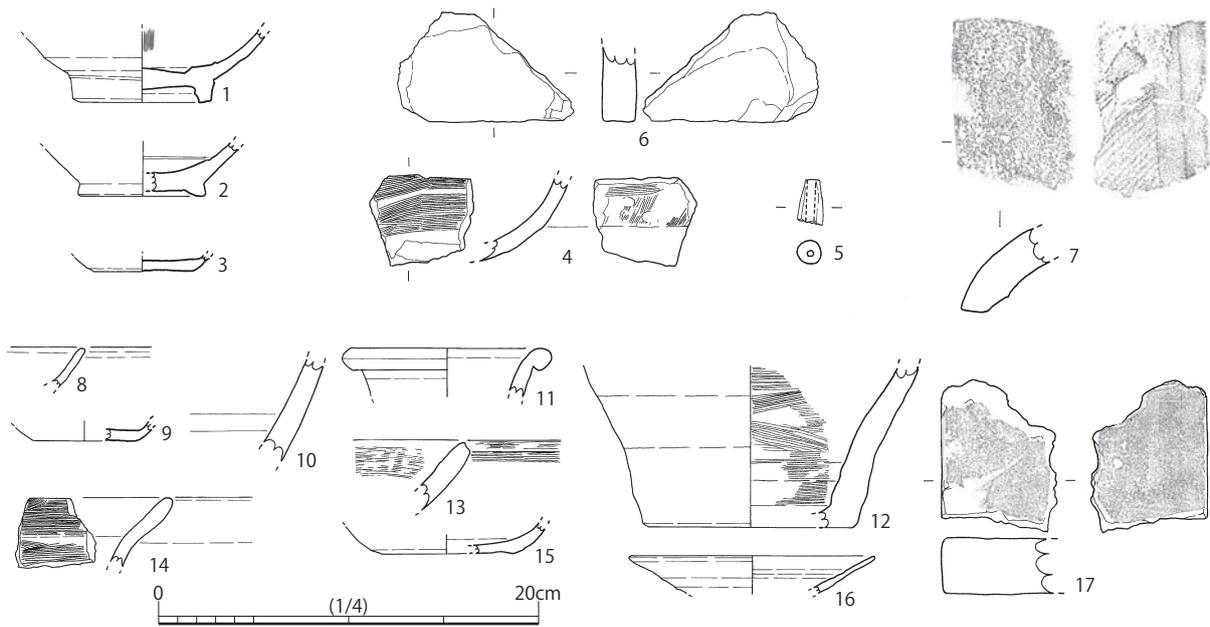
16～21は7層出土である。16は白磁碗の口縁部である。17は土師質の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む(山本ほか 1997)。18～20は土師器の坏である。21は糸切り底の土師器の皿である。

22・23は8層出土である。22は低い高台が付く瓦質土器の碗である。内面は黒色を呈す。23は糸切り底の土師皿である。

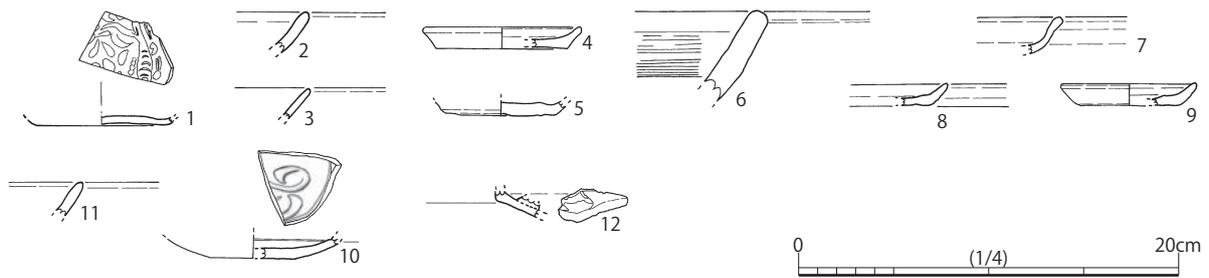
24～56はSK60一括出土である。24～27は青磁碗である。24は内面に片彫り文を施し、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類で、25は外面に鎬蓮弁文を施し、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。26は青緑色の釉を厚く施すことから、龍泉窯系青磁碗Ⅲ類。27は外面に櫛目のある蓮弁文、内面に片彫り草花文を施し、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-6類である。28は青磁皿で、内面にジグザグの櫛点描文と片彫りの草花文を



第47図 HZK2003地点E区 エリアⅢ SK60出土遺物



第48図 HZK2003地点 E 区エリアⅢ SK62出土遺物



第49図 HZK2003地点 E 区 エリアⅢ SK75出土遺物

施す。同安窯系青磁皿Ⅰ類である。青磁碗・皿の時期幅は12世紀中頃から14世紀初頭である。29は素口縁の白磁碗で、内面体部中位に圈線を施す。大宰府編年の白磁碗Ⅷ類で、12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）。30は白磁皿である。31は陶器の壺である。口縁部は断面円形を呈す。32は陶器の黄釉盤で、縁部が断面方形に近い形で、大宰府編年の盤Ⅰ-2類である。11世紀後半から12世紀前半の所産である。33は須恵器の甕で外面に格子タタキ、内面に同心円タタキを施す。34～36は瓦質土器の碗で、36は外面にミガキを施す。37は瓦質土器の捏鉢、38は瓦質土器の搦鉢である。搦鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる。39～42は土師質の鍋で、口縁部がゆるく屈曲しており、14世紀後半から15世紀中葉の所産である（山本ほか 1997）。43～48は土師器の坏で、43～47は糸切り底である。49・50は糸切り底の土師皿である。51は紡錘形の土錘である。52は鬼瓦である。鬼の表現が立体的である。53・54は軒丸瓦である。いずれも巴文の外側に圈線と連珠文が付く。55・56は平瓦である。

第48図はSK62出土である。1～7は1層出土である。1は青磁碗で、内面に片彫り文を施す。龍泉窯系青磁碗Ⅰ類で、12世紀の後半から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。2は陶器の碗である。見込み部分に圈線が1条めぐり。3は白磁皿である。見込みと体部の境に圈線が1条めぐり。4は土師質の鍋の胴部である。5は土錘である。下半を欠損する。6は平瓦。7は丸瓦である。

8～17はSK62一括出土である。8は龍泉窯系の青磁碗である。9は白磁皿である。見込みと体部の境に圈線が1条めぐり。10は白磁の壺である。内面に回転ナデの痕跡が残る。11・12は陶器壺である。11は玉縁状の口縁部である。12は底部で作りが粗い。13は瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む。14は土師質の鍋である。口縁部はゆるく屈曲し、14世紀後半から15世紀中葉の所産である（山本ほか 1997）。15は糸切り底の土師器の坏である。16は土師皿である。浅くラッパ状に開く形状や均質な胎土から近世の所産である。17は熨斗瓦である。

第49図はSK75の9層・12～14層出土である。1～5は9層出土である。1は青白磁の皿である。見込み部分にレリーフ状に施文する。12世紀後半から14世紀まで出土する（田中 2008）。2・3は土師器の坏である。4・5は糸切り底の土師皿である。

6～9は12層出土である。6は土師質の鍋口縁部である。内面にコゲが付く。14世紀以降の所産である（山本ほか 1997）。7～9は土師皿で、8・9は糸切り底である。

10・11は13層出土である。10は見込み部分に篋書きで草花文を施文する白磁皿である。大宰府編年の白磁皿Ⅷ-1類で、12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）。11は土師器の坏口縁部である。

12は14層出土の陶器の耳壺の耳部分である。

第46図4・5はSK61出土である。4は素口縁の白磁皿で、内面口縁部下に圈線が1条めぐり。5は内面に2条の突帯が付く陶器の鉢で、大宰府編年の陶器鉢I-1類である。13世紀から14世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。
（谷 直子）

（4）エリアⅣ（第50図）

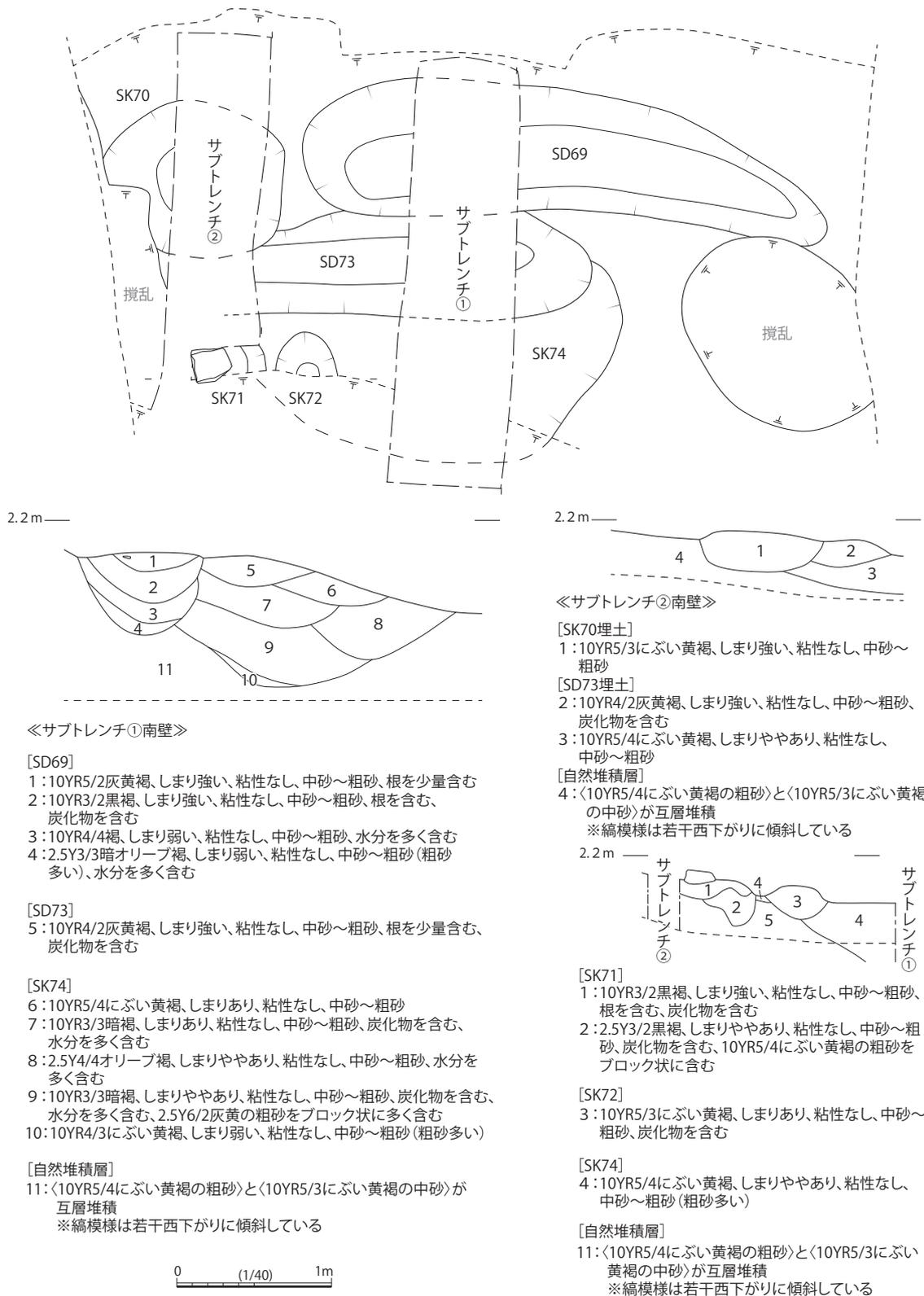
「エリアⅣ」としたのは、調査区東側の遺構密集エリアである（第38図）。近現代の攪乱層を重機で除去したところ、攪乱層の下から複数の遺構を確認した。そのため、他のエリアに比べると、遺構確認面の標高は低い。検出当初は遺構の輪郭が曖昧で、複数の遺構が切り合っている様子は窺えたものの、明確な線引きは不可能であった。サブトレンチを入れながら土層断面で遺構の切り合い関係を確認した結果、6つの遺構が切り合っていることが判明した。溝2条（SD69・73）、土坑4基（SK70・71・72・74）が見つかった。

サブトレンチ①・②などで土層断面を精査したところ、SK74→SK71・SK72・SD73→SK70・SD69の順番で構築されていることがわかった。SK71・SK72・SD73それぞれの前後関係や、SK70・SD69の前後関係については不明である。SD69やSD73は溝としたが、長軸は短く、長楕円形の土坑といっても良いかもしれない。SK71からは20cm大の扁平な礫が出土しているが、遺構底面からは浮いた状態で見つかり、遺構に伴うかどうかの判断は難しい。

SD69からは、16世紀後半の所産と考えられる宝珠唐草文軒平瓦が出土しているが、近世以降の陶器も出土しているため、遺構の時期比定には注意が必要である。当該エリアは深くまで近現代の攪乱が及んでいたため、SD69から出土した近世以降の陶器は、攪乱から混入した可能性も完全に排除することができないことは付記しておく。SD73からも瓦片が多数出土しており、SD69と合わせて、当該エリアにおける瓦片の出土が目立つ。SK70からは12世紀後半と考えられる同安窯系青磁碗が出土しているが、陶器の拵鉢が出土しており、遺構の時期は14世紀以降である可能性が高い。SK74からは瓦質土器の碗や土師器坏が出土しているが、遺構時期を絞り込むことは難しい。SK71・SK72から遺物は出土していない。
（福永将大）

出土遺物と年代 第52図1～13はSD69出土である。1は1層出土の糸切り底の土師皿である。

2～6は1・2層出土である。2は陶器の皿で、内外面にオリブ褐色の釉がかかる。胎土は均質



《サブトレンチ①南壁》

[SD69]

- 1: 10YR5/2灰黄褐、しまり強い、粘性なし、中砂～粗砂、根を少量含む
- 2: 10YR3/2黒褐、しまり強い、粘性なし、中砂～粗砂、根を含む、炭化物を含む
- 3: 10YR4/4褐、しまり弱い、粘性なし、中砂～粗砂、水分を多く含む
- 4: 2.5Y3/3暗オリーブ褐、しまり弱い、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)、水分を多く含む

[SD73]

- 5: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性なし、中砂～粗砂、根を少量含む、炭化物を含む

[SK74]

- 6: 10YR5/4にぶい黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂
- 7: 10YR3/3暗褐、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂、炭化物を含む、水分を多く含む
- 8: 2.5Y4/4オリーブ褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂、水分を多く含む
- 9: 10YR3/3暗褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂、炭化物を含む、水分を多く含む、2.5Y6/2灰黄の粗砂をブロック状に多く含む
- 10: 10YR4/3にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)

[自然堆積層]

- 11: <10YR5/4にぶい黄褐の粗砂>と<10YR5/3にぶい黄褐の中砂>が互層堆積
※縞模様は若干西下がりに傾斜している

《サブトレンチ②南壁》

[SK70埋土]

- 1: 10YR5/3にぶい黄褐、しまり強い、粘性なし、中砂～粗砂

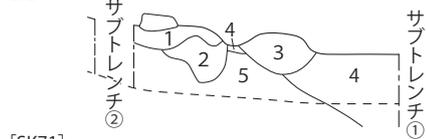
[SD73埋土]

- 2: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性なし、中砂～粗砂、炭化物を含む
- 3: 10YR5/4にぶい黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂

[自然堆積層]

- 4: <10YR5/4にぶい黄褐の粗砂>と<10YR5/3にぶい黄褐の中砂>が互層堆積
※縞模様は若干西下がりに傾斜している

2.2m —————



[SK71]

- 1: 10YR3/2黒褐、しまり強い、粘性なし、中砂～粗砂、根を含む、炭化物を含む
- 2: 2.5Y3/2黒褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂、炭化物を含む、10YR5/4にぶい黄褐の粗砂をブロック状に含む

[SK72]

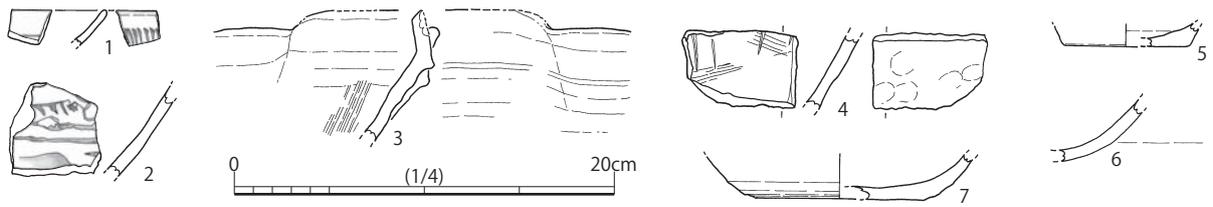
- 3: 10YR5/3にぶい黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂、炭化物を含む

[SK74]

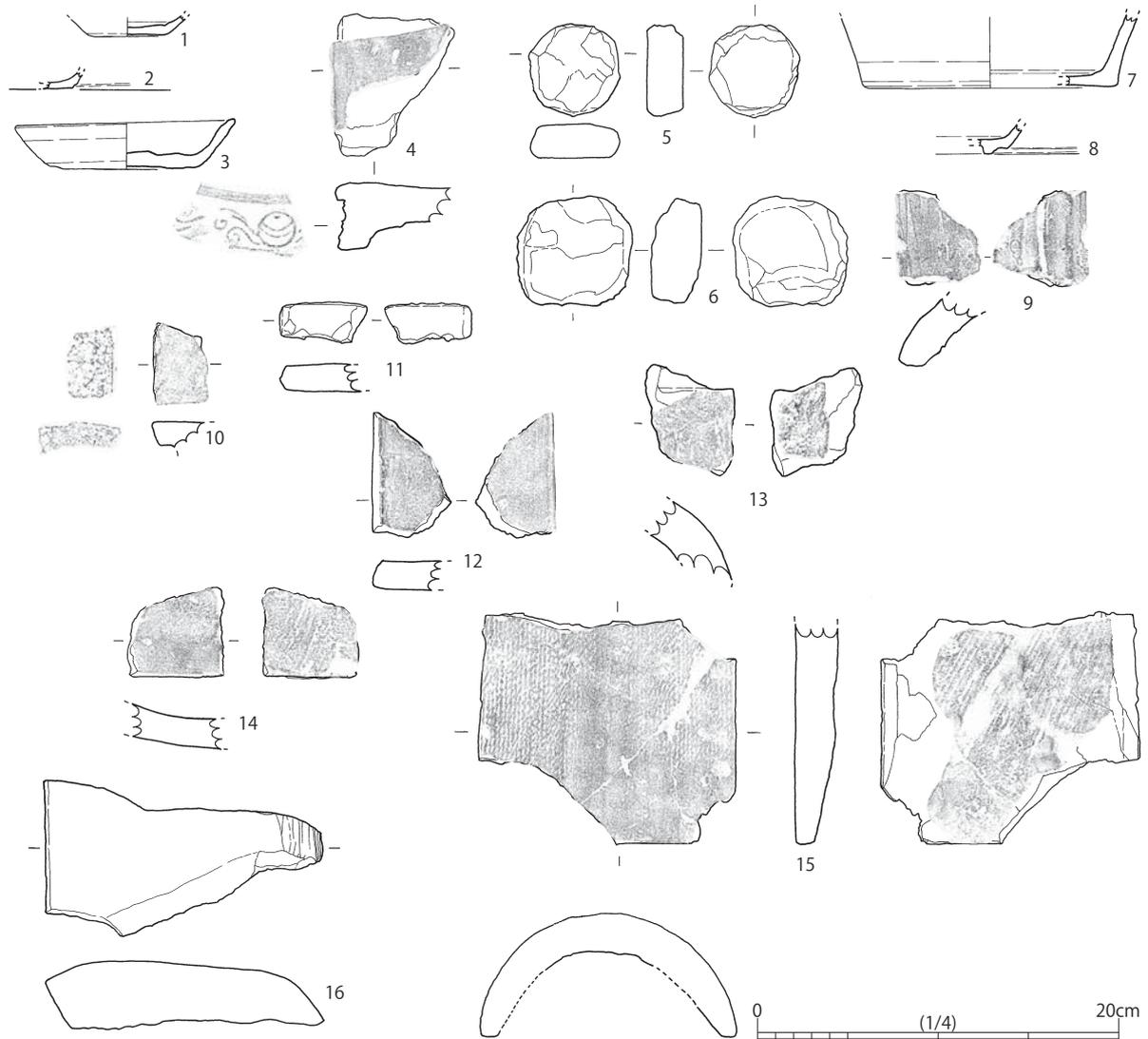
- 4: 10YR5/4にぶい黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)

[自然堆積層]

- 11: <10YR5/4にぶい黄褐の粗砂>と<10YR5/3にぶい黄褐の中砂>が互層堆積
※縞模様は若干西下がりに傾斜している



第51図 HZK2003地点E区 エリアⅤ 出土遺物



第52図 HZK2003地点E区 エリアⅤ SD69・73出土遺物

で目立つ混和材は見られないことから、近世以降の所産である。3は糸切り底の土師器の坏である。4は軒平瓦で、瓦当中央の宝珠から唐草文がのびる宝珠唐草文軒平瓦で、14世紀末から16世紀後半の所産である（松田ほか 2019）。とりわけ木島孝之の分類による横岳崇福寺出土瓦のV型に類似しており、V型は16世紀後半の所産という（木島 2007）。5・6は平瓦を再加工した瓦玉である。

7～9は3層出土である。7は陶器の甕で内外面とも施釉する。8は須恵器の坏で低い高台が付く。高台位置が坏部の底部端に近く、8世紀後半の特徴と思われる。9は丸瓦である。

10は3・4層出土の軒丸瓦である。瓦当の顎部分のみ残存する。

11～13は4層出土である。11・12は平瓦、13は丸瓦の玉縁付近である。

第52図14～16はSD73出土である。14は平瓦である。15は表面に縄目タタキが残る丸瓦で、裏面にはコビキAと布目の痕跡が残る。16は擦痕のある石製品である。

第51図1～5はSK70出土である。1は青磁碗で、内面に片彫り、外面に櫛描文を施す。同安窯系青磁碗I類で、12世紀の後半から13世紀初頭の所産である。2は陶器の黄釉盤で、内面に鉄絵で施文する。11世紀後半から12世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。3は陶器の播鉢である。口縁部は片口で長く肥厚する。内面にスリ溝が付く。4は土師質の播鉢である。内面にスリ溝が付く。5は糸切り底の土師皿である。

第51図6・7はSK74出土である。6は瓦質土器の碗である。外面にミガキを施す。7は糸切り底の土師器の坏である。 (谷 直子)

(5) その他（第53～55図）

上述してきたような遺構密集エリアから外れた場所でも、遺構がいくつか散見される（第38図・第53～55図）。

SK01 エリアIVの東側で検出した平面プラン円形の土坑である。遺構南側は調査区外に続いている。遺物は出土していない。

SK02 エリアIVの東側で検出した平面プラン円形の土坑で、SK01の北側に位置する。埋土上部に波状線状痕が数条入る。遺物は出土していない。

SD03・SK13・SK67 SD03は、エリアIVの東側と西側で検出しており、エリアIVの範囲は近現代の攪乱で破壊されているものの、本来は連続する一連の溝である。西側では、SK13とSK67と切り合い関係にあり、SK13→SD03→SK67の順番で構築されている。SD03からは白磁、瓦質土器、土師器坏や瓦の小片が、SK67からは土師器小片が出土しているが、時期の特定は困難である。SK13から遺物は出土していない。

SK04 エリアIVの東側で検出した平面プラン円形の土坑である。遺物は出土していない。

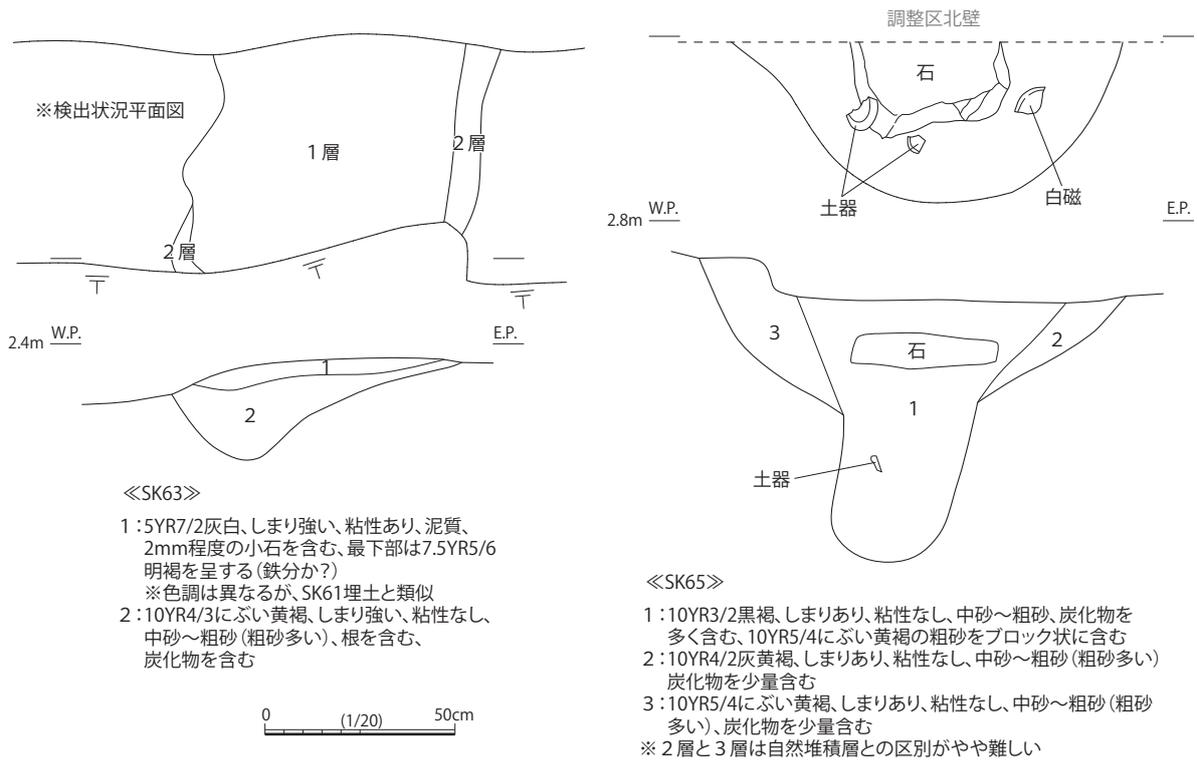
SK05・SK06 エリアIVの東側で検出した。SK06はSK05を切って構築されている。SK05の遺構北側はSK06によって、SK06の遺構西側は近現代の攪乱によって破壊されている。ともに平面プランは長楕円形を呈すると推察される。SK05からは土師器皿や瓦質土器碗の小片、SK06からは陶器の捏鉢や土師器の小片が出土しているが、時期の特定は難しい。

SK07 エリアIVの東側で検出した。SK06の北側に位置しており、遺構形状もSK06と類似している。遺構西側は近現代の攪乱によって破壊されており、遺構北側は調査区外へと続いている。土師器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

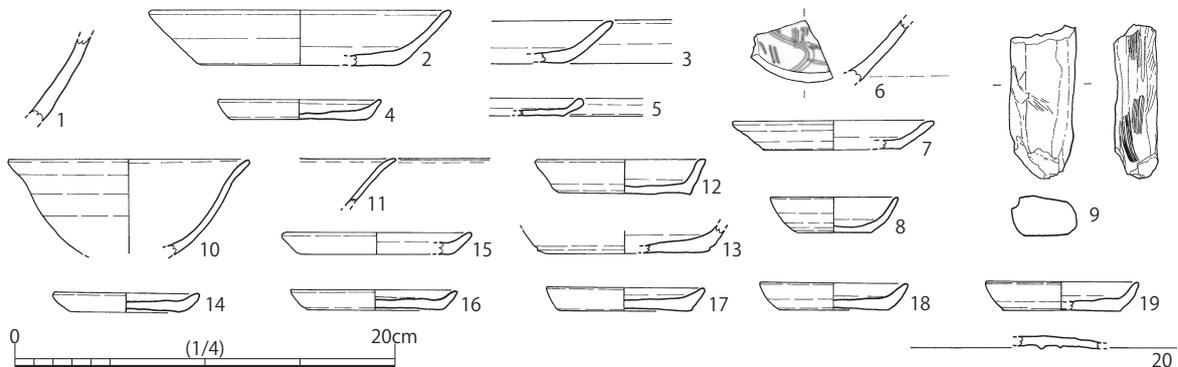
SP08 エリアIの北側で検出したピットである。遺物は出土していない。

SK63 エリアIIIの北側で検出した。エリアIIIで検出したSK61と類似した粘質土（1層）の下に、黄褐色粗砂（2層）が堆積しているが、第55図の検出状況平面図にあるように、1層と2層の平面プランはずれて検出されている。両層を一つの遺構の埋土として報告するが、全く別のコンテクストを有して堆積している可能性も排除できない。12世紀後半の所産と考えられる同安窯系青磁皿が出土しており、遺構の時期を表す可能性がある。

SK65 エリアIの北側で検出した。遺構北側は調査区外に続いている。遺構中央部付近から40cm大の扁平な礫が出土している。礎石の可能性が高いが、遺構底面から50cm程浮いた位置で出土して



第55図 HZK2003地点E区 遺構平面・断面図③



第56図 HZK2003地点E区エリア外出土遺物

たものであり、このエリアで整地等が行われた可能性を示す。遺物からみてD区の遺構は14世紀代までの間に多くが構築されたらしく、15世紀代にかかるものが若干あるようである。調査区の北側では井戸がまとまりをみせ、また杯皿類の投棄遺構が確認された。南側には複雑に遺構が重なった箇所がある。
(齋藤瑞穂)

E区は、箱崎キャンパス南エリアに所在した記録資料館の南側で行われた発掘調査であり、箱崎キャンパス跡地で最南端に位置する調査地点である。冒頭に記したように複雑な経過をたどったため、必ずしも十分な調査を実施できたとは言いがたいが、遺跡からできる限りの情報を抽出・記録できるように努めた。

調査の結果、12世紀後半から16世紀代にかけての人々の活動痕跡を見出すことができた。調査区の大部分は近現代の攪乱によって遺跡が破壊されていたが、遺構が密集して構築される箇所もあり、礎

石を伴う柱穴も複数検出した。周辺に位置する HZK1804地点 C 区の調査区北西部や HZK1903地点、HZK1904地点では、多数の井戸が見つかったが、本調査地点では確認できていない。

HZK1703地点や HZK1804地点で確認されているような、遺構面が複数検出できるような土地利用のあり方を、堆積状況などから復元することはできなかった。しかし、12世紀後半から16世紀代という比較的長期間にわたって当該地区を人々が利用していたことは間違いなからう。なお、調査区東側（エリアIV付近）で中世後期の所産と考えられる瓦が多数出土したことは、当該地区における土地利用の実態を考えていくうえで、今後重要な手がかりとなり得る可能性がある。（福永将大）

引用文献

- 佐藤一郎2008「朝鮮半島陶磁器」『中世都市・博多を掘る』海鳥社 128～131頁
田中克子2008「中国陶磁器」『中世都市・博多を掘る』海鳥社 112～128頁
松田麻里・桃崎祐輔2019「筑前・筑後・豊前・肥前」『中世瓦の考古学』中世瓦研究会編 237～254頁
宮崎亮一（編）2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編』太宰府市教育委員会
山本信夫・山村信榮1997「九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第79集 国立歴史民俗博物館 237～310頁
木島孝之2007「九州大学工学部建築学科仮蔵 大宰府崇福寺跡出土瓦の資料的魅力」『大応国師と崇福寺』福岡市美術館学芸課編 76～77頁

第1表 HZK2003地点D区出土遺物観察表

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
5-1	SI4004 No.36	白磁碗	(15.6)		[4.2]	緻密	良好	外：5BG7/1明青灰 内：10GY8/1明緑灰	外：施釉 内：施釉，口禿	大宰府編年 白磁碗Ⅰ類
5-2	SI4004 No.17	瓦質土器 捏鉢		(9.2)	[5.8]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10Y7/1灰白 内：N4/ 灰	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ	
5-3	SI4004 No.32	瓦質土器 捏鉢			[3.5]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5Y2/1黒 内：7.5Y3/1オリーブ黒	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ	
5-4	SI4004 No.20	瓦質土器 捏鉢	(27.8)	(11.8)	11.2	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5Y5/1灰 内：7.5Y6/1灰	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ	
5-5	SI4004 No.233	瓦質土器 捏鉢		(12.6)	[4.2]	緻密，直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：5Y7/1灰白 内：5Y7/2灰白	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ	
5-6	SI4004 No.130	瓦質土器 火鉢		(25.6)	[6.9]	やや粗い，直径1～5mmの砂粒を含む	良好	外：5Y5/1灰 内：2.5Y4/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ	
5-7	SI4004 No.5	陶器 搦鉢			[3.5]	やや緻密，直径1～3mmの砂粒を含む	良好	外：10YR5/1褐灰 内：10YR5/2灰黄褐	外：ナデ，工具痕 内：施釉，スリ溝	
5-8	SI4004 No.39	土師質 鍋			[3.6]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：N4/ 灰 内：7.5Y5/1灰	外：ナデ 内：ハケメ，ナデ	
5-9	SI4004 No.144+211	土師質 鍋			[8.7]	緻密，直径1～2mmの砂粒を少し含む，雲母片を少し含む	良好	7.5Y3/1オリーブ黒	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ	
5-10	SI4004 No.195	土師質 鍋	(30.4)		[10.8]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片をわずかに含む	良好	外：N2/ 黒 内：5YR7/6橙	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ，ナデ	
5-11	SI4004 No.191	滑石製 石鍋	(27.6)		[3.4]				工具痕あり	
5-12	SI4004 4層 下部一括	陶器 鉢			[7.1]	やや粗い，直径1～3mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR8/2灰白 内：10YR7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，露胎	陶器鉢Ⅰ類
5-13	SI4004 4層 下部一括	陶器 黄釉盤			[3.1]	緻密，直径1mm大の砂粒を多く含む	良好	2.5Y7/4浅黄	外：施釉，露胎 内：施釉	
5-14	SI4004 4層 下部一括	瓦質土器 火鉢			[5.3]	やや粗い，直径1～3mmの砂粒を多く含む	良好	外：N6/ 灰 内：7.5Y5/1灰	外：ナデ 内：ナデ	
5-15	SI4004 4層 下部一括	瓦質土器 捏鉢	(32.6)		[7.4]	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：N6/ 灰	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ	
5-16	SI4004 4層 下部一括	瓦質土器 捏鉢			[5.5]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR7/1灰白 内：5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ハケメ	
5-17	SI4004 4層 下部一括	瓦質土器 捏鉢		(10.0)	[4.2]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
5-18	SI4004 4層 下部一括	土師質 捏鉢			[3.7]	緻密，直径1～3mmの砂粒を含む	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙 内：2.5Y6/2灰黄	外：ナデ 内：ナデ，スス付着	
5-19	SI4004 4層 下部一括	不明石製品	[12.6]	13.4	2.5					
5-20	SI4004 4層 下部一括	滑石製 石鍋			[4.6]				外：加工痕 内：加工痕	
5-21	SI4004	滑石製 石鉢	6.1	3.5	1.5		良好			56.86 g
6-1	SI4004 No.15	土師器 坏	(13.2)	(9.6)	2.1	やや緻密，直径1～2mmの砂粒を含む，雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-2	SI4004 No.22+63	土師器 坏	13.0	9.3	2.6	緻密，直径1mm弱の砂粒を少し含む，雲母片を少し含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-3	SI4004 No.23+69	土師器 坏	(12.8)	(9.4)	2.7	やや緻密，直径1～4mmの砂粒を含む，雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-4	SI4004 No.33	土師器 坏	(13.0)	(9.0)	2.7	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む，雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-5	SI4004 No.42	土師器 坏	12.9	8.7	2.7	やや緻密，直径1～2mmの砂粒を多く含む，雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-6	SI4004 No.47+225	土師器 坏	(12.0)	8.0	2.9	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む，雲母片を少し含む	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-7	SI4004 No.60+62	土師器 坏	12.1	7.5	2.8	やや緻密，直径1～3mmの砂粒を含む，雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-8	SI4004 No.63+153	土師器 坏	12.6	9.4	2.6	やや粗い，直径1～4mmの砂粒を含む，雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
6-9	SI4004 No.64	土師器 坏	(13.0)	(9.6)	2.3	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を少し含む, 雲母 片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-10	SI4004 No.70+71	土師器 坏	(12.4)	(8.8)	2.5	やや緻密, 直径1~2 mmの砂粒を含む, 雲母 片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-11	SI4004 No.71	土師器 坏	(12.8)	9.4	3.0	やや緻密, 直径1~3 mmの砂粒を含む, 雲母 片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-12	SI4004 No.71+98	土師器 坏	13.1	10.0	2.9	やや緻密, 直径1mm大 の砂粒を多く含む, 雲 母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-13	SI4004 No.72+73	土師器 坏	(12.2)	(8.2)	2.6	やや粗い, 直径1~4 mmの砂粒を含む, 雲母 片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-14	SI4004 No.72+87+88	土師器 坏	13.0	8.9	2.6	やや粗い, 直径1~4 mmの砂粒を含む, 雲母 片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-15	SI4004 No.73	土師器 坏	12.1	8.0	2.7	やや粗い, 直径1mm弱 の砂粒を多く含む, 直 径2~5mmの砂粒を含 む, 雲母片を少し含む	良好	外: 5YR6/6橙 内: 7.5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-16	SI4004 No.73+93	土師器 坏	12.7	8.8	2.8	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-17	SI4004 No.74	土師器 坏	13.0	9.0	3.0	やや緻密, 直径1~2 mmの砂粒を多く含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 10YR5/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-18	SI4004 No.75	土師器 坏	12.1	7.8	2.4	やや緻密, 直径1~5 mmの砂粒を含む, 雲母 片を少し含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-19	SI4004 No.77	土師器 坏	12.5	8.5	2.3	やや緻密, 直径1~4 mmの砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-20	SI4004 No.80+116	土師器 坏	(12.3)	(8.2)	2.6	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	10YR6/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-21	SI4004 No.81	土師器 坏	12.1	8.4	2.4	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	外: 10YR6/2灰黄褐 内: 10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-22	SI4004 No.82	土師器 坏	12.5	8.5	2.9	やや緻密, 直径1~3 mmの砂粒を含む, 雲母 片を少し含む	良好	外: 10YR7/4にぶい黄橙 内: 10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-23	SI4004 No.83	土師器 坏	(12.0)	(8.8)	2.3	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を少し含む, 雲母 片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-24	SI4004 No.89+196 +226	土師器 坏	13.0	8.6	2.7	やや粗い, 直径1~4 mmの砂粒を含む, 雲母 片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-25	SI4004 No.96+99	土師器 坏	12.8	8.5	2.6	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-26	SI4004 No.97	土師器 坏	12.2	8.0	2.9	やや粗い, 直径2~5 mmの砂粒を含む, 雲母 片を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-27	SI4004 No.99	土師器 坏	12.9	8.8	2.6	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-28	SI4004 No.100	土師器 坏	(12.4)	(9.2)	3.2	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を少し含む, 雲母 片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-29	SI4004 No.100+101 +103	土師器 坏	12.5	8.7	3.0	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	外: 10YR6/2灰黄褐 内: 10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-30	SI4004 No.101	土師器 坏	12.3	8.0	2.8	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	外: 7.5YR7/3にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-31	SI4004 No.102	土師器 坏	12.1	8.0	3.0	やや緻密, 直径1~2 mmの砂粒を多く含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-32	SI4004 No.110	土師器 坏	(12.0)	(8.5)	3.0	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を少し含む, 雲母 片を少し含む	良好	10YR6/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-33	SI4004 No.112	土師器 坏	(13.0)	(8.8)	2.3	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を少し含む, 雲母 片を少し含む	良好	外: 10YR6/3にぶい黄橙 内: 10YR5/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
6-34	SI4004 No.113	土師器 坏	12.6	8.2	2.5	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-35	SI4004 No.114+125	土師器 坏	12.2	8.3	2.6	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-36	SI4004 No.114+182	土師器 坏	(13.6)	9.0	3.0	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：10YR6/2灰黄褐	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-37	SI4004 No.116	土師器 坏	(12.0)	(7.9)	2.6	緻密、直径1～2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-38	SI4004 No.116+181 +180	土師器 坏	12.7	8.5	2.4	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR5/2灰黄褐 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-39	SI4004 No.117	土師器 坏	12.2	7.8	2.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR5/2灰黄褐 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-40	SI4004 No.124	土師器 坏	(13.0)	(9.0)	2.3	やや粗い、直径1～4mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-41	SI4004 No.124	土師器 坏	(12.4)	(8.7)	2.5	緻密、直径1～2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-42	SI4004 No.124+212	土師器 坏	(12.2)	(8.0)	2.6	緻密、直径1～3mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-43	SI4004 No.128+129	土師器 坏	12.5	8.3	2.8	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-44	SI4004 No.129	土師器 坏	(12.4)	(8.2)	2.5	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR6/2灰黄褐	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-45	SI4004 No.131+133	土師器 坏	12.7	9.0	2.9	やや緻密、直径1～3mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-46	SI4004 No.131+142	土師器 坏	12.5	8.8	2.8	やや粗い、直径1～4mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-47	SI4004 No.131+215	土師器 坏	(13.4)	(9.6)	2.8	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-48	SI4004 No.134	土師器 坏	12.9	9.8	3.1	やや緻密、直径1～3mmの砂粒を多く含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-49	SI4004 No.134	土師器 坏	(12.3)	8.3	2.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-50	SI4004 No.135	土師器 坏	(12.2)	(8.7)	2.3	やや緻密、直径1～3mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-51	SI4004 No.138	土師器 坏	12.2	8.4	2.3	やや緻密、直径1～3mmの砂粒を多く含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-52	SI4004 No.141	土師器 坏	13.0	9.4	2.8	やや粗い、直径1～4mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-53	SI4004 No.144+211	土師器 坏	13.1	9.3	3.1	やや緻密、直径1～3mmの砂粒を多く含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-54	SI4004 No.145	土師器 坏	(13.0)	(9.0)	2.7	やや緻密、直径1～2mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-55	SI4004 No.146+211 +214	土師器 坏	13.3	9.5	2.8	やや緻密、直径1～3mmの砂粒を多く含む、雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-56	SI4004 No.146+211 +214	土師器 坏	(12.8)	(9.6)	3.1	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-57	SI4004 No.147+214	土師器 坏	(12.0)	8.6	2.5	やや粗い、直径1～5mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-58	SI4004 No.147+214	土師器 坏	12.5	8.5	2.8	やや緻密、直径1～3mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-59	SI4004 No.147+214	土師器 坏	12.5	8.8	2.8	やや緻密、直径1～3mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
6-60	SI4004 No.148	土師器 坏	12.9	8.5	2.6	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-61	SI4004 No.149+211	土師器 坏	(12.6)	8.1	2.8	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-62	SI4004 No.153	土師器 坏	12.9	9.4	2.9	やや粗い, 直径1~5mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-63	SI4004 No.153+211	土師器 坏	12.7	9.0	2.9	やや粗い, 直径1~5mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-64	SI4004 No.154+211	土師器 坏	12.8	9.0	2.7	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-65	SI4004 No.159	土師器 坏	13.0	9.0	2.6	やや粗い, 直径1~6mmの砂粒を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-66	SI4004 No.160	土師器 坏	(12.6)	(8.3)	2.7	やや粗い, 直径1~4mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-67	SI4004 No.171	土師器 坏	(12.0)	(9.0)	3.3	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-68	SI4004 No.171+172	土師器 坏	(12.2)	(8.0)	2.8	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-69	SI4004 No.175下	土師器 坏	(12.6)	(8.6)	2.4	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-70	SI4004 No.179	土師器 坏	12.6	9.0	2.8	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR5/1褐灰	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-71	SI4004 No.197	土師器 坏	(12.4)	8.8	2.4	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-72	SI4004 No.197下 +206	土師器 坏	12.9	9.3	2.8	やや粗い, 直径1~4mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-73	SI4004 No.198	土師器 坏	12.1	8.6	3.0	やや緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-74	SI4004 No.199	土師器 坏	12.7	9.2	2.5	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-75	SI4004 No.200	土師器 坏	(12.8)	(9.0)	2.5	やや粗い, 直径1~4mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-76	SI4004 No.209	土師器 坏	12.9	9.6	2.4	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-77	SI4004 No.209下 +214	土師器 坏	12.6	8.9	2.9	やや粗い, 直径1~4mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-78	SI4004 No.210	土師器 坏	12.8	9.2	2.8	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR6/6橙 内: 7.5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-79	SI4004 No.211	土師器 坏	12.2	8.8	2.7	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-1	SI4004 No.211	土師器 坏	(12.0)	(9.1)	2.1	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-2	SI4004 No.211	土師器 坏	13.0	9.5	2.3	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-3	SI4004 No.213	土師器 坏	(12.9)	8.6	2.6	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-4	SI4004 No.214	土師器 坏	(12.8)	8.6	2.7	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-5	SI4004 No.214	土師器 坏	12.5	8.6	3.0	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
7-6	SI4004 No.214	土師器 坏	(12.0)	(9.0)	2.6	やや粗い、直径1~5mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-7	SI4004 No.214	土師器 坏	(11.6)	(8.6)	2.9	やや粗い、直径1~5mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-8	SI4004 No.214	土師器 坏	(12.8)	(9.2)	2.6	やや粗い、直径1~5mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-9	SI4004 No.214+215	土師器 坏	12.5	9.1	2.7	やや緻密、直径1~3mmの砂粒を多く含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-10	SI4004 No.214+215	土師器 坏	12.6	9.0	2.6	やや緻密、直径1~3mmの砂粒を多く含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-11	SI4004 No.214+215	土師器 坏	13.4	9.4	2.8	やや粗い、直径1~4mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-12	SI4004 No.215	土師器 坏	12.9	9.1	2.7	やや緻密、直径1~2mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-13	SI4004 No.215	土師器 坏	12.8	8.8	3.0	やや緻密、直径1~4mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-14	SI4004 No.215	土師器 坏	12.9	9.1	2.8	やや緻密、直径1~3mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-15	SI4004 No.215	土師器 坏	12.4	8.8	2.7	やや粗い、直径1~5mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-16	SI4004 No.216	土師器 坏	(13.0)	(8.0)	2.6	やや緻密、直径1~3mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-17	SI4004 No.218	土師器 坏	(12.3)	7.6	2.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-18	SI4004 No.222	土師器 坏	(13.0)	(9.8)	2.5	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片をわずかに含む	良好	7.5YR5/8明褐	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-19	SI4004 No.231	土師器 坏	(12.3)	9.6	2.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-20	SI4004 No.185	土師器 坏	12.2	8.4	2.9	やや緻密、直径1~3mmの砂粒を多く含む、雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-21	SI4004 No.90	土師器 坏	12.2	8.2	2.5	やや粗い、直径2~3mmの砂粒を多く含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-22	SI4004 No.153+211	土師器 坏	12.9	9.2	2.9	やや粗い、直径2~5mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-23	SI4004 No.178	土師器 坏	12.6	8.9	2.7	やや粗い、直径1~2mmの砂粒を多く含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-24	SI4004 No.16+50 +201	土師器 坏	(8.8)	[2.3]		緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-25	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	13.1	9.3	2.8	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-26	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(13.0)	(9.4)	2.4	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-27	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(12.0)	8.5	2.9	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-28	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	12.4	9.2	2.6	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-29	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	12.3	8.9	2.5	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-30	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	12.6	9.7	2.5	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片をわずかに含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
7-31	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	12.0	8.2	2.7	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片をわずかに含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-32	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(12.1)	(9.6)	2.9	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-33	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(12.8)	(9.4)	2.8	やや緻密, 直径1~4mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-34	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(12.6)	(7.6)	2.7	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 雲母片を多く含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-35	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	12.1	9.2	2.7	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-36	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(12.6)	8.7	2.5	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片をわずかに含む	良好	外: 7.5YR7/6橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-37	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	12.7	(8.8)	2.8	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 10YR6/3にぶい黄橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-38	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(11.9)	9.2	2.9	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-39	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(12.6)	9.2	2.2	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片をわずかに含む	良好	外: 7.5YR7/3にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-40	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(13.0)	(9.5)	2.3	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-41	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(12.6)	9.0	2.3	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片をわずかに含む	良好	外: 5YR5/8明赤褐 内: 5YR6/8橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-42	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	12.7	9.3	2.5	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-43	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(12.2)	9.3	2.2	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片をわずかに含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-44	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	12.7	9.0	2.7	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 10YR6/3にぶい黄橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-45	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	13.2	9.6	2.8	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-46	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	12.5	9.3	2.4	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片をわずかに含む	良好	外: 7.5YR7/6橙 内: 5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-47	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	13.0	9.6	2.8	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片をわずかに含む	良好	5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-48	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	13.1	10.0	3.0	緻密, 直径1~5mmの砂粒を少し含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-49	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	12.2	9.0	2.9	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 雲母片を多く含む	良好	外: 7.5YR6/3にぶい橙 内: 7.5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-50	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(11.8)	7.6	2.6	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片をわずかに含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-51	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(11.4)	(8.1)	2.5	やや緻密, 直径1~5mmの砂粒を少し含む, 雲母片を含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 10YR6/1灰褐	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-52	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏	(13.4)		[2.0]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-53	SI4004 4層 上・下	土師器 坏	(13.0)	(10.4)	2.8	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-54	SI4004 4層 上・中	土師器 坏	(12.6)	(8.6)	2.2	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-55	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏			[1.4]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-56	SI4004 4層 下部一括	土師器 坏		(9.2)	[1.0]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
7-57	SI4044 4層 上部一括	土師器 坏	12.4	8.2	2.7	やや粗い、直径1～2mmの砂粒を多く含む、直径4～6mmの砂粒を含む、雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-58	SI4004 4層 上部一括	土師器 坏	13.1	9.0	2.7	やや粗い、直径1～4mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-59	SI4004 4層	土師器 坏	(12.6)	(7.9)	2.9	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む、雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-60	SI4004 No.19	土師器 坏			[1.2]	緻密、雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-61	SI4004 No.29	土師器 坏			[1.1]	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-62	SI4004 No.35+211 下	土師器 坏		(10.0)	[1.0]	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-63	SI4004 No.51	土師器 坏			[1.1]	やや緻密、直径1～2mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-64	SI4004 No.59	土師器 坏			[1.3]	やや粗い、直径1～4mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-65	SI4004 No.70+73	土師器 坏			2.2	やや緻密、直径1～2mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-66	SI4004 No.71	土師器 坏			[1.7]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
7-67	SI4004 No.75	土師器 坏			[1.2]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR5/3にぶい黄褐	外：ナデ 内：ナデ	
7-68	SI4004 No.84	土師器 坏			[1.5]	緻密、直径1～2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-69	SI4004 No.100	土師器 坏			[1.6]	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
7-70	SI4004 No.111	土師器 皿			1.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-71	SI4004 No.111	土師器 坏		(8.6)	[1.7]	緻密、直径1～2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-72	SI4004 No.117	土師器 坏			[1.8]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
7-73	SI4004 No.127	土師器 坏		(9.0)	[1.7]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-74	SI4004 No.126	土師器 坏			2.5	緻密、直径1～5mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-75	SI4004 No.127	土師器 坏			[1.1]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-76	SI4004 No.127	土師器 坏			[1.5]	緻密、直径1～2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR6/2灰黄褐	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-77	SI4004 No.132	土師器 坏		(8.0)	[1.1]	緻密、直径1～2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-78	SI4004 No.136+137	土師器 坏		(9.6)	2.5	やや緻密、直径1～3mmの砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-79	SI4004 No.138	土師器 坏			[1.5]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
7-80	SI4004 No.138	土師器 坏			[1.2]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
7-81	SI4004 No.157	土師器 坏		(8.8)	[1.6]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
7-82	SI4004 No.160下	土師器 坏			[1.3]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を少し含む, 雲母 片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-83	SI4004 No.160下	土師器 坏		(9.0)	[1.2]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を少し含む, 雲母 片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-84	SI4004 No.190	土師器 坏			2.6	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-85	SI4004 No.194	土師器 坏		(8.2)	[1.5]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-86	SI4004 No.211	土師器 坏			2.8	やや緻密, 直径1~3 mmの砂粒を含む, 雲母 片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-87	SI4004 No.211	土師器 坏			2.6	緻密, 直径1~3mmの 砂粒を少し含む, 雲母 片を少し含む	良好	10YR6/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-88	SI4004 No.211	土師器 坏		7.3	[1.9]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を少し含む, 雲母 片を少し含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 10YR5/1褐灰	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
7-89	SI4004 No.214	土師器 坏	(13.0)		[1.7]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ 内: ナデ	
7-90	SI4004 No.218	土師器 坏			[1.3]	やや緻密, 直径1~2 mmの砂粒を含む, 雲母 片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-91	SI4004 No.218	土師器 坏			[1.5]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	10YR6/2灰黄褐	外: ナデ 内: ナデ	
7-92	SI4004 No.218	土師器 坏			[2.0]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
7-93	SI4004 No.242	土師器 坏		(8.6)	[1.3]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を含 む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-94	SI4004 No.243	土師器 坏		(9.2)	[1.9]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	外: 10YR6/3にぶい黄橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
8-1	SI4004 No.52	土師器 皿	(8.4)	(7.4)	1.4	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を少し含む, 雲母片 を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-2	SI4004 No.55	土師器 皿			[1.2]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-3	SI4004 No.56	土師器 皿	(8.0)	(5.7)	1.4	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
8-4	SI4004 No.57	土師器 皿	8.0	6.5	1.3	緻密, 直径1~3mmの 砂粒を含む, 雲母片を 少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-5	SI4004 No.74+161	土師器 皿	(8.0)	(5.8)	1.4	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	外: 10YR6/3にぶい黄橙 内: 10YR6/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-6	SI4004 No.92	土師器 皿	8.3	5.6	1.6	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を少し含む, 雲母 片を少し含む	良好	外: 10YR7/2にぶい黄橙 内: 10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-7	SI4004 No.94	土師器 皿	(8.4)	(6.2)	1.2	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-8	SI4004 No.116	土師器 皿			1.4	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を含む, 雲母片を 少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
8-9	SI4004 No.124	土師器 皿	(7.2)	(5.6)	1.4	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-10	SI4004 No.127	土師器 皿	(7.8)	(5.8)	1.1	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-11	SI4004 No.148	土師器 皿	(7.7)	(6.4)	1.4	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	外: 10YR6/3にぶい黄橙 内: 10YR6/4にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-12	SI4004 No.157	土師器 皿	(8.8)	(6.8)	1.5	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-13	SI4004 No.156	土師器 皿	(8.6)	(6.3)	1.3	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む, 雲母片を少 し含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
8-14	SI4004 No.158	土師器 皿	(8.3)	(6.2)	1.4	緻密、直径1~2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
8-15	SI4004 No.170	土師器 皿	8.0	5.6	1.4	緻密、直径1~2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-16	SI4004 No.177	土師器 皿	8.5	6.7	1.2	緻密、直径1~3mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
8-17	SI4004 No.180下	土師器 皿	(8.0)	(6.3)	1.4	緻密、直径1~2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-18	SI4004 No.184	土師器 皿	8.8	6.6	1.9	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
8-19	SI4004 No.194下	土師器 皿	8.2	5.5	1.6	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-20	SI4004 No.197	土師器 皿	(8.6)	(7.1)	1.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-21	SI4004 No.204	土師器 皿	8.1	6.2	1.4	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-22	SI4004 No.209下	土師器 皿	8.4	5.6	1.3	緻密、直径1~2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-23	SI4004 No.211下	土師器 皿	(8.4)	(5.8)	1.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-24	SI4004 No.217	土師器 皿	8.2	6.8	1.3	緻密、直径1~2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-25	SI4004 No.215下	土師器 皿	8.4	5.9	1.6	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を多く含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
8-26	SI4004 No.219	土師器 皿	(8.4)	(6.4)	1.5	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-27	SI4004 No.220	土師器 皿	(8.4)	6.4	1.5	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-28	SI4004 4層 下部一括	土師器 皿	(8.4)	(6.8)	1.2	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-29	SI4004 4層 下部一括	土師器 皿	(8.4)	(6.2)	1.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-30	SI4004 4層 下部一括	土師器 皿	(8.0)	(6.0)	1.4	やや緻密、直径2mm大の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
8-31	SI4004 4層 下部一括	土師器 皿	(8.0)	(5.2)	1.4	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-32	SI4004 4層 下部一括	土師器 皿	(8.4)	(6.6)	1.8	緻密、直径1~2mmの砂粒を少し含む、雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-33	SI4004 4層 下部一括	土師器 皿	(8.6)	(6.2)	1.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
14-1	SK4007	平瓦	[6.5]	[5.1]	1.8	緻密、直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：2.5Y7/4浅黄 内：10YR5/4にぶい黄褐	表：ナデ 裏：ナデ、面取り	
14-2	SK4008	丸瓦	[5.6]	[4.8]	2.1	緻密、直径1~2mmの砂粒を含む、5mm大の赤色粒子を含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：10YR7/2にぶい黄橙	表：縄目タタキ、ナデ 裏：布目、面取り	
14-3	SK4018	白磁碗	(16.0)		[2.2]	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外：施釉 内：施釉	大宰府編年白磁碗Ⅷ類
14-4	SK4018	瓦質土器 播鉢			[6.6]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：N4/ 灰 内：7.5Y8/1灰白	外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ、スリ溝	
14-5	SK4022	平瓦	[7.5]	[4.0]	2.1	緻密、直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：5Y5/1灰 内：2.5Y8/2灰白	表：ナデ 裏：ナデ、面取り	
14-6	SK4022	丸瓦	[10.1]	[7.0]	1.7	緻密、直径1~2mmの黒色粒子を含む	良好	外：N7/ 灰白 内：5Y6/1灰	表：縄目タタキ、ナデ 裏：布目	
14-7	SK4022	丸瓦	[8.0]	[6.6]	2.5	緻密、直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：N4/ 灰 内：5Y7/2灰白	表：縄目タタキ、ナデ 裏：布目、吊紐痕	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考	
14-8	SI4029	陶器 甕				緻密	良好	10YR8/2灰白	外：施釉 内：施釉		
14-9	SI4029	平瓦	[2.9]	[4.4]	2.1	やや緻密、直径1~3mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR8/2灰白 内：5YR7/4にぶい橙	表：ナデ 裏：ナデ		
14-10	SI4029	滑石製 石鍋			[2.0]				外：加工痕あり 内：加工痕あり		
14-11	SK4034	白磁 碗			[2.7]	緻密	良好	2.5Y7/3浅黄	外：施釉 内：施釉	大宰府編年 白磁碗 IV類	
14-12	SK4034	陶器 碗			[1.9]	緻密	良好	5GY3/1暗オリーブ灰	外：施釉 内：施釉		
14-13	SK4035	青磁 皿			[1.6]	緻密	良好	10Y5/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系青磁皿 I類	
14-14	SK4035	瓦質土器 碗			[1.2]	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	外：7.5Y8/1灰白 内：2.5Y4/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ		
14-15	SK4035	土師器 坏			[1.3]	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む、雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底	
14-16	SK4035	土師器 皿			1.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む、雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底	
14-17	SK4041	青磁 碗			[1.5]	緻密	良好	7.5Y7/2灰白	外：施釉、施文 内：施釉	同安窯系青磁碗 I類	
14-18	SK4041	白磁 碗			[3.1]	緻密	良好	外：5Y8/2灰白 内：5Y7/2灰白	外：施釉 内：施釉		
14-19	SK4041	平瓦	[5.8]	[3.2]	1.4	緻密、直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：5Y8/1灰白 内：N4/ 灰	表：ナデ 裏：ナデ		
14-20	SK4041	丸瓦	[9.7]	[6.5]	[2.0]	緻密、直径1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外：N5/ 灰 内：N4/ 灰	表：ナデ 裏：ナデ、吊り紐痕		
14-21	SP4052	土師器 坏			[1.3]	緻密、直径1mm弱の赤色粒子を含む、雲母片を少し含む	良好	外：10YR5/2灰黄褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底	
14-22	SK4054	土師器 坏		(11.2)	[1.3]	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	2.5Y8/2灰白	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底	
14-23	SP4005	青磁 碗			[2.7]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 I類	
14-24	SP4013	土師器 坏		(10.6)	[2.1]	やや緻密、直径2mm大の砂粒を含む、雲母片を含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底	
14-25	SP4033	青磁 碗			[2.6]	緻密	良好	7.5GY7/1明緑灰	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 IV類	
14-26	SP4033	土師器 坏			[3.1]	やや緻密、直径1~3mmの砂粒・茶褐色粒子を多く含む	良好	外：2.5Y8/1灰白 内：2.5Y8/2灰白	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底	
14-27	SP4033	土師器 坏		(8.0)	[0.8]	緻密、赤色粒子を少し含む	良好	7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底	
14-28	SP4033	土師器 坏			1.3	緻密、直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底	
14-29	SP4038	土師器 坏	(14.2)	(12.0)	2.4	緻密、直径1mm大の砂粒を含む、雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、板状圧痕 内：ナデ		
14-30	SP4040	青磁 碗			[2.1]	緻密	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：10Y7/1灰白	外：施釉、施文 内：施釉、施文	同安窯系青磁碗 I類	
14-31	SP4044	白磁 碗	(15.6)		[3.3]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉、施文	白磁碗 V-4類	
14-32	SP4045	土師器 坏			[1.3]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ		
14-33	SP4045	土師器 皿			1.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、板状圧痕 内：ナデ		
14-34	SK4042 (カクラン坑)	弥生土器 甕			1.6	[4.4]	緻密	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ハケメ 内：ナデ	
14-35	SK4042 (カクラン坑)	弥生土器 甕				[1.3]	緻密	良好	外：7.5YR6/2灰褐 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：摩滅 内：ナデ	
14-36	SK4042 (カクラン坑)	弥生土器 壺				[6.3]	緻密、赤褐色粒子・雲母片を含む	良好	外：2.5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR5/2灰褐	外：ナデ 内：ハケメ	
14-37	SK4042 (カクラン坑)	弥生土器 高坏				[4.7]	緻密、直径1~3mmの砂粒を多く含む。雲母片を少し含む。	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ミガキ、丹塗り 内：ナデ	
16-1	SD4073	青磁 碗				[3.4]	緻密	良好	7.5Y6/3オリーブ黄	外：施釉 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁碗 I-4類

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
16-2	SD4073	青磁皿			[1.3]	緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	
16-3	SD4073	青磁皿		(5.8)	[1.1]	緻密	良好	外：5Y7/1灰白 内：7.5Y6/1灰	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	大宰府編年 同安窯系青磁皿 Ⅰ類
16-4	SD4073	白磁皿			[2.2]	緻密	良好	10Y8/1灰白	外：施釉 内：施釉	
16-5	SD4073	須恵器 口縁部			[2.3]	緻密，直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR5/1褐灰 内：10YR6/1褐灰	外：櫛描波状文 内：ナデ	
16-6	SD4073	須恵器 高坏			[6.0]	緻密，直径1mm弱の砂粒をわずかに含む	良好	外：7.5Y7/1灰白 内：5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
16-7	SD4073	須恵質 捏鉢			[2.8]	緻密，直径1～2mmの砂粒を多く含む	良好	2.5Y6/2灰黄	外：ナデ 内：ナデ	
16-8	SD4073	土師器 坏			[3.0]	緻密，直径1mm弱の砂粒をわずかに含む	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：7.5Y7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
16-9	SD4073	土師器 皿	(6.6)	(3.2)	1.3	緻密，直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	外：10YR5/3にぶい黄褐 内：10YR5/2灰黄褐	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
16-10	SD4073	土師器 皿	(7.3)		[1.2]	緻密，直径1～2mmの砂粒を少し含む	良好	外：5Y6/1灰 内：2.5Y5/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ	
16-11	SD4073	土師器 皿	(8.8)	(6.8)	1.4	緻密，直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
16-12	SD4073	滑石製 石鍋			[1.0]					
16-13	SD4075	白磁皿			[2.2]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉	
16-14	SD4075	白磁碗			[1.8]	緻密，直径1mm弱の砂粒をわずかに含む	良好	10Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗ⅤかⅧ類
16-15	SD4075	瓦質土器 捏鉢	(24.0)		[7.5]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	N4/ 灰	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ	
16-16	SK4075 No.2	瓦質土器 搦鉢		(13.2)	[10.4]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5Y4/1灰 内：N4/ 灰	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ，スリ溝	
16-17	SD4075	土師器 皿			1.0	緻密，直径1～2mmの砂粒を少し含む，雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
16-18	SD4075	土師器 皿		(6.0)	[1.2]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
16-19	SK4075 No.1	土師器 坏	(12.4)	(7.7)	2.6	緻密，直径1～3mmの砂粒を少し含む，雲母片を少し含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：10YR8/3浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
16-20	SK4081	青磁碗			[2.0]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 Ⅱ類
16-21	SK4081	青磁碗			[2.4]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 Ⅱ類
16-22	SK4081	青磁碗			[1.6]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：施釉，施文 内：施釉	同安窯系青磁碗 Ⅰ類
16-23	SK4081	青磁皿			[0.9]	緻密	良好	外：7.5Y6/1灰 内：7.5Y6/2灰オリーブ	外：露胎 内：施釉	龍泉窯系皿 Ⅰ類
16-24	SK4081	瓦質土器 捏鉢			[2.4]	緻密，白色粒子を含む	良好	外：N4/ 灰 内：10YR6/2灰黄褐	外：ナデ 内：ナデ	
16-25	SK4081	土師器 皿		(5.6)	[1.4]	緻密，直径1～2mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	外：5YR7/6橙 内：5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
16-26	SK4081	平瓦	[2.9]	[3.0]	1.2	緻密	良好	外：N5/ 灰 内：5Y7/1灰白	外：布目 内：ナデ	
16-27	SD4118	瓦質土器 火鉢			[3.3]	緻密	良好	外：N3/ 暗灰 内：7.5Y3/1オリーブ黒	外：ナデ 内：ナデ	
16-28	SD4118	土師器 坏			[1.5]	緻密，直径1mm弱の赤色粒子を含む	良好	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
16-29	SD4118	土師器 坏			[1.1]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片を含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
16-30	SD4118	土鍾	[3.5]	0.9	0.9	緻密	良好	10YR6/4にぶい黄橙	外：ナデ	1.78g
16-31	SD4127	瓦質土器 捏鉢			[3.1]	緻密，白色粒子を多く含む	良好	外：2.5Y7/1灰白 内：10YR7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
16-32	SD4144	青磁碗		(5.6)		緻密	良好	7.5Y5/2灰オリーブ	外：施釉，露胎 内：施釉	
16-33	SD4144	白磁碗			[2.0]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗 ⅤかⅧ類

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
16-34	SD4144	白磁皿		(3.0)	[1.2]	緻密	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：5Y8/4淡黄	外：露胎 内：施釉	
16-35	SD4144	白磁皿			[1.5]	緻密	良好	10Y8/1灰白	外：施釉，口禿 内：施釉	大宰府編年 白磁皿 IX類
16-36	SD4144	瓦質土器 捏鉢			[4.2]	緻密，直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	外：5YR7/4にぶい橙 内：5YR7/3にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
16-37	SD4144	土師器 坏	(10.0)		[0.9]	緻密，直径1~2mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
16-38	SD4144	平瓦	[8.5]	[5.4]	1.9	緻密，直径1mm大の砂粒・赤色粒子を含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/2灰褐	外：ナデ 内：ナデ	
16-39	SD5003	青磁碗			[3.3]	緻密，直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 I-2a類
16-40	SD5003	青磁碗			[3.7]	緻密，直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	外：10Y6/2オリーブ灰 内：10Y5/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系青磁碗
16-41	SD5003	陶器 黄釉盤			[1.5]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR5/2灰黄褐 内：7.5Y6/3オリーブ黄	外：露胎 内：施釉	磁竈窯
18-1	SX4088 ゾーン1	青磁皿			[1.5]	緻密	良好	5GY6/1オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	同安窯系青磁皿 I類
18-2	SX4088 ゾーン1	青磁蓋			[1.5]	緻密	良好	7.5GY6/1緑灰	外：施釉，露胎 内：施釉	
18-3	SX4088 ゾーン1	白磁碗			[3.1]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗 VかVIII類
18-4	SX4088 ゾーン1	白磁碗	[6.0]	[2.8]		緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：露胎 内：施釉	白磁碗 V類
18-5	SX4088 ゾーン1	白磁碗		(5.6)	[1.6]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉	
18-6	SX4088 ゾーン1	白磁皿			[1.8]	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外：施釉 内：施釉	
18-7	SX4088 ゾーン1	陶器 碗	(14.0)		[3.0]	緻密，黒色粒子を含む	良好	2.5Y6/3にぶい黄	外：施釉 内：施釉，施文	
18-8	SX4088 ゾーン1	陶器 甕			[2.5]	やや粗い，直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外：10R6/1赤灰 内：2.5YR5/2灰赤	外：施釉 内：露胎	陶器甕 I類
18-9	SX4088 ゾーン1	陶器 鉢			[1.0]	緻密	良好	10YR3/2黒褐	外：施釉 内：施釉	
18-10	SX4088 ゾーン1	瓦質土器 捏鉢			[4.4]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙 内：2.5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
18-11	SX4088 ゾーン1	土師器 坏	(11.1)	(7.4)	2.4	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR8/3浅黄橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
18-12	SX4088 ゾーン1	土師器 坏			2.0	緻密，直径1mm大の砂粒を含む，雲母片を少し含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
18-13	SX4088 ゾーン1	土師器 坏			3.0	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片を少し含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
18-14	SX4088 ゾーン1	土師器 皿	(9.8)	(8.0)	1.0	やや緻密，直径1~5mmの砂粒を少し含む，雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
18-15	SX4088 ゾーン1	土師器 皿	(10.6)	(8.4)	1.3	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片をわずかに含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
18-16	SX4088 ゾーン1	平瓦	[7.1]	[4.6]	1.1	緻密，直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	外：7.5Y6/1灰 内：5Y6/1灰	外：縄目タタキ，ナデ 内：布目，コビキ	
18-17	SX4088 ゾーン1	滑石製 石鍋			[4.5]				外：加工痕 内：加工痕	
18-18	SX4088 ゾーン1	砥石	[10.9]	6.6	6.3					510.02g
18-19	SX4088 ゾーン1・2	青磁碗			[3.7]	緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 III類
18-20	SX4088 ゾーン1・2	白磁碗	(16.8)		[3.6]	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗 VかVIII類
18-21	SX4088 ゾーン1・2	白磁碗			[2.1]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗 VかVIII類
18-22	SX4088 ゾーン1・2	白磁皿			[2.1]	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外：施釉，口禿 内：施釉	白磁皿 IX類
18-23	SX4088 ゾーン1・2	白磁 四耳壺			[3.3]	緻密	良好	5GY8/1灰白	外：施釉 内：施釉	
18-24	SX4088 ゾーン1・2	白磁 壺			[5.0]	緻密	良好	5Y6/1灰	外：施釉 内：施釉	

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
18-25	SX4088 ゾーン1・2	陶器 壺		(6.4)	[2.5]	緻密，黒色粒子を含む	良好	7.5YR3/3暗褐	外：施釉 内：施釉	
18-26	SX4088 ゾーン1・2	瓦質土器 湯釜			[4.3]	やや粗い，直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外：N4/ 灰 内：5Y5/1灰	外：ナデ 内：ハケメ	
18-27	SX4088 ゾーン1・2	土師器 坏	(15.2)	(9.3)	2.7	緻密，直径1~4mmの砂粒を少し含む，雲母片を含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
18-28	SX4088 ゾーン1・2	土師器 皿	(8.8)	(7.0)	1.0	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
18-29	SX4088 ゾーン1・2	土鍾	[3.1]	1.3	1.2	緻密	良好	5YR7/4にぶい橙	外：ナデ	4.93g
18-30	SX4088 ゾーン1・2	軒平瓦	[5.1]	[8.5]	3.5	やや緻密，直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：N5/ 灰 内：N6/ 灰	表：ナデ 裏：ナデ	蓮華唐草文
18-31	SX4088 ゾーン1・2	平瓦	[10.5]	[4.6]	1.8	やや粗い，直径1~4mmの砂粒を多く含む	良好	外：N7/ 灰白 内：N5/ 灰	表：ナデ，面取り 裏：ナデ	
18-32	SX4088 ゾーン1・2	平瓦	[11.2]	[7.6]	[2.0]	やや粗い，直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：2.5Y8/3淡黄 内：5Y6/1灰	表：ナデ 裏：コビキ A，ナデ	
18-33	SX4088 ゾーン1・2	丸瓦	[5.6]	[4.7]	3.0	やや緻密，直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	N6/ 灰	表：ナデ 裏：布目，吊紐痕	
18-34	SX4088 ゾーン1・2	丸瓦	[11.4]	[5.3]	2.2	やや緻密，直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：N6/ 灰 内：N5/ 灰	表：細目タタキ，ナデ 裏：布目，吊紐痕	
18-35	SX4088 ゾーン2	平瓦	[9.4]	[7.0]	2.6	緻密，直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	外：2.5Y7/1灰白 内：5Y8/1灰白	表：コビキ A，ナデ 裏：ナデ	
18-36	SX4088 ゾーン2	丸瓦	[4.9]	[3.5]	1.7	やや粗い，直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：2.5Y7/3浅黄	表：ナデ 裏：ナデ	
18-37	SX4088 ゾーン2	軒丸瓦				緻密，赤褐色粒子を多く含む	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：10YR8/3浅黄橙	表：ナデ 裏：ナデ	三巴文
19-1	SX4088 ゾーン3	白磁碗	(17.4)		[4.3]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	大宰府編年 白磁碗Ⅳ類
19-2	SX4088 ゾーン3	瓦質土器 捏鉢			[3.1]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
19-3	SX4088 ゾーン3	土師器 坏			2.3	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片を少し含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-4	SX4088 ゾーン3	土師器 皿	(9.2)	(8.2)	1.0	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-5	SX4088 ゾーン4	青磁碗	(17.4)		[3.8]	緻密	良好	10Y6/2オリブ灰	外：施釉，施文 内：施釉，施文	同安窯系青磁碗Ⅰ類
19-6	SX4088 ゾーン4	土師器 坏			[1.3]	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片をわずかに含む	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：5Y8/1灰白	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-7	SX4088 ゾーン4	土師器 坏		(10.0)	[1.3]	緻密，直径1~2mmの砂粒を少し含む，雲母片を少し含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：5YR6/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-8	SX4088 ゾーン4	瓦質土器 鉢	(13.6)		[2.0]	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	2.5Y6/3にぶい黄	外：ナデ 内：ナデ	
19-9	SX4088 ゾーン5	白磁碗			[2.9]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリブ灰	外：施釉，露胎 内：施釉	白磁碗Ⅴ類
19-10	SX4088 ゾーン5	白磁碗			[2.7]	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外：施釉 内：施釉	
19-11	SX4088 ゾーン5	瓦質土器 碗			[2.9]	緻密，黒色粒子を含む	良好	5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ミガキ	
19-12	SX4088 ゾーン5	土師器 坏	(11.8)	(8.0)	2.6	緻密，赤褐色粒子・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-13	SX4088 ゾーン5	丸瓦	[8.1]	[5.0]	2.0	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	7.5Y7/1灰白	表：ナデ 裏：布目，吊紐痕，面取り	
19-14	SX4088 ゾーン6	青磁皿		(4.8)	[0.7]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：露胎 内：施釉	
19-15	SX4088 ゾーン6	土師器 坏		(9.6)	[1.1]	緻密，赤褐色粒子を含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-16	SX4088 ゾーン6	土鍾	4.1	1.3	1.2	緻密	良好	10R5/2灰赤	外：ナデ	5.66g
19-17	SX4088 ゾーン6	平瓦	[5.7]	[4.1]	2.2	やや粗い，直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：N6/ 灰 内：N5/ 灰	表：ナデ 裏：ナデ	
19-18	SX4088 ゾーン7	青磁碗			[1.9]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリブ灰	外：施釉 内：施釉	
19-19	SX4088 ゾーン7	青磁碗			[3.1]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリブ	外：施釉，施文 内：施釉，施文	同安窯系青磁碗Ⅰ類

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
19-20	SX4088 ゾーン7	瓦質土器 捏鉢			[2.5]	緻密, 白色粒子を含む	良好	外: 10YR7/1灰白 内: 2.5Y8/1灰白	外: ナデ 内: ナデ	
19-21	SX4088 ゾーン7	土師器 坏		(8.6)	[2.3]	緻密, 赤褐色粒子を少し含む	良好	外: 7.5YR8/4浅黄橙 内: 7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
19-22	SX4088 ゾーン7	土師器 坏			3.4	緻密, 黒色・赤色粒子を含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
19-23	SX4088 ゾーン7	平瓦	[4.5]	[4.3]	1.0	緻密, 白色粒子をわずかに含む	良好	5Y6/1灰	表: 布目, ナデ 裏: タタキ, ナデ	
19-24	SX4088 ゾーン7	丸瓦	[14.0]	[6.6]	1.8	やや粗い, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外: 5YR8/2灰白 内: 5Y6/1灰	表: 縄目タタキ, ナデ 裏: 布目, 吊紐痕, 面取り	
22-1	SK4058	青磁 皿			[1.7]	緻密	良好	10Y6/1灰	表: 施釉 裏: 施釉	大宰府編年 同安窯か龍泉窯系 青磁皿I類
22-2	SK4058	青磁 皿			[1.8]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉 内: 施釉	同安窯か龍泉窯系 青磁皿I類
22-3	SK4058	陶器 耳壺			[3.2]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	5YR4/3にぶい赤褐	外: 施釉 内: 施釉	褐釉
22-4	SK4058	陶器 黄釉盤			[3.8]	緻密, 直径1~2mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	外: 5Y7/2灰白 内: 2.5Y6/4にぶい黄	外: 露胎 内: 施釉	磁甎窯
22-5	SK4058	土師器 坏		(9.0)	[1.2]	緻密, 赤色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
22-6	SK4058	平瓦	[5.9]	[4.4]	2.1	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	外: 7.5Y7/1灰白 内: 7.5Y8/1灰白	表: ナデ 裏: ナデ	
22-7	SK4058	平瓦	[7.3]	[5.5]	2.0	緻密, 直径1~4mmの砂粒を多く含む	良好	5Y8/1灰白	表: ナデ 裏: ナデ	
22-8	SK4058	丸瓦	[5.5]	[10.5]	1.0	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外: N4/ 灰 内: 2.5Y5/1黄灰	表: ナデ 裏: 面取り	
22-9	SK4059	青磁 碗		(5.1)	[2.0]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	龍泉窯系
22-10	SK4059	白磁 皿			[1.2]	緻密	良好	10Y8/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	白磁皿 IX類
22-11	SK4059	土師器 坏			1.2	緻密, 白色粒子を含む, 雲母片を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
22-12	SK4059	土師器 皿		(6.2)	[1.1]	緻密, 白色粒子を含む	良好	外: 5YR6/8橙 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
22-13	SK4060	土師器 皿	(7.3)	(5.4)	1.1	緻密, 直径1mm弱の砂粒を少し含む, 雲母片を含む	良好	7.5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
22-14	SK4060 No.2	平瓦	[13.6]	[10.9]	1.8	やや粗い, 直径1~4mmの砂粒を多く含む	良好	外: 10YR6/4にぶい黄橙 内: 10YR7/4にぶい黄橙	表: ナデ 裏: ナデ	
22-15	SK4060 No.1	熨斗瓦	[15.0]	[8.9]	2.3	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: 2.5Y7/2灰黄 内: 2.5Y7/1灰白	表: ナデ 裏: ナデ, 面取り	
22-16	SK4061	平瓦	[6.7]	[5.7]	2.1	緻密, 赤色粒子を含む	良好	外: 10YR6/1褐灰 内: 7.5YR6/4にぶい橙	表: ナデ 裏: ナデ	
22-17	SK4069	軒丸瓦	[6.4]		[4.5]	緻密, 白色粒子を含む	良好	外: N5/ 灰 内: 5Y6/1灰	表: 縄目タタキ, ナデ 裏: 布目, 吊紐痕, ナデ	巴文
22-18	SK4070	青磁 碗	(16.0)		[3.9]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-4類
22-19	SK4070	陶器 碗			[4.8]	緻密	良好	10YR5/3にぶい黄褐	外: 施釉 内: 施釉	天目碗
22-20	SK4070 No.2+3	土師器 坏	(14.2)	(11.0)	2.5	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
22-21	SK4070 No.14	土師器 坏	(14.6)	(10.6)	3.0	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
22-22	SK4070	土師器 坏	(12.4)	(9.6)	2.3	やや緻密, 直径2mm大の砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
22-23	SK4070 No.11	土師器 坏		(10.0)	[1.7]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
22-24	SK4070	土師器 坏			[1.1]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む, 雲母片を少し含む	良好	外: 10YR7/2にぶい黄橙 内: 10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
22-25	SK4070 No.7	土師器 坏			2.5	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
22-26	SK4070	土師器 皿	(7.8)	(6.6)	1.5	緻密, 直径1mm弱の砂粒を少し含む, 雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
22-27	SK4070 No.8	土師器 皿	9.2	7.2	1.3	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
22-28	SK4070 No.1	丸瓦	[5.8]	[4.5]	1.8	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	外: 10YR6/1褐灰 内: 10YR7/2にぶい黄橙	外: 縄目タタキ, ナデ 内: 布目, ナデ	
24-1	SK4074	青磁碗	(16.0)		[4.1]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉	龍泉窯系
24-2	SK4074	青磁碗			[3.5]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉	龍泉窯系
24-3	SK4074	白磁碗	(16.4)		[2.2]	緻密	良好	外: 2.5GY8/1灰白 内: 5GY8/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	大宰府編年 白磁碗 IX類
24-4	SK4074	赤絵碗			[2.3]	緻密	良好	外: N8/ 灰白 内: 7.5Y8/1灰白	外: 施釉 内: 施釉, 施文	近代
24-5	SK4074	白磁碗	11.0	3.8	4.6	緻密	良好	N8/ 灰白 施釉: 7.5YR3/3暗褐	外: 施釉, 施文 内: 施釉	近代
24-6	SK4074	白磁碗	11.2	3.9	4.6	緻密	良好	N8/ 灰白 施釉: 2.5Y5/6黄褐	外: 施釉, 施文 内: 施釉	近代
24-7	SK4074	瓦質土器 捏鉢			[5.2]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	外: 7.5Y6/1灰 内: 5Y6/1灰	外: ナデ 内: ナデ	
24-8	SK4074	瓦質土器 捏鉢			[3.5]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 2.5Y7/3浅黄 内: 2.5Y7/2灰黄	外: ナデ 内: ナデ	
24-9	SK4074	土師器 坏	(12.4)	8.6	2.4	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む, 雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
24-10	SK4074	土師器 坏	(12.6)	(8.6)	2.7	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
24-11	SK4074	土師器 皿	(7.9)	(6.8)	0.8	緻密, 直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	10YR8/2灰白	外: ナデ 内: ナデ	
24-12	SK4078	青白磁 皿			[1.3]	緻密	良好	10Y8/1灰白	外: 施釉 内: 施釉, 施文	
24-13	SK4078	磁器 耳壺			[3.0]	緻密	良好	外: 2.5Y5/3黄褐 内: 5Y5/1灰	外: 施釉 内: 化粧土	
24-14	SK4080	須恵質 捏鉢			[3.3]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: N4/ 灰 内: 7.5Y6/1灰	外: ナデ 内: ナデ	東播系
24-15	SK4080	土師器 甕			[3.8]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	外: 10YR5/4にぶい黄褐 内: 10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
24-16	SP4082	白磁碗		(6.0)	[1.8]	緻密	良好	7.5Y7/2灰白	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	
24-17	SP4082	白磁 皿			[1.5]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉	白磁皿 VIII類
24-18	SP4082	瓦質土器 捏鉢			[4.2]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	2.5Y3/1黒灰	外: ナデ 内: ハケメ, ナデ	
24-19	SP4082	土師器 甕			[2.6]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を含む	良好	外: 10YR5/2灰黄褐 内: 10YR7/4にぶい黄橙	外: ハケメ, ナデ 内: ナデ	
24-20	SK4083	青磁碗			[2.9]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉	
24-21	SK4083	白磁碗			[2.5]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	白磁碗 VかVIII類
24-22	SK4083	青白磁 合子			2.2	緻密	良好	外: 10Y7/1灰白 内: 5Y7/1灰白	外: 施釉, 施文, 露胎 内: 施釉, 施文	
24-23	SK4083	瓦質土器 捏鉢			[2.0]	緻密, 白色粒子を多く含む	良好	N6/ 灰	外: ナデ 内: ハケメ	
24-24	SK4083	土師器 甕			[2.4]	やや粗い, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外: 10YR3/2黒褐 内: 10YR4/1褐灰	外: ナデ, スス付着 内: ナデ	
24-25	SK4083	石球	2.5	2.4	2.0					15.43 g
24-26	SK4089	土師器 坏			2.9	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片を多く含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
24-27	SK4089	土師器 坏		(6.6)	[2.2]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	10YR6/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
24-28	SP4098	青磁 皿		(5.0)	[0.9]	緻密	良好	7.5Y7/2灰白	外: 露胎, 施釉 内: 施釉, 施文	同安窯系青磁皿 I類
24-29	SP4098	陶器 碗			[2.5]	緻密	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: 施釉 内: 施釉	
24-30	SP4098	瓦質土器 捏鉢			[3.8]	緻密	良好	外: 2.5Y5/1黄灰 内: 2.5Y4/1黄灰	外: ナデ 内: 摩滅	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
24-31	SK4099	瓦質土器碗			[3.2]	緻密	良好	N3/ 暗灰	外：ナデ 内：ミガキ	
24-32	SK4099	土師器坏		(12.6)	[1.0]	緻密，直径1～3mmの砂粒を少し含む，雲母片を含む	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：10Y6/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
24-33	SK4099	土師器坏		(9.4)	[1.2]	やや緻密，直径1～4mmの砂粒を含む，雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
24-34	SK4103	土師器皿	10.0	7.4	1.5	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片をわずかに含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
24-35	SK4109	土師器坏	(12.2)	(9.6)	2.4	やや緻密，直径1～2mmの砂粒・赤色粒子を多く含む	良好	外：5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-36	SK4109	土師器皿	(8.0)	(6.4)	1.4	緻密，赤色粒子・雲母片を含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-37	SK4109	丸瓦	[8.8]	[4.9]	1.8	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む	良好	N6/ 灰	外：縄目タタキ 内：布目，吊紐痕	
24-38	SK4116	瓦質土器捏鉢			[3.2]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	5Y8/1灰白	外：ナデ 内：摩滅	
24-39	SK4116	土師器皿	(9.6)	(7.6)	1.2	緻密	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-40	SK4117	土師器坏			[2.2]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
24-41	SK4117	土師器坏			[2.2]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片を含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
24-42	SK4117	土師器皿	(8.6)	(6.5)	1.3	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片を含む	良好	10YR8/3浅黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
24-43	SK4117	土師器皿	(8.4)	(6.6)	1.4	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-44	SK4121	青磁碗	(15.0)		[2.2]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉	
24-45	SK4121	青磁碗			[3.3]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 IV類
24-46	SK4121	白磁碗			[2.0]	緻密	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：10Y7/1灰白	外：露胎 内：施釉	白磁碗 XI類
24-47	SK4124	土師質鉢			[3.1]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR8/3浅黄橙 内：2.5Y5/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ	
24-48	SK4124	土師器坏	(15.0)		[2.3]	緻密，直径1～3mmの砂粒を少し含む，雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
24-49	SK4124	土師器坏			[2.5]	緻密，直径1～3mmの砂粒を少し含む，雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
24-50	SK4124	土師器皿	(9.0)	(6.6)	1.0	緻密，直径1～2mmの砂粒を少し含む，雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-51	SK4128	土師器坏	(13.4)	(10.0)	2.4	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片を含む	良好	7.5YR6/3にぶい褐	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-52	SK4128	土師器坏			[1.7]	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
24-53	SK4128	土師器皿	(10.3)	(7.9)	1.3	緻密，雲母片を含む	良好	外：10YR8/3浅黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
24-54	SK4128	石球	2.4	2.5	2.2					15.40g
24-55	SK4129	白磁碗	(17.0)		[3.1]	緻密	良好	7.5Y7/2灰白	外：施釉 内：施釉	
24-56	SK4129	白磁碗	(16.8)		[4.2]	緻密	良好	10Y8/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗 VかVIII類
24-57	SK4129	土師器甕			[2.2]	やや粗い，直径2mm大の砂粒を多く含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
27-1	SK4131	陶器甕			[2.5]	緻密，直径1～2mmの黒色粒子を含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外：露胎 内：施釉	
27-2	SK4131	陶器黄釉盤			[1.7]	緻密，黒色・白色粒子を多く含む	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：2.5Y5/6黄褐	外：露胎 内：施釉，施文	磁甗窯
27-3	SK4131	平瓦	[8.0]	[5.7]	2.0	緻密，直径1mm大の砂粒を多く含む	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：5Y8/1灰白	表：ナデ 裏：ナデ	

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
27-4	SK4133	軒丸瓦	[11.0]	[13.6]	2.2	やや粗い、直径1~4mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	5Y7/2灰白	表：ナデ 裏：ナデ	三巴文
27-5	SK4133	丸瓦	[12.5]	[11.2]	2.7	やや粗い、直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	2.5Y7/2灰黄	表：縄目タタキ 裏：布目、面取り	
27-6	SK4145	青白磁合子蓋	(10.2)		[1.7]	緻密	良好	5Y8/1灰白	外：施釉 内：施釉、露胎	
27-7	SK4137	平瓦	[5.3]	[5.7]	1.8	やや緻密、直径1mm大の砂粒・赤色粒子を多く含む	良好	2.5Y6/2灰黄	表：ナデ 裏：ナデ	
27-8	SK4137	土師器坏			[2.8]	緻密、白色粒子を含む	良好	2.5Y8/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
27-9	SK4146	瓦質土器碗			[1.4]	緻密	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙 内：2.5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
27-10	SK4146	土師器甕			[4.0]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
27-11	SK4147	土師器坏	(9.0)		[1.5]	緻密、赤色粒子を含む	良好	7.5YR5/3にぶい褐	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
27-12	SK4147	平瓦	[5.5]	[4.4]	1.9	緻密、直径1~3mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	外：7.5YR8/3浅黄橙 内：10YR8/3浅黄橙	表：ナデ 裏：ナデ	
27-13	SK4148	丸瓦	[8.3]	[4.8]	2.1	やや粗い、直径1~4mmの砂粒を含む	良好	外：10Y7/1灰白 内：N5/ 灰	表：縄目タタキ、ナデ 裏：布目、面取り	
27-14	SK4148	石球	3.2	3.0	2.5					31.92 g
27-15	SK4149	土師器坏			[1.5]	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む、雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
27-16	SK4149	土師器坏			[2.7]	緻密、直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	7.5Y6/1灰	外：ナデ 内：ナデ	
27-17	SK4153	白磁碗		6.3	[2.1]	緻密	良好	外：2.5GY8/1灰白 内：10Y7/1灰白	外：ケズリ 内：施釉	大宰府編年 白磁碗 IV類
27-18	SK4153	陶器甕			[3.3]	緻密、黒色・白色粒子を少し含む	良好	7.5YR3/2黒褐	外：施釉、露胎 内：施釉、施文	
27-19	SK4153	陶器壺			[3.1]	緻密	良好	2.5Y6/2灰黄	外：施釉 内：施釉、ナデ	陶器壺 IV類
27-20	SK4153	陶器黄釉鉄絵盤			[1.0]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：2.5Y7/2灰黄	外：露胎、ナデ 内：施釉、施文	陶器盤 I類
27-21	SK4153	土師器甕			[2.5]	緻密、直径1mm大の砂粒を含む	良好	10YR4/2灰黄褐	外：ナデ	
27-22	SK4153	土師器坏			[2.9]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片を少し含む	良好	10YR8/3浅黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
27-23	SK4153	土師器皿	(9.2)	(8.2)	1.1	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む、雲母片をわずかに含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
27-24	SK4158	青磁碗		(4.6)	[2.8]	緻密	良好	外：5G7/1明緑灰 内：7.5GY7/1明緑灰	外：施釉、露胎 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 III類
27-25	SK4158	陶器壺	(11.7)		[2.8]	緻密	良好	外：2.5Y7/6明黄褐 内：2.5Y5/2暗灰黄	外：施釉 内：施釉	
27-26	SK4158	土師器高台付坏			[1.6]	緻密、直径1mm大の砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
27-27	SK4158	土師器坏		(7.8)	[1.3]	緻密、直径1~2mmの砂粒・赤色粒子含む	良好	外：10YR8/3浅黄橙 内：10YR8/4浅黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
27-28	SK4158	土師器坏		(7.0)	[2.0]	緻密、直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙 内：2.5Y7/2灰黄	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
27-29	SK4158	平瓦	[5.8]	[5.5]	2.3	緻密、白色粒子を含む	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：10YR7/2にぶい黄橙	表：ナデ 裏：摩滅	
27-30	SP4068	磁器耳壺			[2.7]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：施釉 内：施釉	
27-31	SP4095	瓦質土器碗			[2.5]	緻密	良好	N4/ 灰	外：ミガキ 内：ナデ	
27-32	SP4095	土師器坏			[2.2]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
27-33	SP4110	青磁小碗	8.4	3.5	4.3	緻密	良好	10GY7/1明緑灰	外：施釉、露胎 内：施釉	龍泉窯系青磁小碗 III類
27-34	SP4123	土師器坏	(11.0)		[1.8]	やや緻密、直径1~4mmの砂粒を含む、雲母片をわずかに含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
27-35	SP4142	青磁碗			[1.5]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉，施文 内：施釉	大宰府編年 同安窯系青磁碗 I類
27-36	SP4142	土師器 坏			[1.3]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
28-1	SI4084	青磁碗			[2.4]	緻密	良好	2.5GY6/1オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 I類
28-2	SI4084	青磁碗		5.4	[2.5]	緻密	良好	7.5Y4/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 III類
28-3	SI4084	青磁碗			[3.8]	緻密	良好	5Y6/3オリーブ黄	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 II類
28-4	SI4084	白磁碗			[5.1]	緻密	良好	5Y8/2灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗 IV類
28-5	SI4084	白磁碗			[3.8]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	
28-6	SI4084	白磁壺			[2.5]	緻密	良好	外：7.5Y7/2灰白 内：10Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	
28-7	SI4084	陶器 碗		(3.0)	[3.5]	緻密	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：7.5YR2/2黒褐	外：ケズリ，施釉，露胎 内：施釉	天目碗
28-8	SI4084	陶器 鉢			[3.7]	やや粗い，直径1～2 mmの砂粒を多く含む	良好	外：10YR5/2灰黄褐 内：7.5YR5/2灰褐	外：ナデ 内：ナデ	陶器鉢 I-1a類
28-9	SI4084	陶器 黄釉盤			[2.4]	緻密，赤色粒子を含む	良好	外：2.5Y7/3浅黄 内：2.5Y7/4浅黄	外：施釉，露胎 内：施釉	磁甗窯
28-10	SI4084	陶器 黄釉盤			[2.2]	緻密，黒色粒子を含む	良好	外：7.5Y7/1灰白 内：10Y5/2オリーブ灰	外：施釉，露胎 内：施釉	磁甗窯
28-11	SI4084	陶器 壺			[5.8]	やや粗い，砂粒・黒色 粒子を多く含む	良好	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：10YR6/1褐灰	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	
28-12	SI4084	青白磁碗			[2.4]	緻密	良好	10GY8/1明緑灰	外：施釉 内：施釉，施文	
28-13	SI4084	瓦質土器 壺			[2.0]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含多く含む	良好	外：2.5Y5/1黄灰 内：2.5Y6/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ	
28-14	SI4084	瓦質土器 碗			[3.3]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：2.5Y8/1灰白 内：5Y8/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
28-15	SI4084	瓦質土器 碗			[2.1]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：5Y8/1灰白 内：10Y3/1オリーブ黒	外：ミガキ 内：ナデ	内黒
28-16	SI4084	瓦質土器 捏鉢			[5.8]	緻密，直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外：5Y8/1灰白 内：N8/ 灰白	外：ナデ 内：ハケメ，スリ溝	
28-17	SI4084	瓦質土器 捏鉢			[2.5]	緻密，直径1～3mmの 砂粒を少し含む	良好	外：N6/ 灰 内：N5/ 灰	外：ナデ 内：ナデ	
28-18	SI4084	土師器 甗			[4.0]	やや粗い，直径1～5 mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR7/6橙	外：ナデ 内：ナデ	
28-19	SI4084	土師器 坏		(8.6)	[1.7]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
28-20	SI4084	土師器 皿	(9.6)	(6.6)	1.0	緻密，直径1～3mmの 砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
28-21	SI4084	土師器 皿	(7.2)	(5.2)	1.1	緻密，直径1mm大の砂 粒を多く含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
28-22	SI4084	滑石製品	2.8	2.8	[0.9]					
28-23	SI4084	滑石製 石錘	5.4	3.4	1.0					59.25g
33-1	SE4161A	陶器 耳壺			[4.3]	緻密	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：施釉 内：施釉	
33-2	SE4161B	瓦質土器 捏鉢			[1.6]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外：N4/ 灰 内：10Y5/1灰	外：ナデ 内：ナデ	
33-3	SE4161B	土師器 坏			[0.9]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む，雲母片を含 む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
33-4	SE4161C	土師器 坏	(14.3)	(9.3)	2.8	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む，雲母片を含 む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：10YR6/2灰黄褐	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
33-5	SE4161	青磁碗			[2.5]	緻密	良好	7.5Y6/3オリーブ黄	外：施釉，施文 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 I-6a類
33-6	SE4161	青磁碗			[3.2]	緻密	良好	7.5GY7/1明緑灰	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 II類
33-7	SE4161	青磁碗		5.7	[1.9]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：ケズリ，施釉，露胎 内：施釉，施文	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 I-1b類

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
33-8	SE4161	青磁碗			[3.0]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：施釉 内：施釉，施文	同安窯系青磁碗Ⅰ類
33-9	SE4161	青磁碗			[2.1]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	
33-10	SE4161	青磁碗			[2.9]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗Ⅰ-4類
33-11	SE4161	青磁碗			[2.9]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗Ⅳ類
33-12	SE4161	青磁碗		(4.9)	[1.5]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：ケズリ，施釉，露胎 内：施釉	
33-13	SE4161	青磁碗		(4.0)	[2.2]	緻密	良好	外：10Y5/2オリーブ灰 内：10Y6/2オリーブ灰	外：ケズリ，施釉，露胎 内：施釉	
33-14	SE4161	青磁皿		(5.0)	[1.7]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	同安窯系青磁皿Ⅰ類
33-15	SE4161	青磁皿		(5.0)	[1.2]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	同安窯系青磁皿Ⅰ類
33-16	SE4161	青磁皿	(10.2)	(5.4)	2.1	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	同安窯系青磁皿Ⅰ類
33-17	SE4161	青磁皿		(6.0)	[1.1]	緻密	良好	10Y6/1灰	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	同安窯系青磁皿Ⅰ類
33-18	SE4161	青磁容器			[2.9]	緻密	良好	10Y7/2灰白	外：施釉 内：施釉	
33-19	SE4161	青磁壺			[3.2]	緻密	良好	外：10YR5/2灰黄褐 内：7.5Y5/3灰オリーブ	外：ナデ，施釉，露胎 内：施釉	
33-20	SE4161	白磁碗	(16.4)		[2.4]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗Ⅳ類
33-21	SE4161	白磁碗			[2.9]	緻密	良好	2.5Y8/2灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗Ⅳ類
33-22	SE4161	白磁碗			[2.8]	緻密	良好	2.5Y7/3浅黄	外：施釉 内：施釉	白磁碗Ⅳ類
33-23	SE4161	白磁碗	(11.0)		[2.8]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉，口禿 内：施釉	白磁碗ⅤかⅧ類
33-24	SE4161	白磁碗			[3.9]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗ⅤかⅧ類
33-25	SE4161	白磁碗			[2.6]	緻密	良好	10GY8/1明緑灰	外：施釉，口禿 内：施釉	白磁碗Ⅸ類
33-26	SE4161	白磁碗			[2.0]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：施釉，口禿 内：施釉	白磁碗Ⅸ類
33-27	SE4161	白磁碗			[3.1]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：ケズリ，施釉，露胎 内：施釉	
33-28	SE4161	白磁碗		(6.0)	[2.8]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：ケズリ，施釉，露胎 内：施釉	
33-29	SE4161	白磁碗		(6.8)	[1.9]	緻密	良好	外：10Y7/1灰白 内：10Y7/2灰白	外：ケズリ，施釉，露胎 内：施釉	
33-30	SE4161	白磁碗		(5.0)	[2.1]	緻密	良好	外：7.5Y7/1灰白 内：5Y7/2灰白	外：ケズリ，施釉，露胎 内：施釉，施文	白磁碗Ⅴ-4類
33-31	SE4161	白磁壺			[8.1]	緻密	良好	外：10Y7/1灰白 内：5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	
33-32	SE4161	粉青沙器碗			[3.7]	緻密	良好	7.5Y5/1灰	外：施釉 内：施釉，施文	朝鮮王朝
33-33	SE4161	粉青沙器碗			[2.8]	緻密	良好	10Y6/1灰	外：施釉 内：施釉，施文	朝鮮王朝
33-34	SE4161	粉青沙器壺			[6.5]	緻密	良好	外：5Y5/1灰 内：10YR5/2灰黄褐	外：施釉，施文 内：ナデ	朝鮮王朝
33-35	SE4161	陶器碗			5.8	緻密	良好	7.5YR4/4褐	外：施釉，露胎 内：施釉	天目碗
33-36	SE4161	陶器壺		7.4	[2.7]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：2.5YR6/6橙 内：5Y5/1灰	外：ナデ 内：ナデ	
33-37	SE4161	陶器壺			[3.3]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR3/2黒褐	外：ナデ，施釉 内：ナデ，施釉	
33-38	SE4161	陶器鉢		(8.6)	[2.3]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR4/2灰黄褐 内：7.5YR4/3褐	外：施釉，露胎 内：施釉	
33-39	SE4161	陶器鉢			[2.6]	やや緻密，直径1～3mmの砂粒を含む	良好	10R5/2灰赤	外：ナデ 内：ナデ	
33-40	SE4161	陶器鉢			[2.0]	緻密，直径1mm弱の砂粒をわずかに含む	良好	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR4/3褐	外：施釉 内：施釉	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
33-41	SE4161	陶器鉢		(9.0)	[2.8]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR4/2灰褐	外: ナデ, 施釉 内: ナデ, 施釉	
33-42	SE4161 (B 掘方)	瓦質土器湯釜			[5.0]	やや粗い, 直径1~5mmの砂粒を多く含む	やや軟質	2.5YR6/6橙	外: ナデ 内: ハケメ	
33-43	SE4161	瓦質土器捏鉢			[2.9]	緻密	良好	外: N6/ 灰 内: N5/ 灰	外: ナデ 内: ナデ	
33-44	SE4161	瓦質土器捏鉢			[4.2]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	外: N6/ 灰 内: N7/ 灰白	外: ナデ 内: ナデ	
33-45	SE4161	瓦質土器捏鉢			[3.6]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: 7.5YR3/2黒褐 内: 10YR4/1褐灰	外: ナデ 内: ナデ	
33-46	SE4161	瓦質土器火鉢			[4.4]	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を多く含む	良好	7.5Y5/1灰	外: ナデ 内: ケズリ, ナデ	
33-47	SE4161	瓦質土器搦鉢			[6.1]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	外: 7.5YR5/2灰褐 内: 7.5YR5/4にぶい褐	外: ナデ 内: ハケメ, スリ溝	
33-48	SE4161	瓦質土器搦鉢			[4.6]	緻密	良好	外: 5Y7/1灰白 内: 5Y8/1灰白	外: ハケメ, ナデ, スス付着 内: ハケメ, スリ溝	
33-49	SE4161	土師器甕			[3.0]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
33-50	SE4161	土師器坏	(13.4)	(10.0)	2.7	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
33-51	SE4161	土師器坏		7.4	[1.2]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む, 雲母片をわずかに含む	良好	外: 10YR6/3にぶい黄橙 内: 7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
33-52	SE4161	土師器高台付坏			[2.1]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
33-53	SE4161	石球	4.2	3.8	3.3				砂岩	61.56 g
33-54	SE4161	不明石製品	[7.1]	[7.1]	2.4				外: 加工痕 内: 加工痕	
34-1	SE4161 (検出面以浅)	軒平瓦	[7.4]	[9.2]	2.1	緻密	良好	5Y7/1灰白	表: ナデ 裏: ナデ	蓮華唐草文
34-2	SE4161 (検出面以浅)	軒平瓦	[11.3]	[10.5]	1.9	緻密, 赤褐色粒子を含む	良好	外: 5Y7/1灰白 内: 5Y6/1灰	表: ナデ 裏: ナデ	蓮華唐草文
34-3	SE4161 (検出面以浅)	軒平瓦	[5.6]	[8.3]	2.2	緻密, 赤褐色粒子を含む	良好	外: 5Y7/1灰白 内: 2.5Y7/1灰白	表: ナデ 裏: ナデ	蓮華唐草文
34-4	SE4161 (検出面以浅)	軒丸瓦	[6.9]	[9.5]	2.2	緻密, 茶褐色粒子を含む	良好	外: N6/ 灰 内: N7/ 灰白	表: ナデ 裏: ナデ, コビキ A	蓮華唐草文
34-5	SE4161 (検出面以浅)	軒丸瓦	[8.7]	[5.7]	1.5	やや粗い, 直径1~8mmの黒色粒粒子を含む	良好	外: N6/ 灰 内: N7/ 灰白	表: ナデ 裏: ナデ	三巴文
34-6	SE4161 (検出面以浅)	軒丸瓦	[13.7]	[9.1]	2.0	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: N7/ 灰白 内: 10YR7/1灰白	表: ナデ 裏: ナデ, コビキ A	三巴文
34-7	SE4161 (検出面以浅)	平瓦	[6.0]	[6.1]	3.0	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: 10YR8/2灰白 内: 7.5YR8/3浅黄橙	表: ナデ 裏: ナデ	
34-8	SE4161 (検出面以浅)	平瓦	[14.6]	[8.6]	1.8	やや粗い, 直径1~9mmの砂粒を多く含む	良好	外: N5/ 灰 内: 5Y4/1灰	表: ナデ 裏: ナデ	
34-9	SE4161 (検出面以浅)	丸瓦	[13.5]	[8.3]	2.4	緻密, 直径1~3mmの砂粒を多く含む。黒・茶褐色粒子を含む	良好	N5/ 灰	表: 縄目タタキ, ナデ 裏: 布目, ナデ	
34-10	SE4161	丸瓦	[3.2]	[2.5]	0.9	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: N4/ 灰 内: N6/ 灰	表: ナデ 裏: 面取り	
34-11	SE4161 (検出面以浅)	雁振瓦	[11.3]	[12.9]	2.1	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	外: 2.5Y8/1灰白 内: 5Y8/3淡黄	表: ナデ 裏: 布目, ナデ	
35-1	SE4015A	須恵器壺			[3.8]	緻密, 黒色・白色粒子を少し含む	良好	外: 7.5Y6/1灰 内: 10Y8/1灰白	外: ナデ 内: ナデ	
35-2	SE4015A	陶器搦鉢			[5.2]	やや粗い, 直径1~4mmの砂粒・灰色粒子を含む	良好	外: 7.5YR5/2灰褐 内: 7.5YR4/2灰褐	外: ナデ 内: ハケメ, スリ溝	備前
35-3	SE4015A	土師質捏鉢			[8.5]	緻密, 直径1~2mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, ナデ	
35-4	SE4015A	平瓦	[17.0]	[8.0]	2.3	やや粗い, 直径1~5mmの砂粒・黒色粒子を含む	良好	N7/ 灰白	表: ナデ 裏: コビキ A	
35-5	SE4015A	平瓦	[7.9]	[6.3]	2.1	やや粗い, 直径1~3mmの砂粒・黒色粒子を多く含む	良好	外: N4/ 灰 内: N5/ 灰	表: ナデ 裏: コビキ A	
35-6	SE4015A	丸瓦	[11.0]		2.3	やや粗い, 直径1~4mmの砂粒・黒色粒子を含む	良好	外: N4/ 灰 内: N5/ 灰	表: 縄目タタキ 裏: 布目, 面取り	

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
35-7	SE4015一括	青磁碗			[3.6]	緻密	良好	5GY6/1オリーブ灰	外：施釉，施文 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 Ⅲ類
35-8	SE4015一括	白磁碗			[2.1]	緻密	良好	10Y8/1灰白	外：施釉 内：施釉	
35-9	SE4015一括	白磁皿			3.0	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	白磁皿 Ⅷ類
35-10	SE4015一括	高麗 象嵌青磁 碗			[2.1]	緻密	良好	10Y6/1灰	外：施釉，施文 内：施釉，施文	
35-11	SE4015一括	陶器 甕			[1.8]	緻密，白色粒子を含む	良好	10Y3/3暗赤褐	外：施釉 内：施釉	
35-12	SE4015一括	瓦質土器 捏鉢			[5.0]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を多く含む	良好	外：2.5Y5/2暗灰黄 内：5Y5/1灰	外：，ナデ 内：ハケメ，ナデ	
35-13	SE4015一括	瓦質土器 播鉢			[1.7]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ，スリ溝	
35-14	SE4015一括	土師器 坏		(8.0)	[1.6]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
35-15	SE4015一括	平瓦	[10.5]	[5.3]	1.9	緻密，白色粒子を含む	良好	N5/ 灰	表：工具痕 裏：ナデ	
36-1	遺構外	青磁 碗			[5.0]	緻密	良好	10Y5/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅰ-4類
36-2	遺構外	青磁 碗			[3.5]	緻密	良好	10GY7/1明緑灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅳ類
36-3	遺構外	青磁 碗			[2.6]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉，露胎 内：施釉	龍泉窯系
36-4	遺構外	青磁 皿			[2.5]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	
36-5	遺構外	青磁 皿		(4.4)	[1.7]	緻密	良好	2.5GY5/1オリーブ灰	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	同安窯系青磁皿 Ⅰ類
36-6	遺構外	白磁 碗			[4.3]	緻密	良好	7.5Y7/2灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗 Ⅳ類
36-7	遺構外	白磁 碗			[3.7]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗 Ⅴ類
36-8	遺構外	白磁 碗		(5.2)	[1.3]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：施釉，露胎 内：施釉	
36-9	遺構外	白磁 皿		(5.8)	[1.4]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁皿 Ⅸ類
36-10	遺構外	陶器 黄釉盤			[1.8]	緻密，直径1mm弱の砂 粒をわずかに含む	良好	外：10YR4/3にぶい黄褐 内：10YR4/4褐	外：施釉，露胎 内：施釉	磁甗窯
36-11	遺構外	陶器 耳壺			[2.3]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR4/3褐 内：10YR4/3にぶい黄褐	外：施釉 内：施釉	
36-12	遺構外	土師質 捏鉢			[4.6]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外：2.5Y8/1灰白 内：2.5Y8/2灰白	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ	
36-13	遺構外	土師質 鍋			[3.0]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：5YR3/1黒褐 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：ナデ 内：ハケメ	
36-14	遺構外	土師器 坏	(15.0)		[2.0]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を少し含む	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ 内：ナデ	
36-15	遺構外	土師器 坏			[2.6]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を少し含む，雲母片 を含む	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
36-16	遺構外	土師器 皿	(8.8)	(7.1)	0.9	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む，雲母片を含 む	良好	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR5/8明褐	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
36-17	遺構外	土錘	[4.7]	1.5	1.5	緻密	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ	10.28g
36-18	遺構外	滑石製 石鍋			[5.0]				外：加工痕 内：加工痕	
36-19	遺構外	軒平瓦	[6.8]	[7.5]	2.5	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外：10Y7/1灰白 内：7.5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	蓮華唐草文
36-20	遺構外	平瓦	[4.8]	[6.5]	1.6	やや粗い，直径1～4 mmの砂粒を多く含む	良好	N4/ 灰	外：ナデ 内：ナデ	
36-21	遺構外	平瓦	[4.0]	[3.2]	1.8	緻密	良好	外：2.5Y8/2灰白 内：10YR8/2灰白	外：ナデ 内：ナデ	
36-22	遺構外	平瓦	[8.5]	[7.8]	2.1	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：5Y7/2灰白 内：5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
36-23	遺構外	平瓦	[6.7]	[3.1]	1.8	緻密，直径1mm弱の砂 粒を多く含む	良好	外：2.5Y8/3淡黄 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：コビキ 内：ナデ	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
36-24	遺構外	平瓦	[8.5]	[3.2]	1.5	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: N5/ 灰 内: N6/ 灰	表: ナデ, 面取り 裏: ナデ	
36-25	遺構外	平瓦	[10.6]	[6.1]	2.0	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	5Y7/1灰白	表: ナデ 裏: ナデ	
36-26	遺構外	平瓦	[8.4]	[6.0]	2.1	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外: N4/ 灰 内: N5/ 灰	表: ナデ 裏: ナデ	
36-27	遺構外	丸瓦	[10.4]	[5.3]	2.2	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	N5/ 灰	表: ナデ 裏: ナデ	
37-1	遺構外	丸瓦	[7.8]	[7.2]	2.1	やや粗い, 直径1~5mmの砂粒を多く含む	良好	外: 7.5Y7/1灰白 内: 5Y7/2灰白	表: 細目タタキ 裏: 布目, 面取り	
37-2	遺構外	丸瓦	[16.3]	[9.4]	2.0	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	外: 2.5Y8/2灰白 内: N6/ 灰	表: 細目タタキ, ナデ 裏: 布目	
37-3	遺構外	丸瓦	[9.2]	[5.3]	2.8	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外: 5Y7/2灰白 内: N7/ 灰白	表: ナデ 裏: ナデ	
37-4	遺構外	丸瓦	[9.2]	[3.8]	2.2	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 2.5Y7/3浅黄	表: ナデ 裏: 布目, 吊紐痕	
37-5	遺構外	雁振瓦	[11.8]	[9.5]	2.0	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外: 5Y7/1灰白 内: 10YR6/3にぶい黄橙	表: ナデ 裏: 布目, ナデ	
37-6	遺構外	銅銭	2.9	2.4	1.0					永楽通寶

第2表 HZK2003地点 E 区出土遺物観察表

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
41-1	SK10 2層	白磁碗			[2.8]	緻密	良好	7.5YR5/4にぶい褐	外: 施釉 内: 施釉	大宰府編年 白磁碗 VかVIII類
41-2	SK10 2層	土師器 坏			[1.2]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 7.5YR5/1褐灰	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
41-3	SK10 2層	土師器 皿	(8.7)	(7.0)	0.9	やや緻密, 直径1~5mmの砂粒を多く含む	良好	外: 7.5YR8/3浅黄 内: 7.5YR8/4浅黄	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
41-4	SK11	瓦質土器 碗			[1.3]	緻密	良好	N5/ 灰	外: ナデ 内: ナデ	
41-5	SK11	須恵器 捏鉢			[6.6]	緻密, 黒色・灰黄色の粒子を含む	良好	外: 2.5GY6/1オリーブ灰 内: N6/ 灰	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, ナデ	東播系
41-6	SK11	土師器 坏			[1.1]	緻密, 黒色・赤色粒子を多く含む	良好	外: 5YR6/6橙 内: 5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
41-7	SK11	土師器 坏		(11.0)	[2.1]	緻密, 黒色粒子・雲母片を含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
41-8	SK14	土師器 坏			[0.9]	緻密	良好	外: 7.5YR7/3にぶい橙 内: 7.5YR4/1褐灰	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ, スス付着	糸切り底
41-9	SK21	青磁 碗			[2.6]	緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 1-2類
41-10	SK21 (半裁)	白磁 皿			[1.8]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	
41-11	SK21	土師器 坏			[1.3]	緻密, 赤色粒子を含む	良好	外: 5YR6/2灰褐 内: 5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
41-12	SK21	土師器 坏			[2.9]	緻密, 赤色粒子を含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 10YR7/4にぶい黄橙	外: ナデ, スス付着 内: ナデ, スス付着	
41-13	SK31	瓦質土器 播鉢			[3.2]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	外: 5Y7/1灰白 内: 5Y8/2灰白	外: ナデ 内: ハケメ, スリ溝	
41-14	SK31	土師質 播鉢			[3.3]	緻密, 赤色粒子を含む	良好	外: 5YR7/3にぶい橙 内: 7.5YR8/6浅黄橙	外: ナデ 内: ハケメ, スリ溝	
41-15	SK33	陶器 黄釉盤			[3.0]	やや粗い, 黒色粒子を多く含む	良好	外: 10YR7/2にぶい黄橙 内: 5Y7/3浅黄橙	外: 露胎 内: 施釉	磁竈窯
46-1	SK49 (半裁)	土師質 鍋			[3.7]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外: 7.5YR3/1黒褐 内: 7.5YR6/6橙	外: ナデ 内: ハケメ, スス付着	
46-2	SK49 (半裁)	土師器 皿			[1.4]	緻密	良好	7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
46-3	SK51 3層	瓦質土器 捏鉢			[3.3]	緻密	良好	表: N5/ 灰 内: N4/ 灰	外: ナデ 内: ハケメ	
46-4	SK61 (方形 粘土遺構)	白磁 皿			[1.6]	緻密	良好	2.5Y7/3浅黄	外: 施釉 内: 施釉	

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
46-5	SK61（方形粘土遺構）	陶器鉢			[3.5]	やや緻密，直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外：5YR5/3にぶい赤褐 内：5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	大宰府編年陶器鉢Ⅰ-1類
47-1	SK60・61セクション5層（SK60）	青磁碗			[5.5]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗Ⅰ-4類
47-2	SK60・61セクション5層（SK60）	青磁皿			[1.3]	緻密，黒色粒子を含む	良好	10Y6/1灰	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系
47-3	SK60・61セクション5層（SK60）	白磁碗			[2.6]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗Ⅷ類
47-4	SK60・61セクション5層（SK60）	陶器黄釉鉄絵盤			[3.8]	粗い，砂粒を多く含む	良好	外：10YR7/1灰白 内：2.5GY7/1明オリーブ灰	外：露胎 内：施釉，施文	磁甕窯
47-5	SK60・61セクション5層（SK60）	陶器黄釉盤			[2.7]	緻密，黒色粒子を多く含む	良好	外：5YR5/2灰褐 内：5Y7/2灰白	外：施釉 内：施釉，露胎	磁甕窯盤Ⅰ-2類
47-6	SK60・61セクション5層（SK60）	須恵器捏鉢			[3.4]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	東播系
47-7	SK60・61セクション5層（SK60）	土師質鍋			[7.8]	緻密，直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	2.5YR6/6橙	外：ナデ 内：ハケメ，スス付着	
47-8	SK60・61セクション5層（SK60）	土師器皿			[1.1]	緻密	良好	外：7.5YR6/3にぶい褐 内：2.5Y5/1黄灰	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
47-9	SK60・62セクション6層（SK60）	青磁碗			[3.2]	緻密	良好	7.5Y5/3灰オリーブ	外：施釉，施文 内：施釉，施文	同安窯系青磁碗Ⅰ類
47-10	SK60・62セクション6層（SK60）	白磁碗			[3.9]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉	白磁碗Ⅴ-4かⅧ類
47-11	SK60・62セクション6層（SK60）	白磁碗			[3.0]	緻密	良好	5Y6/3オリーブ黄	外：施釉，露胎 内：施釉	
47-12	SK60・62セクション6層（SK60）	瓦質土器搦鉢		(9.4)	[3.3]	緻密，赤色粒子を含む	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙 内：10YR8/2灰白	外：ナデ 内：ナデ，スリ溝	
47-13	SK60・62セクション6層（SK60）	土師器坏		(8.4)	[1.3]	緻密	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：10YR8/4浅黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
47-14	SK60・62セクション6層（SK60）	土師器皿			1.1	緻密，黒色粒子を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
47-15	SK60・62セクション6層（SK60）	土錘	7.3	1.6	1.6	緻密	良好	外：2.5YR5/3にぶい赤褐	外：ナデ	18.91g
47-16	SK60・62セクション7層（SK60）	白磁碗			[1.3]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗ⅤかⅧ類
47-17	SK60・62セクション7層（SK60）	土師質捏鉢			[4.2]	やや粗い，直径1~5mmの砂粒を多く含む	良好	10YR8/2	外：摩滅 内：摩滅	
47-18	SK60・62セクション7層（SK60）	土師器坏			[2.5]	緻密	良好	外：7.5YR8/3浅黄橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
47-19	SK60・62セクション7層（SK60）	土師器坏			[1.9]	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
47-20	SK60・62セクション7層（SK60）	土師器坏			[1.2]	緻密，赤色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ 内：ナデ	
47-21	SK60・62セクション7層（SK60）	土師器皿	(7.4)	(6.4)	1.4	緻密，赤色粒子を含む	良好	外：7.5Y8/4浅黄橙 内：5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
47-22	SK60・61セクション8層（SK60）	瓦質土器碗			[1.1]	緻密	良好	外：10YR8/1灰 内：N5/灰	外：ナデ 内：ナデ	内面黒色
47-23	SK60・61セクション8層（SK60）	土師器皿		(5.6)	[0.9]	緻密	良好	外：10YR7/6明黄褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
47-24	SK60	青磁碗			[3.1]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類
47-25	SK60	青磁碗			[2.6]	緻密	良好	5Y5/2灰オリーブ	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
47-26	SK60	青磁碗			[1.9]	緻密	良好	2.5GY6/1オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 Ⅲ類
47-27	SK60	青磁碗			[1.8]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅰ-6類
47-28	SK60	青磁皿		(5.0)	[1.4]	緻密	良好	10Y6/1灰	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	同安窯系青磁皿 Ⅰ類
47-29	SK60	白磁碗			[4.5]	緻密，黒色粒子を含む	良好	5GY8/1灰白	外：施釉 内：施釉，露胎	白磁碗 Ⅷ類
47-30	SK60	白磁皿	(9.6)		[1.5]	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	7.5YR8/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，露胎	
47-31	SK60	陶器壺	(9.5)		[1.5]	緻密	良好	外：10YR6/4にぶい黄橙 内：7.5YR7/3浅黄	外：施釉 内：施釉	
47-32	SK60	陶器黄釉盤			[3.2]	やや粗い，黒色・赤色粒子を多く含む	やや軟	外：N7/ 灰白 内：2.5Y7/2灰黄	外：施釉 内：施釉	陶器盤Ⅰ-2類
47-33	SK60	須恵器甕			[3.7]	緻密	良好	外：N5/ 灰 内：N7/ 灰白	外：格子タタキ 内：同心円タタキ	
47-34	SK60	瓦質土器碗			[3.0]	緻密，雲母片を含む	良好	外：N5/ 灰 内：N7/ 灰白	外：ナデ，ミガキ 内：ナデ	
47-35	SK60	瓦質土器碗			[3.1]	緻密	良好	外：5Y7/1灰白 内：5Y8/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
47-36	SK60	瓦質土器碗			[3.3]	緻密	良好	外：N5/ 灰 内：10Y7/1灰白	外：ナデ，ミガキ 内：ナデ	
47-37	SK60	瓦質土器捏鉢			[2.4]	やや緻密，直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外：N8/ 灰白 内：5Y8/1灰白	外：ナデ 内：ハケメ	
47-38	SK60	瓦質土器搦鉢			[6.3]	緻密，黒色・赤色粒子を含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ 内：ナデ，スリ溝	
47-39	SK60	土師質鍋			[3.5]	緻密，直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR2/1黒 内：7.5YR6/2灰褐	外：ナデ 内：ハケメ，スス付着	
47-40	SK60	土師質鍋			[2.2]	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：10YR4/2灰黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
47-41	SK60	土師質鍋			[7.5]	緻密，直径1~2mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	外：5YR7/6橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：ナデ 内：ハケメ	
47-42	SK60	土師質鍋			[5.9]	緻密，赤色粒子を多く含む	良好	外：2.5Y2/1黒 内：2.5YR6/6橙	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ，ナデ	
47-43	SK60	土師器坏	(11.4)	(7.0)	2.3	緻密，直径7mmの赤色粒子をわずかに含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
47-44	SK60 土器②	土師器坏	(11.1)	7.0	2.1	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む，赤色粒子・雲母片を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
47-45	SK60 土器①	土師器坏	11.6	8.0	2.2	緻密，直径1mm大の砂粒を含む，赤色・黒色粒子・雲母片を含む	良好	外：5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
47-46	SK60	土師器坏	(11.7)	(7.8)	2.2	緻密，直径1mm大の砂粒・赤色粒子を含む	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：5YR8/4淡橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
47-47	SK60	土師器坏		(7.2)	[1.2]	緻密，赤色粒子を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
47-48	SK60	土師器坏			[1.6]	緻密	良好	外：10YR8/3浅黄橙 内：10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
47-49	SK60	土師器皿	(8.0)	(6.0)	1.1	緻密	良好	外：7.5YR8/3浅黄橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
47-50	SK60	土師器皿	(6.8)	(5.2)	1.4	緻密，赤色粒子・雲母片を含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
47-51	SK60	土鍾	3.9	1.5	1.5	緻密	良好	外：2.5YR6/3にぶい橙	外：ナデ	6.67g
47-52	SK60	鬼瓦	[11.3]	[12.6]	[5.2]	緻密，直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	表：施文 裏：ナデ	
47-53	SK60	軒丸瓦			2.2	緻密，茶褐色粒子を含む	良好	N4/ 灰	表：ナデ 裏：ナデ	巴文
47-54	SK60	軒丸瓦		[6.2]		緻密，直径1mm大の砂粒を含む	良好	5Y7/2灰白	表：ナデ 裏：ナデ	巴文
47-55	SK60	平瓦	[7.1]	[5.7]	2.2	緻密，直径1~2mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	表：ナデ 裏：ナデ	
47-56	SK60	平瓦	[10.6]	[8.9]	2.3	やや緻密，直径1~5mmの砂粒を含む	良好	表：10YR7/1灰白 裏：10Y7/1灰白	表：ナデ 裏：ナデ，工具痕	
48-1	SK60・62 セクション 1層 (SK62)	青磁碗		7.4	[3.9]	緻密	良好	7.5Y5/2灰オリーブ	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅰ類

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
48-2	SK60・62 セクション 1層 (SK62)	陶器 碗		(6.8)	[2.8]	緻密	良好	外：5YR7/4にぶい橙 内：2.5Y8/1灰白	外：露胎 内：施釉	
48-3	SK60・62 セクション 1層 (SK62)	白磁 皿		(5.2)	[0.9]	緻密	良好	5GY8/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉	
48-4	SK60・62 セクション 1層 (SK62)	土師質 鍋			[4.5]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ，ハケメ，スス付着 内：ハケメ，ナデ	
48-5	SK60・62 セクション 1層 (SK62)	土鍾	[2.4]	1.3	1.3	緻密	良好	外：5YR6/4	外：ナデ	3.56g
48-6	SK60・62 セクション 1層 (SK62)	平瓦	[5.8]	[9.1]	1.8	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：10YR7/1灰白 内：7.5Y7/1灰白	表：ナデ 裏：ナデ	
48-7	SK60・62 セクション 1層 (SK62)	丸瓦	[9.8]	[5.2]		やや緻密，直径1～3 mmの砂粒を多く含む	良好	外：10YR6/1褐灰 内：7.5YR7/3にぶい橙	表：ナデ 裏：ナデ，コビキ A	
48-8	SK62	青磁 碗			[2.2]	緻密	良好	5Y6/3オリーブ黄	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系
48-9	SK62	白磁 皿		(5.2)	[1.2]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	
48-10	SK62	白磁 壺			[5.3]	緻密，黒色粒子を含む	良好	外：7.5GY8/1明緑灰 内：2.5Y5/3黄褐	外：施釉 内：施釉	
48-11	SK62	陶器 壺	(11.0)		[2.6]	緻密，茶褐色粒子を含 む	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉，露胎 内：施釉，露胎	
48-12	SK62	陶器 壺		(11.1)	[8.5]	緻密，直径1～3mmの 砂粒を多く含む	良好	外：10YR7/1灰白 内：10YR6/2灰黄褐	外：ナデ 内：ハケメ，ナデ	
48-13	SK62	瓦質土器 捏鉢			[3.7]	緻密，黒色粒子を含む	良好	外：10Y7/1灰白 内：7.5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ハケメ	
48-14	SK62	土師質 鍋			[3.6]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：5YR3/1黒褐 内：5YR5/6明赤褐	外：ナデ 内：ハケメ，スス付着	
48-15	SK62	土師器 坏		(7.0)	[1.7]	緻密，赤色粒子を含む	良好	5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
48-16	SK62	土師器 皿	(13.0)		[2.0]	緻密，直径3mm大の砂 粒を含む	良好	外：10YR8/2灰白 内：10YR8/3浅黄橙	外：ナデ，スス付着 内：ナデ	近世
48-17	SK62	熨斗瓦	[7.2]	[6.0]	3.0	緻密，直径1～2mmの 砂粒・赤色粒子を含む	良好	表：7.5Y8/1灰白 裏：5YR7/4にぶい橙	表：ナデ 裏：ナデ	
49-1	SK60・62 セクション 9層 (SK75)	青白磁 皿		(7.0)	[0.5]	緻密	良好	外：10GY8/1明緑灰 内：10GY7/1明緑灰	外：施釉 内：施釉，施文	
49-2	SK60・62 セクション 9層 (SK75)	土師器 坏			[2.1]	緻密，赤色粒子を含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ 内：ナデ	
49-3	SK60・62 セクション 9層 (SK75)	土師器 坏			[1.7]	緻密	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
49-4	SK60・62 セクション 9層 (SK75)	土師器 皿	(8.4)	(7.0)	1.2	緻密，直径1～3mmの 砂粒を含む	良好	外：5YR6/6橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
49-5	SK60・62 セクション 9層 (SK75)	土師器 皿		(6.0)	[0.8]	緻密，赤色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
49-6	SK60・62 セクション 12層 (SK75)	土師質 鍋			[4.8]	緻密，直径1～3mmの 砂粒・雲母片を含む	良好	外：5YR6/2灰褐 内：7.5YR2/1黒	外：ナデ 内：ハケメ，スス付着	
49-7	SK60・62 セクション 12層 (SK75)	土師器 皿			[1.9]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：10YR8/3浅黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
49-8	SK60・62 セクション 12層 (SK75)	土師器 皿			1.2	緻密，黒色粒子を含む	良好	外：5YR7/4にぶい橙 内：5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
49-9	SK60・62 セクション 12層 (SK75)	土師器 皿	(7.2)	(5.2)	1.2	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
49-10	SK60・62 セクション 13層 (SK75)	白磁 皿		(4.5)	[1.3]	緻密	良好	5Y8/2灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	大宰府編年 白磁皿 Ⅷ-1類
49-11	SK60・62 セクション 13層 (SK75)	土師器 坏			[1.8]	緻密	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR6/1褐灰	外：ナデ 内：ナデ，スス付着	
49-12	SK60・62 セクション 14層 (SK75)	陶器 耳壺			[1.5]	緻密，直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR6/2灰褐	外：露胎 内：露胎	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
51-1	SK70	青磁碗			[1.9]	緻密	良好	10YR7/1灰白	外：施釉，施文 内：施釉，施文	大宰府編年 同安窯系青磁碗 I類
51-2	SK70	陶器 黄釉鉄絵盤			[4.8]	緻密，直径1～3mmの 砂粒を多く含む	良好	外：2.5Y6/2灰黄 内：7.5Y7/2灰白	外：露胎 内：施釉，施文	
51-3	SK70	陶器 播鉢			[6.9]	緻密	良好	外：7.5YR4/1褐灰 内：7.5YR4/3褐	外：ナデ 内：ナデ，スリ溝	
51-4	SK70	土師質 播鉢			[3.9]	緻密，赤色粒子を含む	良好	外：5YR7/6橙 内：5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ハケメ，スリ溝	
51-5	SK70	土師器 皿		(6.6)	[1.1]	緻密	良好	5YR6/8橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
51-6	SK74 8・9層 (西側)	瓦質土器 碗			[3.2]	緻密	良好	外：5Y4/1灰 内：2.5Y5/1黄灰	外：ナデ，ミガキ 内：ナデ	
51-7	SK74 8・9層 (西側)	土師器 坏		(9.0)	[2.5]	緻密，赤色粒子を含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
52-1	SD69 1層	土師器 皿		(4.2)	[1.1]	緻密，赤色粒子を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
52-2	SD69 1・2層	陶器 皿			[0.9]	緻密	良好	2.5Y4/6オリーブ褐	外：施釉，露胎 内：施釉	近世
52-3	SD69 1・2層	土師器 坏	12.2	8.3	2.4	緻密，直径1～3mmの 砂粒を含む，赤色粒 子・雲母片を含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
52-4	SD69 1・2層	軒平瓦				緻密，直径1～3mmの 砂粒を含む	良好	表：N4/ 灰 裏：N6/ 灰	表：ナデ 裏：ナデ，工具痕	宝珠唐草文
52-5	SD69 1・2層	瓦玉	5.1	4.9	2.0	緻密，茶褐色粒子を含 む	良好	表：N4/ 灰 裏：5Y4/1灰	表：摩滅 裏：ケズリ	52.9g
52-6	SD69 1・2層	瓦玉	5.9	6.1	2.8	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	N5/ 灰	表：ナデ 裏：ナデ	119.66g
52-7	SD69 3層	陶器 甕		(13.9)	[4.1]	緻密，赤色粒子を含む	良好	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：7.5YR4/3褐	外：回転ナデ，施釉 内：回転ナデ，施釉	
52-8	SD69 3層	須恵器 坏			[1.8]	緻密，直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外：10Y6/1灰 内：7.5Y6/1灰	外：回転ナデ 内：回転ナデ	
52-9	SD69 3層	丸瓦	[4.6]	[4.3]	2.5	緻密，直径1mm大の砂 粒を多く含む	良好	外：N4/ 灰 内：7.5Y6/1灰	表：ナデ 裏：ナデ	
52-10	SD69 3・4層	軒丸瓦	[2.9]		[1.5]	緻密，直径1～3mmの 砂粒を含む	良好	N6/ 灰	表：ハケメ，ナデ	
52-11	SD69 4層	平瓦	[2.3]	[4.8]	1.6	緻密，直径1～2mmの 砂粒・赤色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	表：摩滅 裏：ナデ	
52-12	SD69 4層	平瓦	[7.0]	[4.0]	1.7	緻密，直径1～2mmの 砂粒・茶褐色粒子を含 む	良好	表：2.5Y8/3淡黄 裏：2.5Y7/2灰黄	表：ナデ 裏：ナデ	
52-13	SD69 4層	丸瓦	[5.9]	[3.4]		やや緻密，直径1～4 mmの砂粒を多く含む	良好	表：N5/ 灰 裏：N4/ 灰	表：ナデ 裏：ナデ	
52-14	SD73 (検出時)	平瓦	[5.0]	[5.4]	1.7	緻密，直径1～2mmの 砂粒・黒色粒子を含む	良好	表：7.5Y6/1灰 裏：N6/ 灰	表：ナデ 裏：ナデ	
52-15	SD73 (検出時)	丸瓦	[12.8]	14.2	2.1	緻密，直径1～3mmの 砂粒・赤色粒子を含む	良好	表：5YR8/4淡橙 裏：10YR8/4浅黄橙	表：縄目タタキ，ナデ 裏：布目，コビキA	
52-16	SD73 (検出時)	石製品	[8.8]	15.3	[3.9]				擦痕あり	
56-1	SK06	陶器 捏鉢			[4.5]	緻密，直径1～3mmの 砂粒を多く含む	良好	7.5YR5/3にぶい褐	外：ナデ 内：ナデ	
56-2	SK06	土師器 坏	(15.9)	(10.4)	2.9	緻密，雲母片を含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
56-3	SK06 (半裁)	土師器 坏			2.2	緻密，赤色粒子を含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ 内：ナデ	
56-4	SK06	土師器 皿	(8.6)	(7.0)	1.1	緻密，赤色粒子を含む	良好	外：10YR8/3浅黄橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
56-5	SK06 (半裁)	土師器 皿			0.9	緻密，赤色粒子を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
56-6	SK63 1層(粘土 層)	青磁 碗			[3.3]	緻密	良好	7.5Y7/2灰白	外：施釉 内：施釉，施文	同安窯系青磁碗 I類
56-7	SK63 1層(粘土 層)	土師器 坏	(10.6)	(7.0)	1.6	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
56-8	SK63 1層(粘土 層)	土師器 皿	(6.7)	(3.8)	1.9	緻密，赤色粒子を含む	良好	5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底

Ⅲ HZK2003地点（記録資料館地点第2次調査）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
56-9	SK63 2層	土師器 脚部	[8.1]	3.3	2.1	緻密, 直径1~3mmの 砂粒を含む	良好	7.5YR6/1褐灰	表: ナデ 裏: ナデ	
56-10	SK65 土器③	白磁 碗	(12.7)		[5.0]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリブ灰	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	大宰府編年 白磁碗 IX類
56-11	SK65 (半裁)	白磁 碗			[2.3]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	2.5GY8/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	白磁碗 IX類
56-12	SK65 土器①	土師器 坏	(8.9)	(7.0)	1.9	緻密, 雲母片を含む	良好	外: 5YR7/6橙 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
56-13	SK65 1層(礎石 直下)	土師器 坏	(8.4)	(8.4)	[1.2]	緻密, 雲母片を含む	良好	外: 5YR8/4淡橙 内: 5YR7/4いぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
56-14	SK65 土器④	土師器 皿	(10.0)	(8.0)	1.2	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を多く含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
56-15	SK65 (半裁)	土師器 皿	8.3	7.0	1.3	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	外: 7.5YR7/4いぶい橙 内: 10YR7/3いぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
56-16	SK65 (半裁)	土師器 皿	8.7	7.2	1.1	緻密	良好	外: 7.5YR6/6橙 内: 5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
56-17	SK65 (半裁)	土師器 皿	(7.6)	(5.8)	1.0	やや緻密, 直径1~4 mmの砂粒を多く含む	良好	外: 7.5YR7/6橙 内: 10YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
56-18	SK65 土器②	土師器 皿	(7.8)	(5.8)	1.4	緻密, 赤色粒子を含む	良好	5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
56-19	SK65 (半裁)	土師器 皿	(8.0)	(6.2)	1.6	やや緻密, 直径1~5 mmの砂粒を含む	良好	10YR7/3いぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
56-20	SK67	土師器 坏			[0.7]	緻密	良好	外: 10YR6/1褐灰 内: 10YR5/1褐灰	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底

Ⅳ HZK1703地点（応力研生産研本館北地点）

1. 調査の経緯

（1）調査の目的と経過

本調査地点は箱崎キャンパス南エリアに位置する応力研生産研本部本館北側に位置する。キャンパス全体の発掘調査グリッドでは（本報告書Ⅰ章第2図）、O38区、P38区、Q38区にあたる。

本調査地点は応力研生産研本部の建物上屋が解体され、建物基礎が解体される前の状況にあり、本調査地点に隣接する南側（本学敷地外）の住宅地区では、平成20年度に福岡市教育委員会文化財部が箱崎遺跡第61次発掘調査を実施しており、12～13世紀を中心とした集落と近世遺構が確認されている。

よって本地区にも遺物包含層が良好に保存されている可能性が高く、①箱崎キャンパス地区における遺跡の形成・埋没過程の長期把握、②箱崎遺跡北東部付近における中・近世の人々の居住環境や社会生活領域の実態に迫ることを目的とし、学術調査を計画した。

九州大学埋蔵文化財調査室は、平成29年10月2日付の福岡県教育委員会あて「九大企統第30号」にて、HZK1703地点の埋蔵文化財発掘届を提出した。これに対して、福岡県教育委員会より平成29年「29教文 第2046号」にて許可通知があり、11月6日に現地調査を開始した。

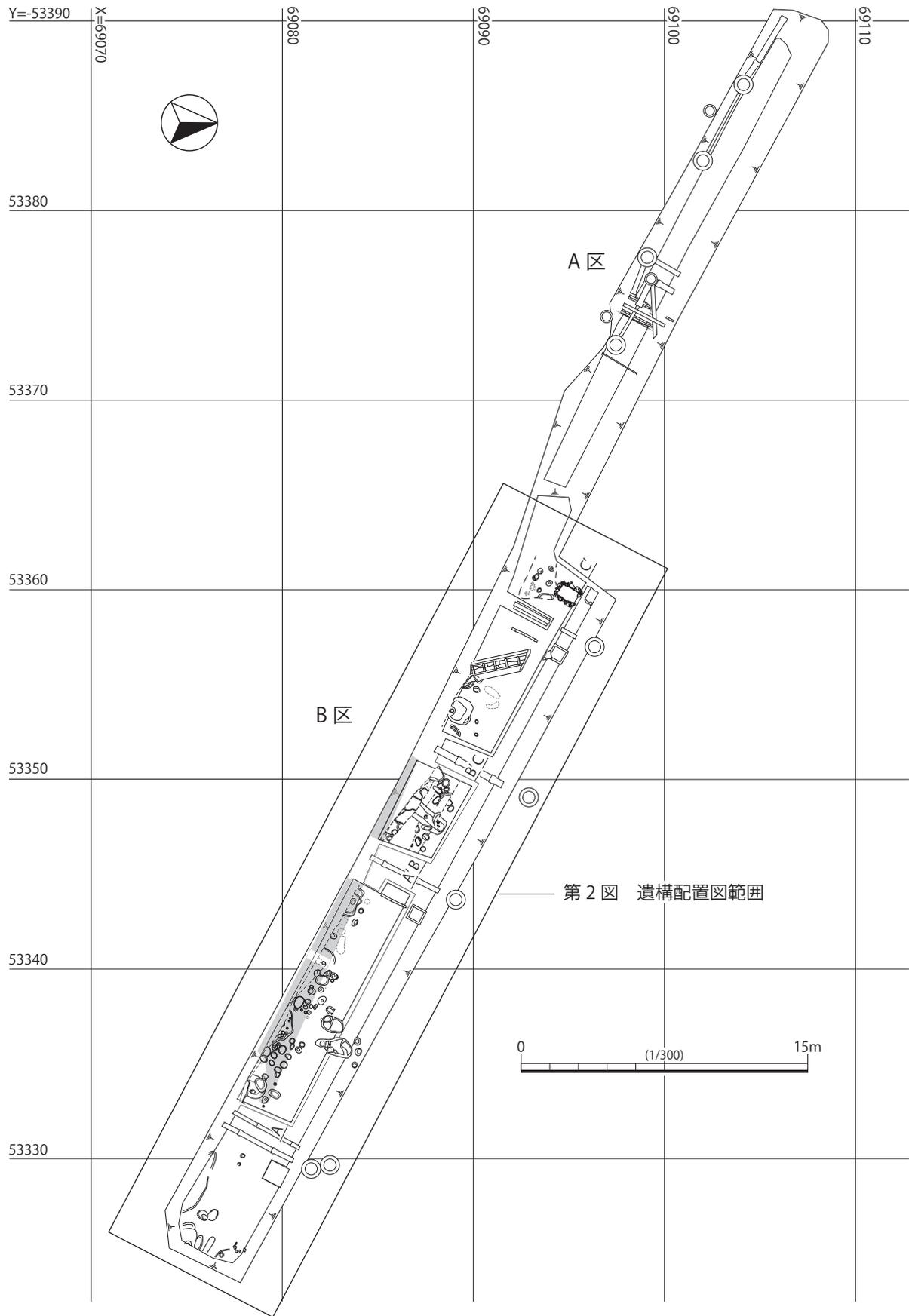
本地点では、博多湾に沿って南北方向に延びる箱崎砂丘に直交する東西に長い調査区を設定した。調査区の西側に位置するA区は深部（現地地表下2.5m）まで近代以降の攪乱・造成の影響が及んでいたため、近世以前の遺構は確認できなかった。東側に位置するB区では中世の遺構面を2面確認した。それぞれ第1遺構面、第2遺構面とし、調査成果の詳細については後述する。なお調査から報告にいたるまで数年が経過し、その間の異動により調査担当者と報告者が異なっている。報告については調査担当者の記録を基に、報告者の責任において文章執筆を行い、報告者については各文末に記す。

中世の遺構・遺物を検出し、①箱崎キャンパス地区における遺跡の形成・埋没過程の長期把握、②箱崎遺跡北東部付近における中・近世の人々の居住環境や社会生活領域の実態に迫るといった一端を明らかにし、調査は平成30年2月16日に無事終了した。

（2）調査要項

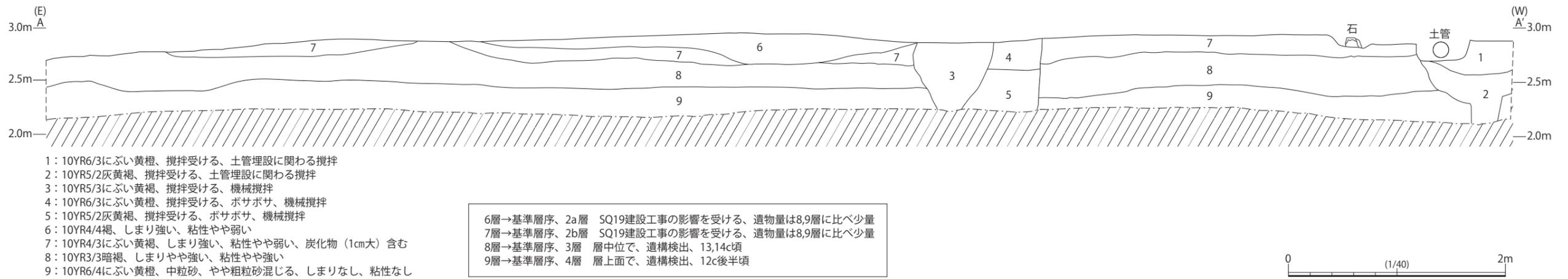
遺跡名	箱崎遺跡
地点名	九州大学箱崎キャンパス HZK1703地点（応力研生産研本館北地点）
調査名	九州大学埋蔵文化財調査室調査番号：HZK1703 福岡市調査番号：1731、箱崎遺跡第86次調査
所在地	福岡市東区箱崎6-10-1
調査面積	260㎡
調査原因	学術研究
調査期間	平成29年11月1日～平成30年2月16日
遺物量	コンテナ（内寸54cm×34cm×15cm）22箱
調査主体	九州大学埋蔵文化財調査室
発掘担当	森 貴教・三阪一徳
調査作業員	有水知晴、井上光江、内山恵子、浦崎てい子、大浦旗江、奥 敦子、大藪英美、

IV HZK1703地点 (応力研生産研本館北地点)

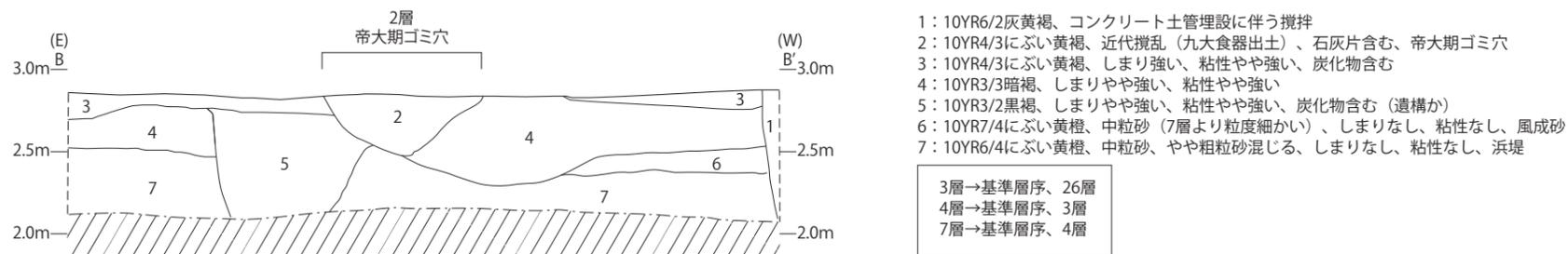


第1図 HZK1703地点全体図

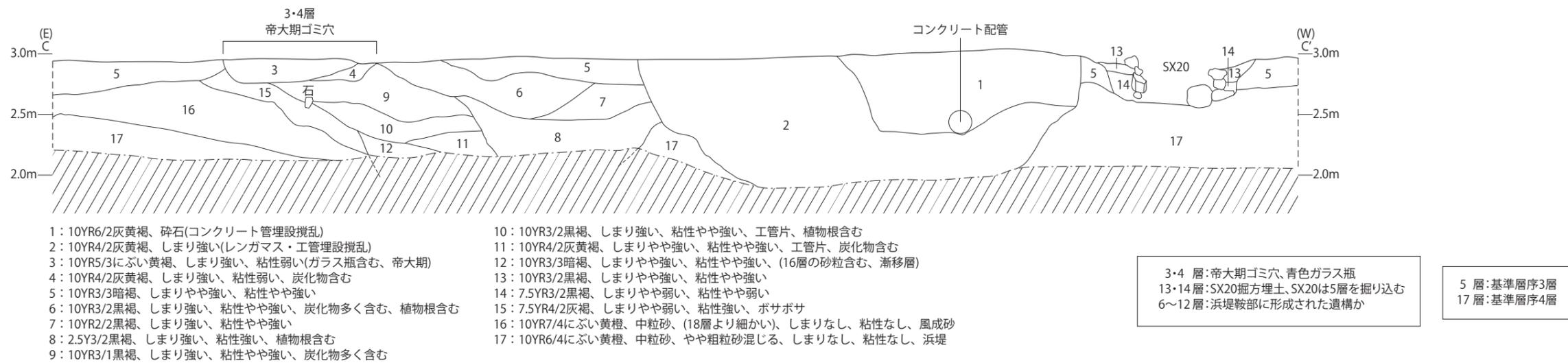
B区 東西ベルト 土層 (S=1/40) [B2~B5区]



[B6区]
 深部掘削断面



[B7・B8区]



第3図 HZK1703地点土層断面図

門脇尚子、城野勝彦、小林敏子、定永靖史、篠崎繁美、白石亜希子、節政善憲、竹本葉子、田代 薫、田中悦子、田中ゆみ子、田野和代、堤 末子、永濱弘子、仲前富美子、中村尚美、中山大輔、西浦喜久子、馬場孝子、東嶋 茜、東島真弓、松下さゆり、松下由希子、三辻香奈子、宮原ゆかり、宮元亜希世、森 一雄、安里由利子、山田幹裕、横谷明美、吉田雄紀

遺構図面整理担当 齋藤瑞穂、石井若香菜

遺物整理担当 谷 直子

整理作業員 石井若香菜、板倉佳代子、犬山真弓、尾座本洋子、小名真理子、檜本真理、坂口由美子、田邊八子、富田文代、富田麗子、濱古賀美和

(谷 直子)

2. 遺構と遺物

(1) 第1遺構面(1～3層) 検出の遺構

エリア1

石組遺構 SX20 (第4図) 方形の石組遺構で長軸130cm、短軸は110cm を測る。礫岩を4ないし5段積む。(齋藤瑞穂)

第5図1～4はSX20を構成する部材またはその間から出土した遺物である。1は瓦質土器の湯釜で、15世紀後葉から16世紀末の所産である(山本他 1997)。2は土師質の捏鉢底部である。3は鬼瓦である。正面左側部で、縁をスタンプの円文で飾る。類似の鬼瓦は福岡市西区の野芥遺跡4次調査でも表採されている。野芥4次調査出土の瓦は14世紀前半頃に葺かれはじめ、おおよそ15世紀代を中心とする時期的なまとまりがある(中村編 1998・松田他 2019)。4は石材の隙間から出土した和釘である。断面四角形を呈し、釘頭を欠損する。

第5図5～9は4層出土である。5は染付の皿である。6・7は瓦質土器の捏鉢で、13世紀以降に在地化した形態である。8・9は土師質の鍋である。口縁部の屈曲はごくわずかで、素口縁化している。14世紀後半以降の所産である(山本他 1997)。

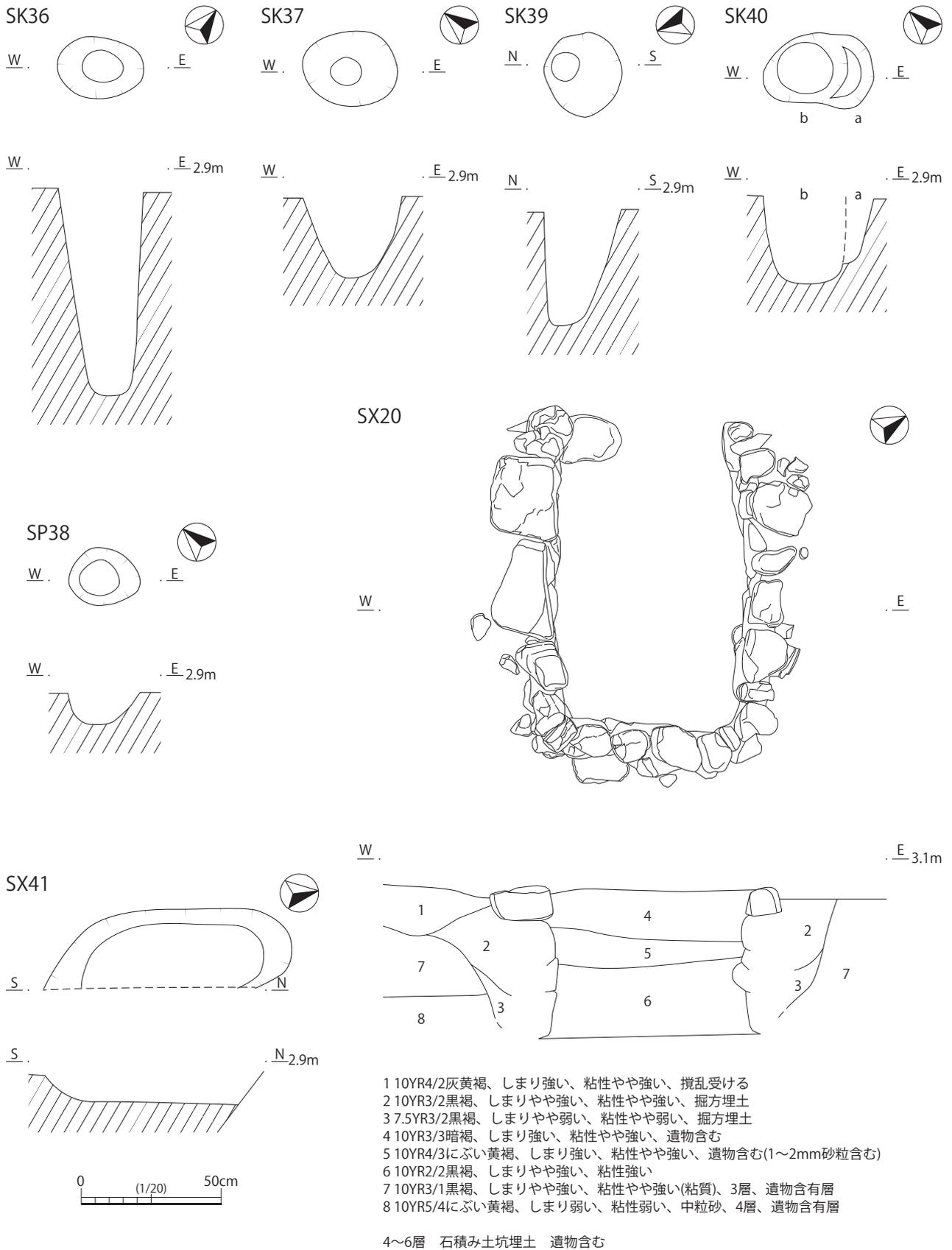
第5図10・11は5層出土である。10は土師質の鍋である。口縁部が屈曲し、内面にハケメを施す。13世紀後半から14世紀前半に出現する(山本他 1997)。11は白磁の碗で口縁端部が口禿となる。大宰府編年の白磁碗Ⅸ類で13世紀後半から14世紀前半に増加する(宮崎編 2000)。

第6図1～7は6層の出土である。1は陶器の鉢、2は瓦質土器の播鉢である。14世紀後半以降の所産である(山本他 1997)。3～5は土師器の坏で、3・5は糸切り底である。6は糸切り底の土師皿である。7は和釘で、断面四角形を呈し釘頭を欠損する。

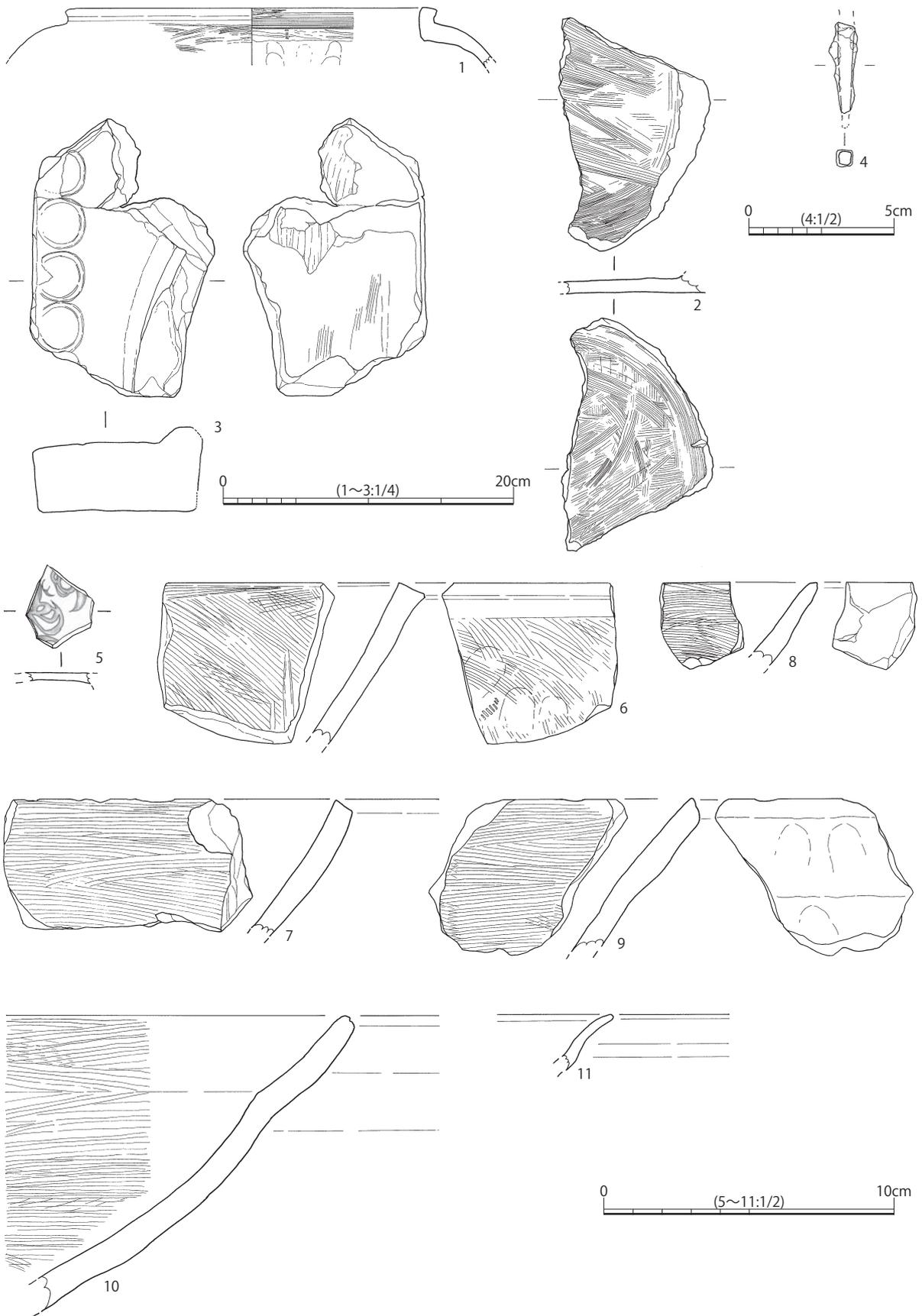
第6図8～10は埋土からの出土で、8は青磁の皿で、内面に篋による文様とジグザグ状の櫛点描文を施す。大宰府編年の同安窯系青磁皿1-2b類で、12世紀中頃から後半の所産である(宮崎編 2000)。9は土師器の糸切り底の坏である。10は瓦質土器の湯釜で、15世紀後葉から16世紀末の所産である(山本他 1997)。

第7図1～22は検出時に出土したものである。1～3は青磁碗で、1は内面に草花文を施し、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-1類、2・3は外面に鎬蓮弁文を施し、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である(宮崎編 2000)。4・5は白磁の皿である。4は口禿、5は底部の釉を板状工具でのばしており、いずれも大宰府編年の白磁皿Ⅸ類で13世紀後半から14世紀前半に増加する(宮崎編 2000)。6は器壁の薄い陶

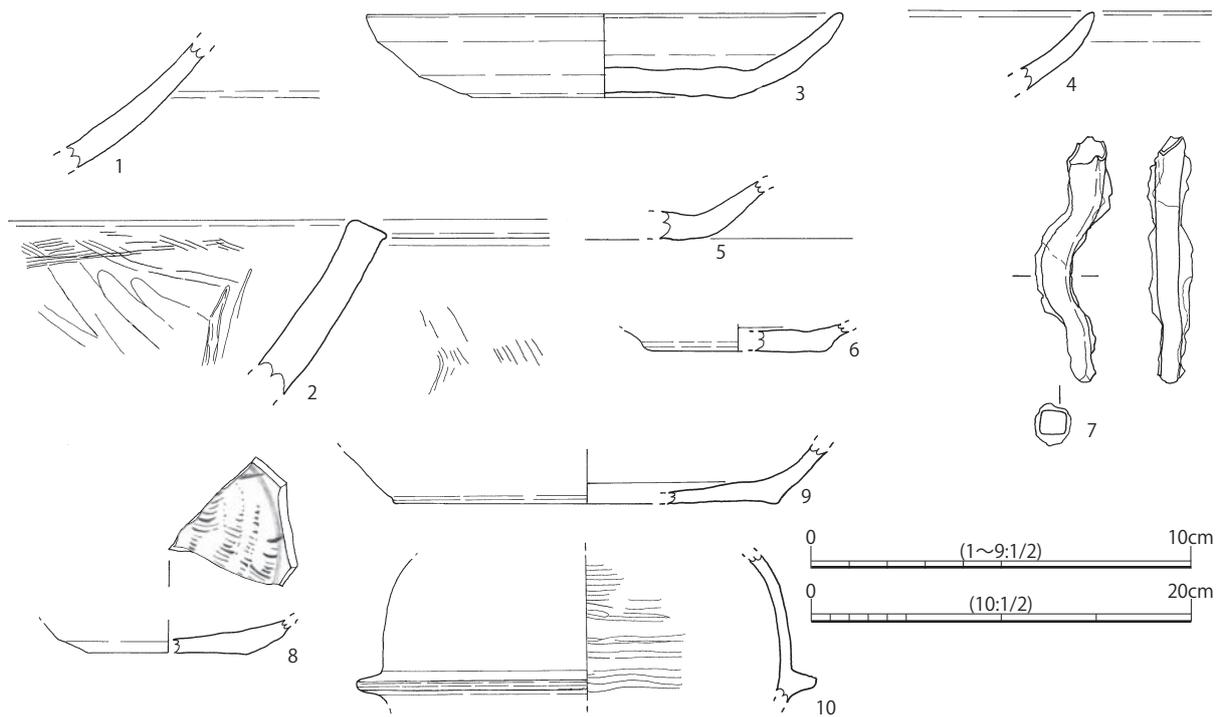
IV HZK1703地点 (応力研生産研本館北地点)



第4図 HZK1703地点1~3層・SK36・37・39・40・SP38・SX20・41平面・断面図



第5図 HZK1703地点 SX20出土遺物1



第6図 HZK1703地点 SX20出土遺物2

器の底部。7は黄釉の陶器甕である。8は陶器の壺肩部。9は陶器の壺底部で砂粒を含むが均質な胎土である。10は焼締め陶器の口縁部である。11は土師質の捏鉢。12~14は土師質の鍋で、12は口縁部の屈曲がなく、15世紀後葉から16世紀末の所産である（山本他 1997）。15・16は糸切り底の土師器の坏、17・18は土師器。19はカマドの廂。20・21は円筒形の土錘。22は石製の硯である。

第7図23~25は周辺出土で、23は白磁碗で口縁部は屈折し、端部は水平になる。大宰府編年のV-4類あるいはⅧ類である（宮崎編 2000）。24はケズリ高台の陶器碗である。25は土師質の鍋で口縁部に屈曲が残る。

SX20は構築材やその間から出土した遺物の時期が概ね15世紀後半を中心としており、埋土中の遺物も近世のものをほとんど含まず、中世を主体とすることから、15世紀後半頃構築され、比較的短い使用期間を経て埋没したものと推定される。（谷 直子）

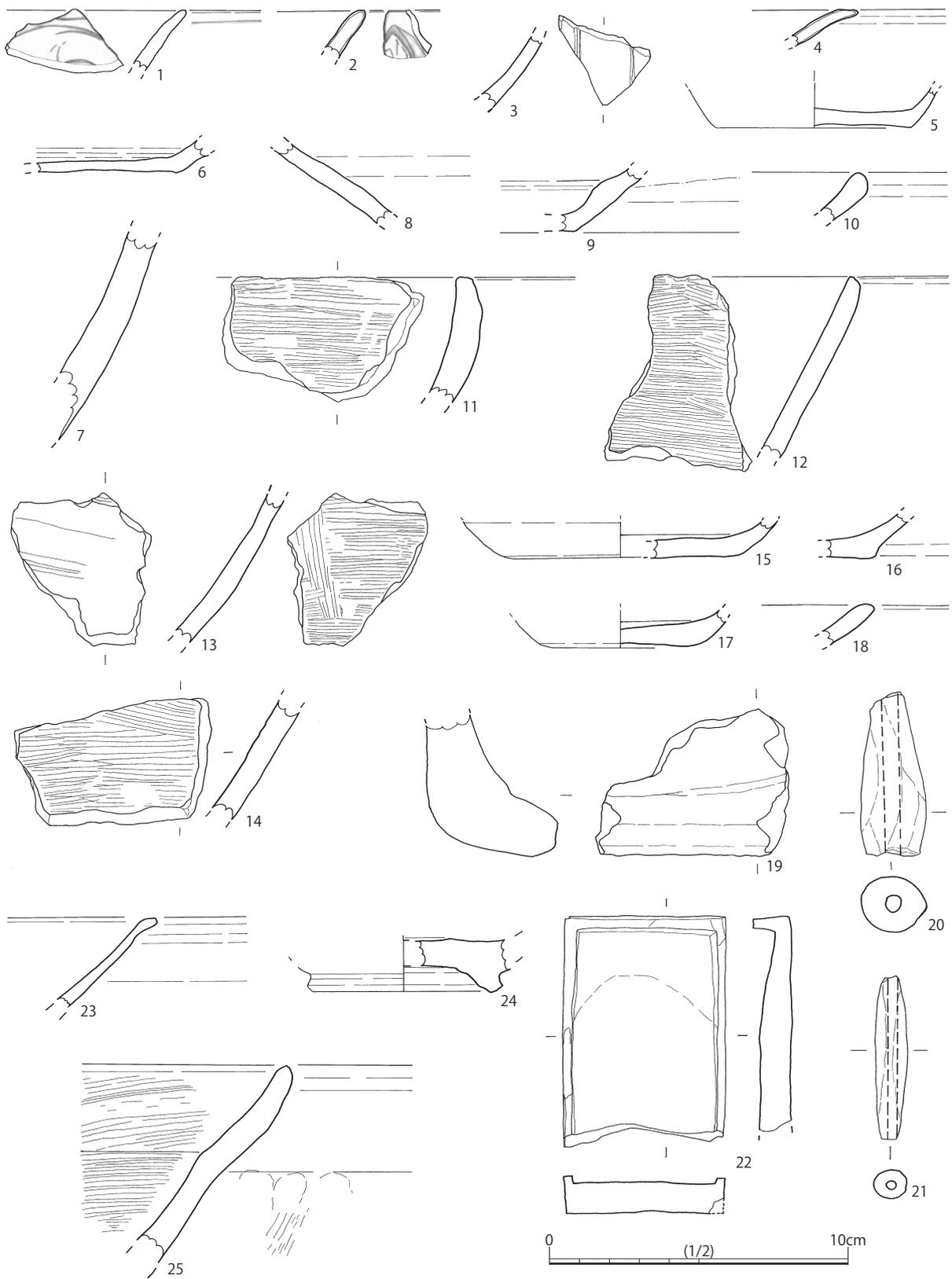
土坑 SK36（第4図） 手元の図面では土坑として記録されているが、楕円形ピットとみておくのが適切である。長軸30cm、短軸22cmの楕円形で、確認面からの深さは73cmである。遺物は出土していない。（齋藤瑞穂）

土坑 SK37（第4図） 長軸34cm、短軸27cmの遺構。確認面からの深さは29cmである。遺物は出土していない。（齋藤瑞穂）

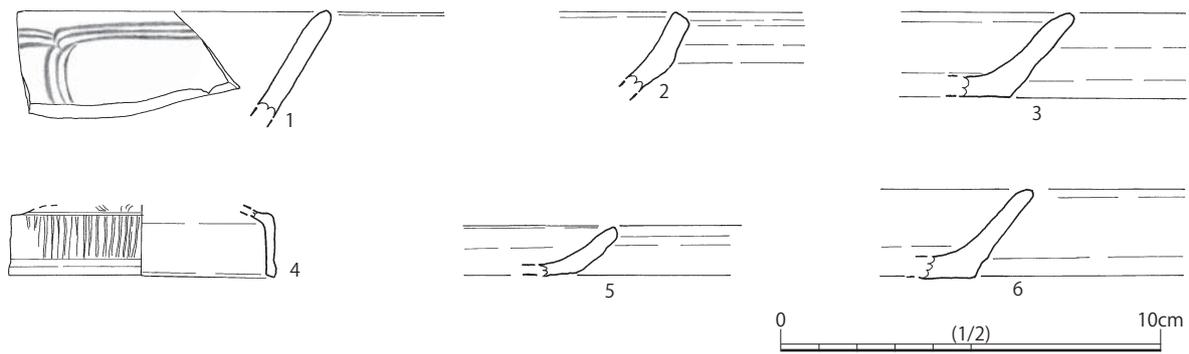
ピット SP38（第4図） 長軸26cm、短軸20cmのピットで、確認面からの深さは12cmである。遺物は出土していない。（齋藤瑞穂）

土坑 SK39（第4図） 径30cmの遺構で、確認面からの深さは42cmである。（齋藤瑞穂）

第8図1~3はSK39出土である。1は青磁碗。片彫で分割線を描く。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗 I-4aである。2は陶器の碗である。3は糸切り底の土師器の坏である。出土遺物はいずれも13世紀頃の遺物の特徴を備える。（谷 直子）



第7図 HZK1703地点 SX20出土遺物3



第8図 HZK1703地点 SK39・40出土遺物

土坑 SK40 (第4図) 切り合った2つの遺構として記録されている。切られた側をSK40a、切ったピットをSK40bと呼んでおくと、SK40bは径29cmのピット。確認面からの深さは42cmである。SK40aも同規模のピットと推測される。確認面からの深さは22cmである。(齋藤瑞穂)

第8図4～6はSK40出土である。4は陶器の合子蓋である。均一な胎土に緑と褐色の釉がかかる。近世以降の所産と考えられる。5は糸切り底の土師皿、6は糸切り底の土師器の坏である。第31図3は元祐通寶で、1086年初鑄の北宋銭である。(谷直子)

土坑 SX41 (第4図) 楕円形の土坑で、長軸は90cmほどになる。確認面からの深さは10cmである。SX41からは遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

エリア2

土坑 SK10 (第9図) 円形の土坑で径は46cm、確認面からの深さは25cmである。(齋藤瑞穂)

第10図1～3はSK10出土である。1は焼締め陶器の壺である。2は土師質の鍋で、口縁部上面に連続した刻み目を施す。13世紀後半から14世紀前半の所産である(山本他 1997)。3は糸切り底の土師器の坏である。第31図2は銭貨である。半分を欠損する。通の字のみ判読できる。(谷直子)

ピット SP11 (第9図) 長軸34cm、短軸20cmの楕円形ピットである。確認面からの深さは20cmを測る。(齋藤瑞穂)

第10図12～15はSP11出土である。12は糸切り底の土師器の坏、13は糸切り底の土師皿、14はカマドの廂、15は滑石製石鍋の鏝の部分である。(谷直子)

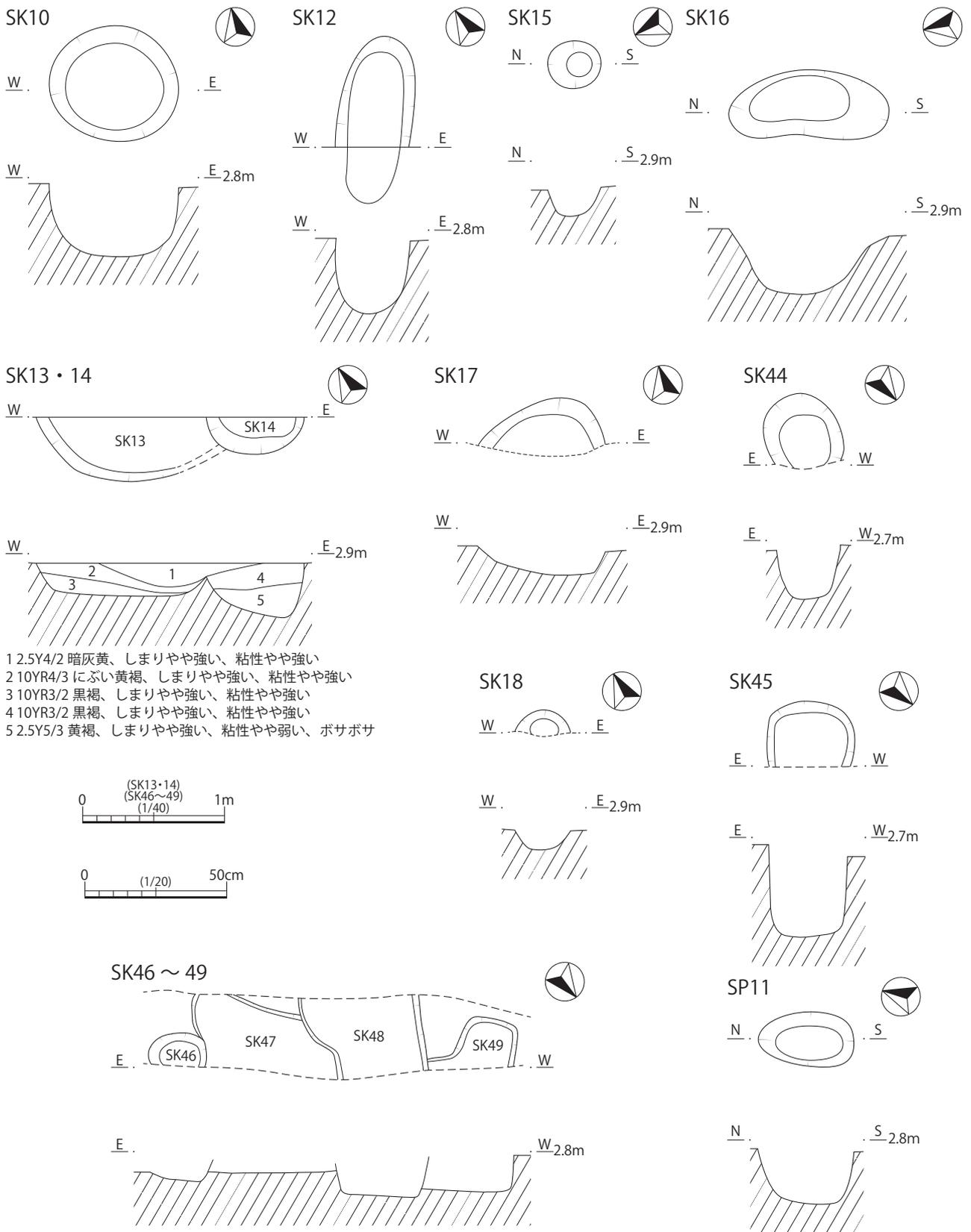
土坑 SK12 (第9図) 楕円形の土坑である。長軸は58cm以上、短軸は26cm、確認面からの深さは26cmである。(齋藤瑞穂)

第10図4～8はSK12出土である。4は龍泉窯系青磁碗。5は外反する口縁の白磁碗である。6～8は土師器の坏で、8は糸切り底である。図示し得なかったが他に、土師器の坏や鍋の破片が出土している。(谷直子)

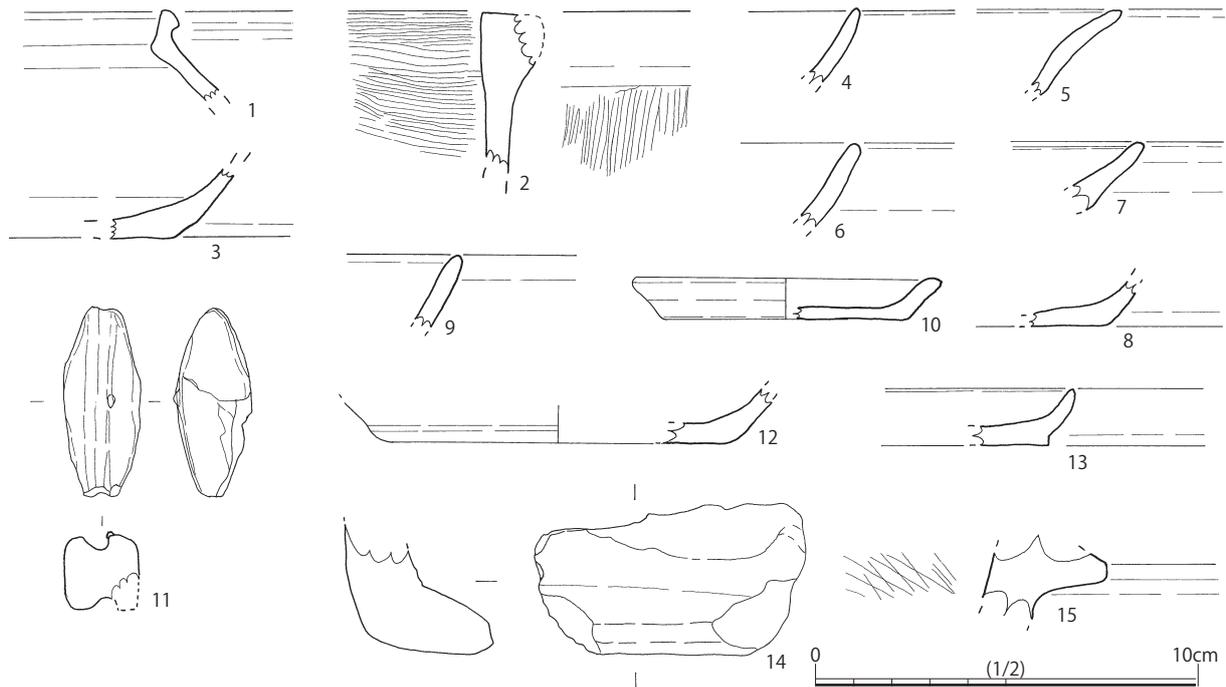
土坑 SK13・SK14 (第9図) 手元の断面図ではSK13がSK14を切っているように、平面図ではSK14がSK13を切っているように見受けられる。さしあたって断面図に従うと、SK13の径は158cm、確認面からの深さは23cmとなり、SK14の径は69cm、深さは39cmである。(齋藤瑞穂)

第10図9・10はSK13出土である。9は龍泉窯系青磁碗である。釉が厚くかかる。10は糸切り底の土師皿である。図示し得なかったが他に、土師器の坏や鍋の破片が出土している。SK14からは、小片で図示し得なかったが、龍泉窯系青磁碗片や土師器の坏や皿の破片が出土している。(谷直子)

土坑 SK15 (第9図) 手元の図面では土坑として記録されているが、円形ピットとみておのが



第9図 HZK1703地点1~3層・SK10・12~18・44~49・SP11平面・断面図



第10図 HZK1703地点 SK10・12・13・17・SP11出土遺物

適切である。径18cm、確認面からの深さは10cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑 SK16 (第9図) 楕円形の土坑で長軸56cm、短軸23cm、確認面からの深さは24cmを測る。土師質の鍋や土師器片・瓦質土器片が出土しているが、いずれも小片で図示し得なかった。

(齋藤瑞穂・谷直子)

土坑 SK17 (第9図) 径44cmの土坑である。確認面からの深さは9cmを測る。(齋藤瑞穂)

第10図11はSK17出土の土錘である。木の葉型を呈し、側面に糸掛けの溝がある。(谷直子)

土坑 SK18 (第9図) 手元の図面では土坑として記録されているが、円形ピットとみとるのが適切である。径18cm、確認面からの深さは8cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

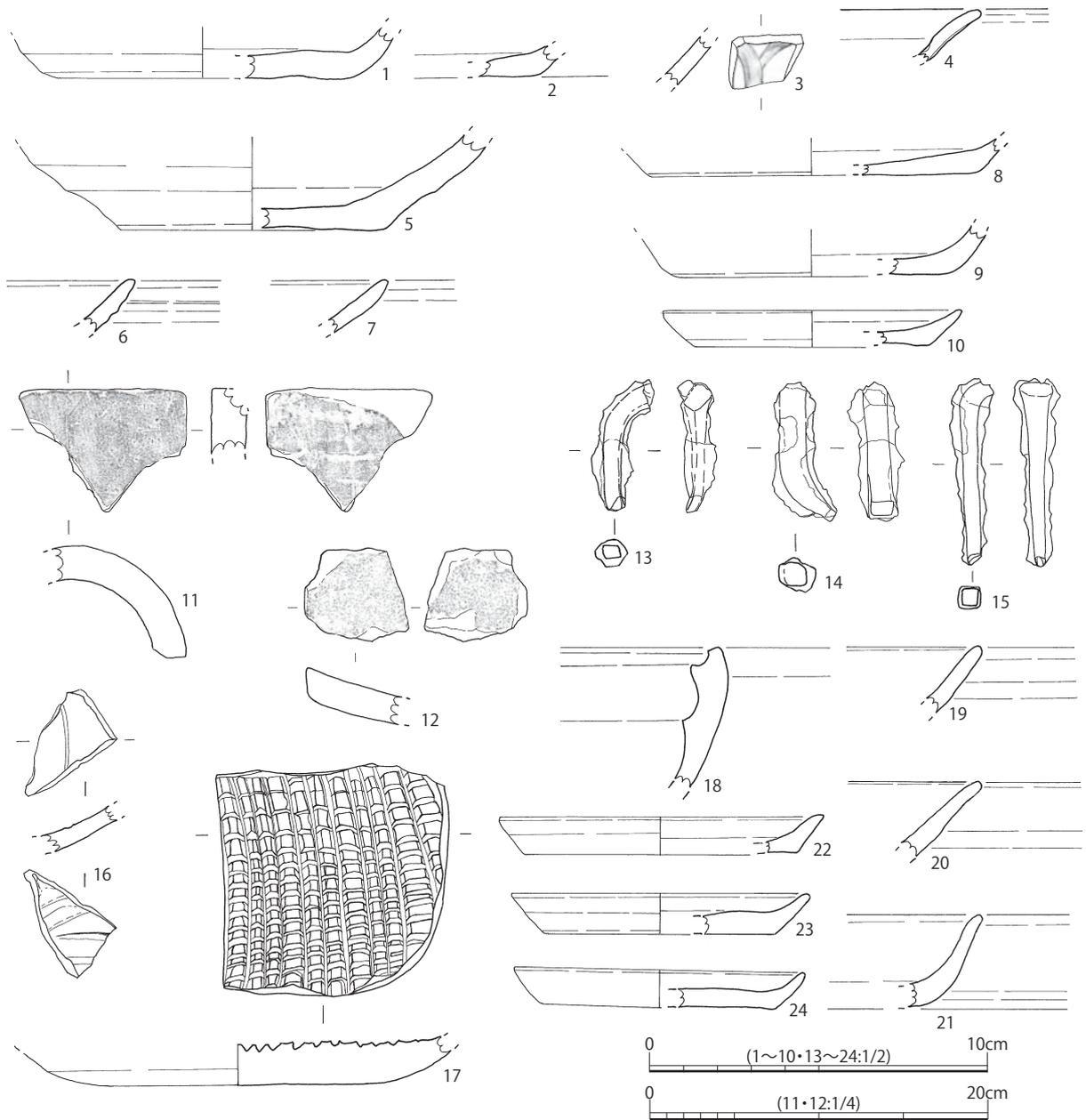
土坑 SK44 (第9図) 径28cm前後の遺構である。土坑として記録されているが、円形ピットとみてよい。確認面からの深さは20cmを測る。土師器の小片が出土した。(齋藤瑞穂)

土坑 SK45 (第9図) 角をもつピットで、断面計測面において28cm幅となっている。確認面からの深さは32cmである。(齋藤瑞穂)

第11図1・2はSK45出土で、糸切り底の土師器の坏である。(谷直子)

土坑 SK46・SK47・SK48・SK49 (第9図) 切り合い関係にある4つの遺構である。手元の図面に従うと、SK46とSK48が、SK47とSK49を切る。SK46は円形で径40cm、確認面からの深さは8cmを測る。SK48が不整形の土坑か。断面計測面での幅は64cm、確認面からの深さは30cmを測る。SK49はこれよりも浅い。確認面からの深さは26cmである。(齋藤瑞穂)

第11図3～15はSK48出土である。3は外面に鎬蓮弁文を施す。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。時期は13世紀前半から14世紀初頭(宮崎編 2000)。4は龍泉窯系青磁皿である。5は瓦質土器の捏鉢である。6～9は土師器の坏で、8・9は糸切り底である。10は糸切り底の土師皿である。11は丸瓦で内面に布目が残る。12は平瓦である。13～15は断面が四角形の鉄製品で和釘の一部である。



第11図 HZK1703地点 SK45・48・49出土遺物

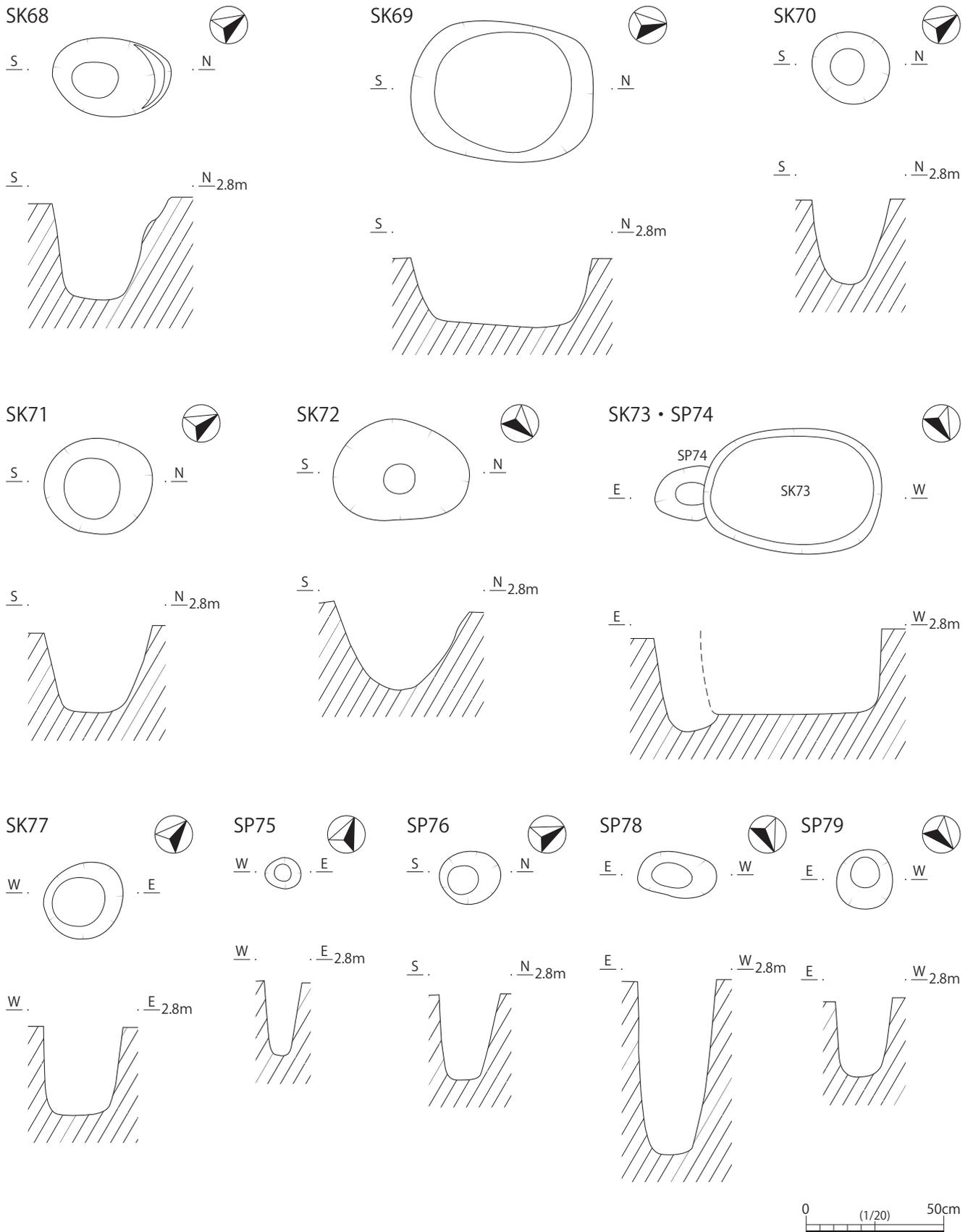
第11図16～24はSK49出土である。16は青磁碗の底部付近で、内面見込みに圈線、外面に鎬蓮弁文を施す。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。時期は13世紀前半から14世紀初頭（宮崎編 2000）。17は瀬戸焼の卸目皿である。18は中国陶器の鉢で、大宰府編年の陶器鉢Ⅰ-1類である。13世紀から14世紀前半の所産（宮崎編 2000）。19～21は土師器の坏である。22～24は糸切り底の土師皿である。

SK46からは遺物は出土していない。SK47からは小片で図化し得なかったが、土師器の坏・皿、瓦質土器の捏鉢、瓦片が出土した。（谷 直子）

エリア3

土坑 SK68（第12図） 段をもつ楕円形の土坑である。長軸42cm、短軸28cm、確認面からの深さ

IV HZK1703地点 (応力研生産研本館北地点)



第12図 HZK1703地点1~3層・SK68~73・SP74~76・SK77・SP78・79平面・断面図

は36cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑 SK69 (第12図) 楕円形の土坑である。長軸66cm、短軸51cm、確認面からの深さは24cmである。(齋藤瑞穂)

第16図 1～3はSK69出土である。1・2は白磁碗である。いずれも外面口縁下部に稜がつき、内面に施文する。大宰府編年の白磁碗V-4類であろう(宮崎編 2000)。3は土師器の坏である。

(谷 直子)

土坑 SK70 (第12図) 円形土坑として記録されているが、サイズは大きくない。28cm×26cmの円形で、確認面からの深さは32cmである。SK70からは土師器の坏・皿が出土した。いずれも小片で図示し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK71 (第12図) 39cm×35cmの円形土坑である。確認面からの深さは30cmを測る。SK71からは土師器片の他、近代の磁器の小片が出土したが、いずれも図示し得ない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK72 (第12図) 楕円形の土坑である。長軸は50cm、短軸は37cmで、確認面からの深さは32cmである。土師器の坏・皿が出土した。いずれも小片で図示し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK73・ピット SP74 (第12図) 切り合い関係にある土坑とピットで、SK73がSP74を切るという。SK73は、実線で輪郭を描いた平面図に従うと、長軸64cm、短軸47cm、確認面からの深さは31cmである。他方、SP74は径20cmほどの円形ピットと推測される。確認面からの深さは34cmを測る。(齋藤瑞穂)

SK73からは同安窯系青磁碗片や瓦質土器の捏鉢片、土師器の坏・皿片が、SP74からは土師器片が出土したが、いずれも小片で図示し得ない。(谷 直子)

ピット SP75 (第12図) 径13cmのピットである。確認面からの深さは28cmを測る。SP75からは土師器片の他陶器片も出土したが、いずれも小片で図示し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP76 (第12図) 径22cmのピットである。確認面からの深さは32cmを測る。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑 SK77 (第12図) 径28cmの円形土坑である。確認面からの深さは20cmを測る。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

ピット SP78 (第12図) 楕円形のピットで、長軸28cm、短軸16cmを測る。確認面からの深さは64cmに達する。SP78からは土師器片が出土したが、小片で図示し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

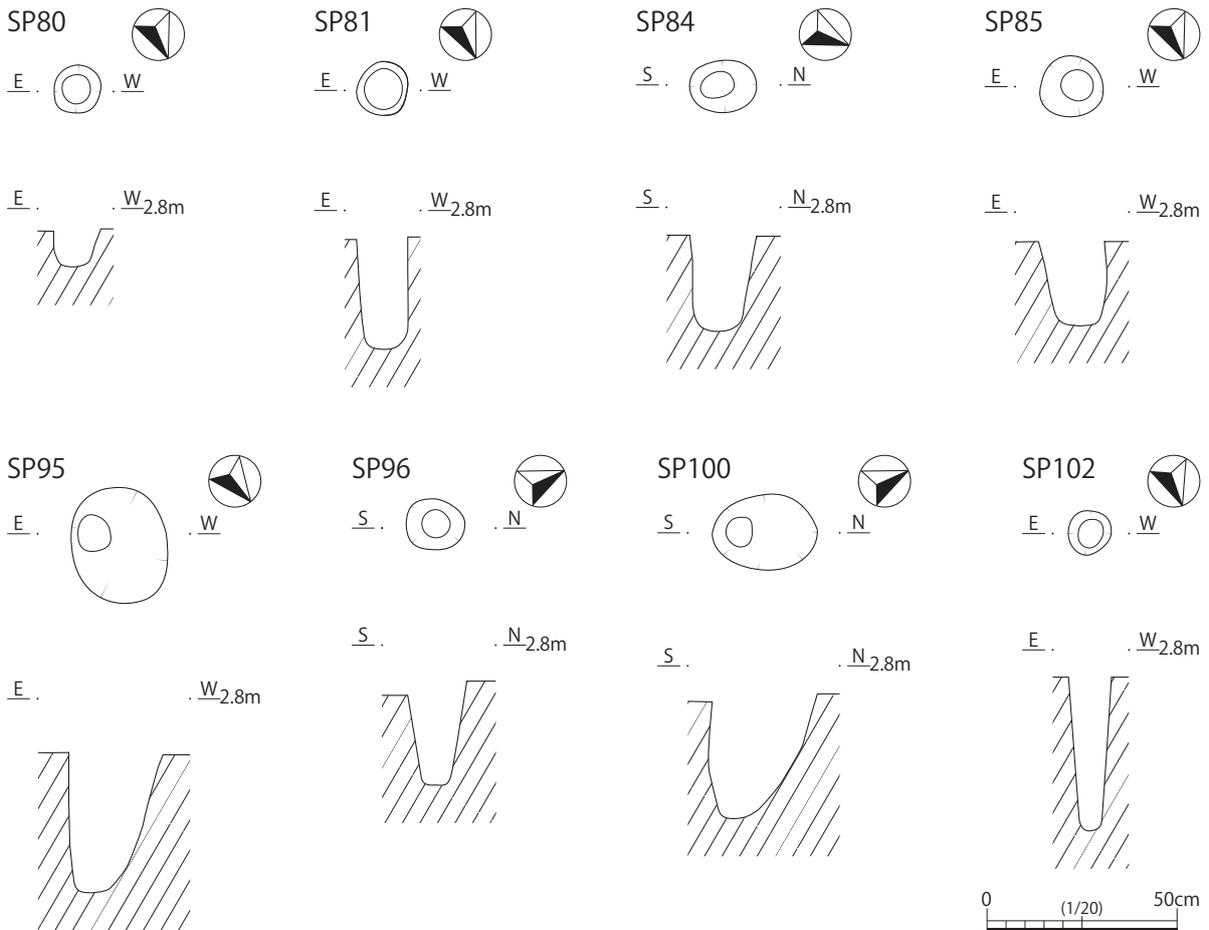
ピット SP79 (第12図) 22cm×20cmの円形ピットである。確認面からの深さは30cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

ピット SP80 (第13図) 14cm×12cmの円形ピットである。確認面からの深さは10cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

ピット SP81 (第13図) 径13cmの円形ピットである。確認面からの深さは30cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑 SK82・SK83 (第14図) 残された図面は平面と断面の間に齟齬があるが、少なくともSK83がSK82を切る、という新旧関係で捉えているようである。SK82は径28cmの円形土坑で、確認面からの深さは25cmを測る。他方SK83は、平面図に従うと径32cmとなる。確認面からの深さは18cmである。(齋藤瑞穂)

SK82からは土師器の小片が、SK83からは土師器の他、磁竈窯と思われる黄釉鉄絵盤の破片が出土したが、いずれも小片で図示し得ない。(谷 直子)



第13図 HZK1703地点1～3層・SP80・81・84・85・95・96・100・102平面・断面図

ピット SP84 (第13図) 楕円形のピットで、長軸17cm、短軸14cm を測る。確認面からの深さは26cm である。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

ピット SP85 (第13図) 径16cm の円形ピットである。確認面からの深さは23cm である。

(齋藤瑞穂)

第16図14は SP85出土の糸切り底の土師器の坏である。ほかに土師器の小片が出土したが、図示し得ない。(谷 直子)

土坑 SK86 (第14図) 長軸46cm、短軸39cm の土坑である。確認面からの深さは28cm を測る。

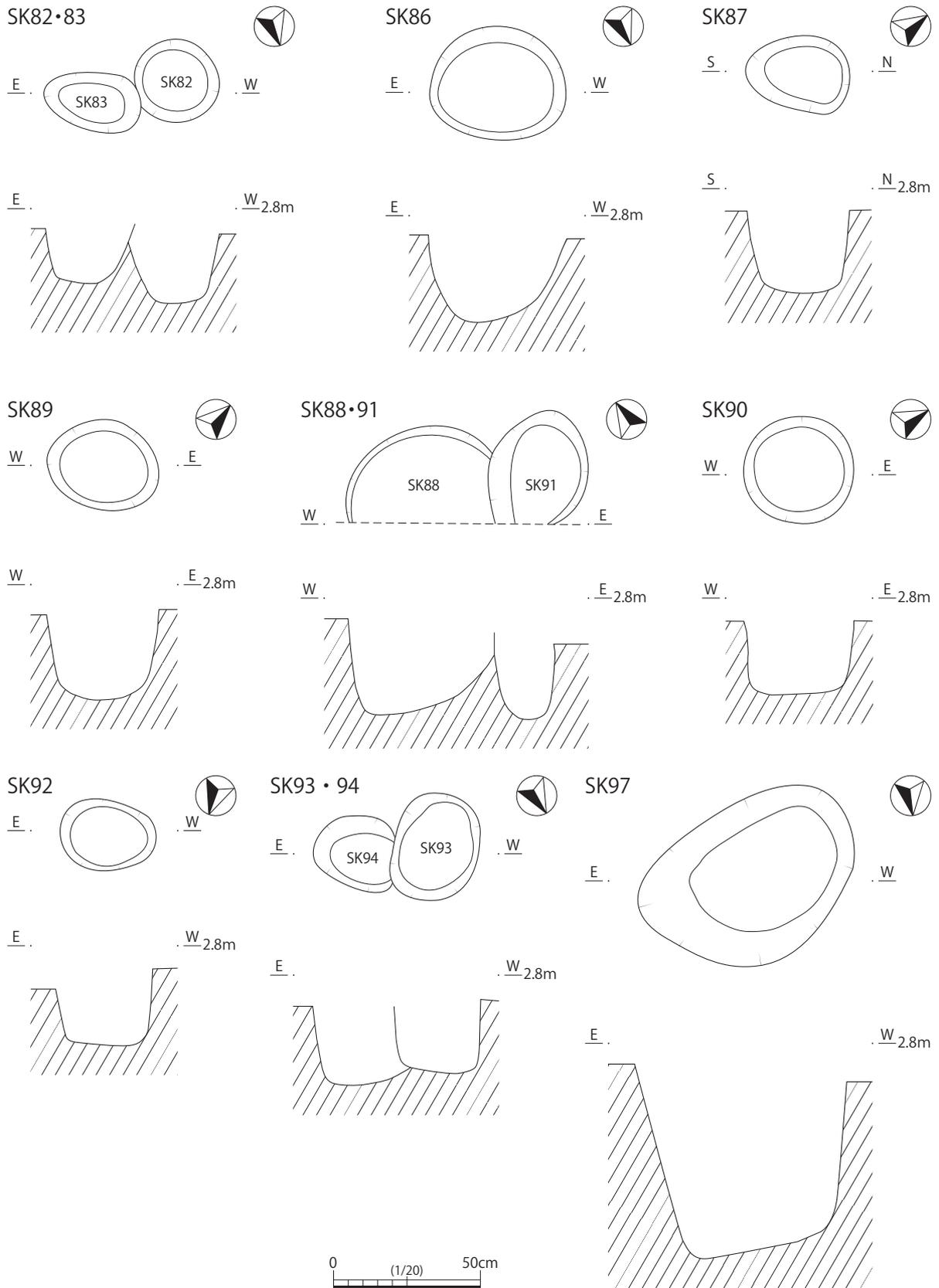
SK86からは土師器片の他、近世の陶器の小片が出土したが、いずれも図示し得ない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK87 (第14図) 楕円形の土坑で、長軸36cm、短軸26cm を測る。確認面からの深さは29cm である。SK87からは土師器の他、龍泉窯系青磁碗 I 類と思われる破片や、中世の陶器片が出土したが、いずれも図示し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK88・SK91 (第14図) SK91が SK88を切る関係にある。SK91は長軸は38cm 以上で、短軸34cm である。確認面からの深さは30cm を測る。SK88のサイズは径50cm 以上とみられ、確認面からの深さは32cm である。(齋藤瑞穂)

SK88からは土師器の他、龍泉窯系青磁碗 I 類・口縁端部が口禿となる白磁碗・滑石製石鍋の破片などが出土した。また、SK91からは中世の所産と考えられる青磁片や土師器片が出土したが、いず



第14図 HZK1703地点1～3層・SK82・83・86～94・97平面・断面図

れも小片で図示し得ない。（谷 直子）

土坑 SK89（第14図） 楕円形の土坑で、長軸38cm、短軸31cm を測る。確認面からの深さは32cm である。土師器片・陶器の破片などが出土したが、いずれも図示し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK90（第14図） 径37cm の円形土坑である。確認面からの深さは26cm を測る。SK90からは土師器の坏・皿片が出土したが、いずれも小片で図示し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK92（第14図） 楕円形の土坑で、長軸32cm、短軸25cm を測る。確認面からの深さは27cm である。（齋藤瑞穂）

第16図 4 は SK92出土である。内面見込みの釉を環状に掻き取ったもので、大宰府編年の白磁碗Ⅷ類である。12世紀後半の所産（宮崎編2000）。ほかに土師器片や褐釉・焼締めなどの陶器片も出土しているが、いずれも小片で図示し得ない。（谷 直子）

土坑 SK93・SK94（第14図） SK93がSK94を切る。SK93は楕円形の土坑で、長軸39cm、短軸29cm を測る。確認面からの深さは26cm である。他方、SK94も楕円形の土坑であったと推測される。短軸・確認面からの深さともに26cm である。（齋藤瑞穂）

第16図 5 は SK93出土である。内面に片彫りで草花文を施す青磁碗で、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗 I -2a 類である。12世紀後半から13世紀初頭の所産（宮崎編 2000）。ほかに土師器片も出土しているが小片で図示し得ない。SK94からは土師器の坏片や陶磁器片が出土したが、いずれも小片で図示し得ない。（谷 直子）

ピット SP95（第13図） 30cm ×25cm の円形ピットである。確認面からの深さは36cm である。土師器片の他、中世の青磁片が出土したが、小片で図示し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP96（第13図） 17cm ×14cm の円形ピットである。確認面からの深さは28cm である。SP96からは土師器の坏・皿片が出土したが、小片で図示し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK97（第14図） 楕円形の土坑で、長軸78cm、短軸54cm を測る。確認面からの深さは65cm である。SK97からは土師器の坏・皿の他、中世から近代までを含む陶磁器片も出土しているが、図示し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK98（第15図） 楕円形の土坑で、長軸62cm、短軸39cm を測る。確認面からの深さは35cm である。土師器片、中世の陶磁器片などが出土しているが、いずれも小片で図示し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK99（第15図） 調査担当者は土坑として捉えた。長軸は124cm を超える。西側が最も深く、東側に向かって浅くなっていく。最も深い部分で34cm を測る。（齋藤瑞穂）

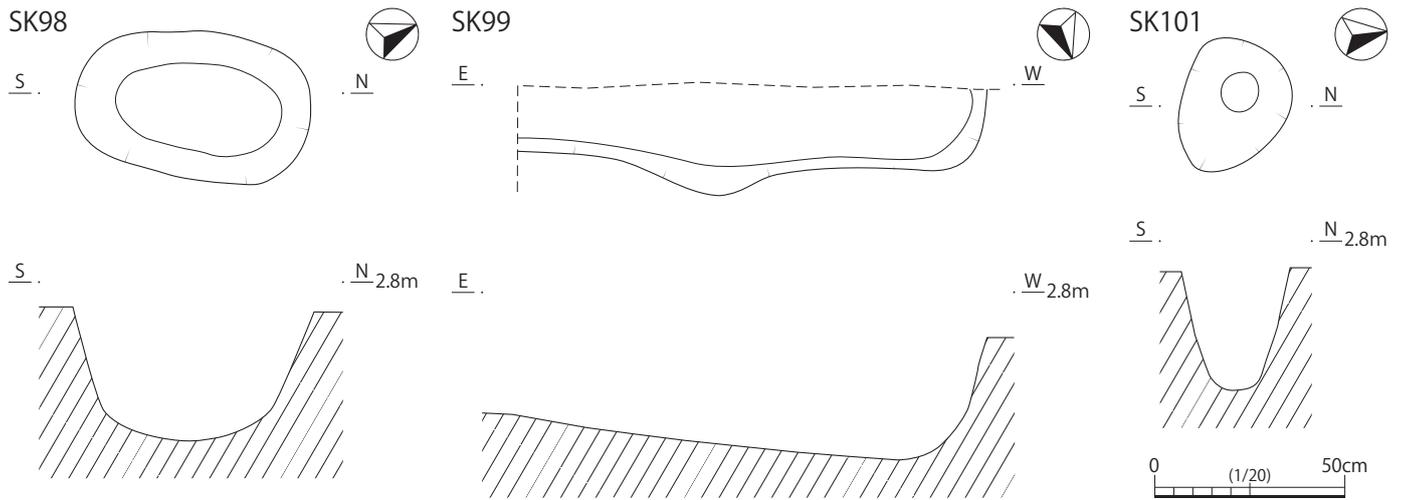
第16図 6～12は SK99出土である。6～8は青磁碗で内面に片彫り文を施す。いずれも大宰府編年の龍泉窯系青磁碗 I 類である。9は内面見込みに圈線が付き、外面に鎬蓮弁文を施す。龍泉窯系青磁碗 II 類である（宮崎編 2000）。10は口縁部が外反する白磁皿で、下半部に段が付く。11は陶器の壺である。12は丸瓦で内面に布目が残る。（谷 直子）

ピット SP100（第13図） 楕円形のピットで、長軸28cm、短軸20cm を測る。確認面からの深さは32cm である。SP100からは土師器片が出土したが、図示し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

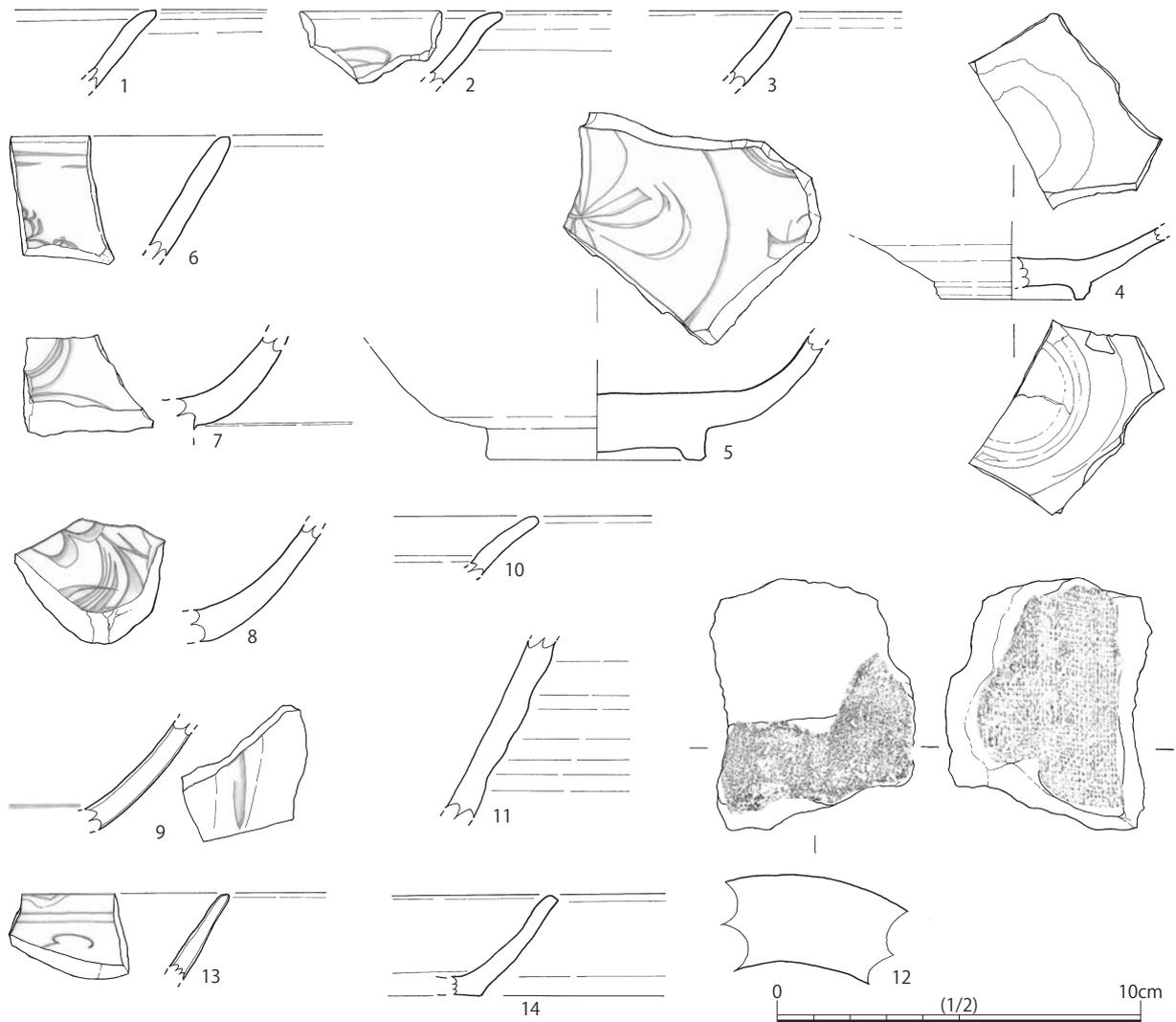
土坑 SK101（第15図） 楕円形の土坑で、長軸36cm、短軸29cm を測る。確認面からの深さは32cm である。（齋藤瑞穂）

第16図13は SK101出土の青磁碗である。内面に片彫り文を施し、厚く釉がかかる。ほかに土師器の坏・皿が出土したがいずれも小片で、図示し得ない。（谷 直子）

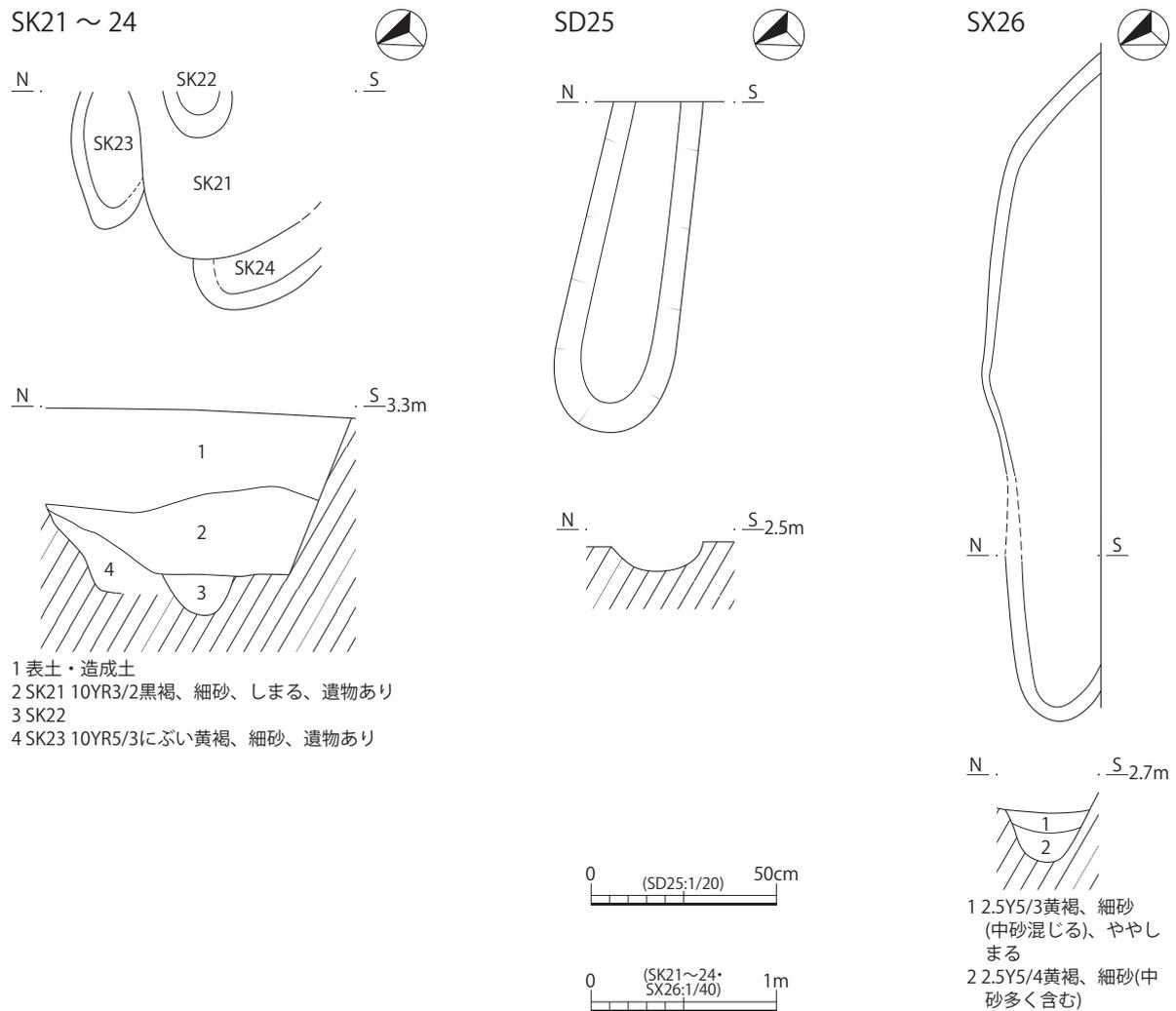
ピット SP102（第13図） 径12cm の円形ピットである。確認面からの深さは40cm である。SP102



第15図 HZK1703地点1~3層・SK98・99・101平面・断面図



第16図 HZK1703地点 SK69・92・93・99・101・SP85出土遺物



第17図 HZK1703地点1～3層・SK21～24・SD25・SX26平面・断面図

からは土師器片が出土したが、図示し得ない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

エリア4

土坑 SK21・SK22・SK23・SK24（第17図） 調査区隅で検出された土坑である。手元の図面は、平面と断面の間に齟齬がある。また、SK23とSK22の切りあい関係について、調査担当者に問い合わせたが、完掘の写真はなく、判然とした回答を得ることはできなかった。

さしあたって断面図から推測すると、SK23を最も古い遺構とみなしているようである。SK22がそれを切り、さらにSK21が切る。SK21は、SK24をも切っている。SK23の深さは46cm、SK21のそれは48cmである。SK22は、SK21の底面からさらに22cm深い。

(齋藤瑞穂)

SK21から土師器の坏・皿と、土師質の捏鉢が、SK23から土師器の坏・皿が、SK24からは土師器が出土しているが、いずれも小片で図示し得ない。

(谷 直子)

溝 SD25（第17図） 調査区東端に向かってのびる溝で、長軸92cm以上、幅32cmとなる。深さは8cmであるが、記録によると掘削前はもっと深かったようである。遺物は出土していない。

(谷 直子)

不整形遺構 SX26 (第17図) 調査区の縁に沿って検出された遺構である。長軸348cm 以上、短軸44cm 以上となる。ただし土層の記録をみると、レンズ状に堆積していて、調査区の壁と遺構の南側立ち上がりがほぼ一致しているかのように描かれる。この記録に基づくなら、南側が調査区の壁と重なった細長い土坑が復原されよう。(齋藤瑞穂)

SX26からは土師器片の他、和釘片と思われる鉄片が出土したが、図示し得ない。(谷 直子)

(2) 第2遺構面 (4層) 検出の遺構

エリア1

土坑 SK03 (第18図) 不整形の土坑である。確認面からの深さは、最も深い部分で24cm を測る。

(齋藤瑞穂)

第20図1～4はSK03出土の土師器で、1・2は糸切り底の土師器の坏、3・4は糸切り底の土師皿である。(谷 直子)

土坑 SK04 (第18図) 隅丸方形の竪穴で、東西の長さは136cm である。東西断面と南北断面の間に甚だしい齟齬があるが、さしあたって東西断面に従うと、確認面からの深さは最も深い部分で34cm ほどのようである。南寄りには径18cm の小ピットが存する。土坑底面からさらに21cm 掘り込まれている。(齋藤瑞穂)

第19図はSK04出土である。1・2は龍泉窯系青磁碗で、1は片彫で分割線を描く。龍泉窯系青磁碗 I-4a である。2は外面に鎬蓮弁文を施し、龍泉窯系青磁碗 II-b である (宮崎編 2000)。3は褐釉陶器の壺胴部である。4は短い口縁がつく褐釉陶器の壺と考えられる。5・6は陶器の甕である。7は黄釉盤の破片である。8・9は瓦質土器の捏鉢である。10は土師質の鍋である。11～16はいずれも土師器の坏で、11～14は糸切り底である。17～20は糸切り底の土師皿である。20は底部中央に直径1.5cm ほどの穿孔がある。21・22は平瓦である。23は円筒形の土錘である。24は木の葉型の土錘である。中央部に溝を施して糸掛けとする。25は滑石製石鍋の鏝の部分である。26は細形の和釘である。断面四角形を呈し、釘頭を欠損する。いずれの遺物も12世紀の中頃から13世紀の前半頃の所産とするのに無理はない。第31図1は開元通寶である。621年初鑄造の唐銭であるが、中世にいたるまで流通している。(谷 直子)

ピット SP05 (第18図) 楕円形のピットで、長軸22cm、短軸16cm を測る。確認面からの深さは44cm である。土師器の小片が出土したが図示し得ない。(齋藤瑞穂)

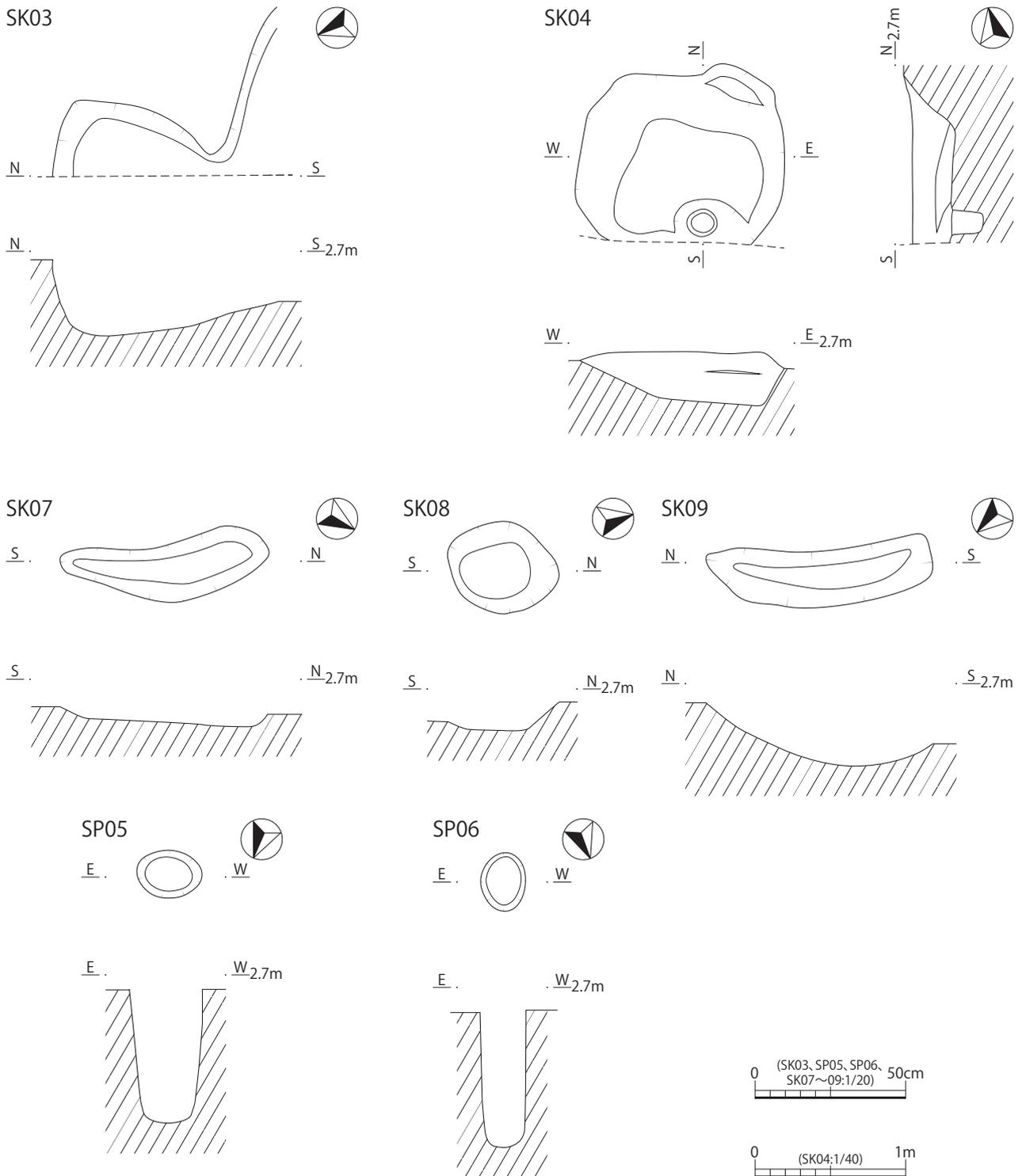
ピット SP06 (第18図) 楕円形のピットで、長軸20cm、短軸14cm を測る。確認面からの深さは45cm である。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

第20図5～11はSP06出土で、5は青磁碗で外面に鎬蓮弁文を施し、厚く釉葉がかかる。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗 III-2類。6は青磁坏で、口縁部は短く屈折し、厚く釉がかかる。大宰府編年の龍泉窯系青磁坏 III類 (宮崎編 2000)。7は素口縁の陶器の甕である。8は土師器の坏、9～11は土師皿で、10・11は糸切り底である。(谷 直子)

土坑 SK07 (第18図) 楕円形の土坑で、長軸70cm、短軸19cm を測る。確認面からの深さは4cm である。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑 SK08 (第18図) 36cm × 32cm の円形土坑である。確認面からの深さは11cm である。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

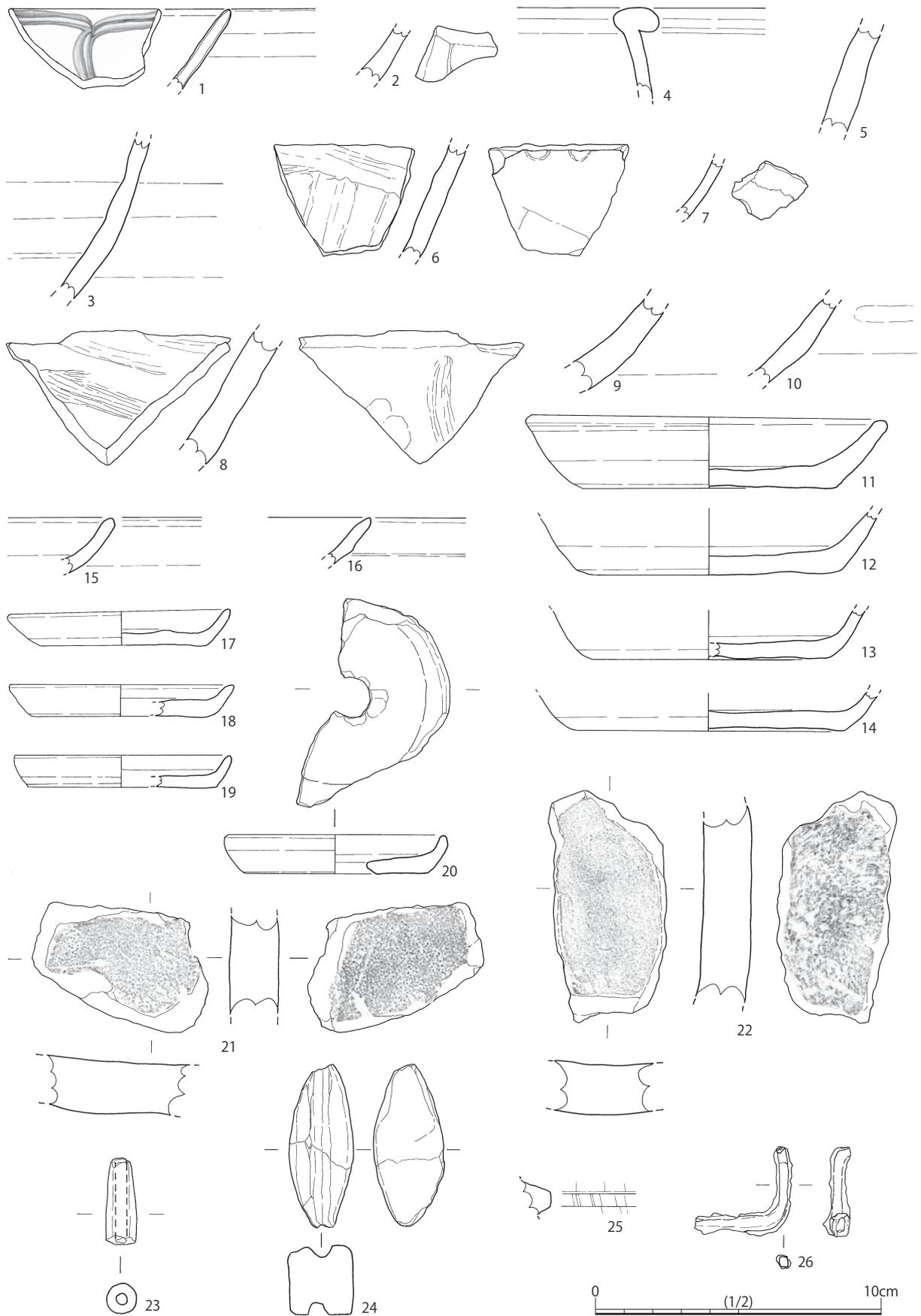
土坑 SK09 (第18図) 楕円形の土坑で、長軸76cm、短軸19cm を測る。確認面からの深さは19cm である。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)



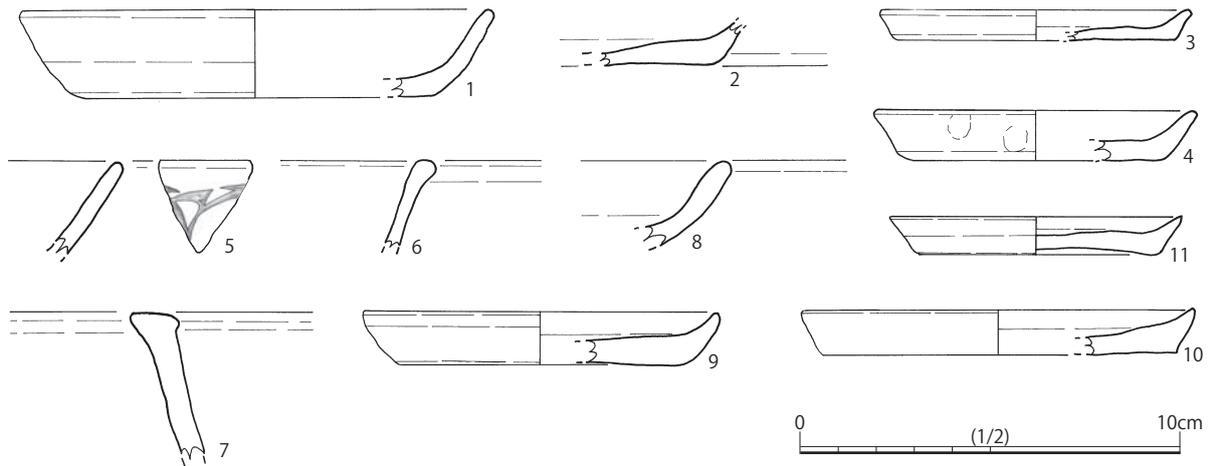
第18図 HZK1703地点4層他・SK03・04・SP05・06・SK07~09平面・断面図

エリア2

土壇墓 ST50（第21図） 長軸238cm 以上、短軸96cm の土壇墓と記録されている。ただし、B-B' 断面をみるかぎりでは、2層はもちろん4・5層も、この墓を構成する部分か疑わしい。3層のみと



第19図 HZK1703地点 SK04出土遺物



第20図 HZK1703地点 SK03・SP06出土遺物

みなすならば、長軸は166cmとなる。

遺構確認面で陶磁器と礫岩片が検出されている。また、礫岩の北東には骨片と貝がまとまる部分があるが、これは本遺構にともなうもの否かを判定しがたいらしい。(齋藤瑞穂)

第22図1～3はST50出土である。第22図1は青磁碗で内面に片彫蓮花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I-2aである。12世紀中頃から後半の所産である。2は土師器の坏、3は土師器の皿で、いずれも内外面ともナデ調整。底部はヘラによる切り離しの後ナデ調整である。青磁碗と土師器の時期は矛盾しない。第31図4は元豊通寶である。1078年初鑄の北宋銭である。(谷直子)

土坑SK51(第23図) 幅78cmの土坑である。確認面からの深さは11cmを測る。(齋藤瑞穂)

第24図1～3はSK51出土である。1は陶器の壺である。外面は粗く回転ヘラケズリされており、底部外面にメアトが残る。大宰府編年の陶器壺IV類で、おおむね13世紀の所産である(宮崎編2000)。2は土師器の坏で、底部に板状圧痕がありヘラ切りである。3は土師皿である。(谷直子)

土坑SK52(第23図) 土坑として記録されているが、円形ピットとみてよい。径28cm、確認面からの深さは29cmを測る。(齋藤瑞穂)

第24図4はSK52出土の土師器の坏である。底部はナデ調整で、ヘラ切りと考えられる。

(谷直子)

土坑SK53(第23図) 長軸49cm、短軸33cmの楕円形土坑である。確認面からの深さは30cmを測る。SK53からは土師器の坏片が出土しているが、小片で図示し得ない。(齋藤瑞穂・谷直子)

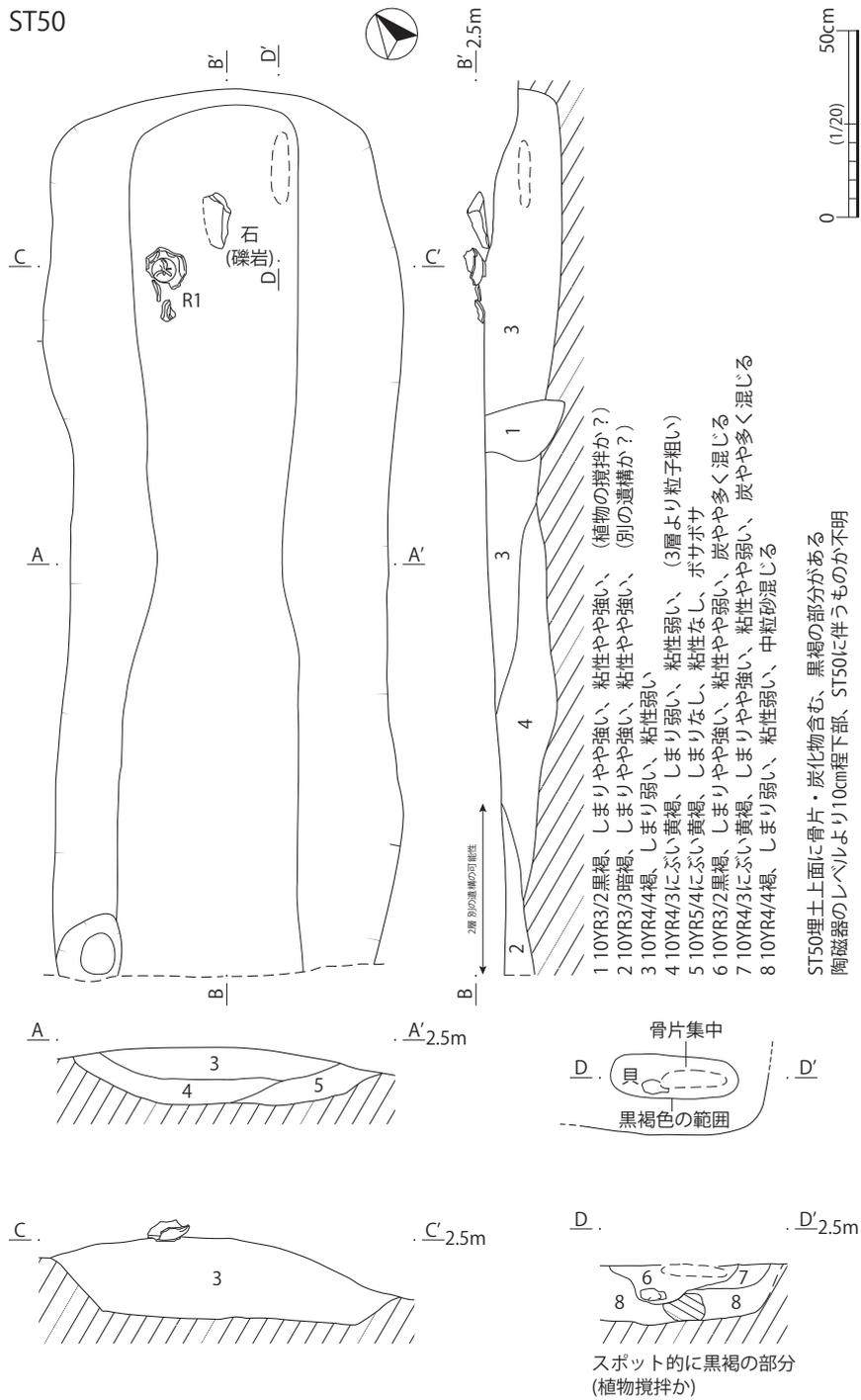
土坑SK54(第23図) 長軸38cm、短軸33cmの楕円形土坑である。確認面からの深さは32cmを測る。(齋藤瑞穂)

第24図5・6はSK54出土の土師質の鍋である。いずれも鉢状の胴部に短い口縁がつく。12世紀後半から13世紀前半の所産である(山本他1997)。(谷直子)

土坑SK55(第23図) 長軸48cm、短軸35cmの楕円形土坑である。確認面からの深さは22cmを測る。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑SK56(第23図) 長軸38cm、短軸28cmの楕円形土坑である。確認面からの深さは27cmを測る。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑SK57・SX58・SX59(第23図) 重複する3つの土坑として記録されており、SK57は34cm×30cmの円形土坑で確認面からの深さは23cmを測る。SX58は径54cmで、確認面からの深さは



第21図 HZK1703地点4層他・ST50平面・断面図

19cmである。SX59は56cm × 54cmの土坑で、確認面からの深さは20cmである。

平面図に従うと、両サイドのSK57・SX59が中央のSX58を切るらしい。ところがSX58の上には貝の集中があり、これがSK57を切るようにして堆積している、というのである。整理担当としての意見を言えば、そもそものプラン認定に問題があったようにみうけられる。写真からみて、SK57・SX58は同一の遺構と推測しうる。(齋藤瑞穂)

SK57からは遺物は出土していない。SX58からは土師器片のほか、壁土が出土している。いずれも小片で図示し得ない。第24図7～10はSX59出土である。7は白磁碗である。8～10は土師器の坏である。

(谷 直子)

土坑 SK60 (第23図) 楕円形の土坑で、長軸84cm、短軸は65cm以上である。確認面からの深さは38cmを測る。

(齋藤瑞穂)

第24図11・12はSK60出土で11は須恵質の捏鉢、12は土師器の坏である。第31図5はSK60出土の銭貨で「〇〇元寶」と読める。やや鋳出しが悪く模鑄銭であろう。

(谷 直子)

エリア3

不整形土坑 SX61 (第27図) 東西軸165cmの竪穴である。いくつか段をそなえるらしい。中央部分に32cm×26cmの円形ピットがあって、確認面からの深さは52cmに達する。断面図をみると、破線が加えられており、このピットがSX61を切っているように表現されているが、破線のほかに記録はない。図化し得なかったが、青磁碗・陶器・土師器の小片が出土した。

(齋藤瑞穂)

ピット SP62 (第26図) 28cm×25cmの円形ピットである。確認面からの深さは45cmを測る。

土師器の坏や瓦質土器の破片が出土したが、いずれも小片で図化し得ない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP63 (第26図) 楕円形のピットで長軸40cm、短軸27cmを測る。確認面からの深さは36cmを測る。土師器片が出土したが、いずれも小片で図化し得ない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK64 (第25図) 楕円形の土坑で長軸は32cm以上、短軸は28cmである。確認面からの深さは25cmである。

(齋藤瑞穂)

第28図1～3はSK64出土である。1・2は同一個体と考えられるが接合しない。中世須恵器の甕である。3は糸切り底の土師器の坏である。

(谷 直子)

土坑 SK65 (第25図) 段のある土坑として記録されている。長軸は124cm、短軸は82cm、確認面からの深さは、最も深い箇所44cmを測る。断面図には、複数遺構が切り合っているような破線表現があるが、これ以上の記録はない。

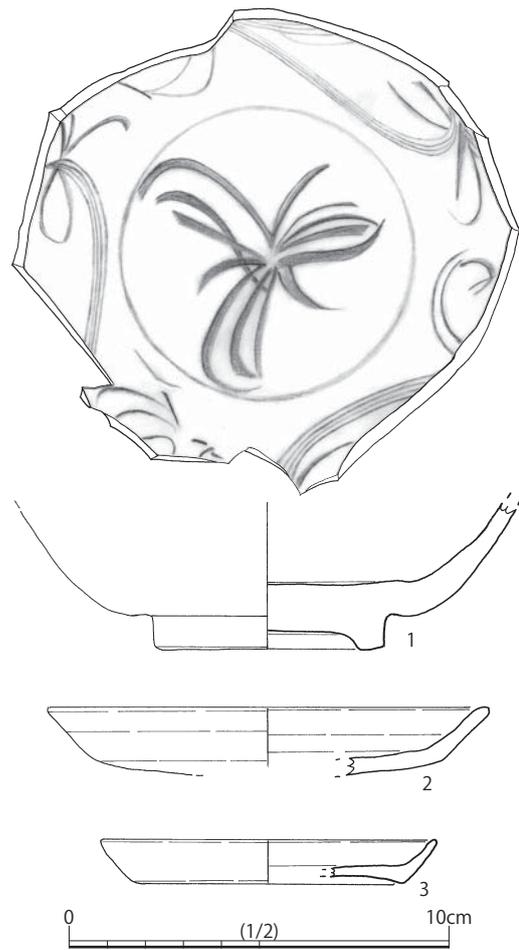
(齋藤瑞穂)

第28図4・5はSK65出土である。4は青磁碗で外面に鎬蓮弁文を施す。釉は薄くかかる。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ-b類で、時期は13世紀前半から14世紀初頭である(宮崎編 2000)。5は東播系須恵器の捏鉢である。東播系捏鉢は13世紀後半以降、在地の捏鉢に置き換わる(山本他 1997)。

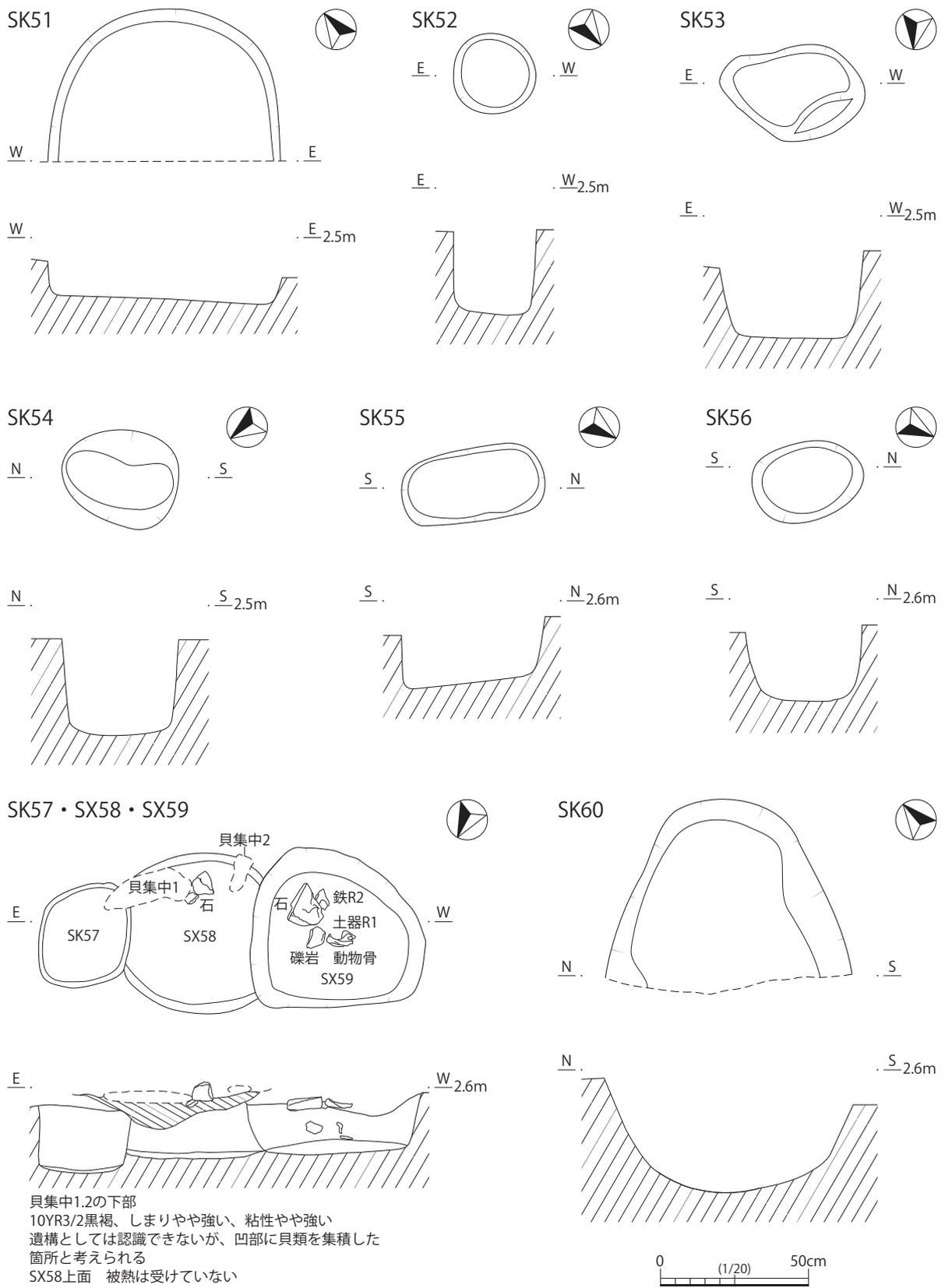
(谷 直子)

土坑 SK66 (第25図) 長軸は50cm以上、短軸は56cmで、確認面からの深さは54cmである。

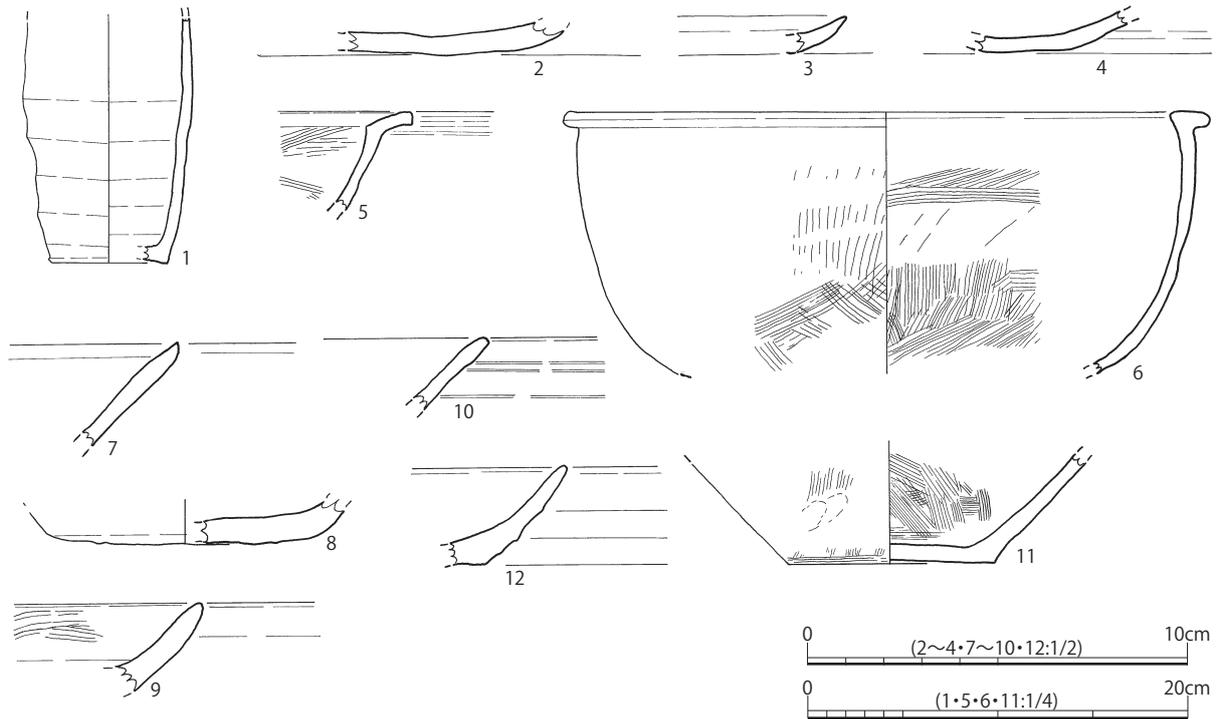
(齋藤瑞穂)



第22図 HZK1703地点 ST50出土遺物



第23図 HZK1703地点4層他・SK51～57・SX58・59・SK60平面・断面図



第24図 HZK1703地点 SK51・52・54・SX59・SK60出土遺物

第28図6～8はSK66出土である。6は瓦質土器の捏鉢である。7は糸切り底の土師器の坏である。8は土錘である。（谷 直子）

不整形土坑 SX67（第27図） 長軸90cm 以上になる土坑である。確認面からの深さは11cm を測る。（齋藤瑞穂）

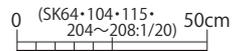
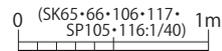
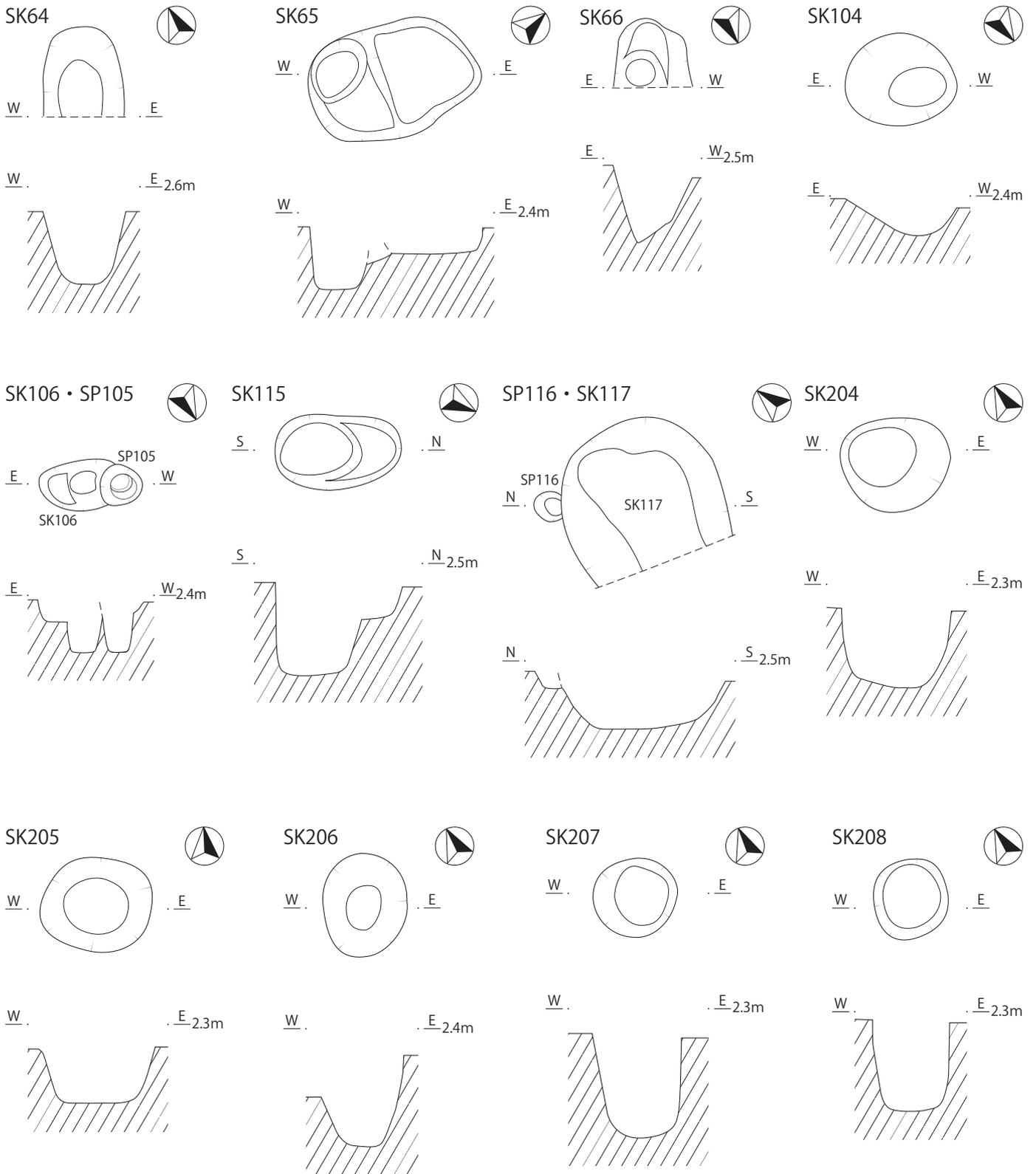
第28図9はSX67出土の青磁碗で、内面に片彫りで分割線と飛雲文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I-4b類である。12世紀の後半から13世紀初頭の所産である。10はSX67出土の褐釉陶器の鉢である。口縁部は折り曲げて玉縁状に肥厚させる。大宰府編年の陶器鉢IV-1類で、13世紀から14世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。（谷 直子）

ピット SP103（第26図） 20cm × 18cm の円形ピットである。確認面からの深さは28cm である。（齋藤瑞穂）

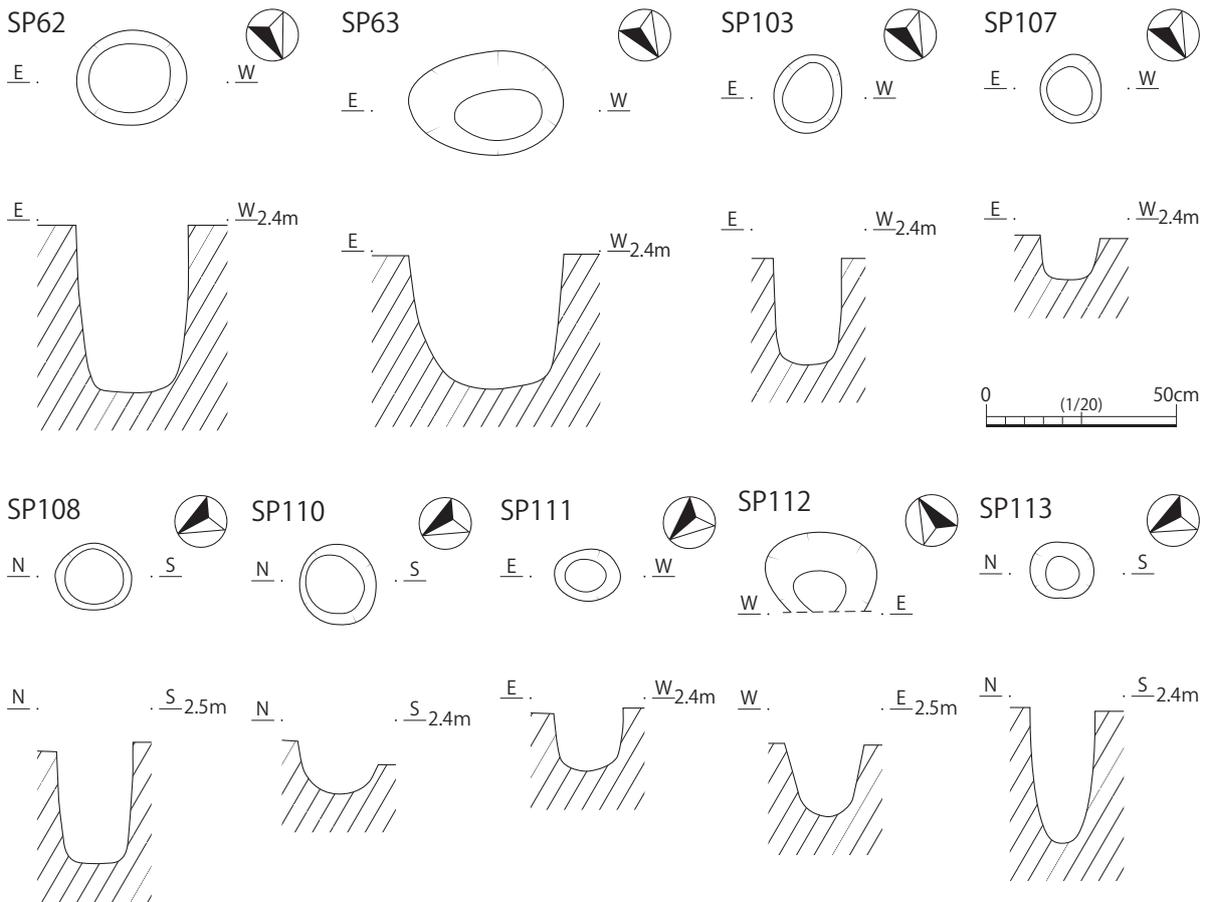
第28図11～19はSP103出土である。11～15は龍泉窯系青磁碗である。11は低いケズリ高台で、釉が厚くかかる。12・13は外面に鎬蓮弁を施し、釉が厚くかかる。龍泉窯系青磁碗Ⅲ類で13世紀中頃～14世紀初頭である。15は片彫りで施文されている。16は白磁碗で、内面に施文する。17は白磁皿である。深型で、底部外面の釉は工具でのばされている。大宰府編年の白磁皿Ⅸ類で13世紀中頃～14世紀初頭である（宮崎編 2000）。18は土師皿である。19は土錘である。（谷 直子）

土坑 SK104（第25図） 楕円形の土坑で、長軸は40cm、短軸は34cm である。確認面からの深さは14cm である。瓦質土器の破片が出土したが、小片で図示し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP105・土坑 SK106（第25図） SP105がSK106を切る。SP105は径30cm で、確認面からの深さは38cm である。SK105からは土師器の坏・皿の他、須恵器片が出土したが、小片で図示し得ない。他方、SK106は有段の楕円形土坑で、長軸44cm 以上、短軸は36cm、確認面からの深さは38cm である。遺物は出土していない。（齋藤瑞穂・谷 直子）



第25図 HZK1703地点4層他・SK64~66・104・SP105・SK106・115・SP116・SK117・SK204~208平面・断面図



第26図 HZK1703地点4層他・SP62・63・103・107・108・110～113平面・断面図

ピット SP107 (第26図) 18cm × 16cm の円形ピットである。確認面からの深さは11cm である。
(齋藤瑞穂)

第28図20は SP107出土の瓦質土器の捏鉢である。口縁端部をつまみ上げて成形している。
(谷 直子)

ピット SP108 (第26図) 20cm × 18cm の円形ピットである。確認面からの深さは32cm である。
遺物は出土していない。
(齋藤瑞穂)

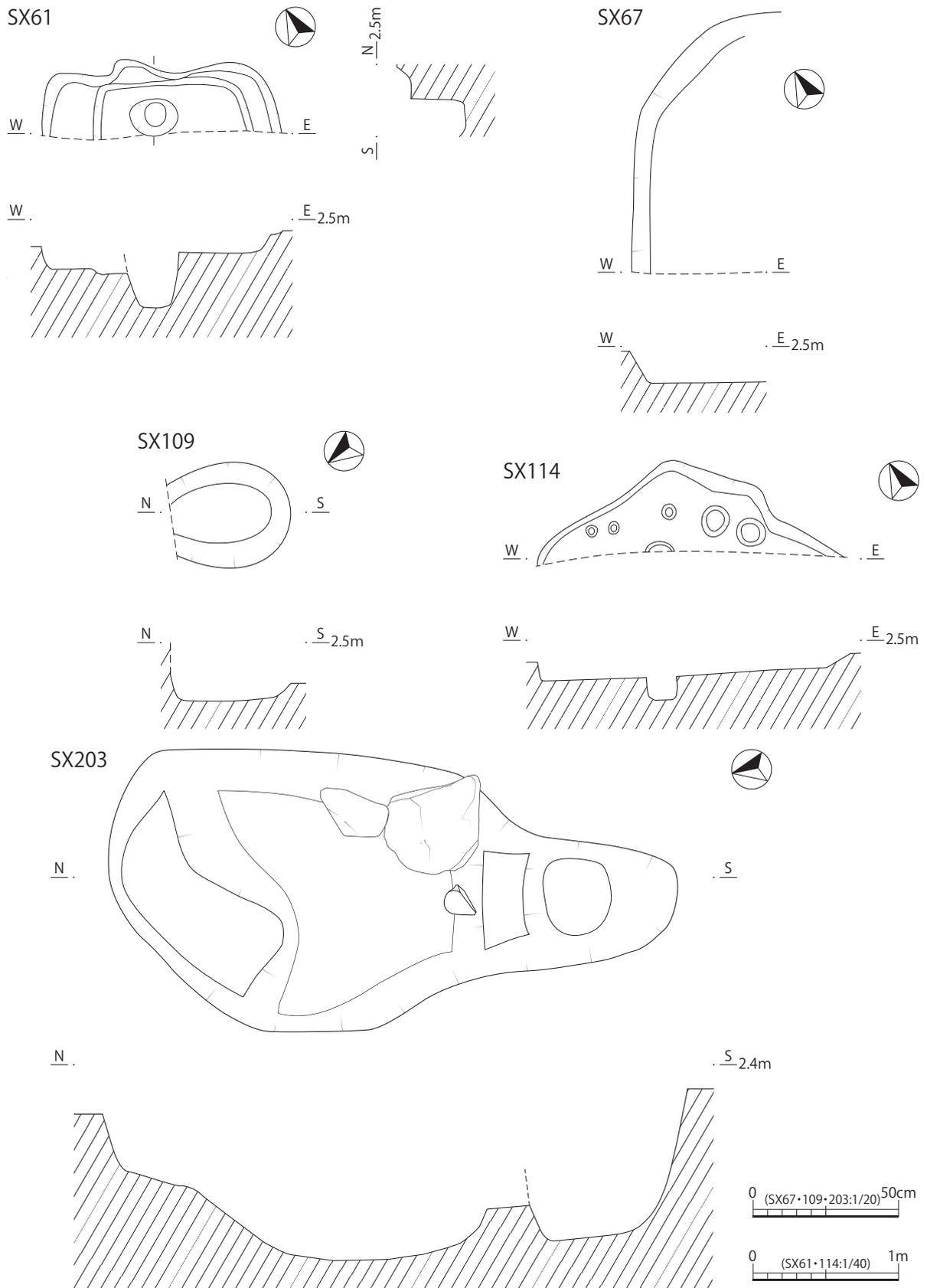
土坑 SK109 (第27図) 短軸37cm の土坑で、深さは20cm ほどである。平面図からすると、土坑は北にさらに延びるように見受けられるが、断面図では真つすぐ底面から立ち上がっており、正確なことはわからない。遺物は出土していない。
(齋藤瑞穂)

ピット SP110 (第26図) 22cm × 20cm の円形ピットである。確認面からの深さは15cm である。
SP110からはわずかに土師器片が出土したが、図示し得ない。
(齋藤瑞穂・谷 直子)

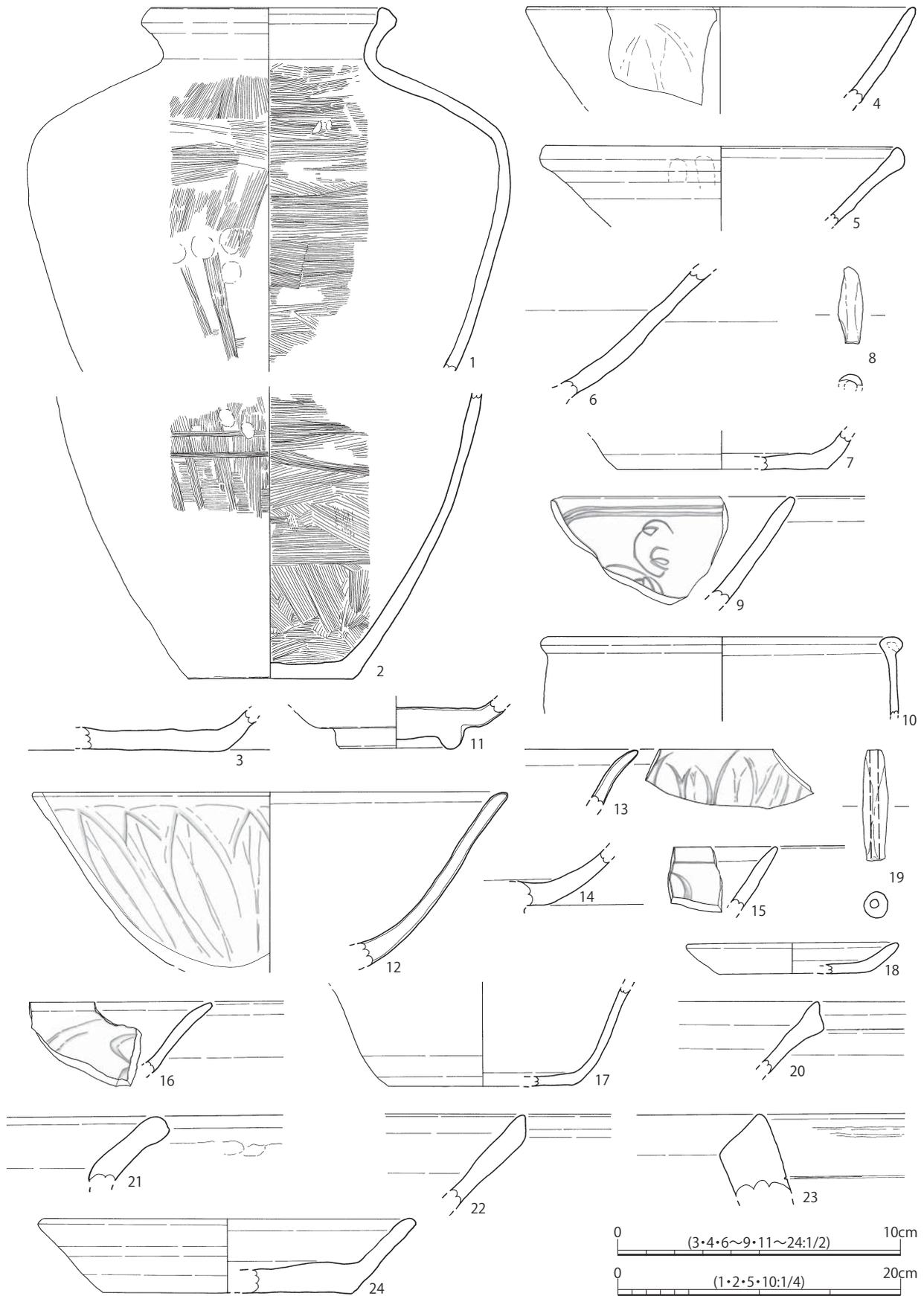
ピット SP111 (第26図) 17cm × 14cm の円形ピットである。確認面からの深さは18cm である。
遺物は出土していない。
(齋藤瑞穂)

ピット SP112 (第26図) 径30cm 内外の円形ピットであろう。確認面からの深さは19cm である。
遺物は出土していない。
(齋藤瑞穂)

ピット SP113 (第26図) 16cm × 15cm の円形ピットである。確認面からの深さは35cm である。
遺物は出土していない。
(齋藤瑞穂)



第27図 HZK1703地点4層他・SX61・67・109・114・203平面・断面図



第28図 HZK1703地点 SK64・65・SK66・SX67・103・107・114・SK117出土遺物

不整形土坑 SX114 (第27図) 方形の竪穴とみられ、一辺は136cm以上の規模になる。確認面からの深さは14cmを測る。6基のピットを内包していて、うち1基は竪穴平面より15cmほどさらに掘り込んでいる。(齋藤瑞穂)

第28図21はSX114出土の土師器の甕口縁部である。(谷直子)

土坑 SK115 (第25図) 有段の楕円形土坑で、長軸は44cm、短軸は27cmである。確認面からの深さは32cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

ピット SP116・土坑 SK117 (第25図) SK117がSP116を切る。SK117は、短軸116cm、長軸は104cmを大きく超えるものと見込まれる。断面からの深さは32cmである。SP116は径21cmで、確認面からの深さは12cmである。(齋藤瑞穂)

第28図22~24はSK117出土である。22は瓦質土器の捏鉢である。口縁端部をつまみ上げて成形する。23は瓦質土器の火鉢の口縁部と思われる。24は糸切り底の土師器の坏である。SP116からは出土していない。(谷直子)

不整形土坑 SX203 (第27図) 長軸200cm×短軸98cmの不整形土坑である。確認面からの深さは58cmを測る。断面図には、複数遺構が切り合っているような破線表現があるが、これ以上の記録はない。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑 SK204 (第25図) 34cm×28cmの円形土坑である。確認面からの深さは28cmを測る。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑 SK205 (第25図) 39cm×34cmの円形土坑である。確認面からの深さは20cmを測る。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑 SK206 (第25図) 楕円形の土坑で、長軸は36cm、短軸は30cmである。確認面からの深さは34cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑 SK207 (第25図) 30cm×29cmの円形土坑である。確認面からの深さは37cmを測る。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

土坑 SK208 (第25図) 28cm×26cmの円形土坑である。確認面からの深さは34cmを測る。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

エリア4

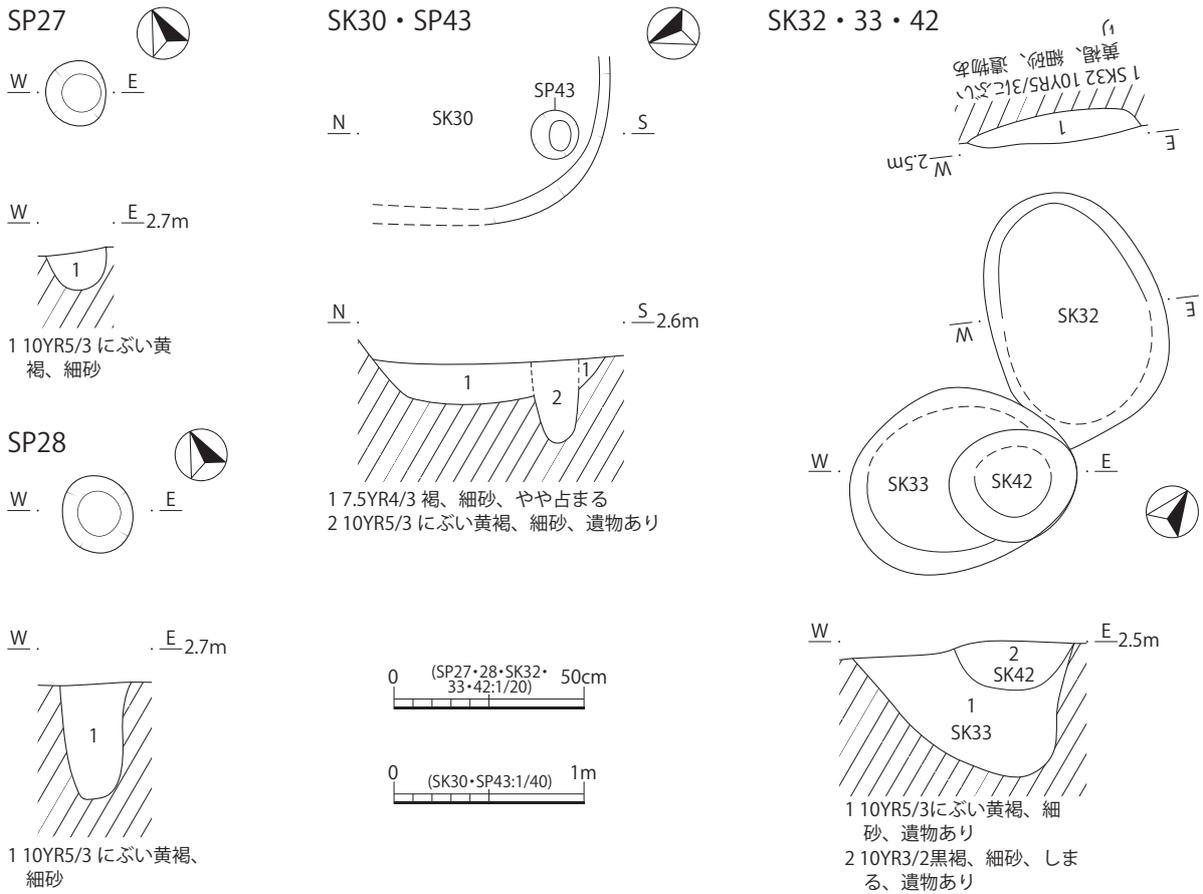
土坑 SK30・ピット SP43 (第29図) 調査区東端隅にあるSK30がSP43に切られている。SK30は不明瞭な円形土坑で深さ20cmである。SP43は小型の円形土坑で直径26cm、深さ46cmである。

第30図1~4はSK30・SP43出土である。1は内面に突帯が付く中国陶器の鉢で、大宰府編年の陶器鉢I-2類である。12世紀中頃から後半の所産である(宮崎編 2000)。2は瓦質土器の鉢か甕の胴部で、内面はハケメ調整で外面に格子タタキが残る。3は土師器の坏、4は厚みが薄い平瓦である。外面に布目、内面にハケメが残る。(谷直子)

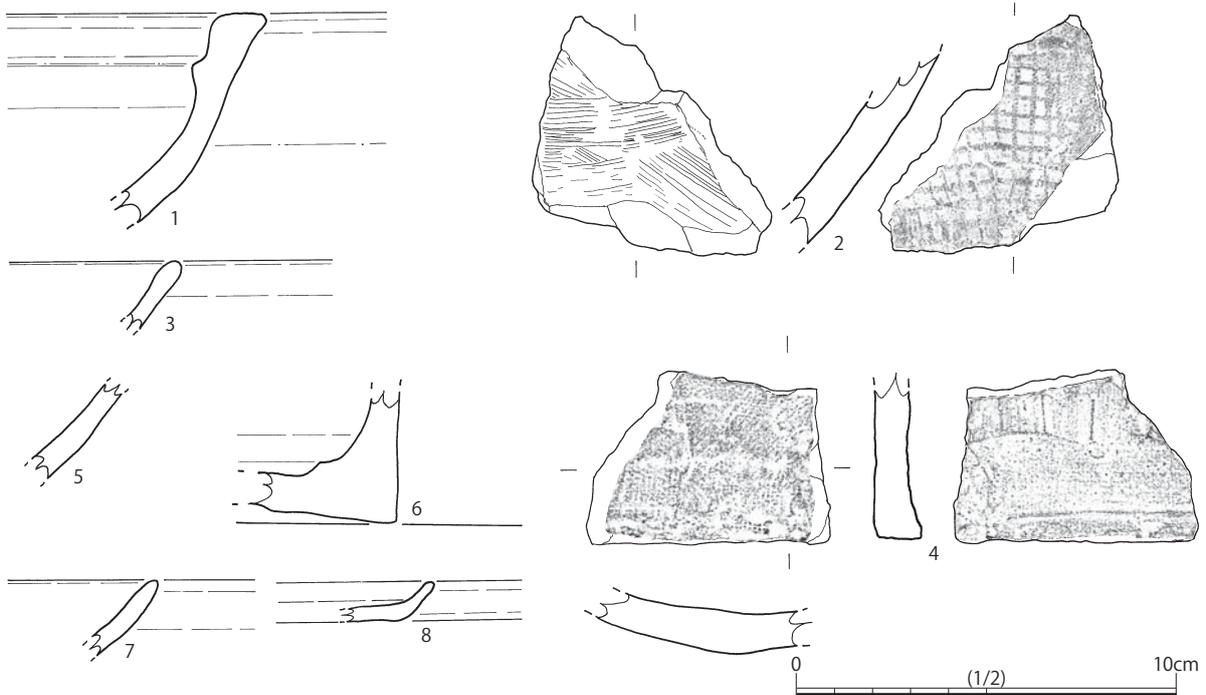
石積み遺構 SX31 (第2図) 調査区東端にかかる石積み遺構である。石は基底部分のみ馬蹄形に残存しており、詳細ははっきりとしない。

第30図5~8はSX31出土である。5は龍泉窯系青磁碗の胴部片である。6は陶器の壺底部で内外面とも施釉する。7は土師器の坏、8は糸切り底の土師皿である。(谷直子)

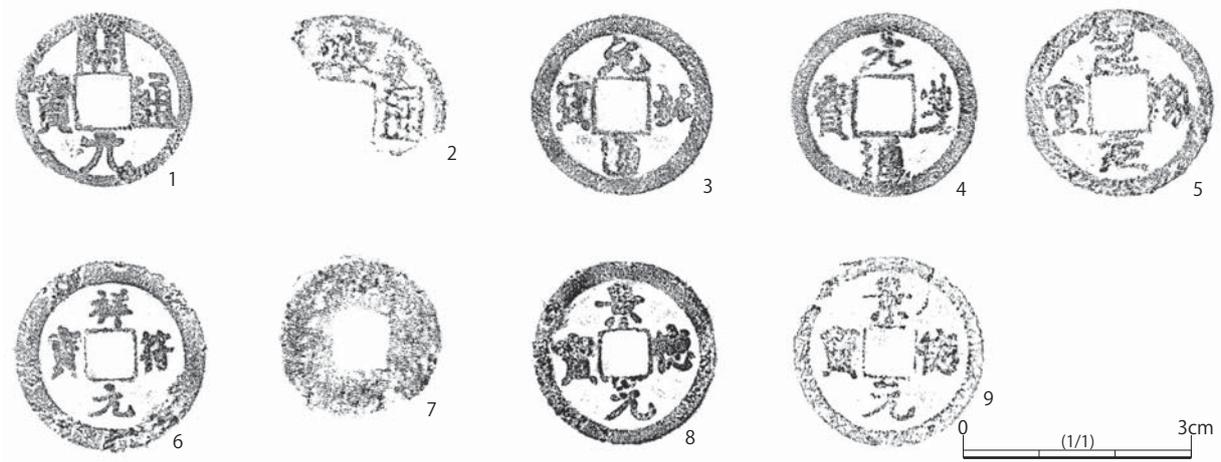
土坑 SK32・SK33・SK42 (第29図) 北側のSK32が南側のSK33に切れ、SK33はSK42に切られるという。SK42の南側立ち上がりはSK33のそれと重なっているから、図面を見る限りにおいては、別の遺構(掘り返した可能性)とも同一遺構(埋没プロセス)ともみなしうが、調査者が前者を選



第29図 HZK1703地点4層他・SP27・28・SK30・32・33・42・SP43平面・断面図



第30図 HZK1703地点 SK30・SX31・SP43出土遺物



第31図 HZK1703地点出土銭貨

んだ根拠は記録がない。さしあたって最も新しいという SK42は32cm × 30cm の円形土坑で、確認面からの深さは13cm である。これに切られたらしい SK33は、長軸60cm、短軸49cm の楕円形土坑である。最深点はSK42の直下であり、確認面からの深さは36cm を測る。SK32は長軸64cm、短軸46cm の楕円形土坑である。確認面からの深さは8cm である。(齋藤瑞穂)

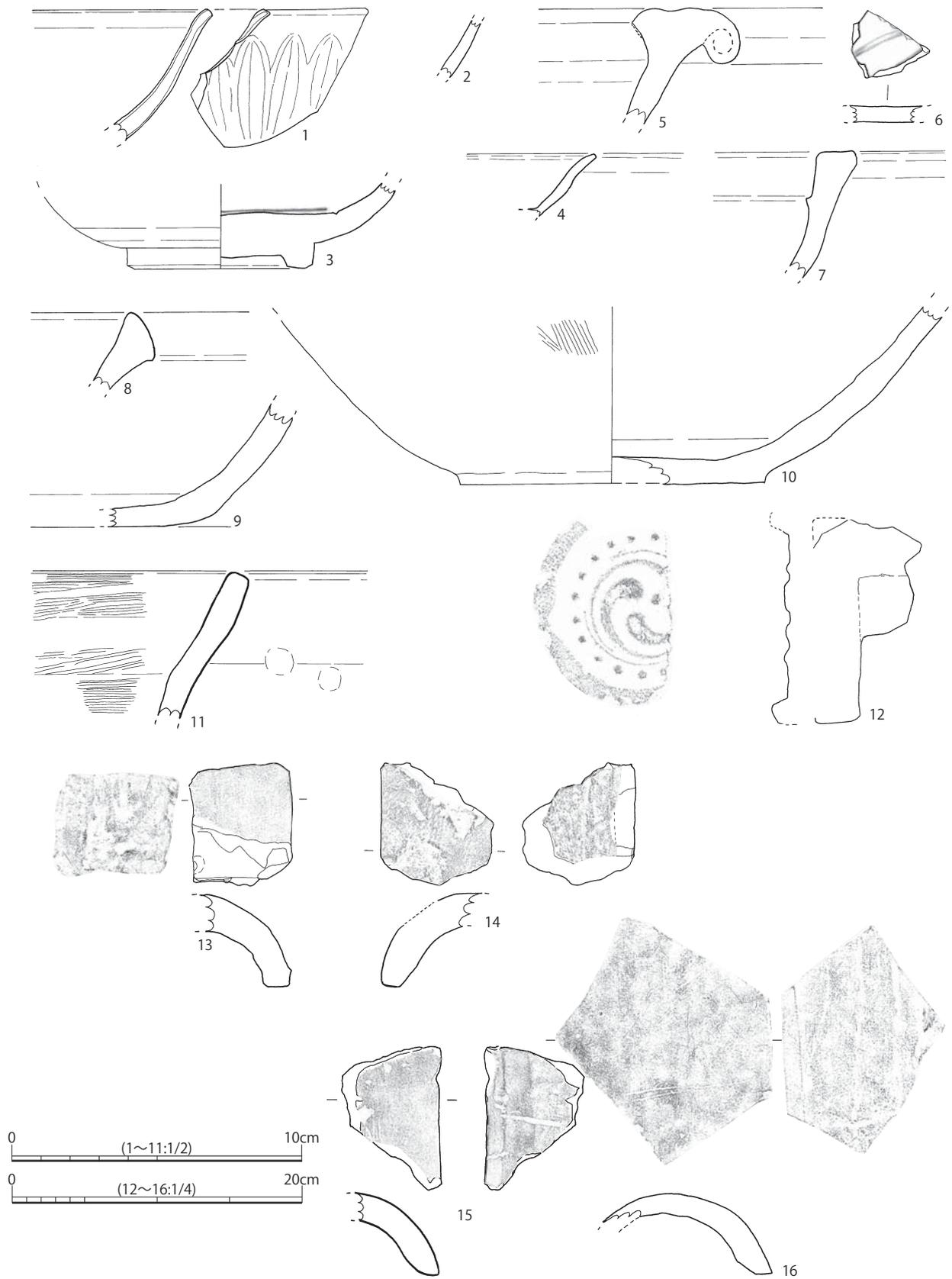
SK32は遺物が出土していない。SK33と SK42からは土師器片や陶器片が出土したが、小片で図示し得ない。(谷 直子)

近代遺構 SQ19 (第2図) 箱崎キャンパス拡幅以前の境界堺で、立試1811地点のSQ29に連なる。薄く敷いたモルタル部分とその下のバラスのみが遺存する。(齋藤瑞穂)

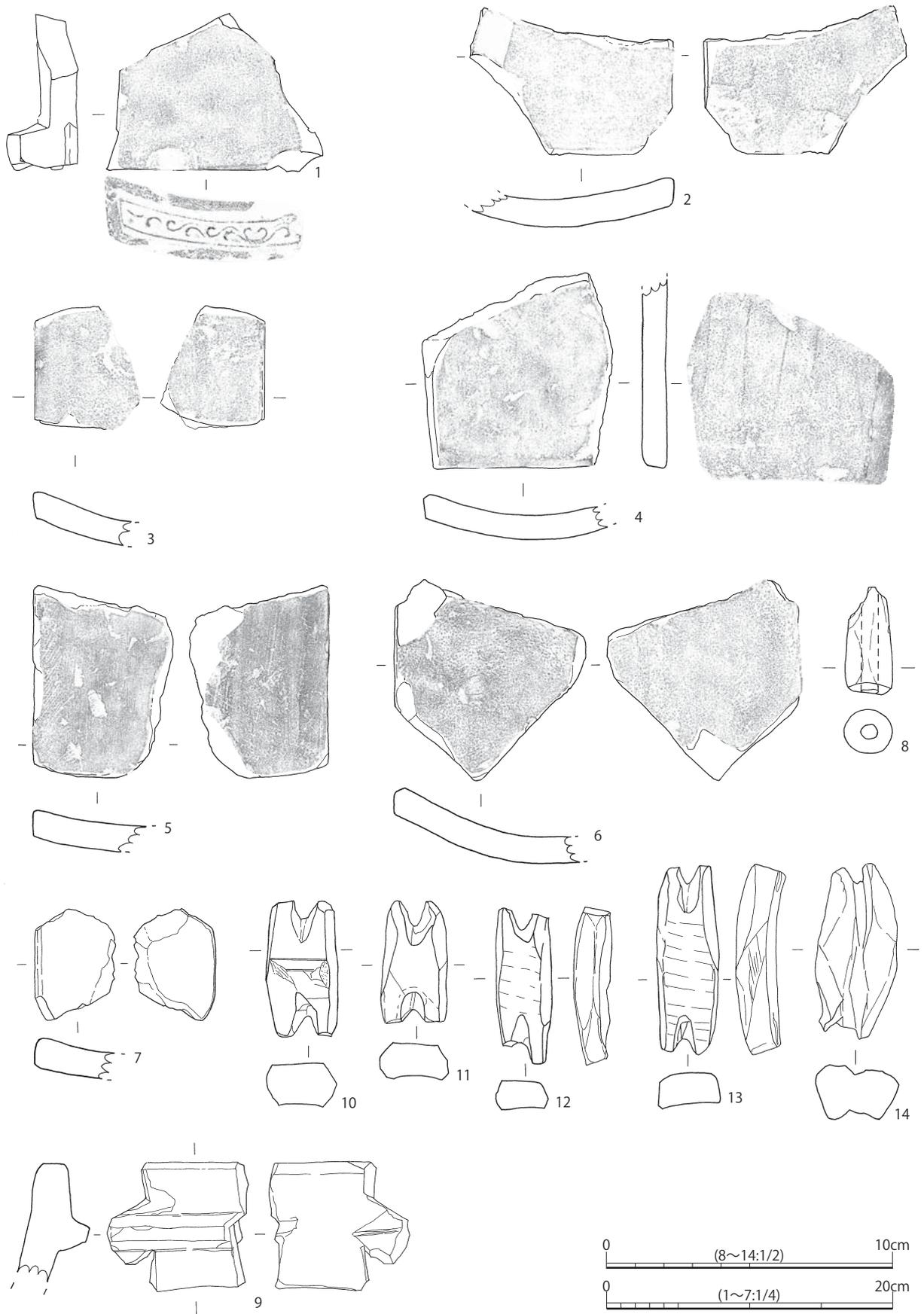
(3) 遺構外出土遺物

第32図1～3は青磁碗である。1は外面に鎬蓮弁文を施し、厚く施釉する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅲ-2類である。3は低いケズリ高台で器壁が厚い。内面見込み部分に圈線がめぐる。4は白磁碗である。口縁端部が口禿となる。大宰府編年の白磁碗Ⅸ類である。

5・6は磁窰窯の黄釉盤である。5は口縁の先端部を曲げており、大宰府編年の盤Ⅰ-1'a類である。6は内面に鉄絵で施文する。7は中国陶器の鉢である。内面に突帯があり、大宰府編年の陶器鉢Ⅰ-2b類である(宮崎編 2000)。8～10は瓦質土器の捏鉢である。11は土師質の鍋である。口縁部の屈曲はゆるくなる。12は三つ巴文の軒丸瓦で、顎部分が張り出す。13は軒丸瓦の瓦当部分が外れたものと考えられる。内面に布目が残る。14～16は丸瓦である。いずれも外面はナデで、内面に布目が残る。第33図1は唐草文軒平瓦である。焼成が良い。2～7は平瓦である。8は紡錘形をなす土錘である。9～13は滑石製石鍋の再加工品である。9は滑石製石鍋の鏝の部分を再加工している。加工途中の可能性が高い。10～13は同一個体の石鍋から再加工された石錘と考えられる。両端部に抉りをいれて糸掛けとなす。14は滑石製石錘である。中央部に溝を彫り込んで糸掛けとなす。第31図6～9は遺構外出土の銭貨である。6は祥符元寶で、初鑄は1008年、7は無文錢、8・9は景德元寶で、初鑄は1004年である。(谷 直子)



第32図 HZK1703地点遺構外出土遺物 1



第33図 HZK1703地点遺構外出土遺物2

3. 小結

HZK1703地点は、箱崎キャンパスの南東エリアにおいて初めて調査を実施した地点である。近代遺構の検出に加え、中世の遺構がかなり濃厚に遺存している点を把握するうえで、以後の調査方針を定める極めて重要な調査であった。近代遺構の検出は、翌年に実施した立試1811地点における近代遺構の、また石組遺構や土坑墓、小貝塚の検出は HZK2101地点における該種遺構群に注意を促す契機となっている。

遺構プランや、切り合い関係の認識・記録が充分でない部分があるのは、このエリアでの調査が初めてということもあったに違いない。この周囲で行われた調査の結果を合わせれば、解答の得られる部分も少なくないだろう。

（齋藤瑞穂）

引用文献

- 中村啓太郎（編） 1998『野芥遺跡2 野芥遺跡群第4次調査』福岡市埋蔵文化財調査報告書第575集 福岡市教育委員会
- 松田麻里・桃崎祐輔 2019「筑前・筑後・豊前・肥前」中世瓦研究会（編）『中世瓦の考古学』高志書院 237～254頁
- 宮崎亮一（編） 2000『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』太宰府市教育委員会
- 山本信夫・山村信榮 1997「九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第79集 国立歴史民俗博物館 237～310頁

第1表 HZK1703地点遺物観察表

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
5-1	SX20 石材 E5 (掘方)	瓦質土器 湯釜	(25.5)		[4.2]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 10YR7/4にぶい黄橙 内: 2.5Y7/3浅黄	外: ハケメ, ナデ 内: ナデ	
5-2	SX20 石材 W3	土師質 捏鉢		(20.4)	[1.1]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	10Y3/1オリーブ黒	外: ハケメ 内: ハケメ	
5-3	SX20 構築部材 W7	鬼瓦			[19.3]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	表: 2.5Y6/1黄灰 裏: 10YR6/1褐灰	表: 型押し, スタンプ円文 裏: ナデ, 工具痕	
5-4	SX20内部石材 スキマ	鉄釘	[3.1]	0.5	0.5					
5-5	SX20埋土 (4層)	染付 皿			[0.4]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉, 花文	近世~近代
6-6	SX20埋土 (4層)	瓦質土器 捏鉢			[5.6]	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	外: 7.5YR7/6橙 内: 10YR7/4にぶい黄橙	外: ナデ 内: ハケメ, スリ溝	
5-7	SX20埋土 (4層)	瓦質土器 捏鉢			[4.7]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: 10YR3/1黒褐 内: 5YR6/6橙	外: ナデ 内: ハケメ	
5-8	SX20埋土 (4層)	土師質 鍋			[3.4]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: 7.5YR3/1黒褐 内: 10YR4/2灰黄褐	外: ナデ 内: ハケメ, ナデ	
5-9	SX20埋土 (4層)	土師質 鍋			[5.3]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: 7.5YR6/6橙 内: N1.5/黒	外: ナデ 内: ハケメ, ナデ	
5-10	SX20埋土 (5層)	土師質 鍋			[10.2]	やや緻密, 直径2mm大の砂粒を多く含む	良好	10YR8/4浅黄橙	外: ナデ, スス附着 内: ハケメ	
5-11	SX20埋土 (5層)	白磁 碗			[1.9]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉, 口禿	大宰府編年白磁碗Ⅸ類
6-1	SX20埋土 (6層)	陶器 鉢			[3.0]	粗い, 黒色粒子・砂粒を多く含む	良好	5Y8/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	近世
6-2	SX20埋土 (6層)	瓦質土器 搦鉢			[4.6]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: 5YR3/1黒褐 内: 10YR1.7/1黒	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, ナデ	
6-3	SX20埋土 (6層)	土師器 坏	(12.6)	(7.0)	2.2	緻密, 赤色砂粒を含む	良好	10YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-4	SX20埋土 (6層)	土師器 坏			[2.0]	緻密, 赤褐色砂粒をわずかに含む	良好	5YR5/3にぶい赤褐	外: ナデ 内: ナデ	
6-5	SX20埋土 (6層)	土師器 坏			[1.3]	緻密, 赤褐色砂粒を含む	良好	外: 7.5YR8/3浅黄橙 内: 7.5YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ, スス附着	灯明皿?, 糸切り底
6-6	SX20埋土 (6層)	土師器 皿		(4.6)	[0.6]	緻密, 赤褐色砂粒を含む	良好	外: 7.5YR8/4浅黄橙 内: 7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-7	SX20埋土 (6層)	鉄釘	[6.5]	0.7	0.6					近世
6-8	SX20埋土	青磁 皿		(4.2)	[0.8]	緻密	良好	外: 7.5Y7/2灰白 内: 7.5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	同安窯系皿 I-2b 類
6-9	SX20埋土	土師器 坏		(10.0)	[1.4]	やや粗い, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外: 7.5YR8/4浅黄橙 内: 7.5YR8/6浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-10	SX20埋土	瓦質土器 湯釜			[7.9]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	N6/ 灰	外: ナデ, スス附着 内: ハケメ	
7-1	A1区 SX20 検出面	青磁 碗			[2.1]	緻密	良好	外: 10Y5/2オリーブ灰 内: 10Y6/2オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉, 草花文	龍泉窯系青磁碗 I-1類
7-2	A1区 SX20 検出面	青磁 碗			[1.7]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 鎬蓮弁文 内: 施釉	龍泉窯系青磁碗 II類
7-3	A1区 SX20 検出面	青磁 碗			[2.2]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	2.5Y6/3にぶい黄	外: 施釉, 鎬蓮弁文 内: 施釉	龍泉窯系青磁碗 II類
7-4	A1区 SX20 検出面	白磁 皿			[1.2]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	10Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉, 口禿	白磁皿Ⅸ類
7-5	A1区 SX20 検出面	白磁 皿		6.6	[1.4]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外: 施釉, ナデ 内: 施釉	白磁皿Ⅸ類
7-6	A1区 SX20 検出面	陶器 底部			[1.1]	緻密, 白色粒子をわずかに含む	良好	外: 10YR5/2灰黄褐 内: 2.5YR5/3にぶい赤褐		
7-7	A1区 SX20 検出面	陶器 甕			[6.7]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	5Y5/4オリーブ	外: 施釉 内: 施釉	近世
7-8	A1区 SX20 検出面	陶器 壺			[2.3]	緻密, 1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外: 7.5YR3/3暗褐 内: 7.5Y6/1灰	外: ナデ 内: ナデ	
7-9	A1区 SX20 検出面	陶器 壺			[1.8]	緻密, 赤褐色砂粒をわずかに含む	良好	外: 2.5YR3/1暗赤灰 内: 2.5YR6/6橙	外: 施釉, ナデ 内: 露胎, ナデ	近世
7-10	A1区 SX20 検出面	陶器			[1.6]	緻密, 白色砂粒をわずかに含む	良好	外: 10YR4/1褐灰 内: 10YR3/1黒褐	外: ナデ 内: ナデ	
7-11	A1区 SX20 検出面	土師質 捏鉢			[4.2]	緻密, 白色砂粒を含む	良好	5YR7/6橙	外: ナデ 内: ハケメ	
7-12	A1区 SX20 検出面	土師質 鍋			[6.4]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外: 10YR2/1黒 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, スス附着 内: ハケメ	

IV HZK1703地点 (応力研生産研本館北地点)

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
7-13	SX20 検出面	土師質 鍋			[4.8]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	外: 7.5YR2/1黒 内: 10Y5/1灰	外: ナデ, スス付着 内: ハケメ	
7-14	SX20 検出面	土師質 鍋			[3.7]	緻密, 直径1~3mmの 砂粒を多く含む	良好	外: 5YR3/1黒褐 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, スス付着 内: ハケメ	
7-15	SX20 検出面	土師器 坏		(7.4)	[1.3]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒・赤色粒子を含む	良好	5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-16	SX20 検出面	土師器 坏			[1.2]	緻密, 直径1~3mmの 砂粒を含む	良好	7.5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
7-17	SX20 検出面	土師器 皿		(4.6)	[0.9]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ, スス付着	糸切り底
7-18	SX20 検出面	土師器 皿			[1.4]	緻密, 直径1~3mmの 砂粒を含む	良好	7.5YR8/6浅黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
7-19	SX20 検出面	カマド 廂			[4.8]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	外: 5YR6/3にぶい橙 内: 5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, ハケメ 内: ハケメ, スス付着	
7-20	SX20 検出面	土錘	[5.5]	2.2	1.8	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	5YR5/8明赤褐	外: ナデ	19.51 g
7-21	SX20 検出面	土錘	5.5	1.1	1.0	緻密	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ	4.37 g
7-22	SX20 検出面	石製硯	[7.7]	5.4	1.3			2.5Y5/2暗灰黄		
7-23	SX20周辺	白磁 碗			[3.0]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	大宰府編年 白磁碗V-4かVIII
7-24	SX20周辺	陶器 碗		(6.6)	[1.8]	緻密	良好	5Y6/1灰	外: ケズリ, 施釉 内: 施釉	朝鮮雑釉陶器
7-25	SX20周辺	土師質 鍋			[6.7]	緻密, 1mm弱の砂粒・ 雲母片を含む	良好	外: 7.5YR4/1褐灰 内: 7.5YR7/6橙	外: ナデ, スス付着 内: ハケメ	
8-1	SK39埋土	青磁 碗			[2.8]	緻密	良好	5Y5/3灰オリーブ	外: 施釉 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-4a類
8-2	SK39埋土	陶器 碗			[2.1]	緻密, 直径1mm大の砂 粒をわずかに含む	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉	
8-3	SK39埋土	土師器 坏			2.3	緻密, 直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外: 7.5YR8/4浅黄橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-4	SK40埋土	陶器 合子蓋	(7.0)		[1.8]	緻密	良好	外: 5Y5/4オリーブ 内: 10YR7/3にぶい黄橙	外: 施釉, 施文 内: 露胎, 回転ナデ	近世
8-5	SK40埋土	土師器 皿			1.3	緻密	良好	10YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
8-6	SK40埋土	土師器 坏			2.3	緻密, 1mm弱の砂粒を わずかに含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 10YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
10-1	SK10	陶器 壺			[2.3]	緻密	良好	外: 7.5YR4/1褐灰 内: 2.5Y4/1黄灰	外: ナデ 内: ナデ	
10-2	SK10	土師質 鍋			[4.3]	やや緻密, 1~2mmの 砂粒を含む	良好	外: 5YR6/6橙 内: 7.5YR5/3にぶい褐	外: ハケメ 内: ハケメ	肥前系
10-3	SK10	土師器 坏			[1.8]	緻密, 1mm弱の砂粒を わずかに含む	良好	外: 10YR8/4浅黄橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
10-4	SK12	青磁 碗			[1.9]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉	龍泉窯系
10-5	SK12	白磁 碗			[2.3]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	5GY8/1灰白	外: 施釉 内: 施釉, 口禿	白磁皿IX類
10-6	SK12	土師器 坏			[2.3]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外: 7.5YR8/4浅黄橙 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ 内: ナデ	
10-7	SK12	土師器 坏			[1.8]	緻密, 雲母片を含む	良好	外: 7.5YR6/3にぶい褐 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ 内: ナデ	
10-8	SK12	土師器 坏			[0.9]	緻密	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
10-9	SK13	青磁 碗			[2.0]	緻密	良好	7.5GY7/1明緑灰	外: 施釉 内: 施釉	龍泉窯系青磁碗 I類?
10-10	SK13	土師器 皿	(8.0)	(6.4)	1.1	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を多く含む	良好	外: 10YR7/4にぶい黄橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
10-11	SK17埋土	土錘	5.0	2.0	2.1	緻密, 直径1~3mmの 砂粒を含む	良好	外: 10YR8/4浅黄橙	外: ナデ	17.9 g
10-12	SP11埋土	土師器 坏		(8.8)	[1.1]	緻密	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
10-13	SP11埋土	土師器 皿			1.0	緻密	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
10-14	SP11埋土	カマド			[7.1]	緻密, 直径1~3mmの 砂粒を多く含む	良好	外: 7.5YR3/2黒褐 内: 7.5YR4/2灰褐	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
10-15	SP11埋土	滑石製石鍋			[1.7]				外：摩耗 内：加工痕	
11-1	SK45埋土	土師器 坏		(8.6)	[1.2]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
11-2	SK45埋土	土師器 坏			[1.0]	緻密	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：7.5YR7/6橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
11-3	SK48埋土	青磁碗			[1.2]	緻密, 黒色砂粒を含む	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉, 鎊蓮弁文 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 II類
11-4	SK48埋土	青磁皿			[1.5]	緻密, 黒色砂粒を含む	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系
11-5	SK48埋土	瓦質土器 控鉢		(7.8)	[2.8]	緻密	良好	外：N7/ 灰白 内：7.5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	東播系
11-6	SK48埋土	土師器 坏			[1.5]	緻密	良好	外：7.5YR8/3浅黄橙 内：5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
11-7	SK48埋土	土師器 坏			[1.5]	緻密, 赤褐色砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
11-8	SK48埋土	土師器 坏		(9.6)	[1.1]	やや緻密, 1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外：10YR8/3浅黄橙 内：10YR7/1灰白	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
11-9	SK48埋土	土師器 坏		(7.8)	[1.5]	やや緻密, 1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR8/2灰白 内：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
11-10	SK48埋土	土師器 皿	(8.8)	(7.0)	1.1	緻密, 黒色砂粒を含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
11-11	SK48埋土	丸瓦	[7.3]	[7.9]	2.0	やや緻密, 1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5Y6/1灰 内：N6/ 灰	表：縄目, 工具ナデ 裏：布目, 吊り紐痕	
11-12	SK48埋土	平瓦		[5.8]		やや緻密, 1~2mmの砂粒を多く含む	良好	表：N7/ 灰白 裏：N6/ 灰	外：ナデ 内：ナデ	
11-13	SK48埋土	鉄釘	[3.9]	0.5	0.4					
11-14	SK48埋土	鉄釘	[4.2]	0.8	0.7					
11-15	SK48埋土	鉄釘	[5.4]	0.5	0.5					
11-16	SK49埋土	青磁碗			[1.4]	緻密	良好	2.5Y6/2灰黄	外：施釉, 鎊蓮弁文 内：施釉, 沈線	龍泉窯系青磁碗 II類
11-17	SK49埋土	陶器 卸目皿		(9.4)	[1.3]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	外：5Y7/1灰白 内：10Y6/2オリーブ灰	外：ナデ, 糸切り 内：施釉, 卸目	瀬戸
11-18	SK49埋土	陶器 鉢			[4.2]	やや粗い, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：10YR5/2灰黄褐	外：ナデ 内：ナデ	陶器鉢 I-1b
11-19	SK49埋土	土師器 坏			[2.0]	緻密, 雲母片を含む	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
11-20	SK49埋土	土師器 坏			[2.4]	緻密, 雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：回転ナデ 内：ナデ	
11-21	SK49埋土	土師器 坏			2.8	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
11-22	SK49埋土	土師器 皿	(9.6)	(8.0)	1.1	緻密	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
11-23	SK49埋土	土師器 皿	(8.8)	(6.8)	1.2	緻密	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
11-24	SK49埋土	土師器 皿	(8.6)	(7.0)	1.1	緻密, 雲母片を含む	良好	7.5YR5/8明褐	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
16-1	SK69埋土	白磁碗			[2.1]	緻密	良好	10Y6/1灰	外：施釉 内：施釉	白磁碗 V-4類
16-2	SK69埋土	白磁碗			[2.0]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉, 施文	白磁碗 V-4類
16-3	SK69埋土	土師器 坏			[2.1]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR6/4にぶい黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
16-4	SK92埋土	白磁碗		(4.0)	[2.1]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉, ナデ 内：施釉, ナデ	
16-5	SK93埋土	青磁碗		(6.0)	[3.5]	緻密	良好	7.5YR5/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉, 草花文	龍泉窯系青磁碗 I-2a類
16-6	SK99埋土	青磁碗			[3.3]	緻密	良好	外：5Y5/3灰オリーブ 内：7.5Y4/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉, 草花文	龍泉窯系青磁碗 I類
16-7	SK99埋土	青磁碗			[2.2]	緻密, 黒色砂粒をわずかに含む	良好	外：7.5Y6/2灰オリーブ 内：2.5GY6/1オリーブ灰	外：施釉 内：施釉, 草花文	龍泉窯系青磁碗 I類
16-8	SK99埋土	青磁碗			[3.0]	緻密	良好	5Y5/3灰オリーブ	外：施釉 内：施釉, 草花文	龍泉窯系青磁碗 I類

IV HZK1703地点 (応力研生産研本館北地点)

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
16-9	SK99埋土	青磁碗			[2.7]	緻密	良好	外：2.5GY7/1明オリブ灰 内：2.5GY6/1オリブ灰	外：施釉， 鎊蓮弁文 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 II類
16-10	SK99埋土	白磁皿			[1.7]	緻密， 黒色砂粒をわずかに含む	良好	外：7.5Y7/2灰白 内：2.5GY7/1明オリブ灰	外：施釉 内：施釉	
16-11	SK99埋土	陶器壺			[4.7]	緻密， 1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：2.5Y7/3浅黄		近世
16-12	SK99埋土	丸瓦	[6.7]	[5.1]	2.4	緻密， 黒色砂粒を含む	良好	表：7.5Y8/1灰白 裏：2.5GY6/1オリブ灰	外：ナデ 内：布目	
16-13	SK101埋土	青磁碗			[2.4]	緻密	良好	10Y5/2オリブ灰	外：施釉， ナデ 内：施釉， 草花文	龍泉窯系青磁碗 I類
16-14	SP85埋土	土師器坏			2.7	緻密， 1mm弱の砂粒をわずかに含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ， 糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-1	SK04	青磁碗			[2.8]	緻密	良好	5GY6/1オリブ灰	外：施釉 内：施釉， 施文	龍泉窯系青磁碗 I-4a類
19-2	SK04	青磁碗			[1.6]	緻密， 黒色粒子を含む	良好	2.5GY6/1オリブ灰	外：施釉， 施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 II-b類
19-3	SK04	陶器壺			[5.4]	緻密， 直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：10YR3/2黒褐 内：10YR3/3暗褐	外：施釉 内：施釉	褐釉
19-4	SK04	陶器壺			[3.2]	緻密	良好	5R3/1暗赤灰	外：施釉 内：施釉	褐釉
19-5	SK04	陶器甕			[3.3]	緻密， 1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外：2.5Y7/3浅黄 内：2.5YR5/3にぶい赤褐		近世
19-6	SK04	陶器甕			[3.9]	緻密	良好	外：7.5Y7/3浅黄 内：5YR4/3にぶい赤褐	外：施釉 内：ナデ	近世
19-7	SK04	陶器黄釉盤			[1.9]	白色粒子を多く含む	良好	外：7.5Y7/2灰白 内：5Y6/2灰オリブ	外：施釉， 露胎 内：施釉	磁甗窯
19-8	SK04	瓦質土器捏鉢			[4.1]	緻密， 浅黄色粒子を多く含む	良好	外：10R4/1暗赤灰 内：5YR5/1褐灰	外：ナデ 内：ナデ	
19-9	SK04	瓦質土器捏鉢			[2.7]	緻密， 直径1mm弱の砂粒・赤色粒子を含む	良好	外：2.5Y3/1黒褐 内：2.5Y4/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ	
19-10	SK04	土師質鍋			[2.7]	緻密， 直径1～2mmの砂粒を含む	良好	外：2.5Y5/1黄灰 内：2.5Y6/2灰黄	外：ナデ 内：ナデ	
19-11	SK04	土師器坏	12.4	8.8	2.6	緻密， 直径1～3mmの砂粒を多く含む	良好	7.5YR8/3浅黄	外：ナデ， 糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-12	SK04	土師器坏		(8.6)	[2.0]	緻密， 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ， 糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-13	SK04	土師器坏		(8.2)	[1.8]	緻密， 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5YR6/3にぶい褐 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ， 糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-14	SK04	土師器坏		(9.4)	[1.3]	緻密， 直径1mm弱の砂粒を多く含む	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ， 糸切り， 板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-15	SK04	土師器坏			[1.9]	緻密， 直径1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR8/3浅黄橙 内：10YR8/3浅黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
19-16	SK04	土師器坏			[1.6]	緻密， 黒色粒子を多く含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
19-17	SK04	土師器皿	7.8	5.7	1.3	緻密	良好	外：10YR8/3浅黄橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ， 糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-18	SK04	土師器皿	(7.8)	(6.4)	1.2	緻密， 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：7.5YR8/6浅黄橙	外：ナデ， 糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-19	SK04	土師器皿	(7.5)	(6.6)	1.2	緻密， 直径1mm弱の砂粒をわずかに含む	良好	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ， 糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-20	SK04	土師器皿	(7.8)	(6.4)	1.4	緻密	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ， 糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-21	SK04	平瓦	[4.0]	[5.7]	1.9	緻密， 白色粒子を多く含む	良好	表：5B5/1青灰 裏：5B6/1青灰		
19-22	SK04	平瓦	[8.0]	[3.9]	1.8	緻密， 白色粒子を多く含む	良好	表：N3/ 暗灰 裏：N5/ 灰	外：ナデ 内：ナデ	
19-23	SK04	土錘	[3.0]	1.1	1.1	緻密	良好	2.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ	2.41 g
19-24	SK04	土錘	5.7	2.4	2.4	緻密， 直径1mm弱の砂粒をわずかに含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ	29.8 g
19-25	SK04	滑石製石鍋			[1.2]				外：加工痕 内：欠損	
19-26	SK04	鉄釘	[5.8]	0.4	0.4					
20-1	SK03	土師器坏	(12.4)	(9.2)	2.4	緻密	良好	外：5YR6/6橙 内：5YR7/6橙	外：ナデ， 糸切り 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
20-2	SK03	土師器 坏			(1.1)	緻密	良好	外：7.5YR6/8橙 内：5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
20-3	SK03	土師器 皿	(8.2)	(7.4)	1.8	緻密，直径1mm弱の砂粒をわずかに含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
20-4	SK03	土師器 皿	(8.4)	(7.0)	1.4	緻密，直径1mm弱の砂粒をわずかに含む	良好	外：5YR6/6橙 内：5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
20-5	SP06埋土	青磁 碗			[2.4]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉，鎬蓮弁文 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 Ⅲ-2類
20-6	SP06埋土	青磁 坏			[2.2]	緻密	良好	7.5Y4/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系青磁坏 Ⅲ類？
20-7	SP06埋土	陶器 甕			[3.8]	緻密	良好	2.5YR2/1赤黒	外：施釉 内：施釉	近世～近代
20-8	SP06埋土	土師器 坏			2.2	緻密，直径1mm弱の砂粒・赤色粒子を含む	良好	外：7.5YR6/2灰褐 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
20-9	SP06埋土	土師器 皿	7.7	6.4	1.0	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	5YR5/6明赤褐	外：ナデ 内：ナデ	
20-10	SP06埋土	土師器 皿	(9.4)	(7.6)	1.4	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む，雲母片を含む	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
20-11	SP06埋土	土師器 皿	(10.4)	(9.4)	1.2	緻密	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
22-1	ST50 R1	青磁 碗		6.0	[4.0]	緻密	良好	7.5Y5/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉，蓮花文	龍泉窯系青磁碗 Ⅰ-2a類
22-2	ST50 2区 埋土	土師器 坏	(11.6)	(9.2)	[1.8]	緻密，直径1～3mmの砂粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，ヘラケズリ 内：ナデ	
22-3	ST50	土師器 皿	(8.8)	(7.2)	1.2	緻密，雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
24-1	SK51埋土	陶器 壺		(6.2)	[13.0]	緻密	良好	7.5YR4/3褐	外：施釉，回転ナデ 内：回転ナデ	陶器壺Ⅳ類
24-2	SK51埋土	土師器 坏			[0.8]	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：10YR5/2灰黄褐	外：ナデ，板状圧痕 内：ナデ	
24-3	SK51埋土	土師器 皿			[1.0]	緻密	良好	10YR6/4にぶい黄橙 10YR3/2黒褐	外：ナデ 内：ナデ	
24-4	SK52埋土	土師器 坏			[1.1]	緻密，雲母片を含む	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
24-5	SK54埋土	土師質 鍋			[5.2]	緻密，1mm弱の砂粒をわずかに含む	良好	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，スス付着 内：ハケメ，ナデ	
24-6	SK54埋土	土師質 鍋	(34.0)		[13.8]	緻密，1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	外：5YR6/6橙 内：10YR5/2灰黄褐	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ，ナデ	
24-7	SX59埋土	白磁 碗			[2.8]	緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，口禿	
24-8	SX59 R1	土師器 坏		(6.8)	[0.9]	緻密，直径1mm大の砂粒をわずかに含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
24-9	SX59埋土	土師器 坏			[2.3]	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：5YR3/2暗赤褐	外：ナデ 内：ハケメ，ナデ	
24-10	SX59埋土	土師器 坏			[2.0]	緻密	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ，工具痕 内：ナデ	
24-11	SK60埋土	須恵質 捏鉢		(11.0)	[5.8]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	5Y4/1灰	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ	東播系
24-12	SK60埋土	土師器 坏			2.5	緻密	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
28-1	SK64	須恵器 甕	(15.8)	(11.6)	(40.0)	緻密，直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：5Y6/1灰 内：5Y7/1灰白	外：ナデ，ハケメ 内：ナデ，ハケメ	中世・28-2と同 一物体
28-2	SK64	須恵器 甕	(15.8)	(11.6)	(40.0)	緻密，直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：5Y6/1灰 内：5Y7/1灰白	外：ナデ，ハケメ 内：ナデ，ハケメ	中世・28-1と同 一物体
28-3	SK64埋土	土師器 坏			[1.5]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
28-4	SK65埋土	青磁 碗	(12.8)		[3.5]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外：施釉，鎬蓮弁文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 Ⅱ-b類
28-5	SK65埋土	須恵質 捏鉢	(25.8)		[5.6]	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む	良好	5Y6/1灰	外：ナデ 内：ナデ	東播系
28-6	SK66埋土	瓦質土器 捏鉢			[4.5]	緻密，直径4mm大の砂粒をわずかに含む	良好	7.5Y5/1灰	外：ナデ 内：ナデ	
28-7	SK66埋土	土師器 坏		(7.6)	[1.4]	やや緻密，直径1～3mmの砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
28-8	SK66埋土	土錘	[2.7]	0.8		緻密	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ	0.62g

IV HZK1703地点 (応力研生産研本館北地点)

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
28-9	SX67埋土	青磁碗			[3.8]	緻密	良好	外：7.5Y6/3オリーブ黄 内：7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉，飛雲文	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 I-4b
28-10	SX67埋土	陶器鉢	(25.6)		[5.5]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：5YR2/3極暗赤褐 内：10YR5/3にぶい黄褐	外：施釉，ナデ 内：施釉，ナデ	陶器鉢IV-1類
28-11	SP103 R2	青磁碗		(4.3)	[1.8]	緻密	良好	10GY7/1明緑灰	外：施釉，露胎 内：施釉	龍泉窯系
28-12	SP103 R1	青磁碗	(16.8)		[6.2]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉，鎬蓮弁文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 III-2c類
28-13	SP103埋土	青磁碗			[2.1]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉，鎬蓮弁文 内：施釉	龍泉窯系
2814	SP103埋土	青磁碗			[2.0]	緻密	良好	7.5Y5/2灰オリーブ	外：施釉，ナデ 内：施釉，ナデ	
28-15	SP103埋土	青磁碗			[2.3]	緻密	良好	7.5Y5/2灰オリーブ	外：施釉，ナデ 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 I類
28-16	SP103埋土	白磁碗			[2.5]	緻密	良好	10Y7/2灰白	外：施釉，ナデ 内：施釉，草花文	白磁碗VII類
28-17	SP103埋土	白磁皿		(6.6)	[3.5]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10Y7/1灰白	外：施釉，ナデ 内：施釉，ナデ	白磁皿IX-Ic類
28-18	SP103埋土	土師器皿	(7.6)	(5.2)	1.1	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
28-19	SP103埋土	土錘	4.0	0.9	0.9	緻密	良好	10R5/4赤褐	外：ナデ	2.20g
28-20	SP107埋土	瓦質土器捏鉢			[2.5]	緻密，直径1mm大の砂粒を含む	良好	10Y4/1灰	外：ナデ 内：ナデ	
28-21	SX114埋土	土師器甕			[2.3]	緻密，直径1mm弱の砂粒・赤色粒子を多く含む	良好	外：5YR6/4にぶい橙 内：5YR7/6橙	外：ナデ 内：ナデ	
28-22	SK117埋土	瓦質土器捏鉢			[3.4]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5Y5/1灰 内：7.5Y6/1灰	外：ナデ 内：ナデ	東播系
28-23	SK117埋土	瓦質土器火鉢			[2.9]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	2.5Y7/3浅黄	外：ナデ 内：ナデ	
28-24	SK117埋土	土師器坏	(13.4)	(8.9)	2.7	緻密，直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
30-1	SK30 SP43	陶器鉢			[5.5]	緻密，1mm弱の砂粒を多く含む	良好	施釉：5Y7/2灰白 露胎：5YR4/3にぶい赤褐	外：ナデ，施釉 内：ナデ，施釉	陶器鉢I-2類
30-2	SK30 SP43	瓦質土器甕			[5.0]	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	N6/ 灰	外：格子タタキ 内：ハケメ	
30-3	SK30 SP43	土師器坏			[1.8]	緻密	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：10YR8/4浅黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
30-4	SK30 SP43	平瓦	[4.0]	[5.2]	1.1	緻密，白色砂粒を含む	良好	N6/ 灰	外：布目 内：ナデ，ハケメ	
30-5	SX31	青磁碗			[2.3]	緻密	良好	外：7.5Y6/2灰オリーブ 内：10Y6/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系
30-6	SX31	陶器壺			[3.5]	緻密，直径1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外：10YR5/1褐灰 内：10YR4/1褐灰	外：施釉 内：施釉	
30-7	SK31	土師器坏			[2.0]	緻密，直径1mm大の砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：5YR7/6橙	外：ナデ 内：ナデ	
30-8	SX31	土師器皿			1.1	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
31-1	SK04	銅銭	2.3	2.3	0.1					開元通寶
31-2	SK10	銅銭	[1.5]	[1.7]	0.09					
31-3	SK40	銅銭	2.4	2.3	0.1					元祐通寶
31-4	ST50	銅銭	2.4	2.5	0.1					元豊通寶
31-5	SK60	銅銭	2.4	2.5	0.1					〇〇元寶
31-6	遺構外	銅銭	2.5	2.5	0.1					祥符元寶
31-7	遺構外	銅銭	2.05	2.1	0.07					無文銭
31-8	遺構外	銅銭	2.4	2.4	0.1					景德元寶
31-9	遺構外	銅銭	2.5	2.5	0.1					景德元寶

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
32-1	遺構外	青磁碗			[4.6]	緻密	良好	10GY6/1緑灰	外：施釉， 鎊蓮弁文 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系Ⅲ-2類
32-2	遺構外	青磁碗			[1.9]	緻密， 黒色砂粒を含む	良好	外：5Y7/1灰白 内：5Y6/1灰	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系
32-3	遺構外	青磁碗		6.4	[3.0]	緻密， 茶褐色砂粒を含む	良好	5Y6/3オリーブ黄	外：施釉 内：施釉， 施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅰ類
32-4	遺構外	白磁碗			[2.2]	緻密	良好	外：10Y7/1灰白 内：7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉， 口禿	白磁Ⅸ類
32-5	遺構外	陶器 黄釉盤			[4.0]	粗い， 直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：7.5Y6/2灰オリーブ	外：ナデ 内：施釉， ナデ	磁竈窯 盤Ⅰ-1'a類
32-6	遺構外	陶器 黄釉鉄絵 盤			0.6	緻密， 白色砂粒を含む	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙 内：2.5Y7/3浅黄	外：露胎 内：施釉， 施文	磁竈窯
32-7	遺構外	陶器 鉢			[3.4]	やや緻密， 1mm大の砂 粒を多く含む	良好	外：5YR4/3にぶい赤褐 内：2.5YR4/3にぶい赤褐	外：施釉， ナデ 内：ナデ	中国陶器鉢 Ⅰ-2b類
32-8	遺構外	瓦質土器 捏鉢			[2.3]	緻密， 直径1mm弱の砂 粒を多く含む	良好	外：N6/ 灰 内：2.5GY7/1明オリーブ灰	外：ナデ 内：ナデ	
32-9	遺構外	瓦質土器 捏鉢			[4.3]	緻密， 直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
32-10	遺構外	瓦質土器 捏鉢		(10.6)	[6.2]	緻密， 1mm弱の砂粒を 含む	良好	外：5Y5/1灰 内：5Y8/1灰白	外：摩滅 内：ハケメ， 摩滅	
32-11	遺構外	土師質 鍋			[5.1]	やや粗い， 直径1~2 mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ハケメ， ナデ	
32-12	遺構外	軒丸瓦			3.0	緻密， 1mm大の砂粒を 含む	良好	5Y7/1灰白	表：型押し 裏：ナデ	
32-13	遺構外	軒丸瓦	[8.5]	[6.7]	2.6	緻密， 1mm大の砂粒を 含む	良好		表：工具ナデ 裏：布目， ナデ	
32-14	遺構外	丸瓦	[8.0]	[6.7]	2.3	緻密， 直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	N6/ 灰	外：縄目タタキ， ナデ 内：布目， ナデ	
32-15	遺構外	丸瓦	(9.9)		2.0	緻密， 1~2mmの砂粒 を含む	良好	外：N5/ 灰 内：N6/ 灰	外：工具ナデ 内：布目	
32-16	遺構外	丸瓦	[18.0]	[11.7]	[1.8]	緻密， 黒色砂粒をわず かに含む	良好	10Y5/1灰	表：工具ナデ 裏：布目， ナデ	
33-1	遺構外	軒平瓦	[11.1]	[15.0]	5.0	緻密， 1mm弱の砂粒を 少し含む	良好	7.5Y5/1灰	表：工具ナデ 裏：布目， ナデ	唐草文
33-2	遺構外	平瓦	[10.5]	[14.2]	1.9	緻密， 1~2mmの砂粒 を含む	良好	表：2.5Y7/2灰黄 裏：2.5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
33-3	遺構外	平瓦	[8.5]	[6.8]	1.8	緻密， 直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	表：10Y6/1灰 裏：7.5Y6/1灰	外：工具ナデ 内：工具ナデ	
33-4	遺構外	平瓦	[13.4]	[12.1]	1.8	緻密， 白色・青灰色粒 子を含む	良好	表：N7/ 灰白 裏：5Y8/3/ 淡黄	外：布目， ナデ 内：工具ナデ	
33-5	遺構外	平瓦	[13.6]	[9.7]	1.9	緻密， 白色・青灰色粒 子を含む	良好	表：N5/ 灰 裏：N6/ 灰	外：布目， ナデ 内：工具ナデ	
33-6	遺構外	平瓦	[14.2]	[13.2]	1.9	緻密， 直径1~2mmの 砂粒を含む， 青灰色粒 子を含む	良好	N5/ 灰	外：ナデ 内：工具ナデ	
33-7	遺構外	平瓦	[8.8]	[5.5]	2.0	やや粗い， 直径1~4 mmの砂粒・赤褐色粒子 を多く含む	良好	表：7.5YR7/3にぶい橙 裏：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
33-8	遺構外	土鍾	1.7	1.5	[3.8]	緻密	良好	5YR5/8明赤褐	外：ナデ	
33-9	遺構外	滑石製 石鍋再加 工品	4.5	4.8	2.0					65.45 g
33-10	遺構外	滑石製 石鍋再加 工石鍾	4.7	2.5	1.5					同一の石鍋から 製作か 27.72 g
33-11	遺構外	滑石製 石鍋再加 工石鍾	4.3	2.3	1.3					同一の石鍋から 製作か 19.53 g
33-12	遺構外	滑石製 石鍋再加 工石鍾	5.5	1.9	1.0					同一の石鍋から 製作か 18.83 g
33-13	遺構外	滑石製 石鍋再加 工石鍾	6.7	2.1	1.0					同一の石鍋から 製作か 33.58 g
33-14	遺構外	滑石製 石鍾	[6.2]	2.8	1.9					45.17 g



1-1 立試1811地点D区遺構完掘 (南から)



1-2 立試1811地点東壁土層断面 (北西から)



1-3 立試1811地点調査区完掘 (南から)



1-4 HZK1804地点A区調査区全景 (南西から)



1-5 HZK1804地点B区土坑 SK03~08 (南東から)



1-6 HZK1804地点B区土坑 SK04・ピットSP05・06断面(南から)



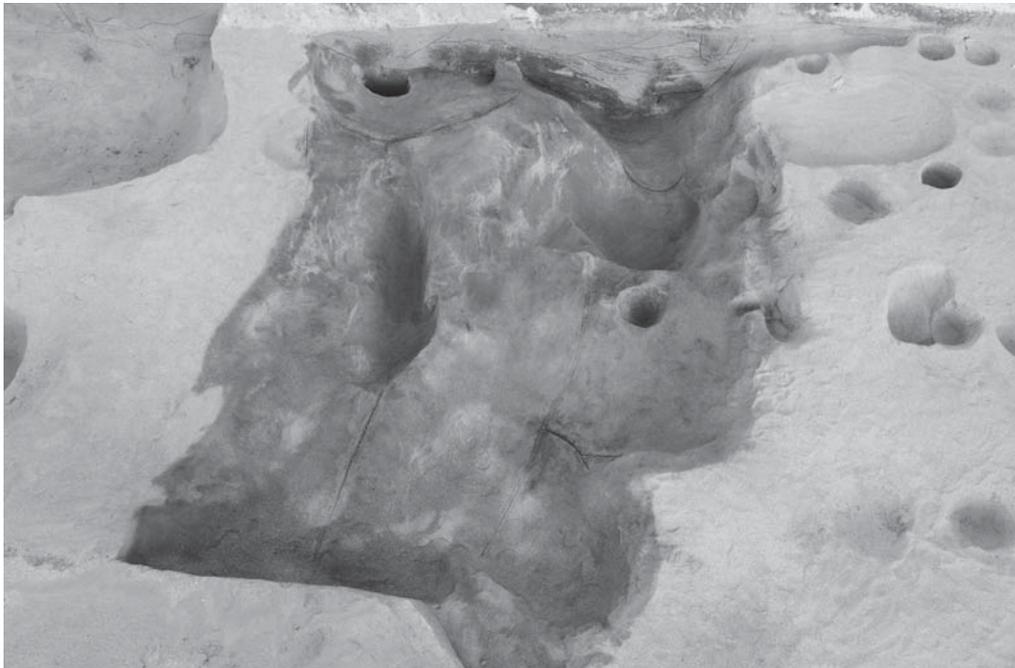
1-7 HZK1804地点C区井戸 SE14-C 検出状況 (南から)



1-8 HZK1804地点C区井戸 SE14-C 完掘 (北から)



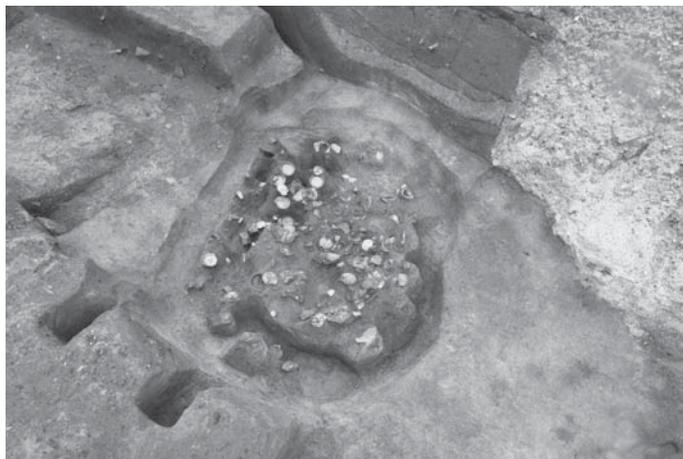
2-1
HZK2003地点 D 区
井戸 SE4015A ~ C
検出状況 (南から)



2-2
HZK2003地点 D 区
SX4088完掘 (西から)



2-3
HZK2003地点 E 区
調査区全景 (東から)



3-1 HZK2003地点 D 区土坑 SK4004土器出土状況(西から)



3-2 HZK2003地点 D 区土坑 SK4004出土土器



3-3 HZK2003地点 D 区 井戸 SE4015井戸枠(北から)



3-4 HZK2003地点 D 区 ピット SP4137 (東から)



3-5 HZK2003地点 D 区井戸 SE4161A ~ C 完掘(西から)



3-6 HZK2003地点 D 区溝 SD5003完掘(東から)



3-7 HZK2003地点 E 区土坑 SK16~29完掘(東から)



3-8 HZK2003地点 E 区土坑 SK36~45完掘(北から)

写真図版 4



4-1 HZK1703地点エリア3 1～3層完掘 (西から)



4-2 HZK1703地点エリア3 4層完掘 (西から)



4-3 HZK1703地点エリア2完掘 (東から)



4-4 HZK1703地点SX58・59 (北から)



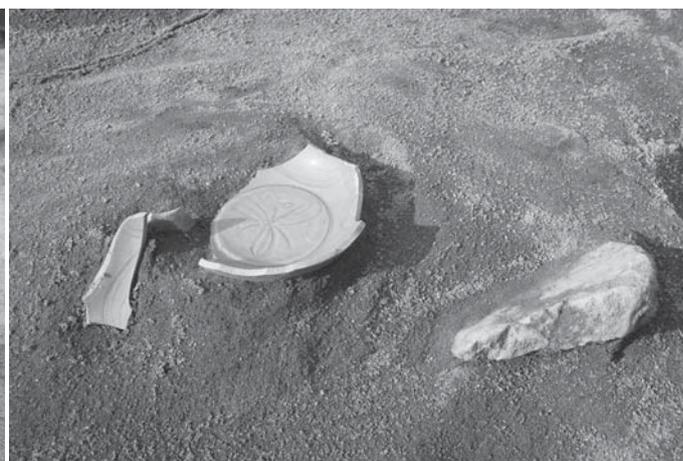
4-5 HZK1703地点石組遺構 SX20 (西から)



4-6 HZK1703地点エリアI完掘 (西から)



4-7 HZK1703地点土坑墓 ST50遺物出土状況 (北から)



4-8 HZK1703地点土坑墓 ST50出土遺物 (西から)



第7图3



第7图9



第18图1



第18图10



第19图4



第25图2



第34图3



第34图6



第38图1



第38图3



第38图6



第38图7

Ⅲ章 HZK2003地点出土遺物



第5图12



第5图15



第5图20



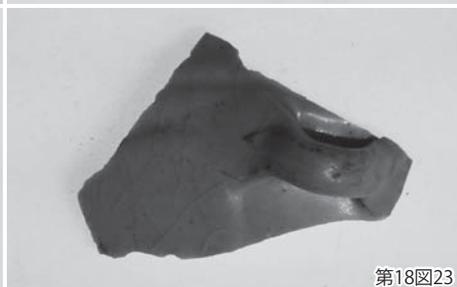
第14图34



第14图35



第14图36





第34图2



第34图3



第34图4



第34图6



第34图11



第35图10



第36图2



第36图5



第37图6



第47图1



第47图7



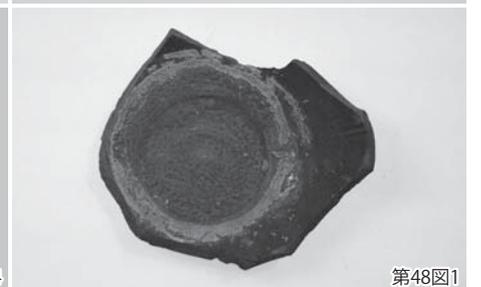
第47图52



第47图53



第47图54



第48图1



第49图1



第51图2



第51图3



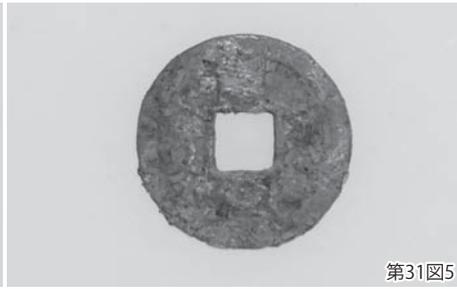
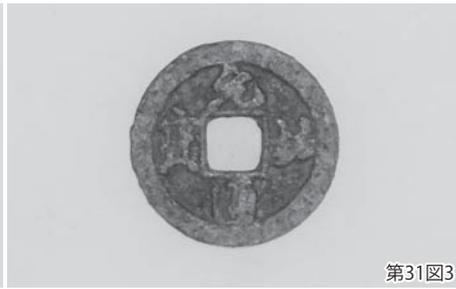
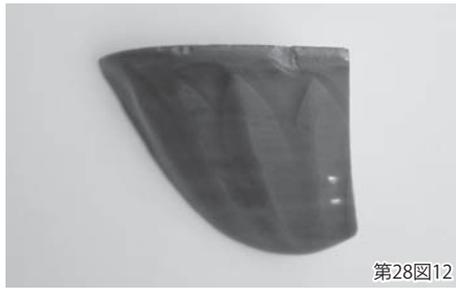
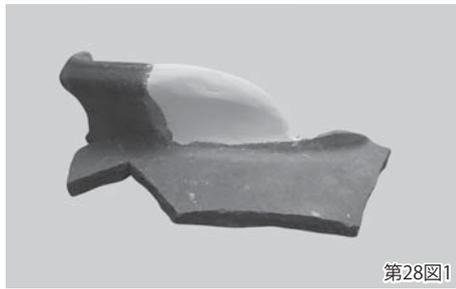
第52图4



第52图5



第56图10



報告書抄録

ふりがな	はごぎいせき—HZK1703・1804・2003ちてん—							
書名	箱崎遺跡—HZK1703・1804・2003地点—							
副書名	九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告6							
シリーズ名	九州大学埋蔵文化財調査室報告							
シリーズ番号	第9集							
編著者名	谷 直子(編)・宮本一夫・齋藤瑞穂・福永将大・三阪一徳・森 貴教・石井若香菜							
編集機関	九州大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目10-1							
発行年月日	2023年9月30日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
はごぎいせき 箱崎遺跡 HZK1703地点	ふくおかしひがしく 福岡市東区 はごぎい 箱崎6丁目	40131	2639	33° 37' 18"	130° 25' 30"	2017.11.1 ～ 2018.2.9	260	学術研究
はごぎいせき 箱崎遺跡 HZK1804地点	ふくおかしひがしく 福岡市東区 はごぎい 箱崎6丁目	40131	2639	33° 37' 15"	130° 25' 31"	2019.3.4 ～ 2019.7.29	400	開発事業
はごぎいせき 箱崎遺跡 HZK2003地点	ふくおかしひがしく 福岡市東区 はごぎい 箱崎6丁目	40131	2639	33° 37' 15"	130° 25' 31"	2020.6.22 ～ 2020.10.10	530	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
HZK1703地点	集落跡・散布地	中世～近世	墓、土坑、ピット		陶磁器、土師器、瓦、銅銭		石組土坑	
HZK1804地点	集落跡・散布地	中世～近世	溝、井戸、土坑、ピット		陶磁器、土師器、瓦、銅銭		遺構の構築と整地を繰り返した堆積状況を確認	
HZK2003地点	集落跡	中世	溝、井戸、土坑、ピット		陶磁器、土師器、瓦、板碑、銅銭		土師器の一斉廃棄土坑	
要約	<p>箱崎遺跡九州大学箱崎キャンパス内の2017年度から2021年度の発掘調査のうち、キャンパス南側の発掘調査地点で、まだ報告されていなかった中世集落を中心とする発掘地点である HZK1703地点・HZK1804地点・HZK2003地点の本報告を行った。</p> <p>HZK1703地点は、12世紀後半～13世紀頃を主体とする下層と14・15世紀の遺構を主体とする上層の2面の遺構面に分かれ、上層では石組遺構 SX20、下層からは土坑墓 ST50などが検出された。この墓から龍泉窯系青磁碗が出土したほか、鬼瓦や漁労具・陶磁器・銭貨などが出土した。</p> <p>HZK1804地点は中世の溝、井戸、土坑などが検出された。B区では12世紀後半～13世紀前半頃と15～16世紀の土坑や溝が見つかり、遺構の構築と整地が複数回繰り返されたことが判明した。C区でも12世紀～14世紀の遺構が多数見つかると、14世紀以降に遺構の構築と整地が複数回にわたり繰り返された。</p> <p>HZK2003地点は HZK1804地点に隣接する調査区で、D区では概ね12世紀後半から14世紀代までに構築されたと考えられる溝、井戸のほか土師器の坏・皿を一斉廃棄した土坑が検出されたほか、柱穴や鬼瓦・軒瓦を含む瓦が多く出土した。E区でも12世紀後半から16世紀代にかけての遺構や遺物が見つかった。</p> <p>HZK1703・1804・2003地点では12世紀後半～13世紀前半頃と、14世紀～16世紀頃に遺構が偏る傾向がありつつ、長期にわたってこの地区を人々が利用していたことが明らかとなった。</p>							

箱崎遺跡

— HZK1703・1804・2003地点 —

九州大学埋蔵文化財調査室報告 第9集

令和5年(2023)9月30日

発行 九州大学埋蔵文化財調査室
福岡市東区箱崎6-10-1

印刷 九州コンピュータ印刷
福岡市南区向野1丁目19-1

